

「仙台市いきいき市民健康プラン(第3期)」

令和8年度事業概要・令和7年度実施報告

- | | |
|--------------------------|--------|
| 1. 仙台市全体の取り組み(令和8年度事業概要) | P.1-1～ |
| 2. 仙台市各保健福祉センターの取り組み | P.2-1～ |
| 3. 関係団体の取り組み | P.3-1～ |
| 4. 仙台市の取り組み事業一覧 | P.4-1～ |

1. 仙台市全体の 取り組み

(令和8年度事業概要)



目次

全体

- 1. プランの全体像 ————— 1-2
- 2. ベースライン値の設定 ————— 1-3
- 3. R7年度の主な取り組み ————— 1-8
- 4. R8年度の方方向性 ————— 1-10

推進の視点1

- 5. 栄養・食生活 ————— 1-11
- 6. 身体活動・運動 ————— 1-12
- 7. こころの健康・社会とのつながり ————— 1-13
- 8. 飲酒・喫煙 ————— 1-14
- 9. 歯と口の健康 ————— 1-15
- 10.がん・循環器病・糖尿病(メタボリックシンドローム) ————— 1-16
- 11.COPD(慢性閉塞性肺疾患) ————— 1-17
- 12.歯科疾患 ————— 1-17

推進の視点2

- 13.社会環境の改善・整備 ————— 1-18

それぞれの取り組みが、どのライフステージに対応しているかを以下のアイコンで示しています。



妊 : 妊娠期



幼 : 乳幼児期



学 : 学齢期



青 : 青年期



壮 : 壮年期



高 : 高齢期



全 : 全ライフステージ

1 いきいき市民健康プラン(第3期)の全体像

ビジョン

未来へつなげる **健康の都 せんだい**
～ ころもからだも いきいきと ～

基本目標

みんなでのばそう **健康寿命**

推進の方針

誰も取り残さない
健康づくりの展開

みんなが
健康づくりに参画

社会の変化を踏まえた
健康づくりの推進

推進の視点1

健康状態の改善

生活習慣の改善

生活習慣病の
発症予防・重症化予防

1 栄養・食生活

2 身体活動・運動

3 こころの健康・社会とのつながり

4 飲酒・喫煙

5 歯と口の健康

がん

循環器病

糖尿病

(メタボリックシンドローム)

COPD(慢性閉塞性肺疾患)

歯科疾患

施策の分野

推進の視点2

社会環境の改善・整備

生活機能の維持・向上

連携・協働

環境づくり

基盤構築

ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

2 ベースライン値の設定

ベースライン値

- 「いきいき市民健康プラン(第3期)」の中間評価および最終評価の際に用いられる基準値
- プランの開始年度であるR6年度末までに実施された最新の調査より、令和8年度に設定することとしている



今回、最新の調査結果をもとに設定したベースライン値を報告
(次ページ以降に記載)

例：基本目標 健康寿命の延伸（プラン掲載時）

指 標			現 況 値		ベースライン	目 標 値	目標年度	データソース	
基本目標									
1	基本目標 健康寿命の延伸 平均寿命・健康寿命それぞれの延伸年数の差	男性	健康寿命： 73.82年 平均寿命： 82.4年	健康 寿命 ：R1	R6年度末時点 の最新調査結 果の値 ※1	健康 寿命 ：R4 平均 寿命 ：R2	平均寿命の 増加分を上 回る健康寿 命の増加	R14	健康寿命算定プログラ ム「大都市の健康寿命」 簡易生命表
		女性	健康寿命： 75.99年 平均寿命： 88.1年	平均 寿命 ：R2					

2 ベースライン値の設定

指 標			市現況値		ベースライン		目標値	目標年度	データソース
基本目標									
1	基本目標 健康寿命の延伸	男性	健康寿命： 73.82年 平均寿命： 82.4年	健康寿命： R1	健康寿命： 73.55年 平均寿命： 82.4年	健康寿命： R4	平均寿命の増 加分を上回る 健康寿命の増 加	R14	健康寿命算定プロ グラム「大都市の健 康寿命」 簡易生命表
		女性	健康寿命： 75.99年 平均寿命： 88.1年	平均寿命： R2	健康寿命： 75.22年 平均寿命： 88.1年	平均寿命： R2			
1 栄養・食生活									
2	適正体重の範囲にある 人の増加●	高齢者(65歳以上)の低 栄養傾向(BMI20以下) の人の減少	18.3%	R4	19.4%	R6	13%	R14	仙台市国民健康保 険特定健康診査実 績、仙台市基礎健 康診査実績
3	重点目標 肥満傾向にあるこども の減少	男子(小学5年生)	16.0%	R4	14.4%	R6	減少 ※1	R14	学校保健統計調査
		女子(小学5年生)	10.0%		10.2%				
		3歳児	6.0%	R4	5.5%	R6	4%	R11	3歳児健康診査
4	朝食を毎日食べる人の 増加	小学5年生	85.8%	R4	88.5%	R6	100%	R14	仙台市立小・中・中 等教育・高等学校児 童生徒健康実態調 査
		中学2年生	81.8%		81.2%				
10	重点目標 食環境整備事業登録店 舗数の増加	「仙台伊達なマルシェ ～だてまる」登録店 舗数	なし(R6～の 新規事業のため)	—	33店舗	R6	80店舗	R11	仙台市健康福祉局 健康政策課調べ

● 年齢調整済みの項目
※1 目標値が「増加」「減少」となっている場合は、「有意かつベースライン値から相対的に原則5%以上の変化」で改善・悪化を判定する

2 ベースライン値の設定

指 標		市現況値		ベースライン		目標値	目標 年度	データソース	
2 身体活動・運動									
13	重点目標 運動やスポーツを習慣的に行っている児童の増加	男子(小学5年生)	60.6%	R4	66.1%	R6	増加 ※1	R14	仙台市立小・中・中等教育・高等学校児童生徒健康実態調査
		女子(小学5年生)	45.9%		46.3%				
4 飲酒・喫煙									
22	COPDの死亡率の減少		9.5	R2	9.2%	R6	7.0	R14	人口動態統計
25	妊娠中の喫煙をなくす	妊婦	1.1%	R4	0.7%	R6	0%	R14	妊娠の届出と母子健康手帳交付事業
5 歯と口の健康									
27	重点目標 むし歯のないこどもの増加	3歳児	90.4%	R4	92.0%	R6	95%	R14	3歳児健康診査
		12歳児	75.8%		77.7%				学校保健統計調査
28	重点目標 歯周炎がある人の減少	40歳	55.3%	R4	52.7%	R6	36%	R14	歯周病検診
31	重点目標 フッ化物洗口を行っている保育・教育施設の増加	保育所・幼稚園等	57.2%	R4	57.8%	R6	70%	R14	保育所・幼稚園等歯科健康診査結果集約事業

※1 目標値が「増加」「減少」となっている場合は、「有意かつベースライン値から相対的に原則5%以上の変化」で改善・悪化を判定する

2 ベースライン値の設定

指 標			市現況値		ベースライン		目標値		目標年度	データソース
6 生活習慣病の発症予防・重症化予防										
36	重点目標 ● 血圧有所見者の減少	男性(40～74歳)	39.7%	R4	37.9%	R6	34%	R14	仙台市国民健康保険特定健康診査実績	
		女性(40～74歳)	30.2%		29.3%		26%			
37	● 脂質有所見者の減少	男性(40～74歳)	44.7%	R4	43.7%	R6	38%	R14	仙台市国民健康保険特定健康診査実績	
		女性(40～74歳)	47.7%		47.3%		41%			
38	重点目標 ● 血糖有所見者の減少	男性(40～74歳) HbA1c5.6%以上	58.5%	R4	55.8%	R6	50%	R14	仙台市国民健康保険特定健康診査実績	
		女性(40～74歳) HbA1c5.6%以上	56.8%		53.1%		48%			
		男性(40～74歳) HbA1c8.0%以上	2.1%		1.7%		1.6%			
		女性(40～74歳) HbA1c8.0%以上	0.6%		0.5%		0.5%			
39	重点目標 メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少	該当者(40～74歳)	23.7%	R4	23.6%	R6	15%	R14	仙台市国民健康保険特定健康診査法定報告	
		予備群(40～74歳)	10.1%		10.6%		8%			
40	重点目標 特定健康診査を受ける人の増加	40～74歳	46.0%	R4	47.0%	R6	60%	R14	仙台市国民健康保険特定健康診査法定報告	

● 年齢調整済みの項目

2 ベースライン値の設定

指 標		市現況値		ベースライン		目標値	目標年度	データソース	
6 生活習慣病の発症予防・重症化予防									
41	重点目標 特定保健指導対象者 中、保健指導利用者の 増加	動機付け支援 (40～74歳)	11.6%	R4	13.7%	R6	60%	R14	仙台市国民健康保 険特定健康診査法 定報告
		積極的支援 (40～64歳)	7.8%		13.7%				
42	骨粗しょう症検診受診 者の増加	女性(40歳・50・6 0歳)	17.8% (40歳50歳) ※2	R4	19.0% (40歳50歳 60歳)※2	R6	25%	R11	仙台市骨粗しょう 症検診

※2 骨粗しょう症検診の令和4年度の対象者は40歳・50歳で、令和6年度から60歳が追加となる

3 R7年度の主な取り組み

栄養・食生活

- 市民を対象にコンテスト形式による健康レシピの募集、入賞レシピの活用及びSNSによる健康と食の情報の発信を連動させた事業を展開

身体活動・運動

- 庁内各局と連携し、身体活動量増加に関する取り組みを集約したリーフレットを作成、健康情報ポータルサイトに掲載
- 関係各課・関係者と連携し、ウォーキングイベント等を実施し、組織横断的な連携による健康づくりを推進



禁煙支援と受動喫煙防止

- 禁煙週間の伊達政宗公騎馬像ライトアップや啓発物配布、個別相談を通じ禁煙支援および受動喫煙防止を強化



3 R7年度の主な取り組み

歯と口の健康

- 成人歯科健康診査マニュアルと妊婦歯科健康診査マニュアルを統合し、ライフステージ特有の対策に加え、ライフコースアプローチの視点も交えた支援の推進
- 全身の健康づくりにつながる健診実施後のオーラルケアの実践支援

発症予防・重症化予防

- 尿ナトリウム比測定の実施によるCKDの原因となる高血圧等の予防を促進
- 新規透析導入者を減少させるため、CKD病診連携事業を推進
- 日曜健診を実施することで受診機会を拡大

社会環境の改善・整備

- 「健康フォーラム」と「みんなで子育てフェスタ」を同時開催し、地域社会における子育てや健康に対する気運醸成を促進
- 市民が日常立ち寄る場所で健康チェックの機会や健康づくり体験イベントを実施し幅広い健康支援を展開



4 R8年度の方向性

R7年度の取り組み

推進の視点2「社会環境の改善・整備」に重点を置き、

- 庁内・企業・大学等、多様な担い手とのネットワークの構築を強化し、これらの関係機関と連携し事業を展開した
- 市全体として健康づくりを推進する体制である市長を本部長とする本部会議のもと、関係部署との連携を深め、取り組みの充実を図った



R8年度の方角性

- これまで構築してきた多様な担い手との連携を活かし、自然に健康になれる環境を充実させる
- 健康無関心層を含めた幅広い市民の健康意識の向上を図るとともに、日常生活における行動変容を促し、生活習慣の改善・定着につなげる



5 栄養・食生活 ～食を通じた健康づくり～

朝食を含む望ましい食生活の形成と実践に向けた啓発および、事業者連携や市民参加による取り組みを通じて、市民が日常生活の中で健康的な食生活を実践しやすくなるよう推進します。

1. 望ましい食習慣の形成へ向けた啓発・支援 **幼学**

- 区保健福祉センター・総合支所、仙台市立保育所、仙台市立学校・給食センターによる『朝プラ！』推進事業の実施

2. 測定等を活用した食生活の振り返りと改善支援 **青壮**

- 尿ナトリウム比※測定や管理栄養士の講話を通じて、食生活の振り返りを促し、生活習慣病予防のための食事を意識し、実践するきっかけとなるイベント等の実施 **拡**

※尿ナトリウム比とは・・・尿中のナトリウムとカリウムの濃度比で、食事の食塩と野菜等の摂取バランスの指標となる。

3. 食を通じた健康づくりを支える食環境整備 **青壮**

- 『仙台伊達なマルシェ-だてまる』事業における、スーパー等での塩エコ、バランスマークを活用した売り場づくりの実施。減塩商品の購入や栄養バランスの良い食品の組合せでの購入を促進
- 『健康お役立ちレシピコンテスト』入賞レシピ弁当の販売、レシピ活用の提案 **拡**



6 身体活動・運動 ～心身の健康を向上させる運動習慣～

歩く・動く習慣を日常に取り入れ、身体活動量を高め、幼児期から若い世代までライフステージに応じた肥満予防・改善につながる運動習慣の定着を目指します。

1. 身体活動量を増やすための啓発・支援 **全**

- 活動量の増加につながる情報を集約し発信するサイト(アールークワーク仙台)の活用による健康情報の発信
- 10月～11月をウォーキング強化月間(アールーク・ウゴーク月間)とし、市内の活動量増加につながるイベントを集約し情報発信
- 地域団体等を対象にウォーキングイベントを開催する際の経費に対する補助金の交付



2. 体を動かすきっかけ・機会づくり **全**

- 各区保健福祉センター等で公園の活用やまち歩きを組み合わせたウォーキングイベントの開催



3. 歩く、動くことを後押しする環境整備 **全**

- 日常生活の中で自然と体を動かす行動へつながるような啓発として地域団体等が歩数や消費エネルギー等の表示看板を地域の公園や道路等に設置する費用に対する補助金の交付

7 こころの健康・社会とのつながり ～健やかな休養・睡眠とメンタルヘルスケア～

休養・良質な睡眠・運動によるストレス管理の重要性を啓発し、こころの不調に気づき支え合える人材育成や相談体制整備、社会参加を促す環境づくりを進めます。

1. こころの健康づくりの啓発・支援 全

- ・ 思春期保健健康教育などの機会をとらえ、こころの健康を保つ手法や睡眠の重要性を啓発
- ・ セルフメンタルチェック等を利用した適切な相談窓口の周知

2. こころの健康に関する相談会等の体制整備・人材育成やネットワーク整備 全

- ・ 各種相談窓口の周知による利用の啓発
- ・ 身近な人の心の不調に気づけるゲートキーパー等の養成や相談支援者向け研修会の開催

3. 人とのつながりづくりや社会参加の促進と環境整備 青 壮 高

- ・ 子育て家庭の交流の場や通いの場・集いの場の体制整備の支援と参加の促進

4. 個別支援と地域の健康づくり支援を連動させた被災者健康支援 全

- ・ 健康調査等により把握した一人ひとりの健康課題に応じた個別支援を実施するとともに、地域の健康づくり活動と連動させることで、被災者の心身の健康保持と孤立防止、地域全体の支え合いの促進への取り組み



こころの健康チェックwebサイト
「こころの体温計」

8 飲酒・喫煙 ～自分自身と身近な人の健康を守る アルコール・たばこ対策～

受動喫煙防止の環境整備と飲酒・喫煙の健康影響に関する啓発を進め、セルフケア能力を高めるとともに、禁煙希望者への支援によりたばこを吸わない人の増加を目指します。

1. 飲酒や喫煙の健康影響に関する啓発・環境整備 **妊** **学** **青** **壮** **高**

- ・ 妊婦への母子保健事業を通じた相談・教室等での知識の普及・啓発
およびイエローグリーンリボンシールの配布
- ・ ホームページによる禁煙支援薬局等、サポート情報の発信

2. たばこをやめたい人への禁煙支援 **青** **壮** **高**

- ・ 禁煙希望者に対する禁煙相談、禁煙支援の実施
- ・ 禁煙外来等に対する問い合わせへの対応

3. 受動喫煙防止対策の推進 **全**

- ・ イエローグリーンキャンペーンへの参加



9 歯と口の健康 ～健やかなからだところを支える 歯と口の健康～

生涯にわたる歯と口の健康づくりのため、乳幼児期からのむし歯予防を強化し、ライフステージに応じた歯科保健行動の改善や歯周病重症化予防の支援体制を整備します。

1. むし歯予防の強化と地域差・個人差の縮小の環境整備 **幼**

- ・ 仙台市私立幼稚園・保育所・認定こども園フッ化物洗口導入支援事業費補助金※制度の開始 **新**

※新たにフッ化物洗口を開始する私立の保育施設を対象に、洗口薬剤購入に係る費用全てを補助する事業



2. 歯周病予防の推進 **妊** **学** **青** **壮** **高**

- ・ 高校生、専門学校生、大学生等を対象としたハローフロスプロジェクトの推進
- ・ おとなのオーラルケア健康診査(20・30・40・50・60・70歳)と妊婦のオーラルケア健康診査の開始と新リーフレットを用いた歯科保健指導の充実 **新**



3. 口腔機能の育成・獲得・維持・向上 **幼** **高**

- ・ 乳幼児期の口の機能の育成支援を目指す「こどもの食べる力のサポートブック」の制作と周知・活用に向けた検討
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の場におけるオーラルフレイル予防の推進

1. 年齢や状況に合わせた切れ目のない健康管理の支援

-

2. 発症予防・重症化予防のための環境整備

- [illegible]

11 COPD(慢性閉塞性肺疾患)

併存疾患やフレイルを伴いやすいCOPDの重症化予防に取り組むとともに、喫煙対策による発症予防と普及啓発により認知度向上を図ります。

1. 啓発と一人ひとりに合わせた支援 **青 壮 高**

- 健康講座やイベント等における、COPDと喫煙の関連についての啓発
- COPD(慢性閉塞性肺疾患)の重症化予防および早期発見を目的としたセルフチェックシートの市ホームページ掲載・周知
- 企業と連携したCOPDに関する周知、啓発



市民向け講演会

12 歯科疾患

こどもたち一人ひとりのむし歯予防のために、集団フッ化物洗口の普及啓発を進めるとともに、歯科医療機関と連携し、歯周病予防に向けたかかりつけ歯科医の機能強化を図ります。

1. エビデンスに基づく歯科疾患予防を推進する環境整備 **全**

- 保育・教育施設と歯科医師、保護者等との連携のもとでのフッ化物洗口普及の推進
- おとなのオーラルケア健康診査(20・30・40・50・60・70歳)・妊婦のオーラルケア健康診査における、かかりつけ歯科医機能の強化



13 社会環境の改善・整備

個人の行動変容と社会環境の改善を一体的に進めるため、多様な主体と連携し、自然に健康になれる環境整備を推進します。

1. 連携・協働 ～みんなが担い手となる健康づくり運動の展開～

(1) 健康づくりの取り組みを一体的に実施するネットワークの強化と、多様な担い手の連携・協働による実効性のある健康づくり事業の展開

① せんだい健康づくり推進会議(令和元年度設置)

- 生活習慣病予防等の健康づくりを推進するため、委員の団体、及びWGメンバー企業との連携・協働の取り組みを検討・実施している
- 昨年度に引き続き健康フォーラム、ウォーキングイベントほか熱中症予防など各種健康イベント等の取り組みにより、関係者と連携した取り組みを通して、特に働き盛り世代や親子世代に対してアプローチする



ごみ拾いウォーキング @仙台新港

② 仙台市食育推進会議(平成18年度設置)

- 前年度の取り組み報告と、仙台市食育推進計画(第3期)に基づく新規事業等についての情報共有、各団体が連携した食育推進についての意見交換等を行う



仙台市食育推進会議

13 社会環境の改善・整備

③ 仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議(平成15年度設置)

- ・ 歯と口の健康づくり計画(第3期)及びアクションプラン推進に向けた具体的な行動計画の企画、調査、評価に関する検討及び進行管理を行う
- ・ 高校生、大学生、専門学校生等を対象とした「ハローフロスプロジェクト」の効果的な活動の展開が図れるよう、専門部会「ハローフロスプロジェクト推進部会」において、計画的・総合的に推進を図る
- ・ 「こどもの食べる力のサポートブック検討部会」にて、「こどもの食べる力のサポートブック」の制作および周知・活用を検討を図る



④ 健康づくりロゴマーク SENDAI 健康プラス(令和6年度作成)

- ・ 健康づくりを推進するためのロゴマーク
- ・ 庁内各局や地域・職域関係団体の健康づくりの取り組みについて掲載することで関係者同士のつながりをもたせ、多様な分野・部門の連携を推進している



13 社会環境の改善・整備

(2) 社会環境の改善・整備に繋がる仙台市の事業への参画や様々な部門の連携・協働による健康づくり事業の展開

① 仙台市いきいき市民健康推進本部(令和6年度設置)

- 本プラン及び本プランのアクションプランに基づく健康づくり施策の総合調整や方針決定、情報共有や進行管理を行う

② 健康福祉部門等を越えた他部局における関連する取り組み例

【まちづくり政策局】

- 仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会
- 外国人医療受診サポート実証事業

【市民局】

- 自転車を活用した健康づくり機会創出や啓発
- 仕事と健康の両立に関する実態調査

【経済局】

- ウェルビーイング製品等開発委託事業

【文化観光局】

- 「いいね！スポーツ」せんだいアクティブライフスタイル推進事業
- 歩いて発見 伊達なまち ～あなたのとおきを見つけよう～



スポーツ部門(文化観光局)と連携したイベント
(令和7年度実施)

13 社会環境の改善・整備

【都市整備局】

- せんだいスマート
- まちなかウォーカブルの推進

【建設局】

- 緑の活動団体認定制度
- 未来の杜せんだいネット「ハナミドリエ」事業
- 健やかな心身を育む公園整備と利活用

【青葉区】

- 地域の魅力と回遊向上(Fun,Fan,Find青葉事業)

③ 東北大学COI-NEXT(共創の場形成支援プログラム)への参画

- ・ 東北大学をプロジェクトリーダーとした、産学官共創拠点の形成を目指す連携プログラム。
- ・ 仙台市は令和4年度からプロジェクトに参画
- ・ 令和7年度より、全市的に尿ナトカリ比測定の実施による生活習慣病予防事業を推進するため、東北大学と連携のもと事業展開を図っている

④ 健康長寿産業連合会への参画

- ・ 健康寿命延伸に関する官民一体となった社会的課題への取り組みを通じ、健康長寿産業の振興を図ることを目的として設立された任意団体
- ・ 健康リテラシー向上ワーキンググループにオブザーバー会員として参画

13 社会環境の改善・整備

2. 環境づくり ～誰もが健康づくりに取り組める仕掛け・仕組みづくり～

(1) 各事業、取り組みの中で、健康的な行動を選択・実践しやすい環境づくり

- ・ イベント等の人が多く集まる機会や多様な地域の場における生活習慣病予防の啓発によるヘルスリテラシーの向上のためのアプローチ
- ・ 多様な手法を活用した情報発信(広告、HP、SNS等)
- ・ 健康づくりに寄与する多様な分野におけるサービス・商品等の普及啓発(適塩や栄養バランスの良い食事につながる食品、健康的な住まい等)

〈イベントでの情報発信例:健康フォーラム〉

- ・ 令和8年度はスポーツ部門と連携し健康フォーラムを開催予定
- ・ 昨年に引き続き、せんだい健康づくり推進会議をはじめとした各種団体に協力いただきブースやステージを出展予定

日 時 2026年11月末(予定)
場 所 イオンモール仙台上杉 4F
KAMISUGI ONE PARK
イオンホールほか



令和7年度は子育て部門と連携し
「みんなで子育てフェスタ&健康フォーラム」を開催

13 社会環境の改善・整備

3. 基盤構築 ～データを活用したヘルスケアの推進～

(1) 保育所・幼稚園・認定こども園歯科健康診査結果集約事業を通じた人材育成とソーシャルキャピタル醸成

- 市内保育所・幼稚園・認定こども園で実施している歯科健康診査の健診結果を一元的に集約・分析し、各施設に結果を提供するとともに歯科保健活動を支援
- 健診結果の集約データを見える化し、毎年ホームページで公開するとともに、保育・幼稚園関係者を対象とした研修を実施することで、地域における歯と口の健康づくりの支援体制を強化



(2) 仙台市食環境整備事業『仙台伊達なマルシェ-だてまる』

- 事業者との連携を通じて、栄養バランスや減塩に配慮した食品を、市民が無理なく自然に選択できるようにするための食環境の仕組みづくり

手軽にバランス、おいしく適塩

仙台伊達なマルシェ-だてまる

13 社会環境の改善・整備

(3) 健康チェックin藤崎 拡

- ・ 商業施設と連携し、市民が買い物のついでに手軽に自身の健康を振り返る機会の提供
- ・ 尿ナトリウム比測定と視野チェックVRゲームを同日に同会場で実施する
- ・ 令和8年度は6回実施予定

1/29 健康チェック in 藤崎

「メテオプラスター」で
目の視野の簡易検査 & 尿ナトリウム比測定

無料体験

東北大学と仙台放送が共同開発したゲーム「メテオプラスター」で『目の視野の簡易検査』とナトリウム（塩）とカリウム（野菜など）のバランスを図る『尿ナトリウム比測定』が無料体験できます。

《Fカード会員特典》期間中、順応検査をFカード会員価格¥1,760円にて受診できます。

会場 **本館8階 グリーンルーム** 時間 **午前10時～午後4時**
※一番町館5階 Bスタジオより変更となりました。

次回開催のお知らせ ■2月9日(月) <午前10時～午後4時> ■一番町館5階 Bスタジオ



(4) 企業連携による健康づくり 新

- ・ 企業(せんだい健康づくり推進会議WG等)との連携により、健康づくりの普及の担い手を育成し、健康無関心層を含む幅広い人に対して、健康情報や市の健康づくり施策を届け、ヘルスリテラシーの向上を図る



2. 仙台市各保健福祉センターの取り組み

青葉区保健福祉センター（令和 8年度 事業計画）

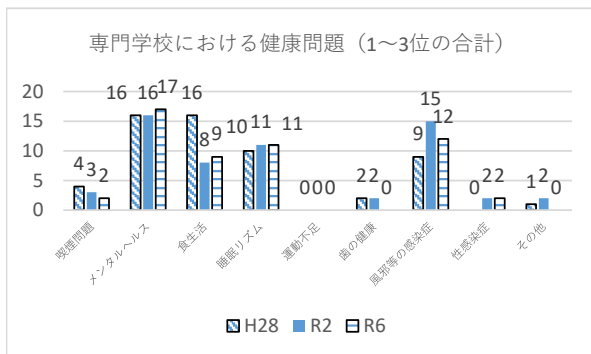
ライフステージ

専門学校等と連携したところとからだの健康づくり

青年期

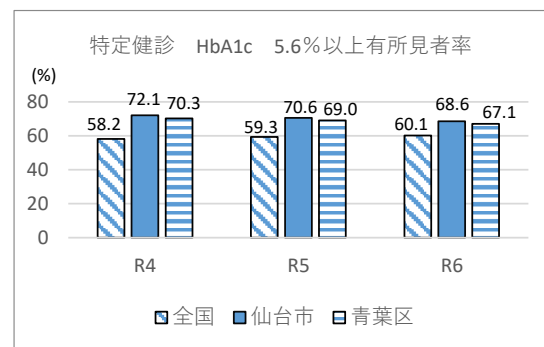
重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

青葉区は大学、専門学校、企業が他区と比較して多く、人口構成において20代～50代の占める割合が大きい。働き盛り世代の健康課題として、特定健診のHbA1c有所見者割合が全国と比較して男女ともに高いことから、予防的介入として、若い世代を対象に高血糖予防、生活習慣病予防の啓発を行う。また、こころの健康についても課題があることからメンタルヘルス研修会等の取り組みを行っている。



〔出典〕青葉区若い世代の健康づくり事業 R6教職員向けアンケート

青葉区内の専門学校の教職員向けアンケートにて、取り組む優先度が高い健康課題を訪ねたところ、メンタルヘルスと回答した学校が最も多かった。



〔出典〕国保データベースシステム 厚生労働省様式5-2

特定健診におけるHbA1cの有所見者の割合が下がっているが、依然として全国と比較して高い状況である。

これまでの事業の評価

・電話や訪問を通じた専門学校に対する健康実態の聞き取りでは、こころや食生活、睡眠リズム等の健康課題が見えている。メンタルヘルスについては、教職員向けの研修会等での啓発を行ってきた。生活習慣病予防の視点から壮年期以降の健康課題も見据え、青年期のうちからアプローチしていく必要がある。

事業計画

栄養・食生活

歯と口の健康

発症予防・重症化予防

こころの健康・社会とのつながり

若い世代を対象とした健康教育

目的：市民が主食、主菜、副菜をバランスよく食べること、歯と口の健康や精神面での健康を保つことができるようにする。

- ・仙台市食育推進連携事業「朝プラ！～朝ごはんはプラスワン～」や常備菜レシピ集を活用し、ニュースレターや専門学校での健康教育等において啓発する。
- ・大学生等の若い世代を中心にデンタルフロスについて広く啓発する。
- ・専門学校に送付するニュースレターに健康づくりのロゴマークの健康プラスを活用、血糖値や血圧をテーマとした記事を掲載したり、啓発資料の提供をすることで、若い世代からの生活習慣病予防を行う。
- ・学生向けのメンタルヘルスに関する健康教育については、講座案内を送付し、希望のあった専門学校に対し健康講座を実施する。

こころの健康・社会とのつながり 社会環境の改善・整備

専門学校職員への健康教育

目的：生徒に日々接する教職員の意識や対応への理解を深めることにより、生徒がよりよい学校生活を送る上での環境を整える。

- ・各学校の健康課題や要望に合わせて、健康教育や啓発媒体の配布等を行う。
- ・専門学校の職員向けのメンタルヘルス研修会を開催する。

社会環境の改善・整備 全体

区内専門学校との連携強化

目的：学生一人一人が自主的に健康づくりに取り組むことができるよう、教職員と健康課題を共有し、啓発できる環境を整える。

- ・管内の専門学校に電話や訪問にて各学校の状況や要望などを聞き取りを行い、健康教育等につなげていく。

目標

アウトプット 専門学校等への健康教育や啓発資料の提供機会の増加

アウトカム 若い世代の健康づくり支援事業による教員や学生の健康意識や行動の変化

啓発資料の提供 8回
(R6)



15回
(R8)

39%
(R6)



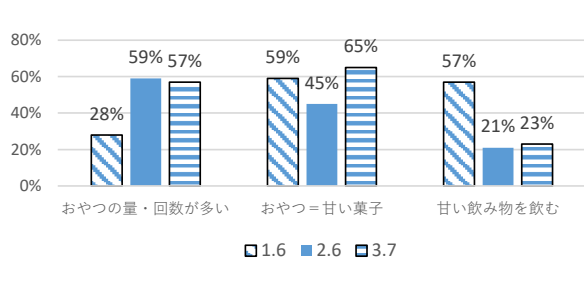
50%
(R9)

幼児期からの生活習慣病予防～高血糖予防に重点を置いた取り組み～

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

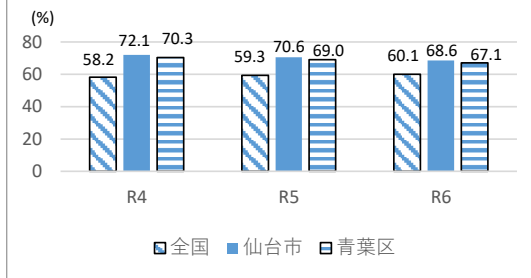
青葉区は幼児の肥満の割合が新型コロナウイルス感染症の流行以降、高い状況が続いている。特定健診ではHbA1c有所見者割合（HbA1c5.6%以上）が男女とも約7割と高い状況である。この状況を踏まえると、大人の生活習慣がこどもの健康に大きく影響していることが推測されることから、幼児期からのあらゆるライフステージを対象に高血糖を予防するための健康管理について啓発する。

各幼児健診におけるおやつの問題



肥満で栄養相談を受けた児の問題点を見ると、年齢が上がるにつれておやつの量や回数、内容に問題のある割合が高くなる。

特定健診 HbA1c 5.6%以上有所見者率



HbA1cの有所見者（HbA1c5.6%以上）の割合は全国と比較して高い状況である。

これまでの事業の評価

- ・あおば健康づくり講座のアンケートでは、全員が健康づくりに関する取り組みを「今後も実践したい」と回答しており、参加者の生活習慣改善への意欲の高まりがみられた。
- ・令和7年度に実施した学齢期から思春期に向けた保健対策のための懇談会において「仙台市いきいき市民健康プラン第3期」にふれ、健康課題の共有を行った。学校側も同様の健康課題があると認識しており、連携して取り組みたい、との声も聞かれ、今後の活動につながる内容となった。

事業計画

栄養・食生活 歯と口の健康 身体活動・運動

幼児期からの生活習慣病予防に向けた健康教育の実施

目的：幼児期から健康的な生活習慣を身につけることができるよう啓発する。

- ・常備菜レシピの活用、健診結果の読み取り等ライフステージごとの対象に合わせた健康教育を行う。
- ・幼児健診での集団指導や個別相談、各種教室、健康教育等において、高血糖予防の視点を持ち、それぞれの対象に合わせて食生活の改善について啓発する。
- ・調理への負担軽減、バランスよく食べることをねらい、パッキングの動画をせんだいtubeにて配信する。
- ・デンタルフロスの使用やかかりつけ歯科医を持つこと等、歯と口の健康について啓発する。

社会環境の改善・整備

学校保健・地域との連携による学齢期の健康づくり

目的：学校や地域と健康課題を共有し、早期からの生活習慣病予防につなげる。

- ・学齢期から思春期に向けた保健対策のための懇談会の開催、学校保健委員会への参加を行う。
- ・小中学校、児童館、市民センター等地域の関係団体と健康課題を共有し、健康教育の実施につなげる。

身体活動・運動 社会環境の改善・整備

まちづくり部門と連携した健康づくりの展開

目的：まちづくり部門と連携し、市民が楽しく健康づくりに取り組めるよう環境づくりを行う。

- ・市民センターやまちづくり協議会等まちづくり部門と連携し、楽しく身体活動量を増やす取り組みや、高血糖予防に関する健康情報の提供をしていく。

発症予防・重症化予防

発症予防・重症化予防のための健康管理と健康づくり

目的：自分の健康状態と生活習慣を把握し、自分にあった健康づくりについて考えるきっかけとする。

- ・糖尿病、高血圧が重症化するリスクの高い者について重点的に個別訪問や健康相談等で受診勧奨と保健指導を行う。
- ・健康づくり講座や生活習慣病予防に関する講演会を行い、自分自身の健康づくりを考えるきっかけづくりとする。
- ・健康教育や健康づくり講座等において尿ナトリウム比測定を行い、野菜や食塩のとり方について啓発する。

目標

アウトプット 高血糖に関連する内容をテーマにした啓発し

アウトカム 3歳児健診での肥満児の出現率の減少

52回
(R7)



70回
(R8)

6.0%
(R7)



5.0%
(R8)

重点的に取り組んだ健康実態・課題

青葉区は大学、専門学校、企業が他区と比較して多く、人口構成において20代～50代の占める割合が大きい。働き盛り世代の健康課題として、特定健診のHbA1c有所見者割合が全国と比較して高いことから、予防的介入として、若い世代を対象に高血糖予防、生活習慣病予防の啓発が必要と考えられた。

事業実績とその成果

栄養・食生活

歯と口の健康

こころの健康・社会とのつながり

発症予防・重症化予防

若い世代への健康に関する啓発

目的：専門学校生が主体的に健康管理や健康づくりの取り組みができるようにする。

・仙台市食育推進連携事業「朝プラ！～朝ごはんはプラスワン～」や常備菜レシピ集、健康づくりのロゴマークの健康プラスを活用し、血糖値や血圧をテーマとした内容をはじめ、歯と口、栄養、こころ等に関する内容についてのニュースレターを区内の専門学校と関係機関に配布した。専門学校と連携して啓発し、生徒に広く、健康に関する幅広い情報を提供することができた。

・大学生等の若い世代を中心にデンタルフロスについて啓発を行った。

こころの健康・社会とのつながり

社会環境の改善・整備

専門学校職員への健康教育

目的：生徒に日々接する教職員の意識や対応への理解を深めることにより、生徒がよりよい学校生活を送る上での環境を整える。

・管内の専門学校に電話や訪問にて各学校の状況や健康課題などの個別聞き取りを行った。

・メンタルヘルス研修会のかわりにこころの健康づくり講座を専門学校へ案内した。メンタルヘルスの問題を抱えている学生が増えていることに苦慮しているとの声が多く挙がっており、支援の必要な健康課題である。令和8年度は教職員向けについては教職員が参加しやすいと考えられる夏休み期間に開催する。また学生に向けた内容について直接学校に出向いて開催する方向で調整することとした。

社会環境の改善・整備

全体

区内専門学校との連携強化

目的：学生一人一人が自主的に健康づくりに取り組むことができるよう、教職員と健康課題を共有し、啓発できる環境を整える。

・管内の専門学校に電話や訪問にて各学校の状況や要望などを聞き取りを行った。学生の健康づくりに対して熱意のある学校もあり、健康教育など区と学校が連携して取り組めることについて共有し、一部の学校では健康教育を実施することができた。一方、業務多忙により、ヒアリングの実施が困難な学校も一部みられた。そのため、次年度は、電子アンケートを用いて全体にヒアリング調査を行い、ニーズの高い学校を抽出して、電話や訪問でヒアリングを実施していきたい。

〈まとめ〉

・電話や訪問を通じた専門学校に対する健康実態の聞き取りでは、こころの健康課題等が見えており、研修会等の啓発を行ってきた。

・生活習慣病予防の視点から壮年期以降の健康課題も見据え、青年期のうちからアプローチしていく必要がある。

目標の達成状況

アウトプット 専門学校等への健康教育や啓発資料の提供機会の増加

アウトカム 若い世代の健康づくり支援事業による教員や学生の健康意識や行動の変化

啓発資料の提供 8回
(R6)



12回
(R7)

39%
(R6)

(R9)

R9年度にアンケートを実施し、評価する予定。

幼児期からの生活習慣病予防～既存事業や関係機関との連携による取り組み～

乳幼児期～壮年期

重点的に取り組んだ健康実態・課題

3歳児健診における肥満の割合が新型コロナウイルス感染症の流行以降から増加し、高い状況が続いていることや壮年期のメタボリックシンドローム該当者が多い等、乳幼児期からの肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の予防が必要と考えられた。

事業実績とその成果

栄養・食生活

歯と口の健康

身体活動・運動

幼児期からの生活習慣病予防に向けた健康教育の実施

目的：幼児期から健康的な生活習慣を身につけることができるよう啓発する。

- ・幼児健診時の集団指導や母親教室・離乳食教室等において、講話の中で高血糖予防の視点から、甘味飲料が身体へ及ぼす影響と望ましい水分・おやつ摂り方について啓発した。2歳6か月児健診で肥満傾向児に啓発リーフレットの配布を継続して実施した。
- ・幼児食教室において、家族全体での望ましい食習慣の形成に向け、講話・バッククッキングのデモンストレーションを行い、7割以上の方が実践してみたいと回答した。
- ・幼児健診でのデンタルフロスの配布、健康教育で歯と口の健康について講話を実施。健康教育後のアンケートでは参加者の100%が「参考になった」と回答した。
- ・西公園150周年フェス、あそびば仙台inアエル、メディアdeちびぱーく等のイベントにてベジメーターによる野菜の摂取量の測定や健康相談等を実施し、併せて常備菜レシピの啓発を行った。

社会環境の改善・整備

栄養・食生活

学校保健・地域との連携による学齢期の健康づくり

目的：学校や地域と健康課題を共有し、早期からの生活習慣病予防につなげる。

- ・児童館、市民センター等地域の関係団体と健康課題を共有したことで健康教育の依頼につながり、2つの児童館でおやつや甘味飲料の適切な摂取について健康教育を実施した。夏休み期間中に実施したことで、甘味飲料の適切な摂取について親子に対して効果的な意識づけになった。
- ・常備菜レシピを活用した小学生親子向けの講座を実施した。アンケートでは野菜をもっと摂取したい、家でも作りたい等の声が聞かれた。
- ・地域の親子向けのイベントで、健康クイズの実施や常備菜レシピ集の啓発を行った。お菓子やジュースの糖分量の媒体は特に親子の関心が高かった。
- ・台原森林公園の謎解きウォーキングの企画、運営に参加。親子で楽しみながら、自然と活動量が増えるきっかけづくりとなった。

栄養・食生活

身体活動・運動

社会環境の改善・整備

まちづくり部門と連携した健康づくりの展開

目的：まちづくり部門と連携し、市民が楽しく健康づくりに取り組めるよう環境づくりを行う。

- ・西公園150周年フェスにてベジメーターによる野菜摂取量の測定を行い、常備菜レシピの啓発を行った（再掲）。
- ・定禅寺通りまちづくり協議会、定禅寺通りエリアマネジメントが実施する定禅寺通クリーンアップにおいて、活動量増加について意識するきっかけづくりとなるよう、一日の歩数についてのアンケート、啓発資料の配布を行った。
- ・市民センターと共催で街めぐりウォーキング講座を実施した。また、市民センターの散策会で、普段の生活の中で歩数を意識して活動量を増やす啓発を行った。

発症予防・重症化予防

慢性腎臓病(CKD)重症化予防事業

目的：継続的な治療に結び付けることで腎不全、人工透析への移行を防止する。

- ・糖尿病、高血圧が重症化するリスクの高い者について、個別訪問や面接等での受診勧奨や保健指導を実施した。個別に丁寧に関わったことで、その後の受診や生活習慣の改善につながった。
- ・老人福祉センターや市民センター等の健康教育の際に尿ナトリウム比測定や血圧測定を行い、生活習慣病予防についての啓発を行った。

〈まとめ〉

・講座実施後のアンケートでは、多くの方が健康づくりに関する取り組みを「今後も実践したい」と回答しており、参加者の生活習慣改善への意欲の高まりがみられた。しかし、対象者が限定的であるため、様々な機会を捉えてより多くの方を対象に健康づくりのきっかけや継続できるような仕掛けを今後も作っていく必要がある。また、ライフステージ毎の健康課題と課題解決のための知識について広く啓発していくため、今後も地域の関係団体と連携していく必要がある。啓発方法についてはより意識付けとなるナトリウム比測定やベジメーター等の体験型のものを取り入れていく。

目標の達成状況

アウトプット 肥満幼児への栄養相談実施率の増加

1.6 健診 56.6% → 50.7%
(R6) (R7)

1歳6か月児健診での肥満幼児への栄養相談実施率はR6と比べ減少しているが、早期の介入は必要と思われるため、今後も継続して取り組んでいきたい。

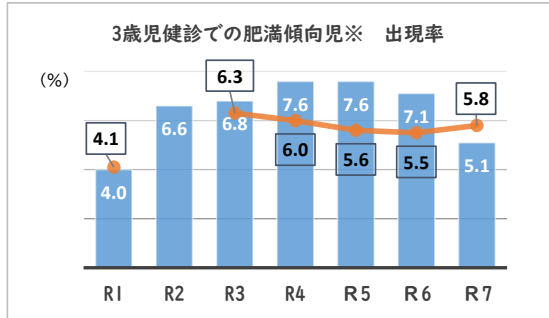
アウトカム 3歳児健診での肥満児の出現率の減少

5.5% → 6.0%
(R6) (R7)

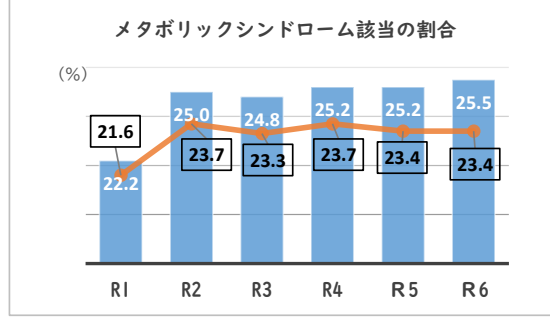
3歳児健診での肥満度15%以上の児の割合はR6と比べて増加した。引き続き幼児健診での早期の介入を強化し、肥満児の減少を目指していきたい。

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

特定健診の結果、メタボリックシンドローム該当者割合及びHbA1c要指導・要医療の者の割合が高い状況が継続。また3歳児健診の肥満傾向児の出現率は減少したがコロナ禍前には戻っていない。生活習慣課題のうち「甘味飲料の習慣的摂取」をこれらの要因のひとつとして挙げ、健康影響と適切な摂取方法について多世代に向けた啓発を行う。いずれも改善傾向を示しており、今後も継続して啓発を強化する。



3歳児健診の身体計測の結果、R1年度は仙台市平均とほぼ同じ割合だったが、コロナ禍で増加したままR6年度まで横ばいの状況だった。R7年度は減少したが、コロナ禍前の状況に戻っていない。幼児健診の間診票記入の状況から、甘味飲料に対する認識の変化がうかがわれる。



特定健診の結果から、メタボに該当した者の割合は仙台市平均と比較しても宮城総合支所管内ではC地区が一番高く、コロナ禍以降高いまま経過している。地域的に体を動かす習慣はあるが、特に甘味飲料を毎日摂取する割合が他の地域より高いため適正な摂取を啓発する必要がある。

※ 折れ線グラフ太黒字口囲み：全市平均割合
棒グラフ白抜き文字：宮総管内割合

これまでの事業の評価

- 管内全体の健康教育・地区保健活動、乳幼児健診や教室、母子健康手帳交付時に生活習慣病予防に関する情報をチラシを用いて指導実施。幼児健診では、糖質量の可視化したパネルを掲示。3歳児健診の肥満傾向児出現率は、R5の取り組み開始時よりも低下している。
 - C地区では集団健診や地域の活動の場を活用して重点に「甘味飲料の適正摂取」と運動を勧める健康教育や個別指導を実施。
 - 児童クラブの児童やその保護者に対し、生活習慣病予防の健康教育を実施。保護者にもメールで啓発した。
- これらの啓発の結果、「気をつけよう」「家族に伝えたい」等、意識の変化がうかがえた。

事業計画

栄養・食生活 身体活動・運動

甘味飲料の習慣的摂取改善のための啓発(媒体作成及び活用)

- 目的：すべてのライフステージにおいて甘味飲料の習慣的摂取を見直し、運動を効果的に取り入れ肥満割合を減少させる。
- 甘味飲料の習慣的摂取を改善するため、妊娠期、乳幼児期、成人高齢期それぞれに向けたチラシや媒体を用いて、各種教室や幼児健診、健康教育等の既存の事業や、関係機関とのネットワーク事業等で啓発を実施する。
 - C地区では児童館や市民センター、民生委員や主任児童委員とも協力して、地域へ広く啓発を行う。
 - 生活習慣病予防をテーマとした健康づくり教室を実施し、食事講話、日常生活に取り入れやすい運動実技等を行う。

栄養・食生活 社会環境の改善・整備

甘味飲料の習慣的摂取改善のための児童館との連携

- 目的：児童館（児童クラブ）と肥満などの地域の健康課題と課題解決に向けた啓発と教室の実施。
- 今年度も、児童館職員や関係機関等が健康課題について共通認識し、連携して取組めるよう調整を行う。
 - 糖質量のパネルを年間通じて児童館に掲示し、職員はじめ児童や保護者に向けて啓発する。同時に、運動習慣等活動量増加の視点も加味した児童対象の生活習慣病予防健康教室を実施する。
 - 家庭単位で生活習慣病予防に取り組めるよう保護者に対し、数回啓発の機会を設ける予定。
 - 啓発グッズに「SENDAI 健康プラス」ロゴマークを貼付し、市民及び関係機関の健康づくりへの視点を高めていく。

発症予防・重症化予防

特定健診・基礎健診受診者等への啓発

- 目的：生活習慣病及びその重症化のリスクを持つ対象者に対し、生活習慣改善の啓発を行う
- 健康教育や集団健診、関係機関の情報発信の場等を活用して、対象者に合わせた資料や媒体を用いて、肥満や高血糖に関連する生活習慣病予防と甘味飲料の適正摂取の啓発を行う。
 - C地区において、今年度は健診結果説明会時に食生活と運動をメインテーマとした個別支援を行う。
 - 特定健診・基礎健診受診者で重症化予防対象者に対し、糖尿病性腎症・慢性腎臓病重症化予防のアプローチを対面で実施。

目標

アウトプット	1歳6か月児健診で肥満傾向児の栄養指導実施率	アウトカム	3歳児健診での肥満傾向児出現率の減少
	39.1% (R7)	➡	5.18% (R7)
	50.0% (R8)	➡	4.00%以下 (R8)

甘味飲料摂取に視点をおいた肥満及び生活習慣病予防の啓発

胎児期（妊娠期）～高齢期

重点的に取り組んだ健康実態・課題

特定健診の結果、メタボリックシンドローム該当者や血糖値の有所見者の割合が高い状況があり、市民意識調査において甘味飲料の習慣的摂取が市平均より高い傾向があるため、全世代において生活習慣病予防の内容と併せて啓発した。肥満（BMI）（R2→R7）及びHbA1c（R4→R7）の有所見者割合が減少傾向にある。また、3歳児健診の肥満傾向児の出現率（R6→R7）も減少してきている。

事業実績とその成果

栄養・食生活

発症予防・重症化予防

甘味飲料の習慣的摂取改善のための啓発

目的：すべてのライフステージにおいて甘味飲料の習慣的摂取を見直し、肥満割合を減少させる。

・全てのライフステージに対し、甘味飲料に含まれる糖質量を可視化した媒体を作成・活用し、生活習慣病予防と甘味飲料に関する啓発を実施することができた。

様々な健康教育の場を活用し、学童期や高齢者へ甘味飲料に関するチラシ配布による啓発や、C地区での集団健診会場でのパネル展示と保健指導の実施の結果、「含まれている糖分量におどろいた」「今後の選択を気をつけようと思う」「家族にも教えたい」という良好な反応が得られた。

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

甘味飲料の習慣的摂取改善の啓発のための地域関係団体との連携

目的：地域関係団体との地域課題の共有と連携強化

・地域の関係者や関係機関が、健康課題について共通認識を持ち地域保健活動につなげられるよう、チラシを用いて説明した。
・地域の関係機関が出席するネットワーク会議や研修会等の場の活用、施設の訪問による説明等により、健康課題や啓発のための媒体活用等について情報共有の機会を持ち、次年度の取り組み推進の足掛かりとなった。

社会環境の改善・整備

甘味飲料の習慣的摂取改善の啓発のための効果的媒体の作成

目的：様々なライフステージへの啓発において、効果的に甘味飲料の習慣的摂取改善への意識を高める。

健康教育等の場面で効果的に啓発するための媒体として糖質量を可視化したパネル、実物模型、配布資料を対象（妊娠期・乳幼児期・青・壮年期・高齢期）に合わせて作成し、様々な事業で活用できるようにした。学齢期向けの運動をメインとしたイベントではより良い生活習慣や甘味飲料に関する内容を盛り込んだ啓発を行い、帰宅後親子で共有できるよう資料を配布した。

肥満等の課題が見られたC地区での取組連携強化を図るため、関係機関（市民センター、地域包括支援センター、健診団体等）に作成した配布資料とともに、地域の健康課題と取組状況について共有したところ、関係機関においてその資料を基に啓発する状況も一部確認できた。

〈まとめ〉

・幼児健診や、基礎・特定健診の集団健診、全てのライフステージへの健康教育の場を活用した、対象に合わせた啓発を幅広く実施することにより、「気をつけよう」等の意識の変化を感じることができた。目標達成に向けては、今後も取組みを継続・拡大していく必要がある。
・目標達成のためには、地域の関係機関との情報共有により、今後さらに連携して効果的な啓発を行うための体制づくりを関係機関と共に進める必要がある。
・生活習慣病予防を効果的に進めていくため、運動・身体活動を楽しみながら行える内容の健康教育の機会を検討する。

目標の達成状況

アウトプット

地域住民及び関係機関との情報共有の場の数

788人/37回
(R6)1382人/20回
(R7)

アウトカム

3歳児健診での肥満傾向児出現率の減少

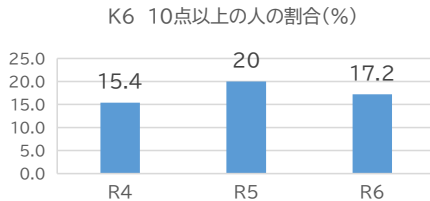
7.08%
(R6)5.18%
(R7)

甘味飲食に含まれる糖質量を可視化したパネル及び配布資料を作成し、各種健康教育の場で掲示、配布等を実施し啓発した。また、ネットワーク会議等で資料を活用し、情報共有に努めた。児童館にて、児童とその保護者に対し生活習慣病予防についての健康教育やチラシ配布など、多くの住民に対し啓発することができた。

コロナ禍から昨年度まで肥満傾向児が多い状況だったが、今年度においては減少となった。

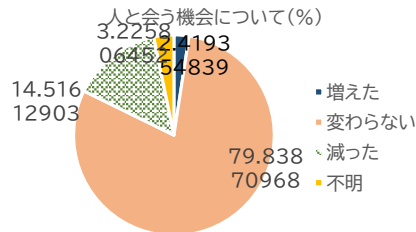
重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

高齢化による心身の不調やフレイル・認知症等が出現している。さまざまな被災地域から入居者が復興公営住宅等に移り、コロナ禍の影響を受け、コミュニティが醸成されにくく孤立しやすい環境である。健康調査未回答者訪問を通して、支援が必要な世帯を継続支援につなげ、地域全体のニーズを把握し、個別支援とコミュニティ支援を連動的に行う。



【出典】宮城野区災害公営住宅等入居者健康調査回答状況まとめ

災害公営住宅入居者への健康調査において、K6が10点以上(気分・不安障害相当)の割合が経年的に高値。2022年国民生活基礎調査での10点以上は9.8%であり、全国値に比べて非常に高い傾向。



【出典】R7復興公営住宅等への訪問時のヒアリング調査

訪問対象者124名に対し、人と会う機会の頻度についてヒアリング調査を実施(R7.6～8月頃)。増えた、変わらないと回答した者が多いが、14.5%が「減った」と回答。減った理由の多くが「体調不良」であり、令和6年度調査時と同様の結果が見られた。

これまでの事業の評価

復興公営住宅、防災集団移転地区、浸水区域等において健康づくりを切り口としたグループ支援を実施し、地域主体の集いの場を育成してきた。参加者からは、健康づくりへの意識が高まった、交流する機会が増えたとの意見が聞かれている。地域の集いの場に参加しない、交流を望まない住民もいるほか、自分自身や家族の体調不良等により人と会う機会が減り、フレイル状態となってしまう住民もいるため、関係機関の連携のもと重層的な見守り体制が必要。また、「被災者」とみられることへの感じ方についても個人によってさまざまであるため、必要に応じて「生活習慣病の予防、重症化予防」の切り口から支援を行う。

事業計画

こころの健康・社会とのつながり 発症予防・重症化予防

被災者健康支援(個別支援)

目的:地域在宅被災者及び復興公営住宅入居者等の生活状況や健康課題を把握し、予防的かつ早期介入を実施

- 令和7年度仙台市被災者健康調査から要支援者を抽出し、個別訪問により生活状況や心身の健康状態の把握、フレイル予防や集いの場のつなぎを行う。医療的、福祉的ニーズが高い住民を把握した際には、タイムリーに関係する支援機関へつなぐ。
- 令和7年度仙台市被災者健康調査未回答世帯訪問を実施し、支援が必要な世帯を把握し適切な支援につなげる。
- 休止中の運動教室参加者や本人・家族の体調不良等により定期的に通えなくなっている参加者に対し、個別訪問を行い見守りを継続する。

栄養・食生活 身体活動・運動 歯と口の健康 発症予防・重症化予防 社会環境の改善・整備 こころの健康・社会とのつながり

被災者健康支援(コミュニティ支援)

目的:住民同士の交流・健康管理意識の向上・生活不活発病の予防・高齢者の閉じこもり予防

- 住民が主体的に安定した活動を実施することができるよう、関係機関との協働のもと支援を継続する。
- 集いの場において、栄養や歯と口の健康、フレイル予防等の講話を実施する。市民健診の啓発を行う。
- 集いの場に参加できない人にも健康情報がいきわたるよう、「からだおもしろい」(健康情報誌)を活用し、年4回啓発する。
- 医療機関(認定看護師による健康相談)や地域包括支援センターと連携し、店舗での健康相談会を年3回実施する。
- これまで介入したことのない集いの場に新たに専門職が介入し、健康教育等を実施する。

社会環境の改善・整備

防災×健康づくりに関する取り組み

目的:震災未経験の住民を中心に、防災意識を高める啓発を行う。

- 「子育て世代のための防災ハンドブック」を活用して子育て世代へ啓発を行う。
- 町内会と連携し、防災訓練において運動指導等の健康教育を実施する。
- 宮城野消防署との協働により「火事から身を守るための健康づくり」啓発を行う。

目標

アウトプット 専門職が介入できる集いの場の数の維持

※参加者の高齢化等により活動休止に至る団体も出てきているため、継続して活動できるよう支援する。

13か所
(R7)



13か所
(R8)

アウトカム

災害公営住宅入居者への健康調査におけるK6が10点以上と回答した人の割合の減少

※K6:得点が高いほど心理的苦痛が高いことを意味しており、10点以上が気分・不安障害相当である。

17.2%

(R6被災者健康調査)



15.0%

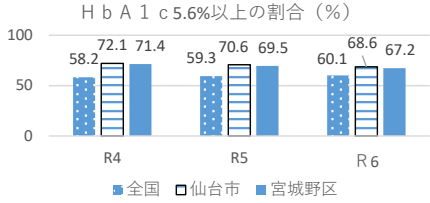
(R7被災者健康調査)

あらゆるライフステージにおける糖尿病予防啓発

ライフステージ
乳幼児期・学齢期・青年期・壮年期

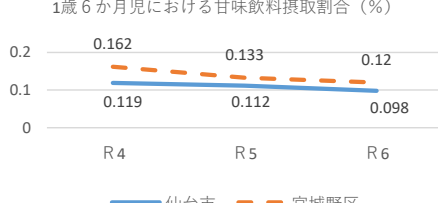
重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

宮城野区は習慣的喫煙の回答者数が男女ともに多い、朝食欠食率が高い、1歳6か月児の甘味飲料摂取割合が高い、特定健診の受診率が全市で最も低い等の課題がある。全市的に血糖値の有所見者割合（HbA1c5.6%以上）が全国値と比べて高い状況にあり、そのリスク要因となる生活習慣への啓発をあらゆるライフステージで実施する。



〔出典〕仙台市国保データベース（様式5-2）特定健診有所見者状況

HbA1c有所見者（5.6%以上）割合については、宮城野区は仙台市と比較すると高値ではないものの、全国値と比較すると高く、市全体としての課題である。



〔出典〕仙台市母子保健・市民健診及び予防接種システム

血糖値に影響を与えると考えられる甘味飲料の習慣的摂取について、1歳6か月児の甘味飲料摂取割合が仙台市5区中1位であった。経年的にみると全市的にも宮城野区としても減少傾向であるが、当区の課題としてとらえ、適切な水分摂取について啓発していく必要がある。

これまでの事業の評価

- ・学齢期については、平成30年度に開始した学校訪問児童館訪問を継続実施し、毎年管内の児童館・小学校を訪問、課題共有する体制を構築した。その効果もあり、出前講座の依頼は令和元年度3件95人→令和7年度20件1100人まで増加した。学校保健・地域保健懇談会では、小学校の養護教諭、児童館職員等とこどもたちの健康課題や各機関の取り組みについて共有を重ねてきている。
- ・青壮年期については、乳幼児の保護者世代に対して野菜の摂取や甘味飲料摂取、親子での運動等、適切な生活習慣に関する啓発を実施。健康生活講座では、糖尿病をテーマとし、生活習慣の見直しや、健康状態に合った健康づくりについて啓発した。

事業計画

社会環境の改善・整備

学齢期健康づくり～学校保健・地域との連携強化～

目的: 学校や地域と、健康課題やこどもの頃からの健康づくりの必要性を共有し、より早期からの生活習慣病予防につなげる

- ・学校保健・地域保健懇談会の開催、学校保健委員会への参加
- ・小中学校、児童館へのアウトリーチによる地域課題の情報共有と健康教育のPR
- ・健康課題共有の資料に、健康プラスのロゴマークを活用する。

栄養・食生活 飲酒・喫煙 歯と口の健康

学齢期健康づくり～健康教育の実施～

目的: こどもたちが健康的な生活習慣を身に付けることができるよう出前講座や幼児健診等の場を活用し啓発する。

- ・適正体重の維持、糖尿病予防の観点から、フードモデルを活用した野菜の摂取の必要性や、甘味飲料等の身体へ及ぼす影響と望ましい水分摂取について健康教育を実施する。併せてむし歯・歯周病予防に関する健康教育を実施する。
- ・保護者世代の喫煙率が高いことから、子どもたちが将来喫煙を選択する可能性が高いため、予防のための防煙教育を実施する。

栄養・食生活 身体活動・運動 歯と口の健康

乳幼児親子の健康づくり～のびすくパパタイムにおける生活習慣ミニ講話～

目的: 乳幼児の保護者が自身とこどもの適切な生活習慣を考え、見直すきっかけをつくる。

- ・のびすく宮城野との共催事業「パパタイム」において、働き盛り世代の父親に対する生活習慣病予防を働きかけるため、朝食、野菜、甘味飲料、運動の4テーマで定期的に啓発を行う。
- ・同様の啓発内容を子育てサロン等での健康教育やイベント、面接や訪問等の個別支援の場など、あらゆる場面で活用できるよう媒体等を整える。

栄養・食生活 身体活動・運動 歯と口の健康

乳幼児親子の健康づくり～親子で身体を使った遊びの啓発～

目的: 生活の中に手軽に取り入れられる親子でできる運動メニューを啓発し、メディアの過剰視聴を減らし身体活動の増加を目指す。

- ・日常生活の中に手軽に取り入れられる身体を使った親子遊びを考案し、講座等で実践する。啓発媒体を幼児健診等で配布し広く啓発する。

栄養・食生活 身体活動・運動 歯と口の健康 発症予防・重症化予防

糖尿病予防をテーマとした区民向け健康講座「健康生活講座」の実施

目的: 生活習慣病予防について、理解している人を増やす。自らの健康状態を把握し、生活習慣を見直し、健康状態に合った健康づくりを実践する人を増やす。

- ・医師講話、栄養講話、運動講座、歯科講話の連続講座を実施。
- ・講話の資料に健康プラスのロゴマークを活用する。
- ・同時期に開催予定のフォーキングイベントと連動させ効果的な実施を目指す。

目標

アウトプット 小学校との情報共有数の継続

20校 (R7) → 20校 (R8)
生活習慣病に関連する地区健康教育の回数

16回 (R7) → 20回 (R8)

アウトカム 健康教育における児童の理解度の維持
(学齢期健康づくり出前講座アンケート)
96.5% (R7) → 95%以上 (R8)

HbA1c5.6%以上の者の減少(40～74歳)
〔出典〕仙台市国保データベース（様式5-2）特定健診有所見者状況

67.60% (R7) → 66% (R8)

重点的に取り組んだ健康実態・課題

高齢化による心身の不調やフレイル・認知症等が出現していることや、さまざまな被災地域から入居者が復興公営住宅等集まり、コミュニティが醸成されにくい環境である。個別支援を継続し、予防的かつ早期介入を行うとともに、関係機関と連携した継続支援やコミュニティの活性化を図る必要がある。

事業実績とその成果

こころの健康・社会とのつながり 発症予防・重症化予防

被災者支援（個別支援）

目的：地域在宅被災者及び復興公営住宅入居者等の生活状況や健康課題を把握し、予防的かつ早期介入を行う。

・被災者健康調査回答者の中で、要確認者について個別訪問を実施。孤立予防・フレイル予防を目的とした質問票を活用し、生活状況のヒアリングを実施した。
→人と会う機会が減ったと回答した者が15%見られ、フレイル予防を啓発を行った。説明内容に対し、関心を持ちつつ理解が深まった様子がうかがえた。

・令和7年度被災者健康調査未回答世帯訪問を実施。宮城野区として約360世帯への訪問を3月より開始した。
→不在の世帯も多いが、新たにK6高値者や不眠、不安が強いケースを把握し、継続支援につなげた。

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

社会環境の改善・整備

こころの健康・社会とのつながり

被災者支援（コミュニティ支援）

目的：住民同士の交流・健康管理意識の向上・生活不活発病の予防・高齢者の閉じこもり予防

・復興公営住宅、浸水地域、防災集団移転地区にて活動している運動教室について、安定した住民主体の活動につながるよう、運動教室に参加しながら随時活動支援や健康教育を実施。
→心身機能が低下した参加者や、持病の悪化により継続参加が困難となっている参加者が散見された。運動教室不参加時には家庭訪問に切り替えて個別支援につなぎ、地域包括支援センターと連携するなどタイムリーな支援を実施した。

・交流の機会が少なく情報を得にくい住民に対し健康づくり情報誌「からだおもい」を町内会回覧及びポスティングにより配布。
→町内会長宅を訪問して手渡しすることにより、定期的に地域の状況を把握することへつながり、タイムリーなコミュニティ支援を行った。情報誌の内容については、読んでいて、参考になった、食事のレシピについてもっと知りたい等の反応があり、住民の健康づくりに役立っている。

社会環境の改善・整備 こころの健康・社会とのつながり

防災×健康づくりに関する取り組み

目的：震災未経験の住民を中心に、防災意識を高める啓発を行う。

・転入してくる若い世代の中には、津波被害があった地域であることを知らない住民も多いため、子育てサロンやイベント、プレパパママ教室等を活用し、「子育て世代のための防災ハンドブック」を配布し啓発した。
・フレイル予防と火事予防を組み合わせた「火事から身を守るための健康づくり」として新たに宮城野消防署と協働で健康教育を企画実施。火事に素早く気付くため、素早く逃げるための健康づくりについて協働でチラシを作成し啓発した。この取り組みについて、防災未来フォーラムでもブース展示し広く市民や関係者に啓発した。
→参加者より、「もしもに備えて筋トレしたい」「防火対策を見直したい」との声が聴かれ、健康管理意識、防災意識の向上につながった。宮城野消防署も同じ資料を活用し、互いにあらゆる場面での啓発に活用できることから、健康づくりの担い手として協働体制を構築した。

〈まとめ〉

被災者の高齢化による持病の悪化や、心身機能の低下が見られるケースが散見され、個別支援とコミュニティ支援を連動させて必要な支援を漏れなく実施することの重要性が改めて明らかになった。運動教室等の通いの場において、自身の体調不良や家族の介護等により継続的に通うことが難しい参加者も見られるが、定期的に来ることがフレイル予防・孤立予防につながり、参加者同士が健康状態の変化に気付きあい、必要時専門機関の相談につなげるなどの共助の場となっている。実際に住民からも、互いに見守りあうことの大切さを実感する声が聞かれた。「運動」の継続が難しくなっても、住民とともによりよい手法を模索しながら、集まれる場を継続していけるよう支援していくことが重要である。

被災者健康調査未回答世帯訪問については、保健福祉センター3課（管理課、障害高齢課、家庭健康課）が協働で実施。支援が必要な世帯を把握し漏れさず必要な支援につなげていく。

目標の達成状況

アウトプット 専門職が介入できる集いの場の数

14か所
(R6)



13か所
(R7)

R7.1月から活動を休んでいる団体（運動教室）があり、1か所減少した。上記の件数以外に、防災×健康づくりの一環として新たに町内会の防災訓練2か所に参加した。

アウトカム 被災者健康調査K6（10点以上）の該当割合

※K6:得点が高いほど心理的苦痛が高いことを意味しており、13点以上が重症精神障害者相当である。

20.0%

(R5被災者健康調査)



17.2%

(R6被災者健康調査)

K6が10点以上（気分・不安障害相当）は減少傾向にあるが、全国値と比べても高値であるため、引き続き支援を要する。

重点的に取り組んだ健康実態・課題

宮城野区は習慣的喫煙の回答者数が男女ともに多い、朝食欠食率が高い、1歳6か月児の甘味飲料摂取割合が高い、特定健診の受診率が全市で最も低い等の課題がある。全市的に血糖値の有所見者割合(HbA1c5.6%以上)が全国値と比べて高い状況にあり、そのリスク要因となる生活習慣への啓発をあらゆるライフステージで実施した。

事業実績とその成果

社会環境の改善・整備

学校保健・地域との連携強化

目的:学校保健や地域と共に、地域ごとの健康課題について共有・検討する。

- ・学校保健・地域保健懇談会を開催し、小学校養護教諭や児童館職員と、こどもの肥満予防をテーマに地域の健康課題のデータを提供・各機関の取り組みについて情報共有した。講話の資料に健康プラスのロゴマークを活用した。
- ・就学児健診時に「入学までに身につけたい生活習慣」をまとめたクリアファイルを配付し、保護者向けに健康教育を実施した。
- ・小中学校・児童館へ訪問し、当区の健康課題を共有。関係機関へ健康教育媒体貸出。

→各機関との連携を行うことで、出前講座の依頼につながり、20回延1100名の児童に対して健康教育を実施した。

さまざまな健康課題を共有する中で、養護教諭や児童館職員が課題に感じるテーマとしてメディアに関するものが多かった。メディアの過剰視聴はこどもの睡眠不足や日中の活動量の低下、不適切な食生活につながり、肥満とも関連があるため、家庭や各機関での肥満予防、将来の糖尿病予防について、引き続き関係機関と連携して取り組む必要がある。

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

発症予防・重症化予防

のびすく宮城野と連携した父親向け生活習慣病予防啓発

目的:保護者が自身の食事や運動に関する関心をもつことで、適切な保健行動をとることができる親子を増やす。

・のびすく主催の「パパタイム」において、働き盛り世代の父親に対しミニ講話を実施。朝食、野菜、甘味飲料、運動の4テーマでの啓発を行った。

→甘味飲料に含まれる砂糖の量について、スティックシュガーの実物を見せて啓発すると、「エナジードリンク毎日飲んでた。こんなに砂糖が入っているなら控えます」といった声が聞かれ、自分自身の健康について意識するきっかけとなった。

栄養・食生活

地域のまつりやイベント等を活用した野菜摂取の啓発

目的:地域の親子が野菜に興味を持ち、今より野菜を多く摂取する住民を増やす。

・地域のおまつり等のイベントにおいて生野菜を活用した一日に必要な野菜計測の体験イベントを実施。

→こどもも保護者も楽しく参加しており、「苦手な野菜を頑張ってたべてみたい」「野菜の種類も考えて摂りたい」などの声が聞かれ、野菜を身近に感じ、野菜摂取の必要性を理解することにつながった。

・市民センターロビーにおいて、ベジメーターを活用し、野菜摂取の啓発を実施。

→自分の野菜摂取量を可視化することで現状を知り、血管年齢測定や動脈硬化の模型図により血管への影響についても触れ、350gの野菜のフードモデルを活用して必要な野菜の量について効果的に啓発した。

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

発症予防・重症化予防

糖尿病予防をテーマとした区民向け健康講座「健康生活講座」の実施

目的:自らの健康状態を把握し、生活習慣を見直し、健康状態に合った健康づくりを実践する人を増やす。

・医師講話、栄養講話、運動講座、歯科講話の連続講座で実施。栄養講話では、尿ナトリウム比測定を実施した。

→医師講話において、糖尿病だけでなく血圧コントロールに関する話題もあり、自身の尿ナトリウム比を知ることで食事内容について考えるきっかけとなった。また、参加者から腎機能についても学びたいという声もあがり、CKD予防としても効果的な内容となった。

〈まとめ〉

アクションプランの重点的に取り組む項目「糖尿病対策」「高血圧対策」「適正体重の維持」について、当区では具体的な取り組みとして「朝ごはんを食べよう」「野菜を食べよう」「普段の飲み物は水かお茶にしよう」「メディアはほどほどに身体を動かす遊びをしよう」をテーマに、関係機関との課題共有や市民への啓発を実践した。一目でわかる媒体の活用や測定等の導入によって、より具体的に健康づくりの内容を啓発し、「自分ごと」としてとらえ、生活習慣の行動変容につながるよう工夫した。今後は、子育て世代・働き盛り世代にも幅広く啓発できるよう、体制を整えて継続的に実施していく。

目標の達成状況

アウトプット 小学校との情報共有数の増加

1校(H30)
19校(R5)



20校
(R6)

小学校については、管内すべての学校を訪問し共有することができた。出前講座の依頼が増え、講座受講人数も令和5年度より大幅に増加した。

アウトカム 健康教育における児童・生徒の理解度

実施なし(H30)
97.8%(R6)



96.5%
(R7)

小・中学校、児童館に対して実施した健康教育のうち、アンケートを実施した学校のアンケート結果より、96.5%が「よくわかった」「少しわかった」と回答。対象の理解度に沿った内容と媒体で啓発を行うことができた。昨年度より減少したが、目標の95%以上を維持している。

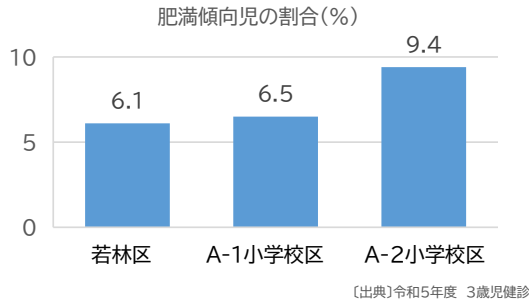
若林区保健福祉センター（令和 8年度 事業計画）

肥満傾向児の割合が高い地域(A地区)にターゲットを絞った生活習慣病予防事業 ～若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業(A健康キッズチャレンジ)～

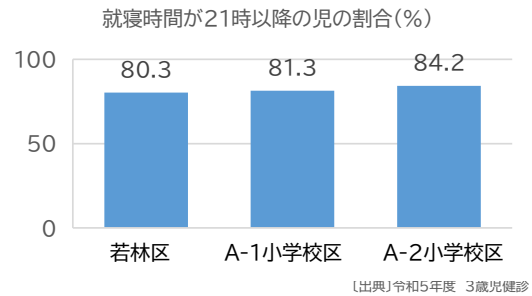
ライフステージ
乳幼児期～高齢期

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

若林区はこどもの肥満、大人のメタボリックシンドローム該当者の多さ、高血圧や糖尿病治療者が多いという健康実態がある。特にA地区は幼少期からの肥満傾向児の割合が高く、生活習慣の改善が必要な子どもが多いという特徴があることから、令和6年度からA地区を重点的に健康づくり啓発事業を実施している。



A-1・A-2小学校区で、15%以上の肥満傾向児の割合が、区の平均よりも高い傾向にある。



A-1・A-2小学校区で、就寝時間が21時以降の児の割合が、区の平均よりも高い傾向にある。

これまでの事業の評価

昨年度は事業開始2年目となり、より関係機関と連携・協力して様々な事業を展開できた。今年度はこの強みを維持しながら、事業を実施しつつ、事業全体の評価も行っていく。3か年計画の最終年度のため協働の取組が地区活動として根付くよう、また各関係機関の活動の中に健康づくりの要素を残していただけるよう働きかけていくとする。

事業計画

栄養・食生活	身体活動・運動	歯と口の健康	社会環境の改善・整備
早期から望ましい生活習慣の確立を支援し、子どもたちの健やかな成長を促進する 目的：乳幼児期から健康的な食習慣・生活習慣を身につけ、正しい保健行動がとれることも・家庭を増やす。 ・子育て関係機関(保育所・幼稚園等)とは、地域課題について改めて共有し、昨年度までの事業報告を行いながら、協働できる部分を開拓する。併せて、健康づくり寸劇(健康教育)や生活習慣病予防クイズ、わかちゃん(若林区健康づくり推進キャラクター)を活用したイベント等も提案する。 ・子育て支援センターや児童館等での健康教育を継続しつつ、新たな実施先を開拓する。 ・望ましい生活習慣と実践のポイントが記載されたクリアファイルを活用し、就学児健診等で保護者に向けて啓発する。			
栄養・食生活	身体活動・運動	歯と口の健康	
自身の生活習慣を振り返り、健康を「我が事」として考える機会の創出 目的：健康づくりイベント、健康教育等を通し、自身の生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む住民を増やす。 ・昨年度の協働先に加え、さらに協力してくれる団体を増やし、市民センターや地域団体と共催で親子トレジャーウォークを実施する。あわせて健康づくりに関する知識を習得した子ども(健康キッズ伝道師)の養成も実施する。 ・小・中学校を対象とした生活習慣病予防に関する事業の実施(小学校2校、中学校1校を予定) ・身につけてほしい4つの生活習慣(朝ごはん、メディアコントロール、運動、睡眠)の取り組み状況が記載できるカードを活用し、家庭での健康づくりを促す。 ・子ども食堂でのワークショップを実施し、望ましい生活習慣について考えてもらえるような機会を提供する。			
社会環境の改善・整備			
地域住民や関係団体・機関と連携した取り組み 目的：地域住民や関係機関の方々と健康課題についての共通認識を持ち、それぞれができる取り組みにつなげる。 ・地域のサロン等、様々な場において健康課題を共有し、それぞれが取り組める健康づくりについて考えてもらえるように働きかける。また、昨年度実施した事業や成果についても情報共有し、協働できる部分を検討する。 ・また本事業終了後も連携がとれるよう、関係機関との顔の見える関係を維持し、働きかけを続けていく。			

目標

アウトプット

連携した施設数の増加(A地区)

0施設
(R4)

➡

34施設
(R8)

アウトカム

3歳児健診での肥満傾向にあるこどもの減少
(若林区)

6.1%
(R5)

➡

5.5%
(R8)

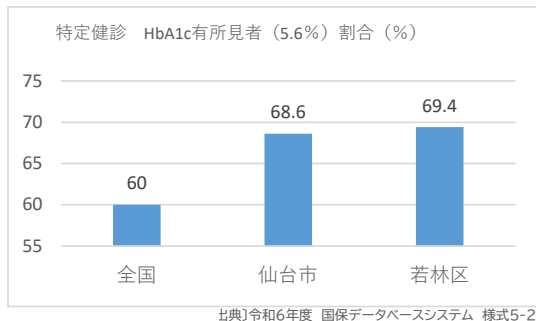
若林区保健福祉センター（令和 8年度 事業計画）

ライフステージ
胎児期（妊娠期）～
高齢期

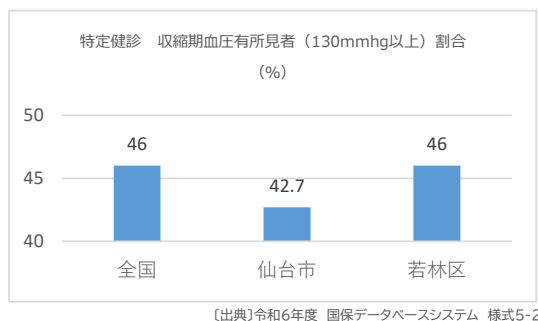
すべてのライフステージを対象とした糖尿病・高血圧予防に関する取り組み

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

若林区は特定健診の結果より、HbA1c有所見者の割合が全国と比較しても高く、また壮年期のHbA1cの要医療判定者も仙台市平均よりも高い状況にあり、高血糖対策の強化が必要である。また、区の壮年期の収縮期血圧の有所見者割合も仙台市より高い。幼少期からの健康的な生活習慣の定着に向けて、様々な場を捉えて発信していくとともに、アプローチの難しい壮年期においてはこの世代が属する職域との連携を図っていく。



特定健診における若林区のHbA1c有所見者（5.6％以上）割合は、全国や仙台市と比較しても高い数値となっている。



特定健診結果より、壮年期の収縮期血圧の有所見者割合が仙台市よりも高く、全国と同等の数値となっている。

これまでの事業の評価

糖尿病予防対策としては、生活習慣の基礎がつくられる幼少期からの関わりを大切に、児童館にジュースやお菓子の砂糖の量に関するパネルを毎年設置したり、幼児健診の会場でも啓発する等、保護者も含めた啓発を実施してきた。また、壮年期や高齢期に対しては健康づくり講座や地域での健康教育等において糖尿病予防を含めた生活習慣病予防の講話を実施してきてはいるが、より早い段階で生活習慣を見直してもらえるよう壮年期にアプローチできる場を探っていく。また、特定健診の結果、HbA1cの有所見者割合や要医療判定割合が高いこと、血圧の有所見者割合が高いことが続いていることから、尿ナトリウム比測定での体験型のイベントやリスクの高い方を対象とした講座の企画等、様々な事業を展開していく。

事業計画

栄養・食生活	身体活動・運動	歯と口の健康	発症予防・重症化予防
早期から望ましい生活習慣の確立を支援し、こどもたちの健やかな成長を促進する			
目的：乳幼児期から学齢期に向けて健康的な食習慣・生活習慣を身につけ、正しい保健行動がとれることも・家庭を増やす。			
・日頃から健康的な生活習慣を意識できるよう、両親教室の機会において保護者向けに尿ナトリウム比測定を実施する。その際、減塩や野菜の摂取、併せて血糖の変化等についても伝え、家庭での食事内容を振り返り、考えてもらう機会とする。			
・幼児健診等の母子保健事業や小中学校を対象とした健康教育等において、食事（間食や飲み物を含む）や身体活動、規則的な生活リズム等、健康的な生活習慣を身につけることの大切さについて啓発する。			

栄養・食生活	身体活動・運動	歯と口の健康	飲酒・喫煙	発症予防・重症化予防
自身の生活習慣を振り返り、健康を「我が事」として考える機会の創出				
目的：健康づくりイベント、健康教育等を通し、自身の生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む住民を増やす。				
・保健センターまつりや健康づくりフェスティバル等では、区の行動計画の中で課題としている糖尿病や高血圧予防を含めた健康づくりをテーマに、栄養・運動・口腔等の健康情報について啓発する。啓発の際は、健康づくりロゴマークである健康プラスを活用する。				
・地域での健康教育の際は、糖尿病や高血圧を含む生活習慣病予防全般について含める形とし、尿ナトリウム比測定等の体験型のイベントを通して、自身の生活習慣を振り返ってもらえるような内容とする。				
・健康づくり寸劇上演の際は、若林区の健康課題や生活習慣病予防についてのミニ講話の時間を設ける。				
・若林区は中小企業が多くあることから、働き盛り世代への関わりを増やしていく。今年度は、中央卸売市場に入りこみ、生活習慣病予防に関するイベントが実施できないか等の検討を行う。				
・健康づくり講座の案内を個別に通知し、早い段階で糖尿病・高血圧予防について考えてもらうきっかけづくりを行う。				
・区内の商業施設と連携し、たばこやアルコールについてのパネル展や体験型のイベントを実施し、壮年期への働きかけを強化する。				

社会環境の改善・整備

地域住民や関係団体・機関と連携した取り組み

目的：地域住民や関係機関の方々と健康課題についての共通認識を持ち、それぞれができる取り組みにつなげる。

- ・地域課題を盛り込んだ啓発資料を作成し、住民のみならず「担い手」となる地域団体との課題共有をすすめる。
- ・保健福祉センター内で区の行動計画やアクションプラン等について共有を図り、各分野で取り組みをすすめるよう体制作りを図る。

目標

アウトプット	地域健康教育の回数	アウトカム	HbA1c有所見者割合の減少（若林区）
54回 (R7)	➡	60回 (R8)	70.9% (R5)
			➡
			69.0% (R7)

肥満傾向児の割合が高い地域(A地区)にターゲットを絞った生活習慣病予防事業
～若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業(A健康キッズチャレンジ)～

乳幼児期～高齢期

重点的に取り組んだ健康実態・課題

若林区はこどもの肥満、大人のメタボリックシンドローム該当者の多さ、高血圧や糖尿病治療者が多いという健康実態がある。特にA地区は幼少期からの肥満傾向児の割合が高く、生活習慣の改善が必要なこどもが多いという特徴があることから、令和6年度から3年間、A地区を重点的に健康づくり啓発事業を実施する。

事業実績とその成果

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

社会環境の改善・整備

早期から望ましい生活習慣の確立を支援し、こどもたちの健やかな成長を促進する

目的：乳幼児期から健康的な食習慣・生活習慣を身につけ、正しい保健行動がとれるこども・家庭を増やす。

- ・子育て関係機関(保育所・幼稚園等)12か所を訪問し、こどもの健康実態を共有し、園児の保護者へ望ましい生活習慣の情報を掲載したクリアファイルを配布。健康実態を伝え、課題を共有したことで、新たに健康づくり寸劇(健康づくりのポイントを区民と協働して伝える寸劇)の上演につながった園もあった。またクリアファイルは新たに2つの小学校の就学児健診でも配布し、保護者に向けて啓発した。
- ・歯科・栄養・生活習慣に関する保護者向けの講話の実施(1か所)。児童館にジュースやお菓子の砂糖の量に関する啓発パネルを通年で設置。児童館だよりに毎月啓発記事を掲載→講話に参加した保護者からは、「わかりやすくなった」「日頃気になっていることを聞いてよかった」との声が聞かれた。
- ・町内会と連携し、三世代イベントに参加。生活習慣に関するクイズを行った。保護者の参加も多く、親子で学べる機会となった。

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

自身の生活習慣を振り返り、健康を「我が事」として考える機会の創出

目的：健康づくりイベント、健康教育等を通し、自身の生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む住民が増える。

- ・親子トレジャーウォークの実施→こどもたちのアンケート結果からは「早寝早起きをする」「テレビ等を見すぎない」「お菓子やジュースを控える」「外遊びや体を動かす」ことを頑張っていたという人が半数以上を占め、生活習慣改善に向けての意識づけになった。万歩計を配布したこともあり、運動ができた達成感にもつながったと考えられる。
- ・こども食堂とコラボしたワークショップの開催→生活習慣に関するクイズに答えながら学ぶすごろくや栄養講話を実施。新たにすごろくのマスにチャレンジカードを導入し、運動する項目を入れる等の工夫をした。アンケート結果からは参加した全員が「早寝早起き」「朝ごはん」「運動」を大事だと思ったとの回答があった。
- ・小・中学校を対象とした生活習慣病予防事業の実施(小学校2校、中学校1校)→小学4・6年生、中学2年生に実施。また1か所の小学校では、小学5年生の授業参観で当課作成のスライドを活用していただいた。授業後に実施したアンケートでは、食事・運動・睡眠等の気をつけていることの多くの項目で改善傾向がみられた。
- ・身につけてほしい4つの生活習慣(朝ごはん、メディアコントロール、運動、睡眠)の取り組み状況が記載できるカードを作成し、家庭での健康づくりを促す→A市民センターまつりで配布し、こども食堂のワークショップで持参するという流れを作ったことで、昨年度よりも実施した方が増え、1か月間望ましい生活習慣の取り組みにつながった。次年度も継続して実施したい。
- ・町内会の夏まつりやA市民センターまつりにて健康実態や肥満対策のポイントについて啓発。地域住民に本事業を知っていただく機会になった。

社会環境の改善・整備

地域住民や関係団体・機関と連携した取り組み

目的：地域住民や関係機関の方々と健康課題についての共通認識を持ち、それぞれができる取り組みにつなげる。

- ・地域包括支援センターが実施する圏域会議や地域のサロン等、あらゆる場において健康課題を共有し、それぞれの活動の中で健康づくりを意識し、実践できるように働きかけた。また親子トレジャーウォークでは地域の商店や薬局、ジュニアリーダー等、地域内の協力機関とも連携して実施し、地域の健康課題を知っていただく機会にもなった。子育て関係機関・教育機関等へ向けたアンケートからは、「体を動かす機会を増やしていきたい」「早寝早起きの大切さについて話題にしていきたい」「教職員からも声がけするようになった」等、こどもの健康づくりに対しての意識変化があったとの回答があった。

〈まとめ〉

本事業が2年目となり、関係機関とも連携しながら事業を円滑にすすめられている。また関係機関と協働して事業を実施したことで、こどもの健康づくりに対しての意識変化もみられてきており、それぞれの機関の活動の中に健康づくりの要素を入れた取り組みにつながる等、徐々に土台づくりができてきている。次年度は最終年度となることから、事業の実施と評価を行いつつ、令和9年度以降の他地区での事業展開も視野に入れ検討を行っていく。

目標の達成状況

アウトプット 連携した施設数の増加(A地区)

0施設
(R4)32施設
(R7)

事業開始し2年目となり、連携した施設は1年目の25施設から32施設へ増加した。初年度にできたつながりから、新たな展開が生まれ、より多くの地域住民に健康課題を知ってもらうきっかけにもなった。次年度も新たな施設等との連携を模索しながら、事業を展開していく。

アウトカム 3歳児健診での肥満傾向にあるこどもの減少
(若林区)6.1%
(R5)6.1%
(R7)

令和6年度より微増(R6:5.4%)した結果となった。ただし、A地区の肥満傾向児の割合は減少(A-1小学校区:R6:12.3%→4.9%、A-2小学校区:4.8→1.8%)しているが、引き続き対策を進めていく必要がある。

すべてのライフステージを対象とした糖尿病予防に関する取り組み

重点的に取り組んだ健康実態・課題

若林区は特定健診の結果より、HbA1c有所見者の割合が全国と比較しても高く、また壮年期のHbA1cの要医療判定者も仙台市平均よりも高い状況にあり、高血糖対策の強化が必要である。幼少期からの健康的な生活習慣の定着に向けて、様々な場を捉えて発信していくとともに、アプローチの難しい壮年期においてはこの世代が属する職域との連携を図っていく。

事業実績とその成果

栄養・食生活	身体活動・運動	歯と口の健康	発症予防・重症化予防
早期から望ましい生活習慣の確立を支援し、こどもたちの健やかな成長を促進する 目的：乳幼児期から健康的な食習慣・生活習慣を身につけ、正しい保健行動がとれるこども・家庭を増やす。 ・両親教室参加者向けの尿ナトリウム比測定については調整がつかなかったが、教室で行っている栄養講話の中に高血圧予防や糖尿病予防、適正体重の内容を盛り込み、日ごろから健康的な食習慣・生活習慣を身につけられるよう実施した。アンケートからは「食事の内容であったり、夫婦での考え方を見直すきっかけになった」という声があった。令和8年度途中からは尿ナトリウム比測定を実施する予定としている。尿ナトリウム比測定は自分事として感じてもらい、普段の生活に減塩等の意識をもってもらう機会につながることから、引き続き保護者や壮年期の方々にアプローチできる機会を検討していく。 ・幼児健診等の母子保健事業や小中学校を対象とした健康教育等において、食事(間食や飲み物を含む)や身体活動、規則的な生活リズム等、健康的な生活習慣を身につけることの大切さについて啓発できた。特に小中学生を対象とした生活習慣病予防教育では、最後に目標を立ててもらうが、それぞれの生活を振り返り課題を見つけることができていた。授業の前後で実施しているアンケートからは、普段の生活において改善した項目もみられ、生活を今より良くしたいと思うという割合も増加した学校が多かった。			

栄養・食生活	身体活動・運動	歯と口の健康	飲酒・喫煙	発症予防・重症化予防
自身の生活習慣を振り返り、健康を「我が事」として考える機会の創出 目的：健康づくりイベント、健康教育等を通し、自身の生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む住民を増やす。 ・保健センターまつりや健康づくりフェスティバル等では、糖尿病・高血圧予防をメインテーマに、栄養・運動・口腔等を含めた健康情報について啓発できた。また、若林区健康づくり行動計画や資料に健康づくりロゴマークである健康プラスを活用し啓発した。 ・地域健康教育や健康づくり講座等で尿ナトリウム比測定を実施しているが、昨年度よりも多くの方に実施でき、高血圧予防についても啓発することができた。 ・健康づくり寸劇上演の際は、上演のテーマに合わせ生活習慣病予防等に関するミニ講話を入れ、内容を充実させ、区民の学び機会を増やすことができた。 ・若林区は中小企業が多くあることから、働き盛り世代への関わりの一歩として、中央卸売市場に情報収集に伺った。今年度はここの健康づくりに関する啓発資料を設置することができたことから、次年度は生活習慣病予防に関する啓発を検討していく。 ・健康づくり講座の案内を個別に通知し、早い段階で糖尿病予防について考えてもらうきっかけづくりを行った。 ・健康増進センターとウォーキングイベントを初めて開催し、区健康課や糖尿病・高血圧予防、身体活動の重要性等を含めた講話も併せて実施した。次年度も継続実施予定としている。				

社会環境の改善・整備

地域住民と連携した健康づくりへの取り組み

目的：地域住民や関係機関の方々と健康課題についての共通認識を持ち、それぞれができる取り組みにつなげる。
 ・若林区健康づくり行動計画の概要版リーフレットやアクションプランに関するリーフレットを用いて、地域住民や関係機関へ区の健康課題や改善策について情報提供した。
 ・それぞれの地域ごとに地域課題を盛り込んだ啓発資料を作成し、住民のみならず「担い手」となる地域団体との課題共有をすすめることができた。次年度もより地域住民や関係機関と共有しながら、健康づくりのきっかけづくりとなるよう働きかけていく。

〈まとめ〉

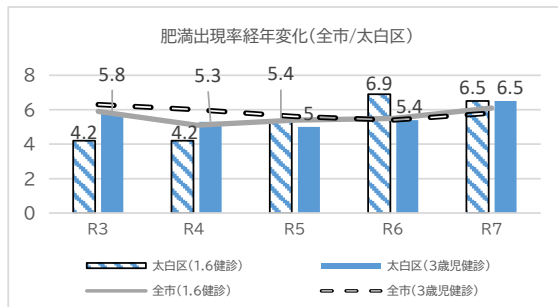
糖尿病・高血圧予防について活用できる啓発媒体を作成し、地域健康教育や地域団体に訪問した際等に説明した。次年度も継続して啓発していきたい。また、保健福祉センター内で若林区健康づくり行動計画やアクションプランに関するリーフレットについての共通認識を図ることが必要であることから、年央までには周知の場を作り、他課とも連携して取り組んでいきたい。

目標の達成状況

アウトプット 地域健康教育の回数		アウトカム HbA1c有所見者割合の減少(若林区)	
17回 (R6)	➡	54回 (R7)	➡
		70.9% (R5)	➡
			69.4% (R6)
令和7年度より、集計方法が変わったこと、母子保健分野での健康教育にも生活習慣病予防について触れたことにより、実施回数が増加した。		区のHbA1c有所見者割合69%を目標としていたが、令和6年度は69.4%であり、目標を達成できず。次年度も同じ目標とし、壮年期へのアプローチの場を探りながら、事業を継続していく。	

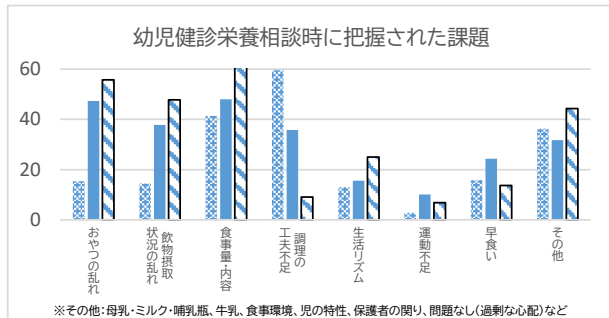
重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

肥満幼児の割合は、1歳6か月児健診および3歳児健診のいずれにおいても増加傾向が認められ、全市平均と比較しても高い水準にある。幼児健診における個別栄養相談から把握された主な課題として、1歳6か月児健診では発育段階に見合わない食事量や食事内容、調理面での工夫不足が見られ、2歳6か月児健診および3歳児健診では、おやつや飲み物の摂取状況の乱れや、食事量・内容が影響している可能性が示唆された。今後も母子保健事業や保育所（園）等との連携を継続し、乳幼児期からの望ましい食習慣の形成を促進するとともに、幼児肥満の出現率の低減を目指す。



〔出典〕R6年度1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査・肥満度15%以上の児の割合（仙台市）

肥満幼児の割合は、1.6健診、3歳児健診ともに増加傾向になっており、全市と比較しても高い傾向である。乳幼児期からの啓発が必要である。



〔出典〕R7年度幼児健診における個別栄養相談結果（太白区）

幼児健診個別栄養相談に見られた課題として、1.6健診は、発育段階に合わない食事量・内容や調理工夫不足、2.6健診と3歳児健診は、おやつや飲み物の摂取状況の乱れ、食事量・内容によるものと考えられた。乳幼児期からの望ましい食習慣の形成、噛む力の育成を促す必要がある。

これまでの事業の評価

太白区独自の保育所（園）・幼稚園等と連携した取り組みや3～4か月児育児教室、幼児健診等あらゆる機会において乳幼児期から望ましい食習慣の形成を促す啓発をしてきた。しかし、肥満幼児の割合は、1.6健診、3歳児健診ともに増加傾向、全市と比較しても高い傾向である。引き続き母子保健事業や保育所（園）等と連携し、乳幼児期からの望ましい食習慣の形成、及び肥満出現率の減少を目指す。

事業計画

栄養・食生活 歯と口の健康 社会環境の改善・整備

タイトル 保育所（園）、幼稚園等との連携、3～4か月児育児教室における望ましい食習慣形成に向けた知識の普及啓発

目的: 保育所（園）・幼稚園等との連携や母子保健事業において、乳幼児と保護者双方へアプローチし、知識を普及啓発する。

- ・保育所（園）・幼稚園等へ食育教材（エプロンシアターやデジタル媒体）の貸出や、生活リズムや野菜などの調理工夫、おやつや飲み物の摂り方など食育に関する情報を提供し、健全な食生活の実践、噛む力を育成する。
- ・3～4か月児育児教室にて離乳の目的、開始の目安、調理形態等の情報提供

栄養・食生活 歯と口の健康 身体活動・運動

タイトル 望ましい食習慣の定着、肥満出現率改善を目指した幼児健診時のアプローチ

目的: 幼児期からの健全な食生活の実践を促し、肥満傾向にあるこどもの減少を目指す。

- ・幼児健診集団指導や個別相談において、生活リズムを整える、朝食摂取の定着、朝食の内容の充実（特に副菜摂取）等望ましい食習慣の形成を促す。また、咀嚼機能に合った食事を摂取し、噛む力を育成する。
- ・幼児健診会場での掲示等で遊び等を通じた身体活動量の増加の啓発を行う。
- ・肥満幼児へ啓発資料を配布及び希望者への個別栄養相談を実施し、肥満改善を目指す。

目標

アウトプット 食育連携施設の増加

23施設/72施設 (R7) ➡ 30施設/72施設 (R8)

アウトカム 肥満傾向にある子ども(3歳児)の減少

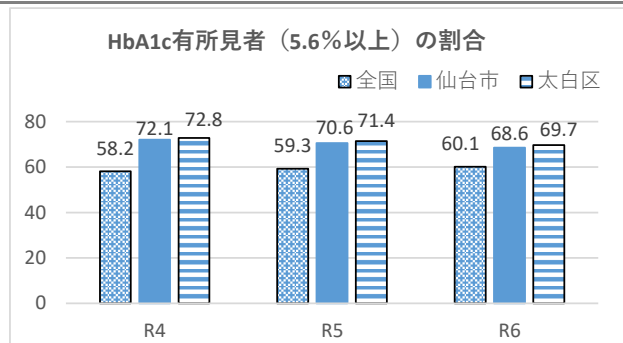
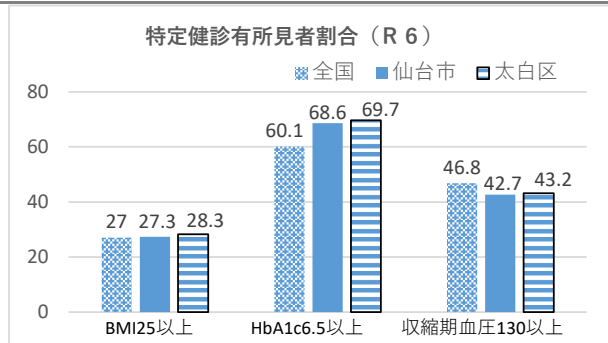
6.5% (R7) ➡ 5.5% (R8)

アウトプット 肥満幼児への栄養指導実施割合の増加

1.6健診 43.4% ➡ 1.6健診 50%
3.7健診 26.8% ➡ 3.7健診 50%
(R7) (R8)

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

太白区は特定健診有所見者（BMI25以上、HbA1c5.6%以上、収縮期血圧130以上）が仙台市と比べて高く、生活習慣病のリスクが懸念される。特にR4年度からR6年度にかけてHbA1c有所見者が多少の増減はあるものの高止まりであり、生活習慣の改善が必要である。健診有所見者へのアプローチを通して、それぞれの生活習慣を振り返り、改善に向けた働きかけを行う。



特定健診において、太白区はBMI、HbA1c、収縮期血圧が仙台市に比べて高く、特にHbA1cは全国と比較して顕著に高い。

HbA1c有所見者は年度により増減があるものの太白区は全国、仙台市よりも高い状況である。

これまでの事業の評価

- ・依頼のあった各地域団体に対し、健康教育（食生活、運動、歯と口の健康、喫煙、こころの健康）を実施し延36団体、804人に啓発。
- ・商業施設にてウォーキングクイズラリーを実施し、健康（生活習慣、食生活、睡眠、運動、歯科等）に関するパネル展示、パネル内容に沿ったクイズラリー、握力血圧測定を実施。延108人参加し、様々な年代の区民に健康づくりについて啓発できた。
- ・市民センターまつりにて身長、体重、血圧、血管年齢測定、健康づくりに関するパネル展示・パンフレット配布を実施。延246人参加。
- ・大学への健康教育にて栄養、運動、飲酒喫煙の影響、歯について講話を行い、延135人参加。学生自身が自らの生活を振り返るとともに今後の生活で取り入れられそうなことについて考える機会となった。
- ・壮年期への啓発の場の拡大や啓発後の生活改善の評価については検討が必要である。

事業計画

栄養・食生活

身体活動・運動

健康づくりに役立つイベントの開催

目的：健康づくりへの関心を高め、生活習慣を改善するきっかけとする

- ・商業施設等でのウォーキングクイズラリー、パネル展示（仙台市の健康課題、栄養、運動等）、健康クイズの実施
- ・イベント時血圧測定、血管年齢測定、野菜摂取量測定等自分の体の状況を知る機会の提供と健康づくりに関する情報発信
- ・母親教室にて尿ナトリウム比測定を実施し、減塩やカリウム摂取、血圧管理に対する動機づけを行う。
- ・市民健診、特定健診を年1回受診し、自身の今の状態を知ることを啓発する。

発症予防・重症化予防

発症予防・重症化予防のための健康管理の支援

目的：生活習慣を振り返り、改善の意識づけをはかる

- ・健康づくり講座（HbA1c要指導者）にて血糖が高めの方はもともと高血圧のリスクが高く、ナトリウム比が高いとさらに高血圧のリスクが高まるため、尿ナトリウム比測定を行い生活習慣改善の意識づけをはかる。
- ・特定健診・基礎健診受診者で重症化予防対象者に対し、糖尿病性腎症・慢性腎臓病重症化予防のアプローチを原則対面で実施。

- ・地域住民が集まる機会を活用し、秋保くらしの保健室（アウトリーチ型健康教育・健康相談）を実施。（秋保地区）

社会環境の改善・整備

年齢や状況に合わせた切れ目のない健康情報の発信

目的：将来を見据え、健康で過ごすために必要なことについて共通理解をはかる

- ・商業施設従業員や専門学校教職員等と仙台市の健康課題について共有し、各機関での健康づくりの取り組みを促す。
- ・商業施設従業員の企業のアプリへ健康づくり通信を配信し、世代に合わせた健康づくりの実践・生活習慣改善を行動化できるよう啓発を行う。
- ・酷暑や熊出没等に左右されない活動環境や内容の設定を地域主体の活動にも勧めていく。（秋保地区）

目標

アウトプット 地域団体で健康教育を実施した回数

アウトカム HbA1c5.6%以上の者の減少（太白区）

国保データベースシステム 特定健診有所見者状況（様式5-2）

32回
（R7）



40回
（R8）

69.7%
（R6）



68.6%
（R7）

太白区保健福祉センター（令和 8年度 事業計画）

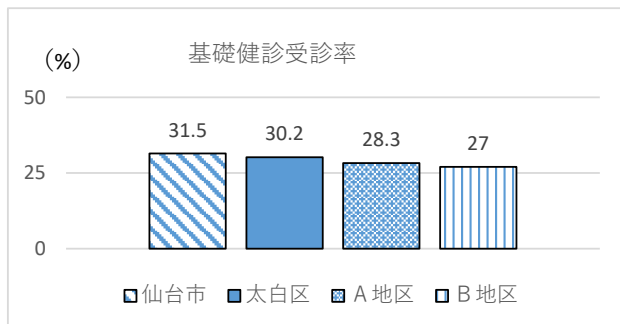
ライフステージ

A地区・B地区における「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」 フレイル予防・生活習慣病重症化予防の取り組み

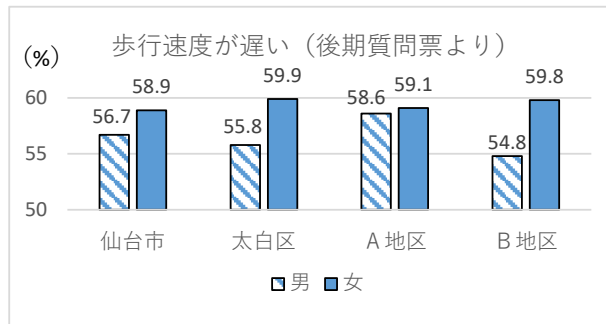
高齢期

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

A地区、B地区ともに基礎健診受診率が市、区全体と比べて低い。健診有所見者の状況ではA地区は血糖値の有所見者割合、B地区はBMIが市に比べてやや高めの傾向である。後期質問票では「以前に比べて歩行速度が遅くなった」と感じている人の割合がA地区、B地区ともにやや高い状況である。R7年度はC地区で同事業を実施しているが、今年度はA地区・B地区新規2地区について、フレイル予防・生活習慣病重症化予防の取り組みをはかる。



〔出典〕国保データベースシステム R6地域の全体像の把握（後期）



〔出典〕国民データベースシステム R6基礎健診問診票

A地区・B地区ともに基礎健診受診率が仙台市、太白区に比べて低い傾向があり、ポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチの中で健診受診を啓発し、自身の健康を意識することが必要である。

後期質問票の回答より、「歩行速度が遅い」と回答した割合がA地区、B地区ともに仙台市、太白区よりもやや高い傾向がある。フレイル予防の取り組みを行うことが必要である。

これまでの事業の評価

C地区とD地区は国と比較し健診受診率が低く、HbA1c有所見者割合や糖尿病薬服薬割合が全国より高い。また、後期質問票の結果では、女性の運動機能の低下、男女の口腔機能の低下がみられた。ポピュレーションアプローチでは地域団体に対して栄養講話、オーラルフレイルに対し歯科講話を6回実施し、健康状態の改善が見られた団体もあった。また、ハイリスクアプローチで腎機能不良未受診者、糖尿病等コントロール不良者、糖尿病等治療中断者、基礎疾患保有フレイル併存者に訪問等個別支援を実施。健診受診を合わせて啓発した。

事業計画

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

ポピュレーションアプローチ（地域の通いの場）での啓発

目的：住民が居住地域の健康課題について把握し、講話を通して自身の生活を振り返り、生活改善の視点をもつ

- ・住民と地域の健康課題を共有し、フレイル予防（運動、栄養、口腔等）の健康教育、健康相談を実施する。A地区、B地区ともに運動面に特化していない地域団体へアプローチを行い、健康の視点を意識してもらう機会とする。
- ・フレイル予防とともに血糖、血圧等生活習慣病重症化予防についても併せて健康教育の場で実施する。

発症予防・重症化予防

ハイリスクアプローチ（継続的な個別支援）

目的：生活習慣病の重症化予防・フレイル予防

- ・健診結果をもとにアウトリーチで個別支援（訪問、電話、手紙送付等）を行い、継続的に支援する。

社会環境の改善・整備

地域の関係機関とのネットワークづくり

目的：各ライフステージでの取り組みが生活習慣病予防と連動していることについて地域包括支援センターをはじめ関係機関と共通理解をはかり、それぞれの機関でできることを共有し、ネットワーク構築をはかる。

- ・地区保健活動の中で関係機関（地域包括支援センター、区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会）と連携し、地域の課題における事業展開をはかる。

目標

アウトプット ポピュレーションアプローチでの啓発回数

アウトカム HbA1c6.5%以上の者の減少（太白区）

国保データベースシステム 健診有所見者状況（後期）様式5-2

6回
(R7)



8回
(R8)

15.4%
(R6)



14.7%
(R7)

母子保健事業・関係機関と連携した乳幼児期からの肥満予防・改善の取り組み

乳幼児期

重点的に取り組んだ健康実態・課題

肥満幼児の割合は、R2年度以降3歳児健診では減少傾向ではあるが、1.6健診では増加し、全市と比較しても高い傾向となった。1.6健診肥満児への個別栄養相談の肥満の要因は、食事摂取量の過剰、食事内容の課題、調理形態が合っていない（調理工夫不足、知識不足）等によるものと考えられた。母子保健事業や保育所（園）等と連携し、乳幼児期からの望ましい食習慣の形成、及び肥満出現率の減少を目指した。

事業実績とその成果

栄養・食生活

歯と口の健康

社会環境の改善・整備

保育所（園）、幼稚園等との連携、母子保健事業における望ましい食習慣形成に向けた知識の普及啓発

目的：保育所（園）・幼稚園等との連携や母子保健事業において、乳幼児と保護者双方へアプローチし、知識を普及啓発する。

- ・2歳6か月児歯科健康診査では、生活リズム、朝ごはんの大切さ、栄養バランスの良い食事をとる工夫、おやつや飲み物の摂り方などパネルを用いた集団指導を実施し、家族も含めた望ましい食生活の実践を促した。
- ・肥満度15%以上の肥満幼児に対し、「宮城県小児肥満対策マニュアル2021」に沿った区作成啓発資料を全数に配布した。また、個別栄養相談を案内し、希望者へ栄養指導を実施し、個々に合わせた肥満改善を促す支援を行った。（実施率：1.6健診43.4%、3歳児健診26.8%）

栄養・食生活

歯と口の健康

身体活動・運動

望ましい食習慣の定着、肥満出現率改善を目指した幼児健診時のアプローチ

目的：幼児期からの健全な食生活の実践を促し、肥満傾向にある子どもの減少を目指す。

- ・2歳6か月児歯科健康診査では、生活リズム、朝ごはんの大切さ、栄養バランスの良い食事をとる工夫、おやつや飲み物のとり方などパネルを用いた集団指導を実施し、家族も含めた望ましい食生活の実践を促した。
- ・3歳児健診の肥満幼児の割合は、コロナ禍以降減少傾向であったが、R5年度（5.0%）より増加傾向となっており、R7年度は6.5%と全市（5.8%）より高い傾向となった。1歳6か月児健診も同様に、R4年度（4.2%）以降増加し、R7年度は6.5%と、全市（6%）と比較して高い傾向となった。引き続き、様々な機会を捉えて広く継続した啓発が必要。
- ・肥満度15%以上の肥満幼児に対し、「宮城県小児肥満対策マニュアル2021」に沿った区作成啓発資料を全数に配布した。また、個別栄養相談を案内し、希望者へ栄養指導を実施し、個々に合わせた肥満改善を促す支援を行った。（実施率：1.6健診43.4%、3歳児健診26.8%）

〈まとめ〉

- ・太白区独自の保育所（園）・幼稚園等と連携した取り組みや3～4か月児育児教室、幼児健診において乳幼児期から望ましい食習慣の形成を促すアプローチ及び肥満幼児への栄養指導を実施し、肥満出現率の減少を目指した。しかし、肥満幼児の割合は、1.6健診、3歳児健診ともに増加傾向になっており、全市と比較しても高い傾向である。引き続き母子保健事業や保育所（園）等と連携し、乳幼児期からの望ましい食習慣の形成、及び肥満出現率の減少を目指す。

目標の達成状況

アウトプット 幼児食育推進連携施設の増加

20施設/72施設 ➡ 23施設/72施設
(R6) (R7)

R7は、6施設が取り組みを実施し、連携施設は3施設増加した。（6施設実施したうち3施設は、R7以前から連携済）

アウトカム 肥満傾向にある3歳児の減少

5.4% ➡ 6.5%
(R6) (R7)

R7の3歳児の肥満幼児の割合は、R6より増加し、全市（6.0%）より高くなった。

アウトプット 肥満幼児への栄養指導実施割合の増加

1.6健診 38.4% ➡ 1.6健診 43.4%
3.7健診 29.0% 3.7健診 26.8%
(R6) (R7)

1.6健診での肥満幼児への栄養指導実施割合は、増加したが、3歳児健診では減少した。（3歳児健診での栄養相談者数88名に対し、肥満幼児は30名と少なかった。）

重点的に取り組んだ健康実態・課題

太白区は特定健診有所見者（BMI、HbA1c、血圧）が仙台市と比べて高く、生活習慣病のリスクが懸念される。生活習慣病予防について区内の様々なイベントでの啓発や健康教育の場を通して、それぞれの生活習慣を振り返るきっかけとなった。

事業実績とその成果

栄養・食生活

身体活動・運動

健康づくりに役立つイベントの開催

目的：健康づくりへの関心を高め、生活習慣を改善するきっかけとする

- ・依頼のあった各地域団体に対し、健康教育（食生活、運動、歯と口の健康、喫煙、こころの健康）を実施。
- ・母親教室、両親教室にて尿ナトリウム比測定を実施し、減塩やカリウム摂取、血圧管理に対する動機づけを行うことができた。母親教室延19人（うち夫4人）両親教室 延16人（うち夫5人）また、両親教室では甘味飲料の糖類量について啓発し自身の生活習慣を振り返るきっかけとなった。
- ・R7.8月、商業施設にてウォーキングクイズラリーを実施し延108名参加。健康（生活習慣、食生活、睡眠、運動、歯科等）に関するパネル展示、パネル内容に沿ったクイズラリー、握力・血圧測定、長町地域包括支援センターによる高齢者の相談ブースを実施。
- ・管内市民センターまつりにて身長、体重、血圧、血管年齢測定、健康づくりに関するパネル展示・パンフレット配布を実施。延べ246名参加。併せて体力測定（ステッピング、棒反応）を実施。
- ・大学への健康教育にて栄養、運動、飲酒喫煙の影響、歯について講話を行い、学生自身が自らの生活を振り返るとともに今後の生活で取り入れられそうなことについて考える機会となった。（参加者：135名）

発症予防・重症化予防

発症予防・重症化予防のための健康管理の支援

目的：生活習慣を振り返り、改善の意識づけをはかる

- ・健康づくり講座（対象：HbA1c要指導者）へ講話を実施。（1回目）栄養、歯科講話（2回目）運動実技、尿ナトリウム比測定（3回目）医師講話。厚生労働省で定める糖尿病性腎症重症化予防受診勧奨Ⅰ対象者も医師講話のみ対象とした。自身の生活を振り返り、これから取り組みたい目標をもとに実行した。
- ・糖尿病性腎症重症化予防・慢性腎臓病重症化予防 対面での支援（受診勧奨、保健指導）を原則とすることで、個別性のある丁寧な関わりを意識した。
- ・秋保くらしの保健室（アウトリーチ型健康教育・健康相談）を年11回実施。糖尿病・高血圧対策と口腔ケアを重点に取り組んだ。視覚に訴える啓発や、測定機器（尿ナトリウム比や野菜摂取量など）で個人の状態情報を数値で評価する内容を取り入れ、生活習慣改善の動機づけを工夫した。（秋保地区）

社会環境の改善・整備

年齢や状況に合わせた切れ目のない健康情報の発信

目的：将来を見据え、望ましい健康習慣について啓発する

- ・商業施設、太白図書館、区役所3階情報コーナーで健康づくり（食生活、喫煙、歯）に関するパネル展示を実施。
- ・大学祭ブースにおいて野菜摂取量測定（ベジミル）、生活習慣病予防（栄養、運動）のチラシ配付、握力測定会を実施。幼児～高齢者まで様々な年代の来場者がいたが、それぞれの食生活を振り返るきっかけとなった。握力測定は久しぶりに行った参加者も多く、運動することの意識づけになった方もいた。延べ190名参加。
- ・住民主体の屋外活動やウォーキングイベント等は酷暑や熊出没情報により中止になることがあった。（秋保地区）

（まとめ）

・区民が集まりやすいイベントでの啓発は、幅広い年代への周知効果がある。（延1,483人参加）生活習慣病予防に向けて、パネル展や健康測定の機会を通して、自身の生活習慣を振り返り改善に向けた働きかけを実施できた。

目標の達成状況

アウトプット 地域団体で健康教育を実施した回数

アウトカム HbA1c5.6%以上の者の減少（太白区）

国保データベースシステム 有所見者状況（様式5-2）

38回
(R6) → 32回
(R7)

71.4%
(R5) → 69.7%
(R6)

仙台市（R5：70.6%→R6：68.6%）
太白区も値は減少したものの仙台市より高い。

C地区とD地区におけるフレイル予防・生活習慣病重症化予防の取り組み
～重点地区事業の経過を踏まえて～

ライフステージ

高齢期

重点的に取り組んだ健康実態・課題

C地区とD地区は国と比較し健診受診率が低く、HbA1c有所見者割合や糖尿病薬服薬割合が全国より高い。また、後期質問票の結果では、女性の運動機能の低下、男女の口腔機能の低下がみられた。ポピュレーションアプローチでは生活習慣病予防に対し栄養講話、オーラルフレイルに対し歯科講話を実施した。また、ハイレスクアプローチで腎機能不良未受診者、糖尿病等コントロール不良者、糖尿病等治療中断者、基礎疾患保有フレイル併存者に訪問等個別支援を実施した。

事業実績とその成果

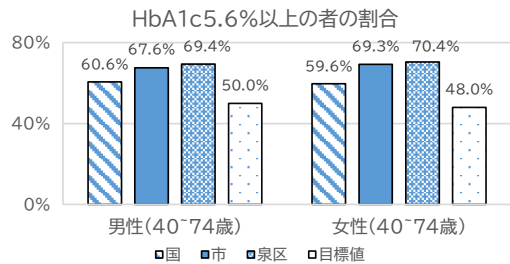
栄養・食生活	歯と口の健康	身体活動・運動
ポピュレーションアプローチ（地域の通いの場）での啓発 目的：対象者が地域の健康課題について把握し、生活改善の視点をもつ ・実施した通いの場（実数）：4か所（介護予防自主グループ2か所、地域包括支援センター主体のサロン1か所、高齢者サロン1ヶ所） 地域の健康課題の共有、歯科講話、栄養講話、尿ナトリウム比測定を実施。参加者数（累計）：101名 実施回数（累計）：6回 →参加者より、講話は日常生活を振り返るきっかけとなり、参考になったとの声が多数あった。介入により、健康状態の改善がみられた一方、口腔や運動機能の悪化がみられた地域団体もあった。講話時は地域包括支援センターも同行することで、地域団体の健康状態を共有し、健康課題に沿った地域包括支援センターの啓発内容を検討する機会となった。R8年度以降の健康講話について、健康教育の申込を情報提供した。		
発症予防・重症化予防 ハイレスクアプローチ（継続的な個別支援） 目的：生活習慣病重症化予防、フレイル予防のため ・糖尿病等コントロール不良者…通知後、訪問や電話、面接にて健康に関する助言指導を行い、数値改善につながった。 ・糖尿病等治療中断者…アンケートにて治療状況確認し、返送内容について電話確認を行った。医師講話と健康相談会を実施。レセプトにて内科医療機関の受診や処方がない対象者に対し訪問し、健診受診や医療機関受診につながった。 ・基礎疾患保有フレイル併存者…年2回、後期質問票、フレイル通信、通いの場の情報誌を送付。後期質問票の推移変化を確認。9月、12月、理学療法士による運動講座、健康測定会、健康相談会を実施。該当項目の改善や通いの場への参加へつながった。 ・腎機能不良未受診者…通知後、複数回訪問を実施。生活状況、体調面の確認とともに受診勧奨し、腎臓内科への受診につながった。		
社会環境の改善・整備 地域の関係機関とネットワークづくり 目的：各ライフステージでの取り組みが生活習慣病予防と連動していることについて関係機関と共通理解をはかる。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業についてC地域包括支援センター、D地域包括支援センター（以下、C包括、D包括）へ都度共有し、参加者への声かけ等連携をはかった。特にポピュレーションアプローチでは介護予防自主グループや町内会サロンにて地域の課題に合わせた健康講話を実施。C包括、D包括と地域の健康課題を共有することで共通理解を図ることができた。		
〈まとめ〉 ・ポピュレーションアプローチでは団体の特徴に合わせた講話を実施し、地域全体のフレイル予防に寄与することができた。アプローチ前後の後期質問票の変化について、C包括やD包括、地域団体の代表等へ情報共有を行った。特に口腔や運動機能の低下が見られた団体に対して口腔体操などを実施し、その後自主的な継続につながった。 ・ハイレスクアプローチでは包括と同行訪問により医療機関を受診勧奨したケースや、基礎健診について情報提供し、健診受診へつながったケース等、状態像に合わせた支援により生活習慣病予防、フレイル予防に寄与できた。		

目標の達成状況

アウトプット	ポピュレーションアプローチでの啓発回数	アウトカム	HbA1c6.5%以上の者の減少(太白区)
目標の達成状況 （R7） 6回		15.4% (R5)	15.4% (R6)
R6年度は1圏域の実施だったが、R7年度は2圏域実施しており、啓発回数を増やすことができた。		R6の目標はR5仙台市の値に近づけるため14.7 %としたが、R6は横ばいの状況。 (仙台市)R5:14.7% R6:14.7%	

重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

特定健診の結果、当区の血糖値(HbA1c)有所見率は国、仙台市の平均より高い傾向が続いている。すべてのライフステージにおいて既存事業に高血糖予防の啓発を取り入れ、前年度アンケートから理解が十分でなかった”喫煙と血糖の関係について”歯科保健も含め啓発を強化する。また、高齢化率の高い当区においては、高齢期への取り組みも重要であり継続して取り組んでいく。



〔出典〕R6 国保データベースシステム 厚生労働省 様式5-2

泉区は、国及び市の値と比べて、男女とも割合が高い。

これまでの事業の評価

高齢化率の高い当区においては、高齢期の方への取り組みを継続しながらも、若い世代に向けた啓発を強化していく。前年度、血糖に関するアンケートの結果から、喫煙と血糖の関係性についての知識が不十分な実態が把握されている。

事業計画

栄養・食生活

歯と口の健康

【妊娠期・乳幼児期】妊産婦・乳幼児を持つ保護者へのアプローチ

- 目的：保護者がこどもの将来の健康を見据えた望ましい生活習慣を形成できるよう促す。
- ・母親教室や離乳食教室、幼児健診等に来所する保護者へ向けて、望ましい食習慣に関するパネル展示や講話を実施する。
 - ・地域の健康教育や育児相談で、望ましい食習慣やむし歯予防、歯周病予防について啓発する。

栄養・食生活

歯と口の健康

飲酒・喫煙

社会環境の改善・整備

【学齢期】関係機関と連携した児童に向けた講座とパネル展示

- 目的：こどもが食に興味を持ち、健康的な生活習慣を形成できるよう促す。
- ・児童館・児童センターにおいて、防煙教育と併せてミニ講話（朝ごはん・おやつ・野菜・むし歯予防・歯肉炎予防等）を実施する。
 - ・こども向けの地域イベントにて、野菜摂取等についてのワークショップを実施する。

発症予防・重症化予防

歯と口の健康

飲酒・喫煙

社会環境の改善・整備

【青壮年期】商工会や他課と連携した、働き盛り世代へのアプローチ

- 目的：働き盛り世代に生活習慣病とその予防のための情報を提供し、実践を促す。
- ・オーラルケアの啓発を行うとともに、「おとなのオーラルケア健康診査」の受診を勧奨する。
 - ・生活習慣病の一つである歯周病と全身の疾患とのかわりについての正しい知識や情報を提供し、歯周病予防の実践を促す。
 - ・みやぎ仙台商工会加入事業者約2,000社へ、健診受診勧奨や生活習慣病予防に関する啓発を行う。
 - ・高血糖予防及び高血圧予防や喫煙に関連した、ライフスタイルに応じた内容の啓発（甘味飲料や減塩、野菜摂取等）を実施する。
 - ・庁内への掲示により来庁者及び職員にオーラルケアの啓発を実施する。

発症予防・重症化予防

栄養・食生活

身体活動・運動

飲酒・喫煙

【青壮年期・高齢期】高血糖予防・改善をテーマに、管理栄養士・健康運動指導士による講話の開催

- 目的：血糖値(HbA1c)有所見者を対象に、糖尿病の病態や合併症、重症化予防のための食事と運動について情報提供し、実践を促す。
- ・特定健診及び基礎健診受診者のうち、血糖値(HbA1c)有所見者に対して食事、運動の講座を提供し生活行動の変容を促す。
 - ・血糖値有所見者については、血圧コントロールがより重要になることから、尿ナトリウム比測定を行い、血圧コントロールに関する情報提供も実施する。

発症予防・重症化予防

栄養・食生活

身体活動・運動

こころの健康・社会とのつながり

【高齢期】個人の健康状態、体力に合わせた健康づくりの促進

- 目的：高齢期における健康課題を知り自身に合わせた健康の維持増進を図る
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施や介護予防に関連する講座等において、地域の健康課題や加齢に伴う心身の変化等を共有したうえで、自身にあった健康づくり、生活習慣病予防の取り組みを促す。

目標

アウトプット 高血糖に関連する内容をテーマに啓発した回数の増加

アウトカム 血糖と生活習慣の関係について知識をもつ人の増加
〔出典〕全市共通アンケートNo1～No6の全問正解者の割合

70回
(R7)



80回
(R8)

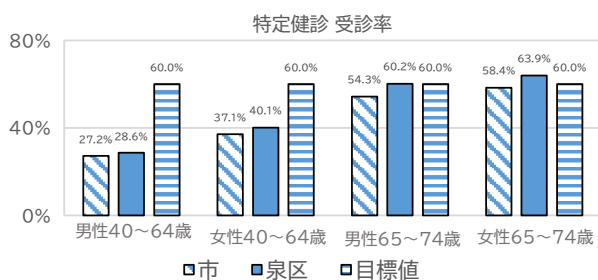
30%
(R7)



50%
(R8)

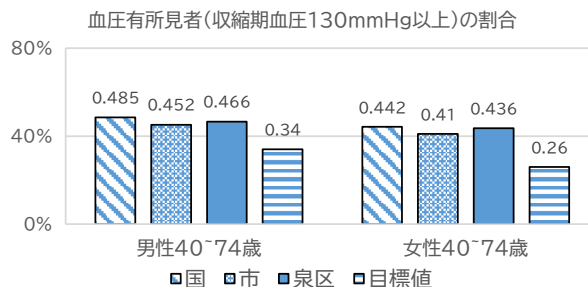
重点的に取り組む健康実態や課題と取り組みの方向性

国と比較し、仙台市はメタボ該当率が高く、当区はさらに高い傾向にある。特定健診の結果、収縮期血圧の有所見率も高い。特定健診受診率に関して、65歳以上については目標値を超える受診率である一方、40～64歳については、目標値の3～4割程度である。今年度は、特に青壮年期に向けがん検診を含む健診の受診率向上、高血圧予防の取り組みを強化する。



〔出典〕R6国保データベースシステム 厚生労働省様式5-4

泉区は、65～74歳の特定健診受診率は目標値を超えているが、40～64歳の受診率は男女ともに低い。



〔出典〕R6国保データベースシステム 地域の全体像の把握

泉区は、市の値と比べて、男女とも割合が高い。

これまでの事業の評価

関係機関と健康課題や取り組みの方向性について情報共有しながら、啓発を実施。働き盛り世代への健康教育後のアンケートより、「参考になった」「生活の中に取り入れたい」と回答が8割あり、行動変容の動機付けにつながった。適正体重に関するアンケートからは、概ね知識が獲得されたとの結果が得られた。そのため、高血圧予防、がん検診を含む健診の受診率向上に向けた取り組みを行っていく必要がある。

事業計画

発症予防・重症化予防 栄養・食生活 歯と口の健康 社会環境の改善・整備

【青年期】大学等と連携した健康づくり啓発

目的：若い世代が食の大切さを理解し、将来の生活習慣病予防を見据えて健康に関心を持てるよう啓発する。

- ・「未来もかがやく笑顔」のためハロープロジェクトの推進。おとなのオーラルケア健康診査の啓発。
- ・管内の大学等に対し、学生の生活習慣等の実態把握を行ない、生活習慣病予防・健診に関する啓発を実施する。

【青壮年期】働き盛り世代/子育て世代の健康教育

目的：働き盛り世代に生活習慣病とその予防のための情報を提供し、実践を促す。

- ・みやぎ仙台商工会を初めとした事業所や子育て世代が集まる場で、健康出張講座の案内や健診受診勧奨を行う。
- ・健康出張講座を実施する際には、自分の身体の状態を知るために健診受診勧奨や必要時、健診受診後の保健指導を勧めながら生活習慣予防の啓発を行う。
- ・高血圧予防のため、尿ナトリウム比測定や健康教育を実施する。

【高齢期】高齢期の健康づくり啓発

目的：生活習慣病重症化予防、フレイル予防のため

- ・75歳になると特定健診から基礎健診に移行するため、申込が必要となることや健診を受ける必要性を広く周知し受診を促す。
- ・高血圧予防のため、尿ナトリウム比測定や健康教育を実施する。また、フレイル予防の観点も合わせて食事・運動・口腔・社会参加について啓発を行う。

【環境整備】各種関係機関との課題共有、協働事業の取り組み

目的：関係機関と健康に関する課題を共有し、ニーズに合わせて効果的に啓発できる機会を増やす。

- ・みやぎ仙台商工会を訪問し、働き盛り世代の健康課題や啓発機会について情報共有するとともに、方向性について協議する。
- ・食環境整備事業や給食施設指導等に関わる事業所へ、健康課題等を情報共有し、啓発機会へつなげる。
- ・健診受診勧奨チラシを作成し、関係機関や各事業等で積極的に情報提供を実施する。

目標

アウトプット 集団に対し健診受診勧奨した回数

10回
(R7)



25回
(R8)

アウトカム 特定健診受診率の増加(40歳代)

〔出典〕R6国保データベースシステム 厚生労働省様式5-6

27.4%
(R6)



30.0%
(R8)

重点的に取り組んだ健康実態・課題

当区は特定健診の結果、血糖値(HbA1c)の有所見率が国、仙台市の平均より高い傾向にある。これまで、妊産婦や、幼児期・学齢期とその保護者世代に、高血糖予防についての情報提供をする実施が少ない状況であった。問題が顕在化しやすい壮年期～高齢期だけではなく、全ライフステージにおいて、当区の現状や、望ましい生活習慣等について啓発を強化していく必要がある。

事業実績とその成果

栄養・食生活

妊産婦・乳幼児を持つ保護者へのアプローチ

目的：保護者が子どもの将来の健康を見据えた望ましい生活習慣を形成できるよう促す。

・母親教室や幼児健診に来所する保護者へ向けて、朝食摂取の大切さや甘味飲料等の摂取による血糖値への影響等を講話に組み込み、子どもだけでなく家族全体で取り組むよう啓発。また、1日3食食べることの大切さや血糖値を急上昇させない食事のポイント等について啓発を実施した。「大変役立つ・役立つ」と回答した方がほとんどで、自身の食事の振り返りや食生活の改善につながるきっかけとなった。

・離乳食教室において、パネルや資料等を活用し、乳幼児期からの望ましい食習慣を形成できるよう講話を実施した。一方で、保護者自身の朝食欠食(16%)の実態が把握され、次年度の取り組みにいかす。

栄養・食生活

歯と口の健康

飲酒・喫煙

学齢期向け講座とパネル展示

目的：子どもが食に興味を持ち、健康的な生活習慣を形成できるよう促す。

・管内の児童館・センターにて、防煙教育と併せてミニ講話を実施。「朝食を欠食しない」「おやつを考えて食べる」など、望ましい生活習慣について啓発した。特に、甘味飲料に含まれる糖質量や野菜クイズ形式の内容では参加者の関心も高かった。

・乳幼児期～学齢期の子どもとその保護者向けの地域イベントにて、朝食ワークショップを開催。朝食を毎日食べている参加者は9割いたが、主食のみ食べている参加者もあり、主菜・副菜の追加について助言することができた。

また、甘味飲料に含まれる糖質量について、パネルを用いて啓発した。

・ミニ講話の歯科保健部門の媒体を更新し、他職種が使用可能なものとした。

発症予防・重症化予防

歯と口の健康

商工会や他課と連携した、働き盛り世代へのアプローチ

目的：働き盛り世代に生活習慣病とその予防のための情報を提供し、実践を促す。

・みやぎ仙台商工会加入事業者約2,000社へ、高血糖(甘味飲料)に関する啓発資料を送付し情報提供を実施

・職員及び来庁者に向けたオーラルケアの啓発のため、ミニパネルを庁舎内13か所に掲示

・給食施設従事者研修会にて、各給食施設も健康づくりの重要な担い手であることの理解が得られるよう当区での取り組みとともにミニ講話を実施

発症予防・重症化予防

高血糖をテーマに、管理栄養士・健康運動指導士による講話を開催

目的：高血糖有所見者を対象に、糖尿病の病態や合併症、重症化予防のための食事と運動について情報提供し、実践を促す。

・令和6年度特定健診受診者のうち、血糖値が要指導以上かつBMI25以上の方へ個別通知で講話を案内し、28名が参加。

・「あなたに合った運動と食事の方法見つめませんか」のテーマで、高血糖予防のための食事と運動の講話を実施。

・血圧のコントロールも重要であるため、尿ナトリウム比測定も行い、増カリウム・減塩に関しての講話も加えた。

・これからの生活の中で取り入れたいことがあったと回答した方は96.4%おり、生活の中での実践を促すことができた。

社会環境の改善・整備

各種関係機関との課題共有、協働事業の取り組み

目的：関係機関と健康課題を共有し、連携した取り組みが出来るよう体制を構築する。

・保育所や児童センター、小中学校、大学、町内会、みやぎ仙台商工会議所、健康増進センター、地域包括支援センターなど、管内の関係機関38か所と各地域の健康実態や当市の取り組みの方向性等について、いきいき市民健康プランや地域の健康課題をまとめたチラシ等を用い情報共有した。

〈まとめ〉

母親教室や幼児健診でライフステージ特有の高血糖予防について講話に組み込んだり、小学生向けにはクイズ形式で実施する等啓発を強化。また、重症化予防のための講話では体験も取り入れ、参加者の9割が「生活の中で取り入れたいことがあった」と回答し行動変容の動機付けにつながった。関係機関とは定期的に地域の健康づくりについて情報交換しながら連携先を増やしていく。今年度より開始した全市共通アンケート結果から、血糖の項目のうち、「喫煙と血糖の関係性について」の項目の正解率が低かったため来年度は喫煙との関係についても啓発に取り入れる。

目標の達成状況

アウトプット 高血糖に関連する内容をテーマに啓発した回数の増加

50回

(R6)



70回

(R7)

達成状況について評価

70回を目標にしていたため、達成された。既存事業等に高血糖の内容を意識的に盛り込んだことで、啓発回数を増やすことが出来た。

アウトカム 血糖と生活習慣の関係について知識をもつ人の増加
〔出典〕全市共通アンケートNo1～No6の全問正解者の割合

(R6)



30%

(R7)

達成状況について評価

高血糖の内容を取り入れた講座後に、今年度から開始の全市共通アンケートを実施。喫煙と血糖の関係性についての啓発強化し、今後さらに知識をもつ人の増加を図る。

重点的に取り組んだ健康実態・課題

国と比較し、仙台市はメタボ該当率が高く、当区はさらに高い傾向にある。特定健診の結果、血糖値(HbA1c)・収縮期血圧の有所見率も高い。当区民は健康について関心が高い傾向にあり、講座や講演会へは高齢期の方の参加が多い。今後さらに間接的なアプローチも含めて、若い世代から働き盛りに向けた一次予防の啓発に力を入れていく必要がある。

事業実績とその成果

栄養・食生活

歯と口の健康

飲酒・喫煙

大学と連携した健康づくり啓発

目的：若い世代が食の大切さを理解し、将来の生活習慣病予防を見据えて健康に関心を持てるよう啓発する。

・管内の2大学にて、若い世代を中心とした仙台市の健康課題についての講話およびハローフロスプロジェクトと朝ごはんにプラスワンの啓発を実施。また、食生活アンケートを実施し、朝食摂取や食事内容の実態把握を行った。講話等を通して、将来の生活習慣病予防のために今からできる健康づくりの取り組みを実践することの大切さについて啓発。「フロスを使って歯の健康を守ろうと思う」「(食事の摂り方を)少し見直そうと思った」との反応があり、生活の見直しの契機になった。

・大学祭にてブースを設置し、歯と口の健康やこころの健康、禁煙に関すること、朝食や野菜摂取に関するパネル等の展示により、健康づくりに関する啓発を実施した。来場者に対して、青年期特有の健康に関する情報を提供。立ち止まりパネルや資料に目を通したり、質問をする方もあり、関心が伺われた。

歯と口の健康

若い世代を対象としたハローフロスプロジェクト

目的：若い世代へ、未来も輝く笑顔で過ごせるよう、オーラルケアについて行動変容に繋がる啓発をする。

・大学との連携のほか、実習生に対して、デンタルフロスの習慣的使用者増加を目指し、ハローフロスリーフレット等を用いて啓発を行った。

・地区健康教育では、児童館・保育施設等職員、乳幼児保護者等に対して、歯と口の健康づくりの講話やハローフロスリーフレットを配布し、歯周病予防につながるデンタルフロスの習慣的利用を促した。具体的な使用方法、使用効果について説明することで、フロスの使用順等について質問が寄せられ実施を想定した関心が伺われた。

栄養・食生活

身体活動・運動

飲酒・喫煙

働き盛り世代への健康教育

目的：働き盛り世代に生活習慣病とその予防のための情報を提供し、実践を促す。

・みやぎ仙台商工会事務所へ訪問し、仙台市や働き盛り世代の健康課題について共有し、泉区で実施している健康出張講座や健康づくり相談等の事業案内を行った。会報への健診受診勧奨の記事掲載及び高血糖(甘味飲料)に関する啓発資料を加入事業者約2,000社へ送付した。

・事業所を含む5団体で健康出張講座を実施。うち3団体で健診結果の見方や、高血糖の機序を含めた生活習慣病予防について講話を行い、参加者の8割が「参考になった」「生活に取り入れてみたいことがあった」と回答し、生活習慣改善への動機付けとなった。

社会環境の改善・整備

各種関係機関との課題共有、協働事業の取り組み

目的：関係機関と健康に関する課題を共有し、ニーズに合わせて効果的に啓発できる機会を増やす。

・管内の2大学と情報共有。こころの健康や痩せについての状況を聞きとり、大学祭にて、ストレス解消やこころの相談窓口、適正体重、痩せによる健康影響等の啓発を実施した。

・みやぎ仙台商工会と情報共有。当市の健康課題や取り組みの方向性を共有し、会報誌への高血糖に関する記事掲載につながった。

〈まとめ〉

関係機関と健康課題や取り組みの方向性について情報交換をし、事業を実施した。働き盛り世代への健康教育後のアンケートより、「生活に取り入れてみたいことがあった」との結果から参加者の8割が行動変容の動機付けにつながった。また今年度から開始したアンケート結果から、適正体重に関しては概ね知識が獲得されたとの結果が得られた。次年度は、健診の受診率向上、高血圧予防の一次予防の取り組みを強化する。

目標の達成状況

アウトプット 健康教育の回数・参加者数の増加

8回486名
(R6)



13回740名
(R7)

達成状況について評価

新たな事業所等から講座依頼があったことと併せて、管内の2大学との連携を進める中で啓発機会を増やせたため、回数・数の増加につながった。

アウトカム 適正体重に関して知識をもつ人の増加

[出典]全市共通アンケート

(R6)



95%
(R7)

達成状況について評価

働き盛り世代向けに、適正体重の内容を取り入れた講座後に、今年度から開始の全市共通アンケートを実施。目標の100%には満たなかったが、概ね知識を持ってもらえた。

3. 関係団体の取り組み

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

特定健診、基礎健診における問診や保健指導、生活習慣病予防の知識向上の啓発

特定健診、基礎健診の問診や健診結果、特定保健指導を通じて、市民の生活習慣改善や重症化予防に取り組む。

特定健診、基礎健診における問診や健診結果に応じ、生活習慣病等の「疾患」、「メタボリックシンドローム」及び「特定保健指導」に関する判定を行った。また、保健指導により個々の生活習慣改善の行動目標を設定(身体活動量・食事バランス)し、健康的な生活習慣を身に付けられるよう、登録医療機関ならびに集団健診会場において指導した。

特定健診・基礎健診、保健指導を通して、引き続き市民の生活習慣の改善や、知識向上の啓発、重症化予防に取り組む。
CKD病診連携事業を推進し、引き続き仙台市と連携して「かかりつけ医」と「腎臓専門医」との病診連携体制構築を進めていく。

栄養・食生活
身体活動・運動
飲酒・喫煙
発症予防・重症化予防

市民向け広報による生活習慣病予防の知識向上の啓発

市民向け広報誌「てとてとて」の発行、市民医学講座を開催し、市民向けに生活習慣病予防に関する啓発を行う。

市民向け広報誌「てとてとて」を年2回発行し、生活習慣病予防に役立つ情報を掲載した。市民医学講座は11回開催し、市民の知識向上に役立った。

市民向け広報誌「てとてとて」の発行、市民医学講座を開催する。

栄養・食生活
身体活動・運動
発症予防・重症化予防

かかりつけ医の知識向上のための取組

かかりつけ医の適切なうつ病診療の知識・診断の向上及び、精神科専門医との連携などについての研修会を開催する。

研修会の開催により、かかりつけ医によるうつ病患者の早期発見・早期治療の促進や、自殺予防対策に努めた。

うつ病発症初期は身体症状等から始まることが多く、かかりつけ医によるうつ病患者の早期発見・早期治療はますます重要なものとなっている。かかりつけ医の知識向上のための取組の一つとして研修会を開催する。

社会環境の改善・整備

産婦健康診査の実施および産後ケア事業への協力

登録医療機関において実施する産婦健康診査にて、産婦のこころとからだの健康状態をチェックし、心身の不調の早期発見に努め、必要な支援につなげる。産後ケア事業では、産後の母親の身体的回復及び心理的な安定を促進するとともに、母親自身がセルフケア能力を育み、もって母子とその家族が健やかな育児をすることができるよう支援する。

登録医療機関で産婦健康診査を実施し、支援が必要と思われる産婦については行政と速やかに情報共有を行う等、必要な支援に繋げた。産後ケア事業の利用者は増加傾向にあり、受け入れ施設の体制確保や拡充のための調査等に協力した。

産後ケア事業の需要の高まりを受けて、受け入れ施設の確保に向け協力する。

社会環境の改善・整備

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

学童検診および乳幼児健診を介した児および家族への食生活・生活改善指導の実施

学童検診を介して児童・生徒および家族に対し、校医および専門医による食生活・生活改善指導を実施。
乳児健診(1か月、2か月、4～5か月、8～9か月)、1歳6か月児健診、3歳児健診において乳幼児の健康的な成長を促すための栄養指導を小児科専門医により実施。3歳児健診においては視能訓練士による屈折検査の継続。乳児からのむし歯予防として8～9か月乳児健診を入り口にした、3歳児カリエスフリー85プロジェクトを歯科医師会と共に推進。

学童検診(検尿、腎臓病、糖尿病、生活習慣病、貧血、心臓病、脊柱側弯、運動器等)において所見のあった児童生徒を学校医や専門医療機関で受け入れ、適切な指導及び治療に繋げた。
乳児健診については登録医療機関にて実施、1歳6か月児健診および3歳児健診については集団にて実施(集団会場に小児科医師を派遣)し、生活改善指導や治療に繋げる等の指導を実施した。さらに3歳児健診では、視能訓練士によるスポットビジョンスクリーナーを用いた屈折検査において、集団健診会場への視能訓練士の派遣に協力し、弱視の早期発見に繋げた。
また、1か月児健診の費用助成開始にあたっては、実施体制の構築に協力した。

乳幼児健診については、出産後から就学前までの切れ目のない健康診査の実施体制を整備することを目的に、仙台市における5歳児健診モデル事業実施および本格実施の体制構築に協力する。
不登校等の理由により学校での健康診断を受けることが困難な児童生徒を対象に、健康状態を速やかかつ的確に把握することを目的とし、令和8年度より学校医等の指定医療機関において個別健康診断を実施する。

発症予防・重症化予防

栄養・食生活

歯と口の健康

大切な人の健康を守るためのたばこ対策の推進

禁煙日医宣言と禁煙キャンペーン事業を推進し、世界禁煙デー・宮城フォーラムに参画。
イエローグリーンキャンペーンへの積極的な参画。

禁煙日医宣言と禁煙キャンペーン事業を推進し、世界禁煙デー・宮城フォーラムに参画し、職場、妊婦、子どもに対する喫煙防止を呼びかけ、NPO法人禁煙みやぎの禁煙活動を支援した。また、イエローグリーンキャンペーンの一環として、「日本禁煙週間(5月31日から6月6日)」に合わせて仙台放送の電波塔(仙台スカイキャンドル)、当会館、医師会看護専門学校をイエローグリーンにライトアップし、会員へもライトアップの協力を呼びかけた。
*イエローグリーンは、受動喫煙をしない、させたくないという気持ちを表す色です。

イエローグリーンキャンペーンに積極的に関与していく。ライトアップについては、前年度実施事業の他に、市教委を通じて市内公立学校への呼びかけ等を考えている。

感染症予防に関する取組

新型コロナウイルス感染症を含む感染症に関する情報を会員向けに発信する。
医療機関を通して感染症予防の啓発活動を行う。

各種予防接種の積極的勧奨と、インフルエンザ予防対策ポスターを市内の医療機関へ送付し、定期的な換気、こまめな手洗いや咳エチケットの予防対策を啓発した。
感染症及びワクチン接種に関し、仙台市医師会として最新の知見・関連情報を医師会会員向けニュースで配信し情報共有を図った。また、会員を通じて市民にも有益な情報を提供を行った。
ワクチン接種については、仙台市と密に連携し、市民向け接種に協力した。

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザを含む感染症予防対策について、引き続き日常診療を通して市民に啓発を行っていく。
ワクチン接種については、引き続き行政と連携を密に対応を行う。

社会環境の改善・整備

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

仙台市成人歯科健診事前講習会の実施

仙台市成人歯科健診(歯周病検診・20歳のデンタルケア健診・仙台市職員共済歯科健診)における事前講習会を受講必須として事業実施の円滑化を図る。

仙台市成人歯科健診の保健指導の充実化のために事前講習会を必須とし、保健指導の題材となる情報を毎年提供している。前年通りの取り組みに加え、新しい歯周病健診マニュアルに基づいた令和8年度から始まる「おとなのオーラルケア健診」に円滑に移行できるように協議検討を行った。また、新しい健診方法に則った事前講習会を実施した。さらに、より個人情報の保護を強化した業務手段を検討した。

令和5年の国の歯周病検診マニュアルに準じて改定した「おとなのオーラルケア健診・妊婦のオーラルケア健診」では、全身疾患・生活習慣と歯周病の関連性が強調され、より歯科保健支援が強化された。歯と口の健康づくりが全身の健康づくりに繋がることを啓発する必要がより明確化された。それを踏まえ事業が円滑に遂行するように事前講習会等の体制整備をする。また、健診DX化についても関係各所と連携しつつ推進する。

栄養・食生活

飲酒・喫煙

歯と口の健康

発症予防・重症化予防

歯科医師認知症対応力向上研修会の実施

歯科医院および在宅診療にて認知症患者を診察する場合、その患者の特性を理解し適切な治療や口腔管理ができる歯科医師の育成を目指す。

取り組み目的を達成するために、2回コースとして「仙台市歯科医師認知症対応力向上研修会」を、仙台市・東北大学の協力のもと実施した。また、そのフォローアップ研修会を実施し講師を招いて認知症患者への接遇についてより実践的な理解を深めるための研修会を実施した。

令和7年度の取り組みの充実化と受診者の増加を図る。それにより認知症患者に対応しうる社会的環境整備を目指したい。

栄養・食生活

身体活動・運動

歯と口の健康

社会環境の改善・整備

仙台市歯と口の健康週間「市民のつどい」の実施

仙台市民の歯と口の健康づくり啓発を図るため市民参加型イベントを実施する。関係団体14団体が実行委員会を構成し各団体がそれぞれの特性を生かした啓発活動を展開し、歯と口の健康から全身の健康につながる啓発活動を行う。幼児期から高齢期まで世代を超えたイベントである。

宮城仙台口腔保健センターと仙台メディアテーク(5歳児むし歯予防絵画コンクール受賞作品の展示)にて実開催を行う。WEB版も健康週間以降も周知する手段として有効と考え、広く市民に啓発するツールとしてWEB版の公開も実施していく。いままでは参加していなかった歯科衛生士養成校を参加団体に加え、実施形態を強化した。

前年度の内容を踏襲しつつ、より内容を充実していく。宮城仙台口腔保健センターと仙台メディアテーク(5歳児むし歯予防絵画コンクール受賞作品の展示)での実施、WEB版も健康週間以降も周知する手段として有効と考え、広く市民に啓発するツールとしてWEB版の公開も実施していく。

歯と口の健康

発症予防・重症化予防

地域包括ケアシステムにおける歯科医療保健体制の整備

地域・在宅生活環境においてフレイル予防や歯科医療保健を適切に提供するための環境整備を行う。

介護予防・総合事業においてオーラルフレイル予防を啓発していく必要は今後ますます重要となっていく。さらに実施単位がより現実に即した地域包括単位となっていくとの方針に基づき、歯科医師会としてはそれに即した体制の整備を行った。具体的には全会員に対して訪問歯科診療(実施内容も含めた)および地域ケア会議への参加・地域包括支援センターへの協力の可否等についてアンケート調査を実施した。このことにより社会資源の情報整備と共有化を図った。

令和7年度の取り組みを充実化させていく。会員向けアンケート調査より課題の整理・体制づくりを進める。とくに実施単位がより現実に即した地域包括単位となっていくとの方針に基づき、歯科医師会としてはそれに即した体制の整備を行っていく。地域包括支援センターとの協力体制の強化など社会資源の情報整備と共有化を図っていく。

歯と口の健康

社会環境の改善・整備

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

学校検診における事後指導の充実化(CO、GOに対する対応)

「生きる力を育む歯・口の健康づくり」においてヘルスプロモーションに基づいた健康教育は必須である。学校歯科検診におけるCO、GOは児童生徒自身の行動変容によって改善する状態であり、その健康習慣の獲得は生涯に及ぶものであり、CO、GOに対して学校歯科医・養護教諭等の学校との連携による健康教育の推進を行う。また、地域のかかりつけ歯科医との円滑な連携(要治療・継続管理)についても実施していく。

趣旨に基づいての取り組みの充実化を行った。「仙台市学齢期歯と口の健康づくりマニュアル」を活用した研修会や活用しやすい媒体の作成などより学校での歯科保健教育がしやすいような環境整備をすすめた。むし歯については12歳児のDMF歯数は減少しているが、学年が上がるにつれてう蝕罹患率は上昇し、う蝕の格差も拡大している。さらに将来的に歯周炎に進行する歯肉炎は多い状態が継続している。その解決のために学校での歯みがきが実施できるように関係各局と取り組み、特に「全国小学生歯みがき大会」への参加校の増強を図った。

前年度の取り組みの充実化を行う。「仙台市学齢期歯と口の健康づくりマニュアル」を活用した研修会や活用しやすい媒体の作成などより学校での歯科保健教育がしやすいような環境整備をすすめる。むし歯については12歳児のDMF歯数は減少しているが、学年が上がるにつれてう蝕罹患率は上昇し、う蝕の格差も拡大している。さらに将来的に歯周炎に進行する歯肉炎は多い状態が継続している。その解決のために学校での歯みがきが実施できるように関係各局と取組みたい。特に「全国小学生歯みがき大会」への参加校は市内で50%を超えることができた。それを踏まえさらなる増強を図りたい。また、不登校児に対する学校検診についても取り組んでいく。

歯と口の健康

発症予防・重症化予防

社会環境の改善・整備

仙台市フッ化物洗口パイロット事業

学校におけるフッ化物洗口は集団でのむし歯予防において有効な手段であり、本会としても仙台市内の学校での実践を推奨する。よって、導入に向けて、課題の抽出と検討を行うことを目的として本事業を行う。

令和5年1月の文部科学省事務連絡にて「学校における集団フッ化物洗口について」においても化学的根拠に基づいたう蝕予防効果に優れた方法としてその必要性が提示されている。仙台市においては、折立小学校、秋保小学校にて本事業を実施していたが、集団におけるフッ化物洗口パイロット事業の実施校拡大に向けて協議した結果、関係各局のご理解とご協力のもと、市内各区1校の実施に向けて事業を進展できた。

折立小、秋保小、野村小、鶴谷東小、若林小の5校で実施することとなった。円滑な実施に向けて取り組むとともに中規模校以上での実施、さらなる実施校の増加について、実施方法・予算化も視野に入れたご検討をおこなう。

歯と口の健康

社会環境の改善・整備

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

仙台市ハローフロスプロジェクトの推進

仙台市においては壮年期以降の歯周病の高い罹患率が続いている。その解決のために学齢期・青年期からの健康啓発が欠くことができない。特に青年期においてはほとんどアプローチがされておらず歯周病対策のキーとなる。また、より効果的に啓発するためには当事者である青年期との連携が不可欠である。そこで本事業では東北大学歯学部学生サークルである歯科医療研究会と仙台市、仙台歯科医師会の協働で事業を立ち上げた。	デンタルフロスを添付したリーフレットを作成し、仙台市内の大学、短大、専門学校、高専を中心に約20,000部配布しアンケート調査を実施した。	令和7年度のプロジェクトを継続するとともに、アンケート調査から抽出される課題について検討し、より効果的な啓発活動ができるような取り組みを検討し実施する。本年度は市内高等学校への対象拡大も検討している。
---	---	--

歯と口の健康
発症予防・重症化予防
社会環境の改善・整備

仙台市フッ化物歯面塗布助成事業・妊婦歯科健診の実施の適正化と充実

仙台市フッ化物歯面塗布助成事業は医科・歯科・行政の連携事業であり、より低年齢からのかかりつけ歯科医確保のための事業である。	小児科医会のご協力のもと受診率も40%を超え、フッ化物歯面塗布経験した児も増加している。その結果、むし歯のない3歳児は令和5年度で92%まで増加している。妊婦歯科健診も受診率が40%を越え市民に認知されるようになってきている。これら健診を円滑に実施するために事前講習会を実施した。	これら健診事業も実施から4年以上を経過し、様々な課題が抽出されてきているのも事実である。その解決のために本年度は適正で充実した事業の実施のために事前講習会のありかたについて検討する。また、いきいき市民健康プラン第3期における歯と口の健康づくり計画第3期に計画されている「食べる力のサポートブック」と「せんだいでんたるノートF」の連携を軸とした取り組みについて関係各所と検討を行いたい。
---	--	--

歯と口の健康
栄養・食生活
社会環境の改善・整備

生涯を通した食べる力をサポートする取り組み(仮)

ライフコースアプローチの観点から、高齢期のオーラルフレイルのリスクは高齢期に始まっているわけではなく、口腔機能の獲得期にある乳幼児期から始まっている。近年小児の口腔機能不全は大きな問題となっており診療報酬においても「口腔機能発達不全症」の傷病名と共に治療・指導の対象となっている。保健体制としても市民への周知、特に乳幼児期に携わる保護者・職種への啓発は不可欠となってくる。いきいき市民健康プラン第3期における歯と口の健康づくり計画第3期においても「食べる力のサポートブック(仮)」として計画策定されているところである。また、高齢期においては「オーラルフレイルとは」を市民・介護予防に携わる職種への周知、更にはオーラルフレイル予備軍への啓発・指導を行うことによって、生涯を通した食べる力をサポートする取り組みを行う。	乳幼児期から学齢期においては「食べる力のサポートブック(仮)」の作成・啓発活動に関係各所とともに積極的に参画していく。高齢期においては前述の地域包括単位で対応可能な環境整備を行うとともに、対応可能な会員歯科医院の充実化を計画した。	乳幼児期においては「食べる力のサポートブック」の作成・啓発活動に関係各所とともに積極的に参画していく。学齢期においては「学齢期歯と口の健康づくりマニュアル」を活用した啓発活動を検討する。高齢期においては前述の地域包括単位で対応可能な環境整備を行うとともに、対応可能な会員歯科医院の充実化を計画する。ロツテ・東北大学・仙台市・仙台歯科医師会との連携協定の締結と協定を有効活用する取り組みについて検討する。
---	---	---

栄養・食生活
歯と口の健康
身体活動・運動
社会環境の改善・整備
発症予防・重症化予防

医療的ケア児の歯科対応環境の整備

医療的ケア児においても、在宅や施設における歯科健診への支援・要治療児への対応さらには摂食嚥下障害をもつ児への対応が不可欠である。そのためには地域歯科医院と高次医療機関との連携のもとにそれぞれの役割分担を配慮した対応が必要になると思われる。対応できうる人材育成のための研修の実現や後方支援病院等の環境整備を目指す。	現状の把握と高次医療機関と連携して歯科医師会がいかなる地域資源を整備すべきかを検討することとした。結果仙台市における医療的ケア児の実態についてある程度の把握が出来た。全会員に対して医療的ケア児の訪問診療も含めた対応が可能かどうかのアンケート調査を実施した。	本年度は詳細な実態を含めた現状のさらなる把握と高次医療機関と連携して歯科医師会がいかなる地域資源を整備すべきかを検討することとしたい。現在、計画中の北庁舎への荒井診療所の移転後の施設で具備すべき設備や人材の検討も進めていく。
--	--	--

歯と口の健康
発症予防・重症化予防
社会環境の改善・整備

健康(労働)寿命延伸プロジェクト(認知症対応、フレイル・サルコペニア予防対応)			
・認知症初期対応 ・フレイル・サルコペニア予防啓発活動 ・対応薬剤師の育成	・認知症対応パートナー薬剤師を育成した(35名)。11月を認知症対応月間とし、啓発活動を実施した。11月の仙台市介護予防月間に伴い高齢者対象の秋の健康フェアと出前講座を開催した。 ・仙台市の実施する「見守りネットワーク」の呼びかけを実施した(特に健康フェアで) ・フレイル・サルコペニア予防対応薬剤師の育成(22名)。7月をフレイル・サルコペニア予防月間とし、各薬局でフレイルチェックや呼びかけとアンケートを実施した。仙台市地域包括ケア推進課と連携し、必要であれば地域包括支援センターに繋げる体制をとった。 ・対応薬剤師の育成	・認知症対応薬局と地域との連携(地域包括支援センターなど) ・見守りネットワークへの声かけ ・フレイル・サルコペニア予防啓発を行政、他団体と連携(仙台市、地域包括支援センターなど)、啓発強化月間は7月 ・対応薬剤師の育成 ・市民センターや他団体からの依頼で出前講座の実施 ・認知症対応パートナー薬剤師育成講座の実施 フレイル・サルコペニア予防対応薬剤師育成講座の実施	身体活動・運動 栄養・食生活 こころの健康・社会とのつながり 発症予防・重症化予防 全体
健康(労働)寿命延伸プロジェクト(うつ・自殺予防、難病患者とその家族への対応)			
・うつ初期対応 ・うつ・自殺予防啓発活動 ・対応薬剤師の育成 ・難病対応	・うつ・自殺予防声かけ強化月間として9月、3月に設定し、ポスター、チラシで呼びかけ、アンケートを実施した。 ・うつ初期対応薬剤師(ミミまる薬剤師)を育成した(18名)。 ・こころのサポーター養成研修を開催(20名)・健康フェアで市民対象に心療内科医を招いて講演を行った。 ・難病関係の研修会を実施し、その受講者が相談を受ける形で、難病患者とその家族を対象に相談会・座談会を実施した(セット2回)相談会のみ4回。 ・難病パートナー薬剤師を育成(10名)	・うつ・自殺予防声かけ強化月間(9月、3月) ・春の健康フェアでの仙台市との連携 ・対応薬剤師(ミミまる薬剤師)の育成講座の実施 ・こころのサポーターの養成 ・難病関係の研修会及び難病患者とその家族との相談会の実施 ・難病パートナー薬剤師の育成	こころの健康・社会とのつながり 発症予防・重症化予防 社会環境の改善・整備 全体
薬物乱用防止・防煙プロジェクト			
・薬物乱用防止啓発活動 ・禁煙・受動喫煙防止啓発活動	・政令指定都市薬剤師会全国統一薬物乱用防止キャンペーンとして、7月19日、仙台駅ベディストリアンデッキで実施した。 ・各区民祭りで薬物乱用防止啓発活動を実施した。また、小中高の学校での薬物乱用防止教室、防煙教室へ講師を派遣した。 ・イエローグリーンキャンペーンに宮城県薬剤師会と共に参加し、薬剤師会館のライトアップを行った。また、会員薬局対象にイエローグリーンキャンペーンフォトコンテストを行い、来局者に受動喫煙防止を啓発した。 ・小中学校対象に夏休み期間に薬物乱用防止・防煙ポスターや川柳を募集し、優秀作品は10月に東北医科薬科大学小松島キャンパスで表彰式を行った。 ・仙台市薬剤師会主催のイベントにおいて禁煙相談会を実施した。また、薬と健康の週間では、薬局単位で啓発活動を行った。	・政令指定都市薬剤師会全国統一薬物乱用防止キャンペーンへの参加(7月18日予定) ・各区民祭りでの薬物乱用防止啓発活動の実施 ・小中高校での薬物乱用防止教室、防煙教室への講師派遣 ・宮城県薬剤師会と連携し、イエローグリーンキャンペーンに参加し、受動喫煙防止啓発と普及活動	飲酒・喫煙 こころの健康・社会とのつながり 発症予防・重症化予防 社会環境の改善・整備 全体
健康(労働)寿命延伸プロジェクト(感染症初期予防一口腔ケア)			
・口腔ケア啓発活動	・歯と口の健康週間市民のつどいに参加し、相談会を開いた。	・歯と口の健康週間市民のつどいへの参加	歯と口の健康
健康(労働)寿命延伸プロジェクト(市民健康推進、感染症初期予防対応)			
・市民健診の推進 ・感染症初期予防対応 ・対応薬剤師の育成	・各薬局から市民検診への呼びかけを行った。 ・イベントでの感染初期予防の手洗いチェックや啓発活動を実施した。 ・学校における手洗い教室を実施した。 ・感染症初期予防対応薬剤師を育成した(10名)。 ・環境衛生の管理啓発として、学校での「お掃除のあり方」を提案した。	・市民検診への呼びかけ ・イベントでの感染初期予防の啓発 ・学校における手洗い教室の実施 ・感染症初期予防対応薬剤師の育成講座の実施 ・各イベントでの感染予防の啓発活動 ・学校での「お掃除のありかた」を提案していく	発症予防・重症化予防 社会環境の改善・整備 全体

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

身体を動かす機会づくり

運動やスポーツを習慣的に行う市民を増やし健康寿命を延伸をはかる

高齢者の介護予防教室や各種イベントで啓発

高齢者の介護予防教室や各種イベントで啓発

身体活動・運動

人とのつながりづくりや社会参加の促進と環境整備

1日1回は家族や仲間と食事をする人の増加

高齢者の通いの場での調理実習試食を通して、参加者通しの懇談の場を設けた

食を通して人が集まり、関わりながら役割を持てる場の提供

栄養・食生活

飲酒や喫煙の健康影響に関する啓発 環境整備

・飲酒による健康状態についての理解の促進とセルフケア能力の向上
・受動喫煙防止対策の推進

禁煙フォーラムへの参加と、会員に対して「禁煙への行動変容を支援するために」と題して研修会を行った
・イエローグリーンキャンペーンへの参画

禁煙フォーラムへの参加と、会員に向けて禁煙についての研修会を行う
・イエローグリーンキャンペーンへの参画

飲酒・喫煙

口腔機能の育成 獲得 維持向上

口腔機能の育成・獲得・維持・向上

仙台市における歯と口の健康週間イベントへの協力
・こどもの食べる力のサポートブック検討部会に参加

・仙台市における歯と口の健康週間イベントへの参加(こども向け・フレイル関係ブース)への協力
・こどもの食べる力のサポートブック検討部会に参加

歯と口の健康

栄養・食生活

発症予防 重症化予防のための環境整備

・生活習慣病の発症や重症化、合併症を防ぐ健康管理実践
・関係団体等との連携による、発症予防・重症化予防のための環境整備

市民公開講座において(本当は怖い子どもの肥満と生活習慣病)についての講演を行い広く啓発

発症予防・重症化予防についての講演の実施と、要望に応じての関係機関との連携で実施

発症予防・重症化予防

栄養・食生活

それぞれの担い手に向けた健康実態や情報等の普及・啓発

・健康づくりに取り組みたくなる企画役立イベントの開催や情報提供
・災害時の支援に対する連絡体制の整備

・フレイル予防教室での健康長寿について講演し広く情報提供
・各地区にエリアマネージャーを置き災害時に連絡できる体制を整備

・フレイル予防教室で健康長寿に向けた講演会の開催
・各地区にエリアマネージャーを置き災害時に連絡できる体制整備

社会環境の改善・整備

ライフコース アプローチを踏まえた健康づくり

・ライフステージに合わせたバランスの良い健康的な食生活の実践
・全ライフステージにおける減塩に対する意識向上
・カリウム摂取量の増加

・小学校 児童館においての食育講座
・シニア世代向けの介護予防教室
・健康講座における減塩とカリウム摂取量についての講話を行った

小学校 児童館での食育講座 シニア向けの介護予防講座 各職域のイベントへの参加

栄養・食生活

発症予防・重症化予防

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

特定健診実施率・事業者健診データ取得率等の向上

【被保険者(本人)】 ・協会が費用補助する「生活習慣病予防健診」の受診案内を行う。 ・事業者健診を受診している事業所に健診データ提供依頼を行う。 【被扶養者(家族)】 ・協会が費用補助する「特定健康診査」の受診案内を行う。 ・ショッピングモール等を会場とするまちかど健診など健診を受けやすい環境を整える。	【被保険者(本人)】 ・生活習慣病予防健診受診勧奨・事業者健診データ取得の一括勧奨を実施した。 ・生活習慣病予防健診の切替勧奨を実施した。 ・小規模事業所へ個別案内を発送した。 ・健診実施機関の拡大を図った。 【被扶養者(家族)】 ・オプション検査をセットした協会主催のまちかど健診を開催した。	【被保険者(本人)】 ・人間ドック健診の費用補助の開始。 ・未受診事業所に対して事業者健診データの取得、生活習慣病予防健診への切り替え受診勧奨を行う。 ・受診率の低い小規模事業所の加入者個人に個別健診案内を発送する。 【被扶養者(家族)】 ・オプション検査をセットした「まちかど健診」等を開催する。
--	--	---

発症予防・重症化予防

特定保健指導の実施率の向上及び質の向上

【被保険者(本人)、被扶養者(家族)】 ・健診当日に特定保健指導を実施できるように環境を整える。 ・健診結果提供時に効果的な利用案内ができるよう環境を整える。 ・成果を重視した特定保健指導を推進する。	【被保険者(本人)、被扶養者(家族)】 ・標準モデルに沿った利用案内の徹底を図った。 ・新規契約機関の拡大を図った。 ・まちかど健診開催に併せて当日保健指導(初回面談)をセットし実施した。 ・健診機関での当日保健指導(初回面談)を促進した。	【被保険者(本人)】 ・健診機関との連携を強化し、健診日当日の特定保健指導を推進する。 【被扶養者(家族)】 ・まちかど健診開催に併せて当日保健指導(初回面談)をセットし実施する。 ・市町村主催の集団健診会場での当日特定保健指導をセットし実施する。
---	--	---

発症予防・重症化予防

栄養・食生活

身体活動・運動

飲酒・喫煙

社会環境の改善・整備

重症化予防対策の推進

【未治療者】 ・受診勧奨を実施する。 ・早期受診の重要性について周知徹底を図る。 【糖尿病性腎症患者】 ・糖尿病性腎症重症化予防事業について、これまでの取組の効果を検証し、引き続き、かかりつけ医等と連携した取組を効果的に実施する。	【未治療者】 ・血圧、血糖、脂質の未治療者に対する受診勧奨通知を発送した。 ・早期受診にかかる啓発リーフレットを送付した。 ・血圧、血糖等のコントロール不良者へ個別文書を発送した。 【糖尿病性腎症患者】 ・かかりつけ医との連携による糖尿病性腎症重症化予防事業を実施した。	【未治療者】 ・血圧、血糖、脂質の未治療者や胸部X線検査に基づく受診勧奨を実施する。 ・健診直後に医療機関による受診勧奨を行う。 ・血圧、血糖等のコントロール不良者へ適切な治療を促す。 【糖尿病性腎症】 ・かかりつけ医との連携による糖尿病性腎症重症化予防事業を行う。
--	---	---

発症予防・重症化予防

コラボヘルスの推進

・「職場健康づくり宣言」の登録事業所数の拡大や業種ごとの健康課題の解決を図るため、関係機関や関係団体と連携した広報を行う。 ・宣言事業所における健康づくりの取組の質を高めるため、事業所ごとの健康状態に見える化した事業所カルテ、取組の振り返りを行うチェックシート、他事業所の取組を紹介する好事例集の作成による情報提供に加え、健康づくり出前講座等によるサポートの充実など、宣言事業所へのフォローアップの強化を図る。 ・産業保健総合支援センター等と連携した取組を積極的に推進する。	【宣言事業所数の拡大】 ・未宣言事業所に事業所カルテを活用した勧奨文書を送付した。 ・地元メディアを連携し新聞広報やタブロイド紙提供を行った。 【取組支援の強化】 ・地元メディア主催の勉強会にブース出展した。 ・宮城県トラック協会会報誌にバガルト仙台と連携した啓発記事を掲載した。 ・「振り返りチェックシート」及び「事業所カルテ」を提供した。 ・産業保健総合支援センターと連携して、出前健康づくり講座を実施した。	【健康宣言事業所数の拡大】 ・未宣言事業所に健康宣言勧奨を行う。 ・地元メディアと連携した取組みを行う。 ・業界団体と連携した勧奨を行う。 【取組支援の強化】 ・「振り返りチェックシート」及び「事業所カルテ」を提供する。 ・産業保健総合支援センター及び外部事業者と連携した事業所訪問型の出前健康づくり講座を提供する。 ・先進的な取組事例を含めた健康経営に関する情報をまとめた事例集や健康カレンダーなどの健康啓発資料を提供する。
--	--	---

全体

食事、喫煙、運動、睡眠習慣に関する啓発や対策

・喫煙、運動習慣の対策について、宮城県及び関係団体等と連携しながら加入者の健康意識向上を図る。 ・健康づくりに関する動画やカレンダーを作成し、職場健康づくり宣言事業所を中心に配布、啓発を図る。 ・睡眠・食行動等と健康の関連性に着目し、大学と共同研究を実施する。	・宮城県、仙台市と協働による受動喫煙防止宣言施設登録制度への登録勧奨を実施した。 ・メールマガジン及びLINEの新たな健康コンテンツを作成し、広く加入者に向けて情報発信を行った。 ・大学教授との共同研究内容をまとめた睡眠に関する健康情報をWEBを活用し広く周知した。	・宮城県、仙台市と協働による受動喫煙防止宣言施設登録制度への登録勧奨を実施する。 ・魅力あるメールマガジン及びLINEのコンテンツを作成し、加入者にとって興味関心がある実践しやすい健康情報を発信し、ヘルスリテラシーの向上を図る。 ・食行動に関する調査やダブルケアに関する健康調査を大学と連携し実施する。
---	--	--

栄養・食生活

身体活動・運動

こころの健康・社会とのつながり

飲酒・喫煙

発症予防・重症化予防

公益社団法人 仙台市食品衛生協会

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

未来の健康をつくる生活習慣病予防

飲食に起因する食中毒や感染症の予防に関する啓発事業	飲食に起因する食中毒や感染症の予防に関する啓発事業をおこなった。	飲食に起因する食中毒や感染症の予防に関する啓発事業をおこなう。
---------------------------	----------------------------------	---------------------------------

栄養・食生活

気づく、つながる、支える心の健康づくり

食品衛生に関する情報発信や相談事業	食品衛生に関する情報発信や相談事業をおこなった。	食品衛生に関する情報発信や相談事業。
-------------------	--------------------------	--------------------

社会環境の改善・整備

日頃から一人ひとりが取り組む感染症予防

手洗い、検便および食品検査に関する啓発活動	手洗い、検便および食品検査に関する啓発活動をおこなった。	手洗い、検便および食品検査に関する啓発活動をおこなう。
-----------------------	------------------------------	-----------------------------

発症予防・重症化予防

公益社団法人 宮城県看護協会

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

まちの保健室

関係団体のイベント等の実施に合わせ、血圧測定や健康機器等による健康チェックや健康相談等を行う「まちの保健室」を実施し、自己管理能力を高めるための支援を行う。	協会主催としてアエルと市内店舗にてそれぞれ実施し、各区の区民まつりの際にも看護協会ブースを設置し「まちの保健室」を実施した。老若男女、健康への関心を高める機会となっていた。	市内のイベントの機会をとらえ、「まちの保健室」を開催する。開催時は、グッズの配布により集客等を図り、健康チェックとセルフケアの意識を高める。
--	--	--

身体活動・運動

こころの健康・社会とのつながり

発症予防・重症化予防

栄養・食生活

飲酒・喫煙

Kangoの広場(県民向け広報紙)

医療機関や行政・図書館等に配架している広報紙「Kangoのひろば」を年2回発行し、その時期に関心の高いものや発生件数が多い疾患数などを取り上げ、市民に広く健康情報を広報している。	健康情報として、9月には「誰にでも起こる秋バテ」を、3月には「バイバイ、メタボ」の記事を掲載した。	8年度も10月と3月の2回、その時々により市中に関心の高い健康情報について掲載する予定。(分野については未定)
---	---	---

発症予防・重症化予防

身体活動・運動

こころの健康・社会とのつながり

イエローグリーンキャンペーンへの参画

受講喫煙をしたくないという意思表示を表す取り組みに賛同し、宮城県医師会主宰の協議会のメンバーとして、県内でのキャンペーンの普及啓発を協働している。	宮城県医師会主宰の協議会に参加し、禁煙週間中、建物の一部をライトアップし、受動喫煙防止について普及した。	他の団体と協働し、世界禁煙デー(5/31)を中心に、協会会館のライトアップを行い、広く受動喫煙防止についての関心を高め、併せて、禁煙防止についても啓発する。
---	--	--

飲酒・喫煙

社会環境の改善・整備

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

自発的な労働安全衛生対策に取り組むための意識啓発

安全衛生対策に取り組む事業者が社会的に評価される環境整備を行うことにより、事業場における労働者の健康管理、メンタルヘルス対策を推進する。

第14次労働災害防止推進計画の周知及び展開(令和5年度から令和9年度)及びSafe work向上宣言の取組勧奨を行った。

第14次労働災害防止推進計画の周知及び展開(令和5年度から令和9年度)及びSafe work向上宣言の取組勧奨を行う。

社会環境の改善・整備

受動喫煙防止対策

受動喫煙防止のためのガイドラインの周知及び中小企業事業主による受動喫煙防止のための施設設備の整備に対して助成をすることにより、事業場における受動喫煙防止対策を推進する。(一定の要件あり)

ホームページ、メルマガでの周知を行った。

ホームページ、公式Xでの周知を行う。

飲酒・喫煙

事業場におけるストレスチェックの実施の推進、従業員のメンタルヘルス対策の推進・支援体制の強化

集団指導、説明会を通じて、事業場内の労働衛生管理体制の確立、ストレスチェックの実施の推進を図る。また、ストレスチェックの実施が義務である事業場に対しては、確実に実施するよう指導を行い、義務となっていない事業場に対してはストレスチェックの実施を促す。

50人以上の事業場について、ストレスチェックの未実施が認められた場合は行政指導を行い是正を図り、努力義務の50人未満の事業場に対しては厚生労働省版ストレスチェック実施プログラムダウンロードサイトを案内して勧奨した。

第14次労働災害防止推進計画の周知及び展開(令和5年度から令和9年度)50人以上の事業場におけるストレスチェックの確実な実施について指導を行うとともに、50人未満の事業場におけるストレスチェックの義務化を見据え、小規模事業場ストレスチェック制度実施マニュアルについて周知を行う。

こころの健康・社会とのつながり

職場における健康確保対策の推進

職域における健康診断の実施及び健康診断の結果、項目に異常が認められた労働者に係る就業上の意見を医師から聴くことについて、周知・指導を行う。労災保険の2次健康診断給付制度について活用促進のため、周知をする。

各種指導を通じて健康診断の実施及び健康診断実施後の事後措置について周知・指導を行うとともに、労災保険の2次健康診断等給付制度について周知を図った。

各種指導を通じて健康診断事後措置(有所見者に対する意見聴取(就業判定))の徹底について周知・指導を行うとともに、労災保険の2次健康診断等給付制度の活用による2次健康診断の実施を促進する。

発症予防・重症化予防

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

がん検診・がん生活習慣病健診の受診者が、安心して受診できるよう環境の整備・普及啓発活動

がん検診・がん生活習慣病健診の受診者が、安心して受診できるよう環境の整備・普及啓発活動を実施する。

2024年にリニューアルした施設の維持管理を行い、よりきれいな施設で受診者が安心して受診できるよう、配慮した環境作りを行った。

がん検診・がん生活習慣病健診の受診者が、安心して受診できるよう環境の整備・普及啓発活動を行う。

発症予防・重症化予防

職場のメンタルヘルス相談窓口の設置と、職員へのストレスチェック

職場のメンタルヘルス相談窓口の設置と、職員へのストレスチェックを実施する。

積極的に面談の機会を設けた。

職員のメンタルヘルス相談窓口を継続する。

こころの健康・社会とのつながり

禁煙についての啓発

禁煙についての啓発ポスターを掲示し、職場内・勤務中の禁煙を指導する。

禁煙についての啓発ポスターの掲示や職員の健康診断等で、指導した。

禁煙についての啓発ポスターを提示するとともに、職場内・勤務中の禁煙を周知する。

飲酒・喫煙

定期健診を受診する機会の提供

例年同様に職員全員に定期健診を受診する機会を提供する。インフルエンザの予防接種を受ける機会を提供する。

アルコール消毒スプレーを設置し、検温・換気を実施し、正しい手洗いの励行、マスクの着用などの指導を行った。

未受診者や精密検査該当者への受診勧奨を行う。正しい手洗い、マスク着用、アルコール消毒、検温・換気を実施する。インフルエンザなどの感染症予防接種の受診機会を提供する。

発症予防・重症化予防

がんに対する知識やがん検診を受診することの大切さの啓発

がんに対する知識やがん検診を受診することの大切さを、市民向けがん講演会や企業・教育機関に向けたがん教育などを通して普及する。

がん征圧月間として9月に講演会の開催やラジオCMなどで周知強化を行った。また、大学・専門学校の学生を対象にしたがん教育を実施し、がん検診の重要性を伝えた。

がんに対する知識やがん検診を受診することの大切さを、市民向けがん講演会や企業・教育機関に向けたがん教育などを通して伝える。

発症予防・重症化予防

バランスの良い食事と適切な運動の周知

塩分を抑えたバランスの良い食事と適切な運動をするよう周知する。

職員の健康診断等で、指導した。

塩分を抑えたバランスの良い食事と適切な運動をするよう周知する。

栄養・食生活

適切な有給取得の励行

職員が適切に有給休暇の取得ができるよう、声かけを実施する。

有給休暇取得状況の確認等を行った。

労働基準法等の周知を行い、職員が適切に休みを取れるよう声かけを実施する。

こころの健康・社会とのつながり

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

①未来の健康をつくる生活習慣病予防

・特定健診・基礎健診等の受診勧奨及び受託実施 ・中小の事業所を中心とした職域における定期健診の受診項目の充実	健診項目が充実し、費用補助がある健保健診への誘導、労災二次健診、精密検査未受診者への受診勧奨に力を入れた	人間ドックを推進することで、より詳細な健診項目を実施し、生活習慣病の早期発見を進める。オプション検査の充実を図る。
---	--	---

発症予防・重症化予防

②肺がん検診の受診勧奨及び受託実施、たばこ対策による生活習慣病予防の推進

パンフレット等の配布により喫煙や肺がん検診に関する情報を提供し、禁煙の啓発を行う。	新規 JKAが主催する自転車競技会でパンフレットの配布や検診車の展示をし禁煙の啓発活動をおこなった。また、仙台市肺がん結核検診では日曜健診を実施し、啓発ブース内で啓発活動を実施した。 イエローグリーンキャンペーンのライトアップに参加した。	重喫煙者に対する肺がん検診として実施してきた喀痰細胞診検査の有効性を説明し受診勧奨に力を入れる。結核・呼吸器感染症予防週間や各種大会、チラシの配布を通じて、結核を含む感染症及び生活習慣病の正しい知識や検診の重要性についての普及啓発を行う。 イエローグリーンキャンペーンのライトアップに参加する。
---	--	--

飲酒・喫煙

発症予防・重症化予防

③職域における心の健康づくりの推進

・職域におけるストレスチェックの推進及び受託実施 ・長時間勤務労働者等の産業医による面接指導の実施	事業所に対しストレスチェックを行い、中小企業のこころの健康を保てるよう支援した。また、産業医を受託し、長時間勤務の労働者に面接指導を行った。50名未満の事業所に就業区分記載の対応をした。	宮城労働基準協会と連携し、50名未満の事業所へのストレスチェックを引き続き進める。
--	---	---

こころの健康・社会とのつながり

④結核検診及びBCG接種、HIV・梅毒検査等による感染症予防の推進

感染症予防に関する普及啓発、各種ワクチン接種や検診・検査を推進する。	従来より小型の健診車を作成し狭小地での検診実施をおこなった。 仙台市が実施する夜間休日HIV・梅毒検査を実施した。学生のB型肝炎および小児ワクチン接種を実施した。	胸部検診は、ハイリスク集団への検診の実施やリフト付き検診車、ポータブル撮影装置を用いた施設検診の充実など、高齢者の受診機会の拡大にも引き続き努める。また、引き続き喀痰細胞診を実施し、高危険群の取りこぼししないように努める。 HIV・梅毒検査、各種ワクチン接種による感染症予防を促し、感染症予防の普及啓発を継続して行う。
------------------------------------	--	--

発症予防・重症化予防

⑤特定健診や基礎健診結果に基づく特定保健指導や栄養指導による生活習慣病予防・改善の推進

健診結果に基づき、栄養指導や特定保健指導を実施。食生活や身体活動等の支援により生活習慣病予防・改善を推進する。	特定保健指導や栄養指導により、対象者が生活を振り返り、自ら改善点等に気づき、行動に移すことができるよう支援した。	対象者の健康意識が高まっている健診当日に特定保健指導の初回面談をより多く実施できる体制を強化する。
---	--	---

栄養・食生活

身体活動・運動

飲酒・喫煙

発症予防・重症化予防

⑥尿ナトリウム比検査実施による高血圧予防・改善の推進

尿ナトリウム比検査を実施し、食生活における塩分と野菜の摂取バランスを把握し、高血圧予防・改善を推進する。	新規 バジメーターで野菜の摂取量と塩分摂取量を調べ、高血圧予防や改善をおこなえるよう支援した。	仙台市国民健康保険特定保健指導積極的支援利用者を対象に尿ナトリウム比検査を継続して行う。 引き続き、当施設や巡回健診でのオプション検査で、尿ナトリウム比検査を行う。
--	---	---

栄養・食生活

発症予防・重症化予防

事業・取り組みの概要

令和7年度の実施状況

令和8年度の事業計画

関連分野

事業名(取り組み名)とその説明

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

特定健診、特定保健指導及び保健指導の実施、生活習慣病予防の取り組み

健診結果の見方を伝え、メタボリックシンドローム及び特定保健指導に関する判定を行い、生活習慣改善についての情報提供・行動目標を設定(身体活動量・食事バランス)や実践のサポート等、保健指導や啓発を行う。重症化予防対策として医療勧奨も同時に実施する。

仙台市集合健診(被扶養者)や企業において、特定保健指導を受けやすいよう、健診当日の面談実施を推進し、特定保健指導実施者数が増加した。

各健康保険組合や企業・団体と連携し、健康への意識が高まる健診当日に特定保健指導の実施を推進する。

発症予防・重症化予防

健康づくりに取り組む企業への講師派遣、QOLの維持、向上の推進を図る

各種団体が主催する健康教育・研修会等に講師を派遣し、感染症や生活習慣病予防、健康に関する正しい知識を普及する。

希望内容に応じて、対象者の環境を踏まえたポピュレーションアプローチ、運動の実践、新しい情報にリニューアルした健康情報やレシピを提供した。施設健診では骨密度の検査及び食事・運動の情報提供及び指導、医療受診勧奨を個別面接で実施した。

生活習慣病予防の一環として、運動、食生活の講話・個別指導依頼があった企業や大学に、健康運動指導士、管理栄養士など内容に応じて講師を派遣する。骨密度検査を実施し、骨粗鬆症予防の食事・運動指導を実施する。

発症予防・重症化予防

身体活動・運動

栄養・食生活

禁煙に関する情報提供

喫煙者には、健診結果にたばこに関するリーフレットを同封する。健康づくりに取り組む企業へ、喫煙のリスクの情報提供(ポスター、肺がんモデルなど)をする。

特定保健指導及び保健指導時にも喫煙リスクを伝え、禁煙を促すリーフレットを活用した。健康づくりに取り組む企業には、ポスターの作成、肺がんモデル、受動喫煙についてなどの情報提供を実施した。

特定健診及び特定保健指導時の禁煙リーフレット等を活用し、禁煙推進を強化する。

飲酒・喫煙

生活習慣病予防・がん対策に向けた検査項目の充実、健康経営を宣言している企業のサポート

生活習慣病予防に向け、オプションで受けられる検査項目を充実させ啓発していく。健康経営宣言をしている企業に対し、健康事業、重症化予防のサポートをしていく。

10種類20項目以上のオプション項目を提供し、受診者の方々に利用していただいた。また健康まつりを企画し、検査や講話などを行い、健康への関心、知識を広めていただくキッカケを支援した。

各健康診断と同時実施できるよう多種類のオプション項目を準備し、受診勧奨を行う。特に顧客ニーズの高い上部消化管内視鏡検査の体制拡充を図り、受診者数の増加に取り組む。

発症予防・重症化予防

事業・取り組みの概要

事業名(取り組み名)とその説明

令和7年度の実施状況

特に力を入れたこと、効果的だった取り組み等

令和8年度の事業計画

特に力を入れていくこと、新規・拡大の取り組み

関連分野

健康づくり 運動・スポーツ習慣化の促進(1)

仙台市民レクリエーションまつり こども～高齢者まで幅広い層にニュー スポーツやレクリエーションダンス、昔 遊びなどをとおして運動やレクリエー ションの楽しさを伝え、運動・スポーツ の習慣化のきっかけづくりを目標とし ている。	第26回仙台市民レクリエーションまつ りの実施(6/29 シェルコムせんだい) ニュースポーツやコマ、けん玉などの昔 遊びはこどもから高齢者、性別に関係 なく楽しく体を動かすきっかけとなっ た。また大学の協力も得て、健康測定な ども実施し、家族そろって参加いただい た。	第27回仙台市民レクリエーションまつ りの実施(6/28 シェルコムせんだい) これまで昔遊び、ニュースポーツ、レクリ エーションダンス、健康測定に加えて、 健康ムエタイ体験など加盟団体の協力 を得て、さらに充実した内容を計画して いる。
--	--	---

身体活動・運動

健康づくり 運動・スポーツ習慣化の促進(2)

仙台市高齢者生きがい健康祭(ニュー スポーツコーナー) 運動・スポーツの楽しさ体験、運動・ス ポーツへの入口としてのイベント。	第27回仙台市民高齢者生きがい健康 祭(9/27 勾当台公園いこいの広場) 輪投げ、バツゴーなどシューティング系 ニュースポーツを体験いただいた。	第28回仙台市民高齢者生きがい健康 祭(未定 勾当台公園いこいの広場)フ レイル予防や健康測定と関連した内容 を検討している。
--	--	--

身体活動・運動

健康づくり 運動・スポーツ習慣化の促進(3)

仙台市レクリエーション協会ニュー スポーツ大会(新たなスポーツ機会の創 出) 運動・スポーツの楽しさ体験、運動・ス ポーツへの入口としてのイベント。	第15回ニュースポーツ大会(2/11 宮 城野区体育館)フィンランド発祥の屋外 競技「モルック」を体育館などでも楽し めるように工夫・アレンジした「室内モ ルック」を体験いただいた。	第16回ニュースポーツ大会(1/31 宮 城野区体育館)フレイル予防や認知症予 防に関連した内容を検討している。
--	---	--

身体活動・運動

4. 仙台市の取り組み事業一覧

4. 仙台市の取り組み事業等一覧

推進の視点1 健康状態の改善 栄養・食生活

方策の柱

- ①望ましい食習慣の形成へ向けた啓発・支援
- ②食を通じた健康づくりの実践へ向けた啓発・支援
- ③食を通じた健康づくりを支える体制整備

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
母子健康手帳交付、母親教室等での啓発	妊婦及びその家族に対する妊娠・出産・育児について必要な知識や技術の啓発・支援、育児の仲間づくりの推進を図る。	妊娠中の食生活の確認と、家族を含めた健康的な食習慣について、集団指導及び個別相談を実施した。	・対象者のニーズや生活背景に即した個別相談により、必要な保健指導を実施し、妊娠中の食生活の確認と、家族を含めた健康的な食習慣について啓発することができた。 ・集団指導や個別相談を通じて、妊産婦や家族が妊娠期に必要な栄養や望ましい食生活について学ぶ機会となった。 ・食生活や生活習慣を振り返り、減塩や栄養バランスの改善など、できることから実践しようとする意識づけにつながった。	【母子健康手帳交付時保健指導】 妊娠届出数:6,366件 【母親教室等での保健指導】 教室等開催回数:112回 参加人数延2,158人(妊婦1,419、パートナー等739)	・母親教室では、妊娠期の望ましい食生活に加え、血糖・血圧管理や糖尿病・高血圧予防の視点を取り入れた集団指導を実施する。 ・尿ナトリウム比測定等の客観的評価を活用し、家庭での食事や生活習慣の見直しを促す。	こども若者局 各区 各総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
離乳食教室	乳児を持つ保護者・家族に対する離乳食の進め方や工夫、望ましい食習慣の確立、健全な咀嚼機能の育成に向けての支援を実施する。	・月齢にあわせた離乳食の進め方について、集団指導及び個別相談を実施した。 ・咀嚼機能の獲得と歯のケアについても併せて啓発した。	集団指導や個別相談により、乳児を持つ保護者・家族に対する離乳食の進め方や望ましい食習慣の確立、健全な咀嚼機能の育成に寄与した。	開催回数 66回 参加組数 609組 個別相談 延344人	・内容や手法・媒体等の見直しを行いながら、より分かりやすい指導の充実を図る。 離乳食の実物展示を継続する。	こども若者局 各区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
育児相談会での栄養指導	栄養士の相談による乳幼児期の食生活についての支援を実施する。	・乳幼児の栄養相談を実施した。 ・幼児食への移行・幼児期の望ましい食習慣についての講話、グループワークを実施した。	・食生活についての不安や疑問を解消・軽減することにつながった。 ・望ましい食生活の情報を得る機会となった。	開催回数 66回 相談件数 延206件	区ごとに開催方法を検討し、より対象者に合わせた細やかな栄養相談を受けられる体制を整備する。	各区	家庭健康課
幼児健康診査(1.6、2.6、3歳児)および事後指導	幼児期の望ましい食生活についての啓発・支援を実施する。	・幼児健診(2歳6か月児)における集団指導を実施した。 ・幼児健診(1歳6か月・2歳6か月・3歳児)における個別相談、継続指導が必要な者への事後指導の実施した。 ・肥満度15%以上の児への栄養指導を実施した。	・幼児を持つ保護者や家族が幼児期の望ましい食生活について学ぶことで、食生活を見直したり、考える機会となった。 ・栄養士に相談することで、食生活の不安や疑問を解消・軽減することにつながった。	集団指導:2歳6か月児 190回 6,496人 栄養指導: 1歳6か月児 848人、 2歳6か月児 604人、 3歳児 465人 事後指導: 1歳6か月児 53件、3歳児 76件	肥満や将来の生活習慣病につながる食習慣を改善する方法についての啓発や指導を継続して実施する。	こども若者局 各区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
訪問栄養指導事業	栄養士(訪問栄養相談員または職員)の訪問による食生活改善の支援を実施する。	・訪問栄養相談員の委嘱、研修等による育成を実施した。 ・個々の生活環境に合わせた望ましい食習慣形成に向けた離乳食・幼児食の進め方の支援を実施した。 ・家族の食事内容も含めた指導を実施した。	・栄養士による個別相談を通じ、調理経験の少ない市民や乳幼児を持つ保護者が、生活環境や家族状況に応じた具体的な食生活改善方法を学ぶことができた。 ・特に離乳食・幼児食について、形態や内容、食べさせ方等の課題に気づき、正しい進め方や望ましい食習慣への理解が深まった。 ・食に関する不安や疑問の解消・軽減、家族全体の食生活改善につながる事例が見られた。	【全市】 訪問栄養相談員 23名委嘱 【訪問実績】 乳幼児:435件(うち職員対応 10件)、妊産婦:3件、成人:2件	・母子保健事業等を通じた事業周知、広報を強化する。 ・訪問栄養相談員の育成を強化し、健康づくりの視点に基づく支援が行えるよう対応力向上を図る。	健康福祉局 各区 宮城総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
のびすくでの栄養相談等	離乳食、幼児食等の基本的な食習慣の形成に関するテーマを設けた、専門家によるグループでの相談や管理栄養士による個別相談を実施する。	○グループ相談:専門家(管理栄養士等)によるグループ相談の中で、離乳食、幼児食等の基本的な食習慣の形成に関するテーマを設けて実施した。 ・のびすく仙台・・・離乳食(1回)、幼児食(1回) ・のびすく宮城野・・・母乳について(2回)、離乳食(1回)、食育について(1回) ・のびすく若林、長町南・・・離乳食(各1回) ・のびすく泉中央・・・「育ちの楽校」栄養士さんに聞いてみよう～離乳食～(1回) ○食育推進事業「栄養相談」:管理栄養士による個別相談を実施。 のびすく仙台(6回)、のびすく若林(4回)	・離乳食、幼児食等の基本的な食習慣の形成に関する知識を深めることができた。 ・グループ相談では、質問に答えたり、当事者同士の交流を深めたりすることができた。	グループ相談8回 個別相談10回	相談者のニーズに合わせながら、継続して相談を実施する。	こども若者局	子育て応援都市推進課
保育所での畑作りとその収穫物を利用した食事作り	こども自身が体験を通して、食材や食の環境を意識し、食への興味・関心を育む。	・こどもによる作物の栽培の世話や成長の観察、収穫を通して、食育活動計画のねらいに基づいた働きかけを保育の中で実施し、食べる経験まで繋げた。 ・収穫物を計画的に給食のメニューへ取り入れた。	作物の栽培、収穫、収穫物による食事の提供により、こどもの食べる意欲、食への興味・関心を高めることができた。	・畑作りの計画を作成している。 市立31施設 私立149施設 ・収穫物を取り入れたメニューの提供施設と回数 市立 31施設 557回 私立 172施設 3,049回 ※私立については任意回答により、213施設中、180施設から回答を得た。	R7年度同様に実施する。	こども若者局	運営支援課
保育所における食育の充実	乳幼児期の健康な生活の基本としての「食を営む力」を育成する。	・各施設において、作成された年間食育計画・食育活動計画に基づき、保育の中で食育を展開した。 ・毎日の食事の提供や食事の場面を通して、食事マナーや食習慣、食事前後の衛生習慣が身に付くよう、こどもや保護者へ働きかけた。 ・各施設において、朝食をバランスよく食べることが増えることを目指して、こどもや保護者へ働きかけた。 ・幼児期からの継続・横断的な朝食摂取に関する啓発を実施した。(市立保育所における取り組み)	・こどもが食事マナーや食習慣を身に付けることができた。 ・保護者の乳幼児期の食事のあり方についての理解が深まった。 ・こどもや保護者へ、朝食の大切さを伝えることができた。	・年間食育計画を作成している。 市立31施設 私立180施設 ・食育活動実施施設数 市立31施設 私立180施設 ・朝食に関する働きかけ実施施設数 市立31施設 私立139施設 ※私立については任意回答により、213施設中、180施設から回答を得た。	R7年度同様に実施する。	こども若者局	運営支援課
児童生徒の保護者への啓発	給食だより等を通じて、保護者の食への意識向上を図る。	献立表や給食だより等を通じて、望ましい食習慣形成の啓発を実施した。	献立表や給食だより等を通じて広く給食に関する啓発を行うことができた。	月1～2回	献立表や給食だより等を通じて、望ましい食習慣形成の啓発を行う。	教育局	学校給食課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
給食試食会や調理講習会の実施	各学校における保護者対象の給食試食会や給食センターにおける市民向けの調理講習会を実施し、食育の推進を図る。	給食試食会や調理講習会における、講話や給食の試食を通じて、「望ましい食事」や「成長期に必要な栄養」等について理解を深めた。	講話や給食の試食を通じて、食育の推進を図ることができた。	試食会 年1～3回 調理講習会 年1回	給食試食会や調理講習会における、講話や給食の試食を通じて、「望ましい食事」や「成長期に必要な栄養」等について理解を深める。	教育局	学校給食課
学校における「食に関する指導」の充実	食に関する指導の充実を図るため、「食に関する指導推進研修会」を開催する。	・「食に関する指導の手引 第二次改訂版」を活用し、各教科における食に関する指導や給食時間の指導の充実を図った。 ・「食に関する指導推進研修会」を開催し、「子供の健やかな体・心・脳のための食事と栄養」と題して外部講師が講演を行い、食に関する指導の充実を図った。	・「食に関する指導の手引き 第二次改訂版」を活用した効果的な指導を計画的に実施するなど、各学校において体系的・組織的な食育の推進が図ることができた。 ・「食に関する指導推進研修会」を開催し、食に関する指導の充実を図ることができた。	年1回(令和6年の参加者は180名)	・「食に関する指導の手引 第二次改訂版」を活用し、各教科における食に関する指導や給食時間の指導の充実を図る。 ・「食に関する指導推進研修会」を開催し、外部講師が講演を行い、食に関する指導の充実を図る。	教育局	学校給食課
小・中学生を対象とした講座等による啓発	学齢期の生活や成長過程に合わせた適切な食習慣づくりについての啓発、生活習慣病予防のための食生活についての啓発を実施する。	児童館、小・中学校での健康教育を実施した。	・小・中学生が食品の働きや朝食の大切さ、甘味飲料、脂肪や食塩のとり過ぎのリスクについて学び、自分の食生活を振り返り、改善に向けて目標を立てることができた。 ・虫歯予防と併せ肥満予防として飲み物に含まれる糖質量について講話し、普段の飲み物を見直すきっかけとなった。	13回 延728人	・連携校を増やす。 ・児童にわかりやすい教材を活用する。 ・他事業と抱き合わせで実施するなど積極的に食について啓発する。	宮城野区 若林区 泉区	家庭健康課
人形劇DVDによる児童(保育園等、小学校、児童館)及び保護者への啓発	児童への健康づくりについての情報提供及び家族で考える機会を提供する。	管内保育園等、小学校、児童館で食生活、歯と口、防煙の3分野をパッケージ化した人形劇のDVDを上映した。	食生活(朝ごはんの大切さやおやつのととり方)、歯と口の健康、たばこ、について家族で考える機会となった。	7施設(保育所1、保育園2、認定こども園2、児童館2)211名	啓発内容、媒体を見直し、望ましい食生活の実践を促す。	太白区	家庭健康課
おやつレシピコンテスト	子どもとその保護者、学生に向けた望ましい食習慣形成への啓発強化を図る。	・専門学校生考案のおやつレシピコンテストを開催し、審査員として食育サポーター、専門学校教員を依頼した。 ・受賞レシピや動画をホームページで公開するほか、幼児健診や児童館、保育所等で配布、食育情報交換会で紹介した。	・専門学校生が健康なおやつについて考えるきっかけとなった。 ・幼児を持つ保護者が適切なおやつのととり方を考え、実践するきっかけとなった。 ・コンテストを通じて地域で食育に取り組む団体との関係づくりができた。また、地域で一体的に取り組む食育の一つのツールとなった。	応募数 12作品 レシピ等普及用資料配布 1,912部 調理動画再生数 285回 ホームページ閲覧数 368件	入賞レシピの活用を検討する。	宮城野区	家庭健康課
六郷健康レシピ配布	令和5年度まで実施した六郷健康づくり事業の一環で六郷地区で活躍する女性団体や青葉学院大学と協働で、地元野菜と減塩の内容を盛り込み作成した六郷健康レシピを配布する。	・市民まつりにおいて、レシピ協働開発先の女性団体と協働で、尿ナトリウム比測定と塩の量測定と合わせて、健康レシピを配布し、自宅での取り組み方法を伝えた。 ・仙台防災未来フォーラムで、レシピ協働開発先の女性団体と協働で、レシピ開発のパネル展示と、レシピを配布した。	市民まつり等住民が集まる機会を捉えてレシピ開発者の女性団体と健康レシピを配架。地元野菜や健康について考えるきっかけができた。	レシピ配布:162部	市民まつり等で健康レシピを配布する。	若林区	家庭健康課
幼児食育連推進事業	食育媒体の貸出や食育情報を提供し、保育所(園)、認定こども園、幼稚園食育での取り組みを支援する。	食育教材(エプロンシアターやデジタル媒体)の貸出や、食育情報(生活リズム、野菜などの調理工夫、おやつや飲み物のとり方など)を提供した。	・園職員への知識の普及、園での食育の取り組みを支援することができた。 ・園児の野菜への興味関心が高まった。	参加施設:6施設(保育園4、認定こども園1、幼稚園1) 資料配付:340部	事業周知を強化し、連携施設を増やす。	太白区	家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
常備菜レシピ啓発事業	バランスの良い食事摂取及び災害時の食事の確保を目的とした、常備菜レシピを活用した健康教育や講座の実施、レシピ集を周知する。	・母親教室でのレシピ集の配布と野菜の摂取状況、レシピ集の活用についてのアンケートを実施した。 ・レシピ集を活用した健康教育・講座を実施した。	母親教室でのアンケートより、レシピ集を活用した人は34.5%、活用してみようと思った人は63.8%であり、多くの方が常備菜に興味を持った。	調理実習講座1回 4組(大人4名、小学生4名) レシピ集の配布:274部 レシピカード・チラシ:244部	・母親教室でのレシピ集の配布とアンケートを実施する。 ・離乳食や幼児食への活用も含めた啓発を行う。 ・レシピ集を活用した健康教育・講座を実施する。	青葉区	家庭健康課
大学・専門学校生など若い世代への啓発	青年期における健康的な食生活の重要性と改善への啓発を行う。	・実施区管内の専門学校・大学等へニュースレター・健康情報(データ・紙面)を発行した。 ・学校への学生の生活状況聞き取りを実施した。 ・大学での健康教育を実施した。 ・大学祭での野菜摂取度測定、ボードアンケートを実施した。	・ニュースレター等を活用し、減塩や朝食、栄養バランスの大切さについて専門学生へ啓発を行い、生活状況や健康課題の把握につながった。 ・野菜摂取量の客観的把握などを通して、若い世代が自身の生活習慣を振り返り、改善を考えるきっかけとなった。 ・学生へのアンケート調査の結果、朝食欠食が国と比較しても多いことが確認された。自由記載では改善の意向も見られており、アンケートに回答することで学生自身が生活習慣を見直すことにもつながった。	学校等への啓発物配布: 青葉区 25施設、2回 太白区 2施設、3回 講話: 太白区 1施設、1回、135人参加 アンケートの実施:宮城野区 11校、回答者数899名	・ニュースレターや大学祭等を活用し、健康課題に基づいた適切な食生活や望ましい生活習慣について継続的に啓発する。 ・野菜摂取度測定など客観的評価を取り入れ、大学等と連携しながら食生活の振り返りと改善につなげる。	青葉区 宮城野区 太白区 泉区	家庭健康課
研修会による食育の推進	健康教育研修会として、食育に関する研修会を実施する。	せんだいっ子健康セミナー(健康教育研修会)を実施した。	教職員・保護者・市民が望ましい食習慣・生活習慣・運動習慣について理解を深めることができた。	年1回(令和7年食習慣の講演参加者は72名)	せんだいっ子健康セミナー(健康教育研修会)を実施する。	教育局	学校給食課
「朝ブラ!〜朝ごはんはプラスワン」事業	保育所、学校、区役所・総合支所において同一ツールを活用した、朝食の習慣化、朝食内容の改善に向けた啓発を行う。	・令和6年度より開始 【市立保育所、市立学校(園)・学校給食センター】 ・給食日より等で、「朝ブラ!」ロゴマーク、媒体を活用した啓発。 ・保護者懇談会、授業等での「朝ブラ!」の内容啓発。 【区・総合支所】 ・乳幼児及びその保護者向けの事業、健康教育等において「朝ブラ!」の内容の啓発。 ・「朝ブラ!」ロゴマークを活用した食育資料の配布。 【健康政策課、運営支援課、健康教育課】 ・食育推進連携キックオフミーティングの企画・運営。 ・「朝ブラ!」ポスターの作成、配布。 ・「朝ブラ!」事業実施方法の検討、アンケートの実施。 ・「朝ブラ!」レシピの配布による朝食摂取の啓発。	・「朝ブラ!」の共通ツール(媒体)やロゴを活用し、朝食摂取と栄養バランスの重要性について、市立保育所・学校・地域住民まで幅広く啓発を実施した。 ・ニュースレターや母親教室、親子料理教室等を通じ、特に朝食欠食率の高い青年期・壮年期を中心に、実践につながる工夫を伝えた。 ・健康教育や各種イベント、関係機関との連携により、資料配布や展示を行い、接触機会の拡大を図った。 ・朝食の必要性や理想的な内容への理解が深まり、自身の朝食や食習慣を振り返り、改善への動機づけにつながった。	○食育推進連携事業キックオフミーティング:区・総合支所、健康政策課:16名、市立保育所、運営支援課:28名、市立学校・給食センター、健康教育課(現・学校給食課):31名 参加 ○「朝ブラ!」ポスター配布:計417施設 【区・総合支所の取組】 ○健康教育等での資料配布:163回6,653部 ○大学・専門学校との連携による資料(データ)の送付:8回 延38校 ○共通媒体を使用した講話の実施:76回 延べ1,423人 【市立保育所の取組】 ○ロゴマークおよび共通媒体の活用:31施設 延260回 ○ポスターの掲示:31施設 ○共通媒体を使用したこともへの働きかけ:4施設 延5回 【市立小学校、中学校、高等学校、学校給食センターの取組】 ○ロゴマークや共通媒体の活用:延132施設 延406回以上 ○ポスターの掲示:79施設 ○共通媒体を使用したこともへの働きかけ:35施設 延146回以上	・母親教室や幼児健診、離乳食教室などの機会を活用し、「朝ブラ!」のロゴを用いた継続的な啓発を行う。 ・デジタルサイネージや庁内放送、9月の強化月間のレシピ配布等により、事業名の浸透と朝食摂取の推進を図る。 ・関係施設での情報共有やアンケート結果を踏まえ、資料や媒体を見直しながら啓発の場を拡充していく。	健康福祉局 こども若者局 教育局 各区 各総合支所	健康政策課 運営支援課 学校給食課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
朝食摂取啓発事業	幼児、小学生の親子を対象に、朝食摂取の大切さ規則正しい生活習慣について講話し、基本的な食習慣を身につけるきっかけとする。	・朝ごはんの大切さや規則正しい生活習慣、歯のケア、飲み物とり方(甘味飲料の糖質量)などの講話や作成したDVDを上映した。 ・朝ごはん啓発資料(組み合わせの工夫、レシピ紹介など)を配布した。	・朝食摂取の大切さや望ましい生活について児童及び保護者へ啓発することができた。 ・児童館での講話後の児童向けアンケートでは、毎日朝ごはんを食べていないと回答した7名の児童のうち5名が1週間の朝食摂取回数が増加した。 保護者向けアンケートでは、保護者自身の朝ごはんも見直したいとの感想もあり、意識の変化につながった。	1.児童向け啓発(講話) 児童館児童クラブ登録児童 1回46人 2.保護者向け啓発 児童館児童クラブ登録児童の保護者 1回18人 3.啓発DVDの上映 児童クラブお祭り 1回33名(児童21人、保護者12人)	地域を広げて啓発する。	太白区	家庭健康課
減塩のための啓発事業	循環器疾患の危険因子である高血圧を予防・改善するための減塩プログラム事業を実施する。	①生活習慣病重症化合併症予防事業として、尿ナトリウム比測定を含む減塩セミナーを開催した。 ②減塩啓発ミニイベントとして尿ナトリウム比測定会、減塩レシピの試食配布を実施した。 ③健康度測定で尿ナトリウム比測定を実施した。	尿ナトリウム比測定で自身のナトリウム比を知ることによって減塩や積極的なカリウム摂取の意識づけにつながった。また、減塩レシピの試食では普段の味付けの濃さを振り返る機会となった。	①1回 21人 ② 4回 延べ220人 ③8人	年間を通じて定期的に行えるよう尿ナトリウム比測定の機会を増やす。	健康福祉局	健康増進センター
食育月間事業、食育の日の啓発	6月の食育月間および毎月19日の食育の日における食育の啓発を行う。	・パネル展の実施、庁内放送、庁内デジタルサイネージ、啓発資料の配布による食育啓発を実施した。 ・関係機関(児童館、市民センター、図書館、食生活改善推進員等)と連携してのパネル展実施・啓発物の掲示等を実施した。 ・食育月間についてSNSで発信した。	食育月間や食育の日を捉えて、広く食育に関する情報発信をすることで、市民が健康的な食習慣(栄養バランスや朝食の大切さ等)について知り、自身の食生活を振り返る機会となった。	・パネル展 7回 ・資料等配布 6,842部 ・庁内放送 83回 ・関係機関・団体との連携による取組:38施設(団体) ・Facebook、Instagramの配信 各1回	・関係機関との連携を図りながら、市民が食育に関心を持てるような企画、啓発を実施する。 ・食育の啓発を通じて市民が自身の食生活の振り返りの機会や、改善のきっかけとなるよう働きかける。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
健康お役立ちレシピコンテスト	市民が考えた健康的な食事のレシピの募集および市民への還元により、市民が主体となった健康的な食習慣づくりを推進する。	・「もっと野菜を！『手軽にプラスワン野菜レシピ』をテーマにレシピを募集。募集にあたり市内の保育所、小学校、市民センター等に広くチラシやポスターを配布し、周知した。 ・健康長寿産業連合会との連携により、インフルエンサーマーケティングを実施した。仙台市に縁のあるインフルエンサーによりInstagramでコンテストの周知、入賞レシピの作ってみた動画を配信していただいた。 ・仙台市食環境整備事業「仙台伊達なマルシェ-だてまる」登録店(デパート)での入賞レシピを活用したお弁当を販売した。	・インフルエンサーマーケティングにより、レシピコンテストに興味を持つ人や、入賞レシピの投稿を繰り返し閲覧する方が増えるなど、事業の認知度が上がり、活用者も増えた。 ・入賞レシピをお弁当化して販売することにより、健康レシピを調理できない人も楽しむことができた。自然に野菜が多く摂取できる食事が手軽に購入できることにつながった。	・R7年度コンテスト 応募レシピ 45件 ・デパートにおける入賞レシピを使用したお弁当の販売: 6日間 143食	だてまる登録店等による入賞レシピの活用(弁当等の販売)を検討する。	健康福祉局	健康政策課
骨粗しょう症検診事後指導	40歳、50歳、60歳の女性を対象とした「仙台市骨粗しょう症検診」の受診者のうち、要指導者に対して事後指導を実施する。	・仙台市骨粗しょう症検診で要指導があった者に対し、申込制での集団の講座や個別相談での事後指導を実施した。 ・食事を中心とした生活習慣等の状況の確認および栄養指導、生活習慣指導を実施した。	骨密度低下の原因となる食事内容や生活習慣を確認し、骨密度の維持に向けて、食生活等の改善への意識が高まった。	集団指導:3回 32人 個別指導: 28人	・周知方法を工夫し、食事等の改善方法を学ぶ場として活用を促す。 ・生活習慣改善につながる指導媒体を工夫する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
シニア世代向け介護予防栄養講座	高齢期における食の重要性について学ぶために、栄養士を派遣し、栄養バランスの取れた食事作りの実践や講話などを実施する。	・利用団体に対し、フレイル予防・高齢期の食事についての講話や調理実習を実施した。 ・利用団体を増やすため、1月に当該事業のチラシを作成し、各区支所、各地域包括支援センター、研修会等で配布した。	・参加者した方へ高齢期における食の重要性について啓発できた。 ・リハビリテーション専門職の派遣に併せて、広く周知を実施した。	実施回数30回、参加人数400人	申込方法に、オンライン申込も追加。また、申込件数が伸びてきているので、令和9年度以降の実施件数の拡大を検討する。	健康福祉局	地域包括ケア推進課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
低栄養・フレイル予防啓発	低栄養・フレイル予防のための食生活に関する健康教育や個別相談を実施する。	・低栄養・フレイル予防に関する健康教育を実施した。 ・介護予防サポーター集団指導を実施した。 ・訪問相談や電話、来所等による相談を実施した。 ・特定健診・基礎健診受診者に対する情報提供紙にフレイル予防の生活について掲載し、啓発を実施した。 ・パネル展示による啓発を実施した。	・啓発機会を広く設けることで、低栄養やフレイルに関する知識を得ることにつながった。 ・健康教育や相談等において、食生活の振り返りを行ったり、栄養士による個性に合わせた低栄養予防の方法について助言を得られたことで、低栄養やフレイルについての理解を深めることができ、食生活の改善の意識付けにつながった。	講座等：27回、延べ437人 個別相談・指導：延べ43人（うち訪問1人）	・管理栄養士等による低栄養予防の栄養指導・食事相談を周知する。 ・健康教育、個別相談等で対象者の状況に応じた対応を行う。 ・サロンや通いの場等での啓発を継続する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
大学生の食育プロジェクト	若い世代への食育啓発のため、同世代の学生が自らのアイデアで取り組みを実施する。	・病院管理栄養士の講話を実施した。 ・減塩についての啓発方法の検討、減塩に関する媒体を作成した。 ・子育てフェスタ＆健康フォーラムにて減塩啓発ブースを出展した。	・学生自身が減塩の必要性を理解し、媒体の作成やイベントでの食育活動を通じて、市民へ減塩について伝えることができた。	学生31名参加 企画会議および反省会の開催 6回 食育活動の実施（健康フォーラム出展）1回	引き続き減塩をテーマとした食育活動の手法について検討する。	健康福祉局	健康政策課
大学生が自ら実施する食育・健康づくりの啓発	大学生自らが実施する食育啓発等の取り組みの支援により、食育の実践力向上の機会を提供する。大学生など若い世代を対象とした食生活をはじめとする健康づくりの啓発を実施する。	東北生活文化大学、新たに仙台白百合女子大学と連携し、大学生へ若い世代の健康課題のレクチャーや「ハローフロスプロジェクト」および「朝ごはんにプラスワン「朝ブラ」」の啓発、大学祭でのパネル展示を実施した。	若い世代の健康課題や望ましい健康習慣について知ること、自分自身の生活習慣について見直す機会とすることができた。	・大学との情報共有：2校 ・大学祭でのパネル展示：参加者延べ271名 ・大学生への健康教育：2回79名	管内大学等と連携し、大学祭等にて、望ましい生活習慣等の啓発を行う。	泉区	家庭健康課
減塩レシピの提案	ホームページ等を活用し、食と健康に関する情報を幅広く発信することで、食を通じた健康づくりの実践について啓発する。	減塩レシピのホームページへの掲載、各種イベントや講座などで配布した。	簡単なレシピのため、料理に慣れない方やこれから始める方への実践につながり、食生活改善の一助となった。	減塩レシピ（主菜）のホームページ掲載年間6種類、イベント等での減塩レシピ（副菜）の配布年間6種類	市販品を活用したレシピなど実生活で容易に取り入れやすいよう考慮する。	健康福祉局	健康増進センター
ホームページ、動画を活用した情報発信	ホームページや動画を活用し、食と健康に関する情報を幅広く発信することで、食を通じた健康づくりの実践について啓発する。	【健康政策課】 ・ホームページ「せんだい食育ネット」による情報発信・レシピ紹介 【宮城野区】 ・ホームページへのレシピ掲載。 ・おやつ調理動画・幼児の肥満啓発動画の公開。 【太白区】 ・離乳食レシピ動画、地域と連携した食育動画、野菜食育プログラム連動レシピ動画、仙台特産野菜レシピ動画の公開。	・ホームページを通し、手軽に食や健康に関する情報を得ることで、健康づくりの実践に役立てることに繋がった。 ・食と健康に関する情報を都合の良い時間に視聴でき、理解度向上につながった。	【健康政策課】 「健康を支えるおいしい食事（毎日の食生活のヒント）」ページ 年間閲覧数1,114件 「レシピ紹介」ページ 年間閲覧数1,101件 【宮城野区】 ホームページ閲覧数：368回 動画視聴回数：285回 【太白区】 動画：13種 動画啓発：リーフレット配付 1,414部	発信内容の充実、動画啓発の強化を図る。	健康福祉局 宮城野区 太白区	健康政策課 家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
食肉の生食等、食習慣の変化により増加している食中毒などを未然に防止するための情報発信	食中毒防止のため、様々な形で情報発信・啓発を実施する。	・ホームページや各種講習会、動画配信等により啓発を実施した。 ・ホームページや市政だより6月号、SNSによる動画配信等により啓発を実施した。 ・市民向け各種講習会等(市政出前講座、市民向け食品衛生講習会、食品の安全性に関する市民向け講演会)を実施した。 ・せんだい食の安全サポーター事業の実施、せんだい食の安全情報アドバイザーによる食の安全の情報発信を実施した。	・ホームページでの周知や動画配信、多くの市民が参加できる講習会を開催するなど、広く市民が食中毒予防のための食行動について学ぶ機会となった。 ・せんだい食の安全サポーターの募集により、市民が食の安全の知識を得て、自らが情報を発信する役割を果たしている。	○パンフレットの配布:6,089部 ○市民向け講習会等:58回、1,094名 ○せんだい食の安全サポーター会議:3回 ○せんだい食の安全情報アドバイザーによる普及活動:2回 ○せんだい食の安全情報コミュニケーターによる普及活動:4回 ○SNSによる動画配信 ・Youtube 2回実施 ○シネアドによる啓発 ・期間中動員数 28,700名	特に若い世代に向けたリスクコミュニケーションの強化を図る。	健康福祉局	生活衛生課
仙台伊達なキッチン-だてきち	SNSを活用し、食と健康に関する情報を幅広く発信することで、食を通じた健康づくりの実践について啓発する。	・健康政策課Instagram、Facebook「仙台伊達なキッチン-だてきち」による、健康レシピ、簡単レシピ、食と健康情報を発信した。 ・健康長寿産業連合会との連携により、健康お役立ちレシピコンテストのインフルエンサー施策の実施。仙台に縁のあるインフルエンサーによるInstagramでの事業周知、作ってみた動画を投稿していただいた。	・InstagramやFacebookを活用している世代にとって、食に関する情報源となった。 ・インフルエンサーによる投稿により閲覧数が大幅に増え、レシピコンテストの認知度のアップにつながっただけでなく、レシピ投稿の閲覧数が増えており、レシピの活用が増えた。	Instagram 発信54回、フォロワー数583人(前年度比+96人) 閲覧数 39,252 Facebook 発信54回、フォロワー数139人(前年度比+8人) 閲覧数 8,482	・健康お役立ちレシピコンテスト、食環境整備事業と連動した情報発信を実施する。 ・興味を持ちやすいリール投稿を実施する。	健康福祉局	健康政策課
仙台市食環境整備事業「伊達なマルシェ-だてまる」	適塩や栄養バランスの良い食事につながる食品を販売、啓発するスーパー等の増加による、身近な場所で食を通じた健康づくりが実践できる環境づくりを推進する。	・事業者と登録にについての話し合い、媒体について検討した。 ・宮城県主催のみやぎ食環境づくりプロジェクト情報交換会へ参加した。 ・啓発チラシにより市民に事業を周知した。 ・登録店での取り組みを通した市民へ情報発信を実施した。 ・登録店(デパート)での健康お役立ちレシピコンテストと連動したバランス弁当を販売した。	・新規登録店舗の開拓のため、事業者へのPRや、登録を希望する店舗への説明などを実施した。事業者に対し、健康に関する意識を高めることができた。 ・減塩食品の製造・販売を行う食品関連事業者とも情報共有を行うことで、販売店舗での取組みに協力を得られた。 ・みやぎ生協で実施された減塩イベントに従事し、事業の啓発が行えた。 ・藤崎が新規登録となり、お役立ちレシピコンテストレシピを活用したバランス弁当を販売したことで、栄養バランスについての取組みが進み、調理しない市民でも手軽にバランスの取れた食事をとれる食環境づくりが前進した。	・登録店舗数 33店舗(R7.3月末時点) 【健康政策課】 ・店舗との打ち合わせ:2事業者、計4回 ・食品関連事業者との情報共有:5事業者、計8回 ・みやぎ食環境づくりプロジェクト情報交換会への参加、情報提供:1回	・媒体を検討する。 ・減塩や栄養バランスを考慮した食品を製造する食品関連事業者との連携を模索する。 ・管轄する地域のスーパー等へ事業の説明及び実施の支援を継続する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
食育サポーター支援	食育サポーターが知識や技術等学び、食育推進のための実践力がつくよう支援する。	・各グループのレシピ紹介を実施した。 ・おやつレシピコンテストの審査員(調理・試食審査)を依頼した。	・市民へ各グループのレシピを紹介し、郷土料理等紹介することができた。 ・食育サポーターの知識等を活かし、おやつレシピコンテストの調理審査において、専門学生へアドバイス等行うことができた。	レシピ配布27部 ホームページ閲覧数193部 おやつレシピコンテスト審査員:3団体	・おやつレシピコンテストの審査員を依頼する。 ・新しいレシピを掲載する。	宮城野区	家庭健康課
食育情報交換会	食育のネットワークの基盤を作り、教育・保育に携わる関係機関の協同による、子供の食育を推進する。	保育所(園)、認定こども園の食育担当者を対象とした食育情報交換会を開催した。	・施設間で連絡先を交換し、食育活動やレシピの共有が図られるなど、地域の食育のネットワークの基盤作りにつながった。 ・医師講話や情報交換により、肥満に関する基礎知識について理解を深め、肥満の状況や取り組みを共有できた。	2回・46人(46施設)	参加機関を増やす。	宮城野区 太白区 秋保総合支所	家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
若林区食育推進研修会	同じ地域で子どもたちやその保護者に関わる関係者を対象とした講演や情報交換を実施する。食育の重要性の再確認・お互いの取組や地域の課題共有による、地域における食育および健康づくりを推進する。	・講演会を開催し、食育の重要性を再確認すると共に、情報交換の時間を設け、他施設の取り組みや課題を共有した。 ・令和6年度は「遊んで動いて学ぶ 食育の実践」と題して講演していただいた。	・「食育で体を動かすということが新しい発見だった」「園で実践してみる」との声も聞かれた。 ・参加者にとって良い情報交換の時間になった。	16施設16名	肥満と運動をテーマにした講話を予定している。	若林区	家庭健康課
食育推進連携事業	健康福祉局、こども若者局、教育局栄養士の連携による一体的な食育の推進及び実施のための体制づくりを推進する。	・健康福祉局、こども若者局、教育局栄養士による食育推進のための情報共有・食育事業の推進のための栄養士連絡会議を開催した。 ・市立保育所、市立学校、区家庭健康課・総合支所保健福祉課による合同ミーティングを開催した。	・仙台市の特にこどもから子育て世代の食生活の課題を共有したうえで、「朝ブラ！～朝ごはんにプラスワン～」事業の実施を区役所・総合支所、市立保育所、市立学校で展開することにつながった。 ・各局の栄養士が仙台市の健康課題に目を向け、食育の内容にも取り入れながら、市民が健康的な食生活の実践できるよう、啓発を行うことができた。	・仙台市食育推進連携事業キックオフミーティング（令和7年5月12日） 参加者：75名 （内訳）区・総合支所、健康政策課：16名、保育所、運営支援課：28名、学校・給食センター、健康教育課：31名 ・栄養士連絡会議：年3回開催	主管課栄養士による連絡会の実施（年3～4回）により連携事業の実施内容及び評価を行う。	健康福祉局	健康政策課
特定給食施設等への栄養管理・衛生管理指導	巡回指導・電話等による個別の支援・指導び市内・各区管内施設対象研修会の開催による指導を実施する。	・全市・管内研修会を実施した。 ・巡回指導により栄養管理状況の確認及び指導を実施した。 ・電話等による栄養管理に関する相談対応を実施した。	各施設での適切な栄養管理・衛生管理の実施につながった。	研修会：6回 延345施設 巡回指導：延167施設 電話等での相談：31件	・巡回指導の増加や情報提供の充実による個別支援の強化を図る。 ・監視で指導や質問の多い内容を講話内容に盛り込む。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
食品表示指導	食品関連事業者に対する、食品表示法および健康増進法に基づく食品の表示についての相談および指導を実施する。	食品関連事業者からの窓口・電話での相談、監視指導や他自治体からの回付により発見した栄養成分表示等の不適切表示や虚偽誇大広告等について、適正な表示がされるよう指導した。	・適切な表示がされた食品の販売につながった。	相談・指導件数 食品表示法：延33件 健康増進法：延59件 市外からの回付 2件（青葉区）、東北農政局からの回付 1件（青葉区） 市外への回付 1件（若林区）	適切な指導に向けて、各区での監視指導状況や相談内容等の共有を実施する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
幼児食教室	幼児期の食生活及び家族全体の食事の見直しについて支援する。	離乳食から幼児食への移行・幼児期の望ましい食習慣についての講話、バッククッキングのデモンストレーション、グループワークを実施した。	大人の食事からの取り分けや調理工夫について知ること、離乳食や幼児食の調理に対する負担感の軽減につながった。	幼児食教室：集団指導 5回39組	講話やデモンストレーションについては、家族全体の食事の見直しを図る内容とする。	青葉区	家庭健康課

方策の柱

- ①身体活動量を増やすための啓発・支援
- ②体を動かすきっかけ・機会づくり
- ③歩く、動くことを後押しする環境整備

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
情報発信サイトアルークワーク仙台	健康情報や身体活動量増加につながるイベント等の情報をタイムリーに総括して発信し、周知啓発を図る。	・健康情報や身体活動量増加につながるイベント等の情報をタイムリーに総括して発信するための特設サイトを運営した。 ・10月～11月のアルーク・ウゴーク月間では市内の「歩くこと」に関する取り組みを集約したリーフレットを作成し、サイト内にイベントも掲載した。	地域イベント等をタイムリーに発信することで体を動かす機会の提供につながった。	総ユーザー数：28,826ユーザー	情報の更新、サイトの充実、検索機能の強化を図る。	健康福祉局	健康政策課
情報の発信	【新聞折込情報誌】河北ウィークリーに各スポーツ施設の情報を掲載する。 月1回×4ヶ月(8・10・1・2月) 月2回×6ヶ月(4・6・7・9・12・3月)	河北ウィークリー(新聞折込情報誌)に各スポーツ施設の情報を掲載した。 合計16回(3回：7月、2回：6、9、12月、1回：4、5、8、10、1、2、3月)	各スポーツ施設の情報を発信することで、日常的にスポーツに取り組める環境について、広く周知することができた。	令和7年度掲載回数：16回 合計16回(3回：7月、2回：6、9、12月、1回：4、5、8、10、1、2、3月)	河北ウィークリーに各スポーツ施設の情報を令和7年度と同等程度掲載予定(月の内訳はイベント内容によって変動)	文化観光局	スポーツ振興課
ウォーキングマップの作成、配布	ウォーキングに取り組むことを後押しするためのウォーキングマップを作成、配布する。	・快適に歩くための足のお手入れ(フットケア)リーフレットを作成、配布した。 ・ウォーキングのすすめ、ウォーキングコース(12コース)のマップの配布、ホームページへの掲載を実施した。 ・既存マップ、フットケアリーフレットをまとめてマップ集として作成、配布した。	コースや啓発内容が1冊にまとまったことで、情報が整理され、活用しやすくなった。	紙媒体配布 3,552部	各コースの情報を更新するとともに、ウォーキング以外の各種イベントや講座等でも配布を強化し、身体活動増加の啓発を推進する。	健康福祉局	健康増進センター
「いいね！スポーツ」せんだいアクティブライフスタイル推進事業	プロスポーツチームや関係部局等と連携し、運動を始めるきっかけや、運動に親しむ機会を提供することで、「仙台市スポーツ推進計画2022-2031」で目標として掲げる運動実施率向上を図る。	働く親世代をターゲットに、親子で参加可能なイベントを複数回実施した。	気軽に参加可能なウォーキングイベント、親子参加型のアーバンスポーツの体験教室を実施し、子どもだけでなく、保護者も一緒に体を動かす機会を創出した。	10/18 マイナビ仙台レディースコラボーイベント(122名) 11/3 発見！はじめてスポーツチャレンジフェスタ2025(延べ1,281名) 1/18 パルクール体験教室・ウォーキング(延べ740名) 3/1 アルーク・ウゴークSPECIAL DAY(延べ1,596名)	関係部局や関係企業の関連イベントにおいて、プロスポーツチーム等のコンテンツを活用し、周知広報等を実施する。	文化観光局	スポーツ振興課
仙台市ウォーキングイベント補助事業	地域団体や市民活動団体等が、ウォーキングイベントを実施する経費に対して補助を行う。	参加者が15人以上のウォーキングイベントを実施する経費に対して、3万円上限に助成した。	本補助事業により、地域においてウォーキングイベントを実施しやすい環境が整い、市民が「歩く」行動を始めるきっかけづくりにつながった。	4団体への補助	・市政だよりやホームページ等を活用した周知を実施する。 ・申請事務へのハードルが下がるような寄り添った対応を実施する。	健康福祉局	健康政策課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
健康づくりフェスティバルの開催（若林区民ふるさとまつり内での実施）	区民に対する運動やスポーツの啓発を通じて、健康づくりに関心を持ってもらうことを目的に、区内運動関係団体と実行委員会を立ち上げて体験イベントを企画実施する。	・令和7年10月 若林区中央市民センターにおいて健康づくりフェスティバルを開催した。 ・実施内容：体力チェック、公式わなげ、まめつかみゲーム、健康づくり寸劇の上映等を実施した。	区内スポーツ団体と連携しての企画実施が定着しており、当日の運営も含め円滑に開催できた。当日は実行委員のほかにも区内運動団体の会員もスタッフとして多く参加しており、健康づくりへの理解も進んでいる。区民まつりとの同時開催で健康講座等への参加が少ない若い年代の参加者が体験や健康情報に触れる機会となった。	実行委員会：9人。会議回数：5回 フェスティバル参加者：1764人 内訳）体力チェック：206人 公式わなげ：471人 豆つかみゲーム：232人 等 ※関係団体従事者：89人	・今年度同様、区民ふるさとまつりと同時開催予定。実行委員形式での企画運営も継続する。 ・区健康づくり行動計画啓発の機会とする。	若林区	家庭健康課
シニア世代向け健康づくり講座	多様な健康状態の高齢の方が地域で継続して参加できる運動を中心とした通いの場の創設を目的に、介護予防運動サポーターなしでも自主的に継続できるグループ育成のための講座を行う。	受託事業所と地域包括支援センターが主体となり、健康づくり講座を実施した。講座後半は住民主体で活動できる形を目指した。立ち上げ後も、活動継続になったグループに対して講師を派遣した。	担い手がいない地域で、介護予防の活動ができる住民主体のグループを創設し、継続のための支援を行うことができた。	・開催回数：8回 ・1地域で実施、1グループ立ち上げ ・市内1グループの継続支援 ・延べ参加人数：154人	手上げる地域数の減少を鑑み、今後の事業の在り方及び内容を検討する。	健康福祉局 各区 宮城総合支所 秋保総合支所	地域包括ケア推進課 障害高齢課 保健福祉課
介護予防自主グループ支援、介護予防サポーター養成講座	地域において主体的、継続的に運動に取り組むことを目的に介護予防自主グループの育成とそれを担う介護予防運動サポーターの養成、スキルアップ研修を実施する。	地域における介護予防活動の推進を目的に、介護予防運動サポーターの人材育成と、介護予防自主グループ活動が継続するための後方支援を実施した。	・介護予防サポーターの養成・スキルアップ研修や訪問支援を通じて、情報交換や振り返りを行い、活動内容の充実と継続意欲の向上につながった。 ・運動実技に加え、認知機能低下予防や新しい認知症観、食事の視点も取り入れ、地域における通いの場の充実と啓発を図った。 ・関係機関と連携した支援により、地域自主グループの運営改善やサポーターの実践的な活動推進につながった。	・介護予防運動サポーター養成研修：57回、延198人 ・介護予防運動サポータースキルアップ研修：30回、延747人 ・活動継続支援：2回、延0人 （暫定版の数値のため、5月中旬ごろに正式な数値が確定します）	・介護予防サポーターの養成およびスキルアップ研修を継続実施し、運動実技に加え、フットケア、こころの健康、フレイル予防等の視点を取り入れた研修内容の充実を図る。 ・新たな担い手の発掘に向け、イベント等での啓発や関係機関との連携を強化し、参加者のレベルや地域特性に応じた研修を企画する。 ・自主グループの状況把握と後方支援を行い、サポーター同士の学び合いを通じて、地域の通いの場の継続的な運営を支援する。	健康福祉局 各区 宮城総合支所 秋保総合支所	地域包括ケア推進課 健康増進センター 障害高齢課 保健福祉課
地域のサロン等への活動支援	・地域における介護予防の取り組みを強化するために、通いの場等にリハビリテーション専門職の派遣や総合的なフレイルチェックを実施する。（地域包括ケア推進課） ・サポーターやボランティアの活動支援のために、スキルアップ研修会や情報提供を実施。運動自主グループの活動継続のための支援を実施する。（健康増進センター）	・申込のあった住民主体の通いの場に対して、依頼内容に応じたりハビリテーション専門職を派遣した。（1団体につき原則年1回） ・巡回啓発支援、世話人会の開催等を通じ、地域の社会資源である運動自主グループの活動継続の支援を実施した。	・地域で活動する高齢者の団体が健康づくりの要素を取り入れたり、運動している団体もより効果的な方法を学ぶことができた。 ・健康づくりのための運動等の情報提供を通じ、運動の必要性の理解、方法の習得及び自主グループの活動継続につながった。	・54団体に派遣 ・延べ参加人数：765人 ・出前講座20か所454人	・オンライン申込を追加し、申込方法を拡充する。 ・新規立ち上げから20年が経過し、参加者および講師、世話人の高齢化、参加者の減少が顕著なグループに対し、巡回支援を行い、会員募集の支援など活動継続のため課題等へのアプローチを行う。	健康福祉局 青葉区	地域包括ケア推進課 健康増進センター 障害高齢課

事業等		R7の実績				R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課	
介護予防プログラム強化	介護予防の普及啓発を目的に、介護予防事業全体の連携を図る。杜の都の体操シリーズや公園の健康遊具を通して地域の通いの場への支援を図る。	・介護予防関連事業の研修会へ参画し、助言や講話、運動指導を行う講師を派遣した。 ・杜の都の体操シリーズの普及啓発、体験できる機会の提供及び市内公園の健康遊具の活用を促進した。	杜の都の体操シリーズ及び健康遊具の活用を通してフレイル予防ならびに地域関係団体や地域の通いの場への支援を行い、運動の必要性の理解、方法の習得につながった。	・杜の都の体操シリーズの普及啓発体験会:43回、延べ4,304人 ・杜の都の体操シリーズの普及啓発DVD、CDの提供:体操シリーズDVD24件、杜の都のおトク体操CD53件 ・リーフレットの提供 きほん体操:3,710部 おトク体操:742部、おトク体操2:350部、 ・杜の都の体操シリーズ紹介リーフレット:7部、健康ゆうぐ:2,624部	地域包括支援センター新任研修においてサポーターによる地域の介護予防自主グループ活動の取り組みやフレイル予防活動との連携について説明し、理解促進を図る。 また、これまでに作成してきた健康ゆうぐリーフレットの見直しを図り、集約した冊子を作成する。	健康福祉局	健康増進センター	
フレイル予防応援教室	65歳以上の高齢者を対象に、3カ月間スポーツクラブ等で運動教室を実施し、外出や運動の習慣を身につける。	65歳以上を対象に、3か月間・週1回通所することで、運動習慣を身につけ、フレイル予防に繋げることが支援した。	教室終了後の外出や運動習慣を身につけるための機会をつくることができた。	実人数:477人	R8年7月より事業所を7か所拡充する。 計40か所予定。	健康福祉局	地域包括ケア推進課	
訪問・通所連動型短期集中予防サービス	生活機能が低下している方を対象に、リハビリ専門職等が利用者の居宅を訪問し、生活状況や課題を確認したうえで、個々に応じた介護予防プログラムを3カ月集中的に実施する。また自宅でもできる運動方法を学び、利用者の目標達成を図るとともにサービス終了後も自立した生活を継続できるようにする。	掃除や洗濯、買い物など身の回りのことが出来にくくなっている方や入院等により一時的に身体機能が低下している方等を対象に、リハビリ等専門職が訪問と通所を組み合わせた介護予防プログラムを3カ月実施することで、サービス終了後も自立した生活を継続できるように支援した。	訪問や通所などを通し専門職が集中的に関わることで、個性のある支援を行うことができた。サービス終了後も生活機能が悪化せず、自立した生活に繋がった方もいた。	・延べ通所人数:190人 ・通所実人数:48人	R8年10月より事業所を2～3か所拡充する。	健康福祉局	地域包括ケア推進課	
市民協働フレイル予防事業	地域で活動するフレイルサポーターの養成を強化し、フレイルチェックの機会を広げることで、互助を基盤とした地域づくりを進め、高齢者のフレイル予防に向けた行動変容を促す。	地域におけるフレイル予防活動の推進を目的に、フレイルサポーターを養成した。地域包括支援センター圏域ごとに地域型フレイルサポーターの養成を進めているが、フレイルサポーターの養成が行われない地域に住む方でも活動に参加できる体制を整備し、全市的な取組に繋げるため、令和6年度より出張型フレイルサポーターの養成を開始した。	新たに2か所で地域型フレイルサポーターの養成を開始することができた。また、養成を開始していない地域において、出張型サポーターによる測定会を実施したことや、出張型サポーターが圏域内に増えたことにより、養成開始に向けた体制整備を進めている圏域がある。さらに、サポーターの自主的な取組を後方的に支援したことで、口コミや情報誌への掲載など行政に限らない周知が進んだほか、他の介護予防事業等の啓発にも主体的に関わるなど、活動の広がりがみられた。	・地域型サポーター 養成圏域数:8地域 ・フレイルサポーター養成数:73名 ・フレイルチェック実施回数:44回 ・フレイルチェック参加者数:1,107人 ・サポーター活動回数:108回 (サポーター:延べ174人)	出張型サポーターによる測定会や地域型サポーターの活動見学等を通じ、養成未実施の地域包括支援センターへの理解促進を図るとともに、市民向けフォーラムの開催により市民への普及啓発を行う。	健康福祉局	地域包括ケア推進課	
元気はつらつチャレンジ・カード	65歳以上を対象に、施設利用ごとにポイントを貯めていただき、それに応じた特典を付与することで運動を促す。	ホームページや施設掲示等で啓発を実施した。	1,362名(延)が50回達成。継続的な運動を促すことができた。	50回達成者数:延1,362名	啓発により利用促進に努める。副賞提供は大家製薬㈱との協定期間満了に伴い令和5年度で終了。	文化観光局	スポーツ振興課	
トワイライト・パス	夕方5時以降のトレーニング室、プール、軽運動場の利用定期券を発行し、仕事帰り等にもスポーツができる環境を作る。	ホームページや施設掲示等で啓発を実施、利用の促進を図った。	販売件数:5,586件、夜間バス利用者数:延70,365名。ビジネスパーソン等のスポーツ施設利用促進が図れた。	販売件数:5,586件 夜間バス利用者数:延70,365名	引き続き利用促進に努める。	文化観光局	スポーツ振興課	

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
高齢者健康づくり運動教室	健康づくりや介護予防の啓発等を目的として高齢者運動教室を開催し、運動の継続や社会参加を支援する。	元気高齢者、後期高齢者、認知機能の低下予防に取り組みたい方等を対象に、高齢者運動教室を開催。修了後地域の自主サークルでの運動の継続を支援した。	運動の必要性の理解、方法の習得及び運動習慣の定着につながった。	・元気あつぷ運動教室(65歳以上の方):98回 延べ2,177人 ・はつらつ運動教室(80歳以上の方):42回 延べ703人 ・シニアステップアップ運動教室(概ね60歳以上の方):102回 延べ2,748人 ・いきいき健康セミナー(認知機能の低下予防に興味がある65歳以上の方):28回 延べ248人 ・オンライン運動教室(スマートフォンをお持ちの60歳以上の方):6回 延べ34人	・大規模改修工事が終了したシルバーセンター会場教室では、新たなラインナップでの高齢者運動教室を再開する。また、フレイル予防に特化した実践教室を開催する。 ・健康増進センター会場教室では、通年での運動機会提供を目的に複数回型の教室を単発型に変更するとともに、インターネット予約システムを導入する。	健康福祉局	健康増進センター
障害者健康増進事業	障害者の健康増進のための運動教室の実施、および情報収集や発信、支援者や指導員の育成を実施し、専門的な健康づくり支援を行う。	①5区で個人対象の健康づくり運動教室の実施。健康づくり(体調管理、運動、栄養)についての啓発と実践。社会資源の情報提供など活動場所拡張の支援。運動方法ツールの作成。 ②若年層を対象に健康づくりの啓発と運動実践。 ③団体で健康増進センターを利用し健康づくり実践の場を提供。オンラインによる運動プログラムの提供。 ④入所施設に対し、施設職員と協働し施設で継続的に運動が実施できるように取り組みを支援。 ⑤支援学校を対象に健康づくりの啓発と運動を実践。 ⑥支援を行った施設に対し健康づくりの取り組みの継続状況の確認、相談。	・運動習慣、活動場所確保。当事者同士の相互支援。体調管理などセルフコントロール方法習得。 ・活動量増加。体調管理などセルフコントロール方法取得。当事者同士の相互支援。 ・活動量増加。健康づくりに関する意識向上。 ・安全に運動できる環境整備。施設内での活動量増加。施設で実施できる運動方法の開発。 ・活動量増加。 ・施設での健康づくり継続。	①会場:市内5か所 実施回数:86回、参加者:延840人 ②実施回数:43回 参加者:延1,442人 ③(団体)実施回数:11回、参加者:7団体延280人 (オンライン)実施回数:24回、参加者:14団体延1,404人 ④1団体7回、参加者:延67人 ⑤実施回数:14回 参加者:延462人 ⑥8団体22回	・視覚障害者が教室以外でも運動できるツールを作成する。 ・運動プログラム(オンライン)を開発する。 ・新規事業所で開催する。 ・新ダンスプログラムを作成する。 ・団体数を増やして実施する。	健康福祉局	健康増進センター
障害者スポーツ教室開催事業	障害のある方に対して、各種スポーツ教室を開催し、健康の増進と障害者スポーツの普及を図る。	障害のある方々に対して、各種のスポーツ教室を開催し、健康の増進と障害者スポーツの普及を図った。	・障害者スポーツ教室は、「障害者スポーツに触れる(きっかけ)」「継続的に参加する」といった全3回のステップアップ型で実施したことにより、参加者が自身の上達を感じながらスポーツを楽しむことができたほか、参加者同士や講師の交流により、地域クラブへの参加など、運動の継続にもつながった。 ・ウェルフェアスポーツでは、会場において12種類のスポーツコーナーを設け、気軽に複数種類のスポーツを体験する機会を創出した。また、パラスポ仙台では参加者のレベルに応じたこまやかな指導、体力測定などを行い、実施後アンケートでは、「講師の指導がわかりやすかった」「参加者同士の交流や競技種目の情報を得ることができた」と参加者から好評を得た。 ・いずれの事業も、障害者が気軽にスポーツを体験できることから、障害者が運動習慣をつける、またはスポーツを始める入口となっており、障害者の健康増進、障害者スポーツの普及につながった。	・障害者スポーツ教室 計 24回 参加人数延べ 304名 ・ウェルフェアスポーツ(1日) 延べ 267名 ・パラスポ仙台2025(教室参加型) 計9回 延べ 125名	引き続き、きめこまやかな指導が行える体制を維持できるように、指導員の養成に努めるほか、本事業のより効果的な広報について検討する。また、地域のスポーツクラブの指導者の障害者スポーツ、障害者の受け入れに対する理解を促進する。	健康福祉局	障害企画課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
仙台市まちなか歩数表示補助事業	市民の健康の増進を図るため、地域団体や市民活動団体等が、歩くことの意識付けを行う啓発表示をすることに対して補助を行う。	距離、歩数、消費エネルギーを含んだ看板等の制作に係る経費について上限15万円を補助した。	市民が活動量を意識しながら歩く環境づくりにつながった。	補助事業に関する相談:1件 補助金交付実績:0件	市政だより等での周知の他、事業認知強化の広報について検討のため、既事業申請団体への実施後アンケートを実施する。	健康福祉局	健康政策課
留学生等とのまち歩きイベント及びサイン表示実証実験【新規】	来仙直後の留学生等と一緒にまち歩きを行い、当事者の意見をアプリにより収集することで、外国人が感じるまちのよい点・悪い点を明らかにするとともに、サイン表示の実証実験も合わせて実施し、外国人にとっても魅力的でアクセスしやすい公共空間の検討を進める。	・令和7年11月に留学生等とのまち歩きイベント及びサイン表示実証実験を実施した。 ・市内在住の留学生等に2コースに分かれてまち歩きをしてもらい、まちの景色等に関する意見をもらったほか、経路案内等の多言語サインを設置し、その有効性を検証した。	・参加者の意見を分析し、令和8年3月に庁内報告会を実施した。 ・全体を通じて好意的な意見が多くを占める結果となったが、一部、注意書きの多言語表記やベンチ・水飲み場の整備等について工夫の余地があるとの意見もみられた。 ・今回得られた結果を参考に、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていく。	参加人数:22名	令和7年度で事業終了。	まちづくり政策局	ダイバーシティ推進課
チアフルキッズプロジェクト2025	管内児童館2か所と連携し、児童クラブ1年生を対象にした生活習慣病予防教室を実施する。	・身体活動において児童クラブの1年生と保護者に対し、生活習慣病予防(運動・甘味飲料の適正摂取)について、児童には健康O×クイズで体を動かしながら学び、保護者に対して啓発チラシをメールで送信し啓発した。 ・児童に生活習慣チェックシートを配布し、規則正しい生活習慣の定着を推進した。	保護者にも啓発したことにより、健康づくりに取り組む家庭が増えた。1年生の夏休み前や冬休み前に実施したことにより、児童自身の取り組む姿勢も生活習慣チェックシートで確認することができた。	・実施児童館 2施設 ・チラシ配布数 390 ・参加児童数 81人	管内児童館2施設で実施予定	宮城総合支所	保健福祉課

方策の柱

- ①こころの健康づくりの啓発・支援
- ②こころの健康に関する相談会等の体制整備・人材育成やネットワーク整備
- ③人とのつながりづくりや社会参加の促進と環境整備
- ④個別支援とコミュニティ支援を連動させた被災者健康支援

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
思春期健康教育	市立小中学校・高校において思春期健康教育を実施する。年齢や発達段階に応じて専門職等による健康教育を実施し、対象者が性と健康及び命に関する正しい知識を身につけ、生きる力を育むことを目的とする。	・市立小中学校・高校において助産師による思春期健康教育を実施した。区の担当者も同行した。 ・各区に申し込みがあった学校に出向き思春期健康教育を実施した。	対象の理解力に合わせて資料や講話の内容を変更して実施することで、より伝わりやすい内容となり理解が深まった。	実施回数 92回 参加人数 延8,443人	・継続実施。実施回数の拡大に即した提供体制を構築する。 ・各区が地域の実情に合わせて実施する。	こども若者局 宮城野区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
大学・専門学校生など若い世代への啓発	青年期におけるこころの健康の重要性と改善への啓発を実施する。当事者年代にある大学生等の意見を反映し、若年層に浸透しやすい、効果的な啓発活動を推進する。	・若年層向けの普及啓発のための検討会を開催した。 ・大学等の授業での啓発、防災未来フォーラム等のイベントへ参加した。 ・関係機関に各種啓発媒体を配布しての啓発・連携を実施した。 ・生活状況に関するアンケートを実施した。	・検討会はメンバーが参加しやすい手法を活用し、継続的な運営につながった。講話参加者には、セルフケアの必要性やゲートキーパーの視点等の意識に変化が見られた。 ・配布啓発資料により、心の健康づくりの重要性や生活習慣の改善について考える機会となった。 ・アンケートでは専門学生の健康課題等について把握することができた。	・検討会12回 ・啓発媒体配布数 794部 ・アンケート回答数 899名	・引き続き相談窓口などの周知啓発と、資料配布以外での手法も検討する。 ・はあとケアサークル YELLメンバー確保のため、各大学等に支援を依頼する。メンバーがより主体的に活躍できる場を広げる。	健康福祉局 宮城野区 若林区	精神保健福祉総合センター 家庭健康課
職場のメンタルヘルス支援事業	企業等の要請により、随時講師を派遣し研修会を実施する。	企業等の要請により、精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等を派遣し、職員へのメンタルヘルスに関する研修会を開催した。	行政に留まらず、企業等に対しても広くメンタルヘルスについて啓発することによりメンタルヘルスへの関心が高まった。	実施回数：3回 参加者数：143人	市政出前講座の活用等により、事業を周知する。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
自殺予防週間・自殺対策強化月間における啓発	心の健康づくりに関する知識や適切な対応について啓発を行う。	・自殺予防週間(9月)や自殺対策強化月間(3月)に合わせて啓発を実施した。 ・こころの健康に関するパネル展示や各事業及び地区活動における情報提供を実施した。	多機関や他事業、地域の集まりの場における掲示物の展示や、リーフレット等の配布を通じて、多くの市民に周知・啓発することができた。	・ポスター：配布先400か所、配布数498枚 ・啓発物の配布：5,563部	自殺予防週間・自殺対策強化月間を活用し、心の健康づくりについて広く啓発を行う。	健康福祉局 青葉区 宮城野区 若林区	精神保健福祉総合センター 家庭健康課
心の健康づくり講演会、地域健康教育	ストレスとの付き合い方や心の病気についての正しい知識の普及・啓発を行う。	栄養・運動・休養等生活習慣病の予防や心の健康づくりに関する内容の講座及びリーフレットを配布した。	・健康教育を実施し、ストレスとの付き合い方や心の病気についての正しい理解が深まった。 ・質の良い睡眠について講話を実施。心身のセルフケアに関心を持ち、心の健康について理解を深める機会となった。	・青葉区(講演会1回20人参加/健康教育2回45人参加) ・宮城野区(健康生活講座1回25人参加/職域と連携した健康づくり配布数228部)	地域・職場・学校など住民の身近な場所で講演会等を実施する。	青葉区 宮城野区	家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
リラックス方法の普及啓発	漸進的筋弛緩法を普及啓発し、睡眠で休養を取れている人やストレス解消法を持つ人を増やす。	・高齢者運動教室に加え、社会福祉協議会及び町内会等の地域活動グループを対象に、休養の必要性を伝える講話や漸進的筋弛緩法の普及啓発を実施した。 ・動画サイトを活用した漸進的筋弛緩法の実施方法を提供した。	質の良い睡眠の必要性やリラックス法(漸進的筋弛緩法)習得につながった。	・教室参加者:延べ1,154人 ・地域活動グループ:58人	引き続き、高齢者運動教室、出前講座及び動画サイトを活用して普及啓発を行う。	健康福祉局	健康増進センター
こどものこころ相談室	幼児健康診査時の問診票を用いた聞き取りや、各区でこどものこころの相談室を実施し、こどもと保護者の心身の状況を把握の上、必要な診察・保健指導等を行い、相談支援の充実を図る。	・「幼児健康診査におけるこどものこころの相談」は、アンケートにより聞き取り、必要な方を児童精神科医の専門相談につなげた。 ・「こどものこころの相談室」は、18歳未満の子どもの対象に、5区で児童精神科医・臨床心理士の専門相談を実施した。	・アンケートによりスクリーニングを行った対象者へは個別支援等により継続支援につながった。 ・相談室の利用者は、専門職による個別の相談につながった。	・幼児健診における相談 アンケート回収数 19,556件 ・子どものこころの相談室 実施回数 56回 相談件数 119件	次年度以降も引き続き実施する。	こども若者局 宮城野区	こども家庭保健課 家庭健康課
こころの健康相談	当事者および家族の精神指導医への相談を実施する。	・自分自身のこころの問題や悩み、家族や周りのこころの相談を精神科医や臨床心理士が実施した。 ・ケース検討やスーパービジョン等の場としても積極的に活用した。	指導医への相談を通じて、本人や家族、支援者へは現在の状態像について医学的見地のみならず、家族関係なども含めた見立てを共有し、今後の方針に活かすことができた。	月に2～4回、年間36回実施 (相談件数延べ60件)	より多く活用につながるよう、年度初めてに民生委員、包括支援センター、相談支援事業所などにチラシの送付を行う。	宮城野区	障害高齢課
地域での健康相談会	住民が運営する組織の支援、連携により地域の見守り体制の構築や住民同士がつながり支え合う地域づくりを目指す。	鶴ヶ谷地区と小鶴地区で健康相談会、交流イベントを実施した。	・開催時期や時間帯を工夫したり、ユニバーサルスポーツの導入などにより、年齢や障害の有無関係なく多くの方が集まることにつながった。 ・孤立しがちな住民が地域につながり、住民ができる事を少しずつ持ち寄り持続活動な支え合いのきっかけになった。	計7回開催。合計113名参加。	活動のさらなる展開を目指し、共催する関係機関を増やしたり、周知先を広げる。	宮城野区	障害高齢課
はあとライン、ナイトライン	電話による相談(傾聴、指導助言、情報提供等)を行うことにより、市民の精神保健福祉の保持・向上を図る。	こころの悩み等に関する電話相談を下記の日程で行った。 はあとライン:平日10:00～12:00、13:00～16:00 ナイトライン:年中無休 18:00～22:00	はあとライン、ナイトラインは例年と比べ横ばいの状態。電話相談の需要は高い傾向にあり、リピーターも多くなっている。リピーター対応を含めた電話相談対応の統一化を図るため、「はあとライン・ナイトラインにおける対応に際する注意事項」を職員間で共有した。	はあとライン 3,762件 ナイトライン 8,688件	件数の増加に伴い、相談内容も幅広く、複雑になっているため、職員の資質向上を図る。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
いのち支えるLINE相談	若年者層(39歳以下)にSNS(LINE)を活用した相談を行い、自死の背景となる要因の早期解消を図る。	SNS(LINE)を活用し、適切な相談窓口の紹介や具体的な対応方法を提供した。日曜・月曜・祝日・祝翌日に相談窓口を開設。自殺対策強化月間である3月は毎日実施した。	若年者にとって身近なコミュニケーションツールであるSNS(LINE)を活用し相談できる窓口を設置することで、若年者が相談しやすい環境を整備することができた。	相談延件数:739名	引き続き、若年者が相談しやすい環境を整え、自死の背景となる要因の早期解消を目指す。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
暮らし支える総合相談	市民の生活上の困りごとに係る対面相談を実施し、適切な社会資源のコーディネートおよび確実なアクセスを推進。関係機関・団体とのネットワークを形成し、生活苦等からの自死の未然予防を目的とする。	・専門職による対面面談を実施、状況に応じてソーシャルワーカーが伴走支援を実施した。 ・ネットワーク会議を開催し、関係機関・団体とのネットワークを形成を行った。	・専門職種による助言やソーシャルワーカーによる伴走支援による課題の軽減・解消を図ることができた。 ・ネットワーク会議の開催により、各参加団体同士によるネットワークの形成や強化を図ることができた。	・対面面談48回 ・SWによる伴走支援1,283件(延べ人数) ・ネットワーク会議2回開催	引き続き、相談窓口を開設し、市民の自死の未然防止を図りつつ、関係機関・団体のネットワーク形成を行う。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
生活困りごと、こころの健康相談会	経済、生活、健康、勤務、男女問題等の様々な悩みに対し、司法の相談と併せてこころの相談を実施することで、自死予防を図る。	①定例の相談会 (司法書士による司法相談と、精神保健福祉総合センター職員によるこころの相談) ②自殺予防週間、月間に併せた相談会 (弁護士による司法相談と、精神保健福祉総合センター職員によるこころの相談)	自死の要因の一つである経済的な問題を抱える人は抑うつ状態に陥っていることが多く、また家族間の問題や、近隣とのトラブル等司法に関する問題を抱えていると、精神的な不調もきたしやすいことから、司法の問題とこころの健康相談の包括的な相談は自死予防に有効であると考えられた。	①実施回数:10回、相談件数:33件 ②実施回数:2回、相談件数:16件	多くの方に利用いただけるよう周知方法・時期を工夫する。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
こころの体温計	仙台市ホームページにアクセスし利用できるセルフメンタルチェックシステムで自身の心の健康状態を知り早期の相談窓口利用に繋げる。	・設問に答えることで自分の心の状態等を把握できるセルフメンタルチェックシステムを実施した。 ・チェック結果画面により各種相談窓口の周知啓発を実施した。	自分の心の健康状態を把握し、市民のストレスマネジメント力向上が促された。	利用人数 37,052人	利用者を増やすため周知広報を継続する。	健康福祉局	健康政策課
無料法律相談とこころの健康相談会	専門職(弁護士、精神科医等)による定期的な無料相談会を開催し、法律や生活問題、心の健康等について相談を実施する。	多重債務問題やこころの悩み等を抱えた人々を対象に、専門職が対応する包括的な無料面接相談を定例実施した。	相談者が対面相談の機会を持つことができ、また相談者に対して専門職による情報提供や他相談機関紹介等もすることができた。	12回開催 相談件数 186件	引き続き相談会を実施する。	健康福祉局	健康政策課
ゲートキーパー養成	市役所全庁における窓口対応職員・精神保健福祉分野の専門職員等、庁内各課職員、地域包括支援センター・障害者支援相談所等関係機関職員、民生委員等地域住民を含め、様々な職員・市民を対象に、ゲートキーパー養成を実施する。	①自死対策ゲートキーパー養成研修(一般職員対象) 講話「こころの声に気づく～職員一人ひとりができること」 ロールプレイ(オンライン研修)参加困難な方にはDVD貸し出し。 ②地域自死対策研修(専門職対象) オンデマンド配信。講話「自殺リスクの高い方への実践的対応について」 ③ゲートキーパー養成研修標準テキストの活用(随時)	対象に応じた養成研修を実施したことにより、より実践的対応の習得など、身近な人の支え合いの強化につながった。	・精神保健福祉総合センター開催(①1回開催 69人受講 ②2/25開催 91人受講) ・宮城野区開催(2回、28名)	市政出前講座の活用や地域の関係機関との協働等により、より幅広い市民に知識を普及させていく。	健康福祉局 宮城野区	精神保健福祉総合センター 家庭健康課
妊産婦・新生児訪問、養育支援訪問事業	妊産婦・乳幼児の保護者に対し、家庭訪問により妊娠・出産・育児に関する必要な保健指導を行い、母子の健康の保持増進、児童の健全育成を図る。	指導員による訪問を実施し、個々のケースに応じた支援を提供した。必要に応じ、継続支援や関係機関との連携を行った。	母子の健康の保持増進、児童の健全育成及び児童虐待の予防につながった。	妊産婦・新生児訪問 訪問人数 実6,259人/延6,674人 養育支援訪問事業 訪問人数 実245人/延927人(不在訪問含む)	次年度以降も引き続き実施する。	こども若者局 各区 各総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
精神障害者地域社会交流促進事業	・精神障害当事者が自身の体験を語ること(スピーカーズビューロー)で正しい理解を広め、偏見の是正を図る。 ・家族同士が悩みを共有し支え合い、講話等により社会資源の情報提供を行う。	・スピーカーズビューロー講演会を開催した。(年間20回以上) ・精神障害がある方の家族教室を月に1回開催した。家族同士が語り合うことで日常生活の悩みを共有したり、各分野の関係者からの講話を設定し、保健福祉制度や社会資源について学んだ。	・当時の体験談から、精神障害に対する正しい知識や理解を啓発し、精神障害に対する偏見の是正を図ることができた。 ・座談会を設定し家族同士の交流の場を持つことができた。また、「親亡き後に備える」をメインテーマとして、参加者の意見を取り入れ各会の内容を企画できた。	・スピーカーズビューロー講演会：年間30回、聴講者1,576人 ・機関紙発行：3回 延488カ所に配布 ・毎月1回、計12回実施。参加人数延べ107名。(宮城野区)	・引き続き、講演会を開催し、精神障害に対する偏見の是正を目指していく。 ・活用推進に向けて関係機関にチラシの送付を行う。	健康福祉局 宮城野区	障害者支援課 障害高齢課
支援者向けアルコール研修会	支援者の対応力向上を図る。	・アルコール研修会を実施した。テーマ「高齢者とアルコール」 ・関連する支援機関とし、地域包括支援センターを通じて居宅介護支援事業所にも周知した。	アディクションに関する研修に初めて参加する方が大半であり、アルコールの課題を持つ方への関わり方を実践的に学ぶ機会となり、支援者の対応力向上に資することができた。	26名参加	外部機関の支援者の参加がより増えるようなテーマや構成を工夫しながら、引き続き研修会を企画、実施する。	宮城野区	障害高齢課
教職員向け思春期問題研修講座	思春期事例に携わる教職員や関係職員を対象に、外部の専門家を講師に招き、思春期精神保健に関する基本的な知識を提供する。	オンライン研修(Webexによる)を開催した。講演：「自傷行為とオーバードーズの理解と援助」	研修内容については満足度が高く、講座の目的でもあった、自傷行為とオーバードーズについて、背景にある子どもの心理について理解が深まったという意見が多く聞かれた。	年1回 参加者数：148名	R8.11～R8.12開催予定	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
依存症に関する人材育成	行政や関係機関の職員に対し、依存症や関連する諸問題についての知識や基本的な対応方法を学び、スキルアップを図る場を提供する。	①依存症関連問題研修会を実施した。「若者のギャンブル依存症の理解とサポート～若者の生きづらさに着目して～」講話 ②若者・ギャンブル等依存症支援者による座談会を開催した。 ③アディクションについての支援者向け勉強会を開催した。	①内容について「満足」・「おおむね満足」が約98% ②全ての参加者が「満足」・「ほぼ満足」と回答。他機関連携の重要性の理解促進を図った。 ③ほとんどの参加者から「理解が深まった」との回答。アディクション問題を抱える方の支援に携わるうえで必要な基礎知識や本人・家族支援について学ぶことのできる機会になった。	①参加人数：102名(オンライン参加93名、会場参加9名) ②参加人数：9名 ③参加人数：129名 開催回数：10回	①10～11月頃実施する。 ②5～2月の原則第4木曜日15:50～17:00。年10回実施する。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
家族教室の開催	精神障害の方の家族等が集まり、社会資源の活用について学んだり、家庭での対応の話し合いを行う。	①アルコール・薬物家族ミーティング(原則第2・4木曜日) ②アディクション家族教室(7・12月第1水曜日) ③ひきこもり家族教室(年1回、3部構成で実施) ④ひきこもり家族グループ(毎月第3木曜日に実施) ⑤若者のひきこもり家族グループ(9月～3月に実施)をそれぞれ実施した。	障害理解や対応について学び、体験を語り合うことで共感しあったり、励ましあうような声掛けもみられた。 自身の対応を見直す機会になり、ゆとりをもって本人に向き合っていくと前向きになれる方もいた。	①アルコール・薬物家族ミーティング/24回延22名参加 ②アディクション家族教室/2回17名 ③ひきこもり家族教室/延べ人数49名 ④ひきこもり家族グループ/延べ人数35名 ⑤若者のひきこもりグループ/延べ人数18名	①原則第2・4木曜日 ②(1)7月第1水曜日、8月・9月第3火曜日(2)12月第1水曜日、1月・2月第3火曜日 ③7月 ④毎月第3木曜日 ⑤各月第4水曜日	健康福祉局	精神保健福祉総合センター

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
学校保健・地域保健連絡会議(思春期保健分野)	教育機関や産科医療機関と連携しやすい土壌を作り、個別支援や健康教育等における効果的な連携を促進する。	・テーマ「援助希求を受けとめる～生きていく力を育むために私たちにできること～」で話題を提供した。 ・関係機関それぞれの視点からの支援について意見交換を行い、相互理解を深める機会とした。	話題提供は、こどもの発するSOSは言葉に限らないため、表情や行動もよく見てアンテナを高くしたい等の感想が多かった。情報交換は、養護教諭等から学校の現状を聞くことができ良かったとの感想が多かった。 顔の見える関係が作れたことで、今後連携につながる土壌の形成を図れた。	1回開催・17機関20人参加 (教育機関15機関・15人、産科医療機関2機関・5人)	次年度以降も引き続き実施する。	宮城総合支所	保健福祉課
宮城野区子育て支援者のネットワーク	子育て支援者同士のネットワークづくりを推進する。	・子育て支援者交流会：年に1回区内の保育所、幼稚園、支援センター、児童館等子育て支援に関係する団体が集まり、課題の共有や情報交換を行い、横のつながりを強化した。 ・虐待防止ネットワーク会議：区内をブロックに分け、事例検討や虐待対応等について知る機会とした。	・子育て支援者交流会を実施した。 ・テーマ「折り紙でひろがるこどもの遊び～折り紙飛行機を飛ばそう～」で講話とグループワークを実施。高い満足度が得られた。	年1回実施 53名参加。	年1回実施予定。	宮城野区	家庭健康課
宮城地区子育て支援者ネットワーク会議	地域における関係機関の相互理解と共通認識を深め、連携の緊密化を図る。また、地域の実情に応じた子育て支援の具体策を協議、協働することにより、子育てに関する地域力の向上を図る。	管内の保育所、幼稚園、支援センター、児童館等が集まり、課題の共有や情報交換を実施した。	各関係機関の担当者の顔合わせができ、顔の見える関係づくりのきっかけになった。 また運動や睡眠、生活リズム等の生活習慣を整えることの大切さについて、実態を踏まえて改めて考える機会となった。	参加機関74機関中44機関 62人(うち職員18人)	年1回実施予定。	宮城総合支所	保健福祉課
太白区支援者間のネットワーク推進	誰もが暮らしやすい地域生活を目指し、支援者が連携協働し適切な支援を提供するためのネットワーク作りを推進する。	【太白区障害高齢支援連携事業】 ・茂庭包括圏域・秋保包括圏域の2か所で実施した。 ・地域の関係団体や障害・高齢両分野の事業所等と一緒に考えるためのネットワークづくりを実施した。 ・身近な場で相談を受けられる(丸ごと相談会)を実施した。 ・支援者向け勉強会を実施した。	・地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、地域関係団体の連携の機会となり、互いに相談しやすくなった。 ・母子分野にも対応できる相談会を実施した。 ・支援者向け研修は、障害・高齢両分野の支援者ニーズに合わせた研修を企画したことで、参加者の満足度も高かった。	・茂庭圏域：相談会2回、民生委員との情報交換会1回 ・秋保圏域：関係機関とのネットワーク会議2回 ・支援者向け研修 1回 延99人 ・支援者向けパンフレットの軽微修正	長町圏域で実施予定。実施内容は地域と相談して決定する。	太白区	障害高齢課
泉区支援者間のネットワーク推進	誰もが暮らしやすい地域生活を目指し、支援者が連携協働し適切な支援を提供するためのネットワーク作りを推進する。	「支援家族不在」状態の住民に地域の支援者が連携してできることを話し合った。	具体的な提案を集め、キーワード「見守り」「本人からの発信」を抽出した。	1回 41名	高齢・障害分野の会議体との連動を図り、課題について取り上げその結果を各会議体へフィードバックする循環を作る。	泉区	障害高齢課
ウェルカムひろば(原町地区宮城野地区子育て支援関係機関共催事業)	子育てに関わる地域の関係機関が連携し、顔の見える関係を維持しながら、保護者が孤立を抱えず、外に目を向けられるよう地域資源を活用しながら育児ができる環境づくりを推進する。	・原町地区宮城野地区子育て支援関係機関連絡会を実施した。 ・ウェルカムひろばを開催した。 ・ウェルカム広場ガイドMAPを作成した。	・対象を限定せず、申込不要で参加可能としたため参加人数増加。工作や絵本、相談コーナーを設け、先輩ママや参加者同士が気軽に交流でき、参加者に好評であった。 ・原町地区宮城野地区子育て支援関係機関連絡会では、各団体の課題や支援の工夫などを共有できた。	原町地区宮城野地区子育て支援関係機関連絡会3回開催 ウェルカムひろば2回開催：参加人数計85名(1回目：39名、2回目46名) ウェルカムひろばガイドMAP作成及び配布	・連絡会年2～3回実施予定。 ・ウェルカムひろば2回開催予定。 ・ウェルカムひろばガイドMAPを作成する。	宮城野区	家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
防災×健康づくり	・災害を経験していない子育て世代の防災意識を高め、子育て世代が地域とつながるきっかけづくりを図る。 ・災害に負けないコミュニティの醸成とスムーズな避難行動のための健康づくりの啓発を実施する。	・子育て世代向け防災ハンドブックにより各事業等で防災啓発を実施した。 ・町内会・関係機関と津波避難タワーを活用し防災訓練を実施。避難時の健康づくりについて、軽体操、ミニ講話を交え啓発を実施した。 ・宮城野消防署とコラボした健康教育を実施。避難には体力・筋力を維持する健康づくりが大切であることの啓発を実施した。 ・仙台市防災未来フォーラムへ出展した。(ポスター掲示、握力測定、チラシ配布等)	・子育て世代が避難について考えるきっかけとなり、防災意識を高めるきっかけとなった。 ・防災訓練を通し、地域への健康づくり啓発や、防災力向上とコミュニティ活性化を図る機会となった。 ・災害に早く気づき、安全に素早く逃げるためには体力・筋力の維持が重要であることを啓発でき、参加者へ日頃からの健康づくりについて動機付けができた。 ・防災フォーラムで「防災×健康づくり」の啓発と握力測定に興味関心を持ってくださる方が多かった。 ・日々の健康づくりの大切さを防災と関連づけて伝えていくことで今後の行動変容につながる契機となった。	・防災ハンドブック配布数：延735部 ・防災訓練1町内会1回、延81人参加 ・消防コラボ健康教育1回、延18人 ・消防とのコラボチラシ配布数：265部 ・当課の展示ブースへの来場者数：延317人	年度始めから配布開始。また事業やサロン、イベント等あらゆる機会を捉えながら防災啓発を実施していく。	宮城野区	家庭健康課
ひきこもり講演会	年1回、市民を対象とし、講演会を開催。ひきこもりについての正しい知識等の普及啓発。ひきこもり家族教室、個別相談の利用促進を図る。	R7.6.1 講演会を開催した。講演「ひきこもりの理解と対応～ひきこもりライフケア27年間を振り返って～」	アンケートより満足度の高い結果となった。ひきこもりの対応の手がかりを得られたと回答した者が多かった	参加者数：123名	R8.5.23講演会を開催する。講演「ひきこもりに寄り添うために一家族の安心から始まる一歩」	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
支援者向け災害時メンタルヘルス研修	被災者の支援をしている関係者に対して震災ストレスに関する研修を実施する。	・震災ストレスのハイリスク者に対する各区保健福祉センターとの協働訪問を実施する。 ・災害時メンタルヘルス研修会(庁内職員向、市内専門職向)を開催する。	・協働訪問から見えた地域課題等を取り上げ、支援者のニーズに合わせた研修を行い、グループワークで意見交換や課題共有を行うことができた。 ・市内専門職研修では、支援者のメンタルヘルスをテーマに実施し、災害発生の初期および中長期における支援者のメンタルヘルスの確保の重要性について共有した。	・協働訪問 延172件 ・災害時メンタルヘルス研修会(庁内職員向：3回、延93名、市内専門職向：1回52名)	庁内職員向け研修会を年5回実施予定(4/27、7/27、9/28、11/30、1/25)。市内専門職向け研修会は、R8年度下半期開催予定。	健康福祉局	精神保健福祉総合センター
被災者こころのケア	東日本大震災の被災者の心身の健康支援を行う。	・震災ストレスのハイリスク者等へ訪問等による個別支援を実施した。 ・被災者を支援している関係者に対し研修会等を実施した。 ・関係機関との情報交換を実施した。 ・健康相談会を実施した(宮城野区)、サロン支援(太白区)、健康講話を実施した。(泉区)	・各関係機関と連携し、訪問や面接、同行等の支援と調整により、切れ目のない支援ができた。また、メンタルヘルスに関する情報の普及啓発ができた。 ・震災当時の様子や他地域の災害に関する報道、令和7年7月の津波警報や10月の豪雨災害を機に、震災ストレスの再燃・反応性の症状を訴える方もおり、活動継続することで被災者の思いに丁寧に応えられた。	・個別支援：延1,574名 ・研修会、事例検討会等：10回、延181名 ・健康相談会3回(宮城野区)、サロン支援3回(太白区)、健康教育2回(泉区) ・啓発資料配布数：8,620部	・関係機関と連携した取り組みを継続する。 ・被災者支援の知識やノウハウの継承への取り組みを実施する。	各区 宮城野区	障害高齢課 家庭健康課
被災者健康支援(被災者健康調査)	震災後の心身の体調管理やストレス等について、状況を把握し、必要な支援を行う。	災害公営住宅等入居者健康調査の実施により被災者の健康状態等を把握し、必要な支援に結びつけるとともに、健康課題に応じた保健事業の展開を検討した。	各区保健福祉センター、総合支所保健福祉課による要支援者への早期介入支援、コミュニティ形成支援に寄与した。	・災害公営住宅：送付2,215世帯、回答1,199世帯 ・防災集団移転団地：送付294世帯、回答145世帯	健康調査の結果の集約結果を反映し、今後の支援方針等検討する。	健康福祉局 各区 宮城総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
被災者健康支援 (コミュニティ支援)	被災による生活環境の変化やストレスによる生活不活発病・閉じこもり予防を目的に、被災者向け介護予防・健康づくり支援事業を実施する。	・サロンや自主活動グループの活動継続のための後方支援を実施した。 ・地域基盤の脆弱性が懸念される地域を中心とした健康教育等を実施した。 ・健康情報誌の作成、配布、健康づくりに関するリーフレットを配布した。	・グループの実態に合わせた支援を行なうことで交流の場を維持し、被災者が社会とつながる機会をつくることができた。 ・健康情報を発信することで、集いの場に参加できない被災者に対しても健康啓発を実施し、健康行動の動機付けが期待できる。	・啓発媒体の配布:13,433部 ・サロン、自主グループへの参加:203回 延参加者数:2,253人	・既存の集いの場への後方支援と地域基盤の脆弱性が懸念される地域への仕掛け作りとして、公営住宅等への健康イベントを実施する。 ・男性のサロン参加の少なさが課題となっているため、引き続き復興公営住宅で男性限定の講座を開催する。	各区 宮城総合支所	家庭健康課 保健福祉課
被災者健康支援 (伝承)	東日本大震災後に浸水地域の活性化を目的に地域の女性たちが始めた活動を紹するとともに人との繋がりやこころの健康の大切さを啓発する	令和8年3月仙台防災未来フォーラムでパネル展とブースを出展し、ワークショップを実施した。	・防災フォーラムでの啓発は、震災時、またその後の生活の変化を知る機会、震災の経験を伝承する貴重な機会となった。 ・防災フォーラムへの地域活動団体との共同出展は震災後の地域の活動を広く知ってもらう機会となった。	・ワークショップ参加45名 ・ブース来場者317名 ・メッセージ56枚、レシピ配布126枚、啓発媒体配布467個	伝承活動の継続。若い世代への啓発の機会として区内教育施設等連携先を拡大する。	若林区	家庭健康課
被災者健康支援 (個別支援)	震災後の心身の体調管理やストレス等について、戸別訪問等を通じて状況を把握し、必要な支援を行う。	・健康調査後の要確認者に対する健康状況の把握と必要な支援を実施した。 ・相談窓口等から把握された継続支援が必要な世帯への戸別訪問等を実施した。	・被災者の高齢化により介護等の問題も増加し、新たに相談につながったり、複数課題を抱えた世帯に対し支援介入や、支援機関へのつなぎの役割を果たすことができた。 ・自然災害の発生時などに適宜支援を行うことで、被災者の反応性の不安軽減に繋がった。	個別支援:延2,290件 他機関との連絡・調整:延254件	・地域包括支援センター等関係機関との連携を図る。 ・要支援者の生活状況を把握するための具体的な方法を検討する。	各区 宮城総合支所	家庭健康課 保健福祉課
被災者健康支援 (健康調査未回答世帯訪問調査) 【R7新規】	令和7年度災害公営住宅等入居者健康調査未回答世帯に対し、震災後の心身の体調管理やストレス等について、戸別訪問等を通じて状況を把握し、必要な支援を行う。	訪問や電話等により生活・健康実態の把握に努め、潜在ニーズの把握及び必要な資源へつなげた。あわせて、地域ニーズをアセスメントし、地域関係者や関係機関と連携し地域での健康づくり支援、社会資源等の情報提供を積極的に実施した。	戸別訪問を実施し、直接心身の体調やストレスについて話を伺った。伺った内容から、ニーズを汲み取り、必要な社会資源につなげることができた。また、生活状況について聞き取ることで対象者の不安の軽減につなげることができた。	未回答世帯訪問対象数:1,165世帯 訪問等にて状況確認済: 80世帯、141人	・未回答者訪問後にレビューを実施し、継続支援が必要な場合に確実につなげる。 ・課題に応じ、関係機関と定期的に情報共有を実施し、支援の充実につなげる。	各区 宮城総合支所	家庭健康課 保健福祉課

方策の柱

①飲酒や喫煙の健康影響に関する啓発・環境整備

②たばこをやめたい人への禁煙支援

③受動喫煙防止対策の推進

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
大学・専門学校生など若い世代への啓発	青年期におけるアルコールや喫煙の健康障害への影響に関する知識の啓発を実施する。	管内専門学校に通学している学生を対象に、webによるアンケート調査を実施した。	調査結果より、朝食欠食や、睡眠時間、睡眠による休養感などでは、国調査と比較しても課題が多いことを確認でき、学校と共有ができた。	アンケート調査回答数899名	アンケート調査結果を精査し、啓発内容を見直す。	宮城野区	家庭健康課
母子健康手帳交付時の啓発と保健指導	母子健康手帳交付時に喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について保健指導を行う。	・喫煙(受動喫煙)の影響についてのチラシの配布による啓発。喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について保健指導を実施した。 ・母子健康手帳交付時チラシ・イエローグリーンシールを配付した。	家庭環境や、個人の状況にあわせた助言や啓発をすることができた。	・チラシ配布:6,366名 ・母子手帳交付:6,366名	全体への周知と個別保健指導を継続する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
母親・父親教室での啓発と保健指導	妊婦とそのパートナーを対象に喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について保健指導を実施する。	妊婦の喫煙者や家族が喫煙している場合、母体や胎児への喫煙の影響について保健指導を実施した。	喫煙が母体や胎児に与える影響について情報提供をすることができた。	・母親教室12回開催 妊婦延べ100名、パートナー21名 ・父親教室 4回開催 パートナー34名	妊婦及びそのパートナーを対象に喫煙・飲酒している者へ保健指導を実施する。	宮城総合支所	保健福祉課
両親教室での啓発と保健指導	両親教室の時に喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について保健指導を行う。	喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響についてパネル、チラシを活用した全体への啓発と個別保健指導を実施した。	家庭環境や、個人の状況にあわせた助言や啓発をすることができた。	延515名	全体への周知と個別保健指導を継続する。	青葉区 宮城野区 若林区	家庭健康課
育児教室や新生児訪問での啓発と保健指導	育児教室や新生児訪問の際に喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について保健指導を行う。	・育児教室や新生児訪問で喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について保健指導を実施した。 ・産後も喫煙を継続する産婦に対して禁煙チャレンジのチラシを配布した。	出産後健康への関心が高まっている対象へ喫煙(受動喫煙含む)、飲酒の影響について啓発することができた。	・育児教室 延2,903名(青葉区、若林区、太白区) ・育児教室での喫煙保健指導47件、飲酒保健指導20件(泉区) ・新生児訪問 延1,280件(宮城総合支所、若林区) ・新生児訪問時の禁煙啓発グッズ配布200個(宮城野区)	両親の飲酒、喫煙状況の把握から必要な啓発を継続する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
アルコール健康障害についての普及・啓発活動	飲酒に伴うリスクや健康被害について普及啓発する。	・アルコール問題と自死問題の関連性を鑑み、自殺予防週間・自殺対策強化月間に合わせて、依存症に関する普及啓発のリーフレットを配布した。 ・個別支援の中で、アルコール依存のリスクを抱える市民にリーフレットを配付した。	市民に対し直接、もしくは多くの市民の目に触れる場所でリーフレットを配布することで、アルコール問題に関する意識付けを行うことができた。	自殺予防週間・自殺対策強化月間に合わせたリーフレット配布:2回実施	引き続き、リーフレット等を活用してアルコール問題についての普及・啓発を実施していく。	宮城野区	障害高齢課
支援者向けアルコール研修会	支援者の対応力向上を目的に実施する。	アルコール関連問題を抱えた方の支援に携わる関係者とともに外部講師を招き事例検討を実施した。当事者への支援に還元した。	アルコールの課題を持つ方への関わり方を実践的に学ぶ機会となり、支援者の対応力向上に資することができた。	4回開催、延92名参加	・参加者の実態に即したテーマを設定する。 ・関係機関への周知拡大を図る。	宮城野区 若林区	障害高齢課
アルコール諸問題に対する関係機関の連携	アルコール関連問題について関係機関の連携を図り、問題の発生・進行・再発の防止対策を考え、当事者・家族の支援や回復につなげる。	アルコール問題対策庁内連絡会議を開催した。	アルコール相談に関して、区役所での相談の現状について共有した。統一した対応ができるツールやスクリーニングテストを支援者が理解しておくことで、支援力向上につながることも意見として挙がった。そのため、今後の支援者向けの研修会などで学ぶ機会を設ける必要があることを、次年度の課題として共有した。	参加人数:10名	9月頃に開催する。	健康福祉局	精神保健福祉 総合センター

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
たばこの健康影響に関する啓発	たばこの健康影響について正しい情報が得られるよう、ホームページ、情報コーナー、イベント、世界禁煙デー等を活用し啓発を行う。	・たばこの健康影響について市ホームページに掲載した。 ・妊婦向け禁煙、受動喫煙防止のチラシを作成、配布した。 ・世界禁煙デー等にあわせた啓発を実施した。	ホームページへの掲載や各区支所での事業を通し、広く市民に対し周知啓発ができた。	・通年掲載 ・各区支所へのチラシ等啓発媒体の配布数:2,471部 ・啓発関連のホームページアクセス数:2,193回	・通年を通した普及啓発と禁煙週間等に合わせた集中的な啓発を実施する。 ・教育機関・係機関と連携した防災教育等を推進する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 健康増進センター 家庭健康課 保健福祉課
喫煙防止教育の実施	学校・児童館等と連携した喫煙防止教育の実施を支援する。	・小学校・中学校・専門学校・大学・児童館にて、たばこの害や受動喫煙についての健康教育を実施した。 ・保護者への啓発チラシを配布した。	未成年の喫煙や受動喫煙防止のために、児童・生徒やその保護者、学生へ啓発することができた。	・小中学校:5校 延346名 ・児童館:6か所 延325名 ・専門学校へのニュースレターの送付:23校 ・大学:1回、135名	継続して実施する。	各区	家庭健康課
禁煙相談	たばこをやめたい人へ健康状態にあった禁煙の方法について助言をおこなう。	・希望者に対し、面接や電話等により禁煙を支援した。 ・たばこをやめたい人への禁煙支援として、市政だよりにて定期的な周知及び、生活習慣病重症化予防事業、高齢者の一体的実施事業にて、個別に禁煙支援が必要な方へ、積極的に周知を実施した。	個別禁煙相談では健康に対する意識・禁煙意思に応じた支援を実施。禁煙希望者には自力での禁煙に向けて、丁寧に経過を伺いながら電話等で支援した。数日禁煙できたものの再喫煙、本数は減らしたが禁煙開始に至らなかったなど禁煙継続者はいなかった。本人の支援希望に寄り添いながら、伴走していく。	・当年度指導実人数 26名 ・延指導回数 145回 ・当年度禁煙成功者数 5名	・教材の見直しを実施する。 ・禁煙希望者の動機付けを強化し、継続支援を実施する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
禁煙支援医療機関、禁煙支援薬局の情報提供	たばこをやめたい人に対し、禁煙につながるよう、ニコチン依存度に応じた禁煙支援薬局、医療機関情報を提供する。	・市ホームページに掲載した。 ・問い合わせへ対応した。	禁煙希望者が禁煙行動をとる一助となった。	通年掲載	掲載内容を更新する。	健康福祉局	健康政策課
肺がん結核健診を活用した受動喫煙防止対策及び禁煙支援に関する啓発	肺がん結核健診において、喫煙者(過去の喫煙者も含む)に対し啓発カードを配布する。	肺がん結核健診において、喫煙者(過去の喫煙者も含む)に対し啓発カードを配布した。	喫煙者に対して受動喫煙による健康影響についての啓発が図れた。	配布数 900枚	より多くの喫煙者に対し啓発ができるよう、肺がん検診委託先と連携を継続する、	健康福祉局	健康政策課
受動喫煙に関する取り組みを行う企業への支援	事業所に向け受動喫煙防止対策ガイドラインや、取り組み方策についての啓発を行う。	区内自動車学校・理美容店・タクシー会社等へ受動喫煙・卒煙に関するチラシを送付した。	たばこ以外の分野の健康情報とあわせて送付することで、効率的な事業所への啓発ができた。	配布件数 77件	継続して実施する。	宮城野区	家庭健康課
健康増進法に関するリーフレットの送付(飲食店等)	改正健康増進法により事業所等の義務となった受動喫煙防止対策について、飲食店を中心に個別配布する。	新規飲食店への健康増進法のリーフレット及び宣言施設登録制度周知チラシを送付した。	事業所等に対する改正健康増進法の理解促進が図れた。	配布数 769枚	継続して実施する。	健康福祉局	健康政策課
受動喫煙防止対策施設登録制度	宮城県・全国健康保険協会宮城支部と共同で「受動喫煙防止宣言施設」登録制度を実施し、事業所等に登録を呼びかける。	・登録書と登録ステッカーを交付した。 ・ホームページなどでの登録施設を公表した。	・民間施設による受動喫煙防止対策促進が図れた。 ・受動喫煙防止対策宣言施設利用のための環境整備が図れた。	・新規登録施設 148施設 ・登録更新施設 65施設 ※R8.3.31時点	継続して実施する。	健康福祉局	健康政策課

推進の視点1 健康状態の改善 歯と口の健康

方策の柱

- ①むし歯予防の強化と地域差・個人差の縮小の環境整備
- ②歯周病予防の推進
- ③口腔機能の育成・獲得・維持・向上

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
3～4か月児育児教室	生後3～4か月の乳児と保護者を対象に、育児についての情報交換や相談、育児状況の確認などを実施する。	3～4か月児育児教室の保護者に対し、集団指導または歯科保健の動画・フッ化物歯面塗布助成事業の紹介チラシを配布した。	・保護者がYouTube「初めての歯みがき」、☆せんだい☆でんたるノートF、フッ化物歯面塗布助成事業など乳幼児期の歯科保健事業の情報を得た。 ・フッ化物歯面塗布助成事業における受診者が増加した。 ・問診表や個別相談により、必要な保健指導を実施することで、育児不安の軽減を図るとともに、参加者との交流を促進することで孤立防止に寄与した。	開催回数:204回 参加者数:5,105人	継続して実施する。	こども若者局 各区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
離乳食教室	乳児の保護者・家族に対して、「健全な咀嚼機能の育成」や「乳歯のむし歯予防」に関する保健指導を実施する。	・乳歯のむし歯予防と健全な咀嚼機能の育成の啓発を実施した。 ・かかりつけ歯科医の推進について集団指導を実施した。 ・☆せんだい☆でんたるノートF、フッ化物歯面塗布助成事業を周知した。 ・月齢にあわせた離乳食の進め方について、集団指導及び個別相談を実施した。	・幼児健診でのかかりつけ歯科医を持つ児および、フッ化物歯面塗布助成事業の受診者数が増加した。 ・フッ化物の応用について正しい知識を得て、家庭でフッ化物を使用している児が増加した。 ・集団指導や個別相談により、乳児を持つ保護者・家族に対する離乳食の進め方や望ましい食習慣の確立、健全な咀嚼機能の育成に寄与した。	参加者数:保護者610人	・フッ化物歯面塗布助成事業を周知し、利用促進を継続する。 ・保護者へ口腔機能の育成と獲得についての啓発を強化する。	こども若者局 各区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
フッ化物歯面塗布助成事業	乳歯のむし歯予防や咀嚼機能の習得支援のため、フッ化物歯面塗布1回分の助成と歯科保健指導を実施する。	フッ化物歯面塗布を実施した他、口腔内の状況や問診結果を踏まえた個別保健指導を実施した。	「むし歯のない幼児の増加」「かかりつけ歯科医をもつ幼児の増加」に寄与した。	受診者数:3,096人 受診率:46.3%	継続して実施する。	こども若者局	こども家庭保健課
幼児健康診査 (1.6、2.6、3歳児)	むし歯予防や咀嚼機能の習得支援のため幼児期の歯科健康診査と保健指導を実施する。	・口腔内の状況や問診結果を踏まえた個別保健指導を実施した。 ・集団指導を再開し、保健指導の充実を図った。 ・保護者へデンタルフロスの普及啓発を図った。	・各健診でむし歯有病者率の減少 1歳6か月児 0.03ポイント減少 2歳6か月児 0.16ポイント減少 3歳児 0.7ポイント減少 ・各健診でかかりつけ歯科医を持つ児、フッ化物歯面塗布を受けた児の増加。	・1歳6か月児 185回 6247人 ・2歳6か月児 190回 6495人 ・3歳児 198回 6809人	継続して実施する。	こども若者局 各区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
幼児歯科健康診査事後指導	幼児健康診査の結果に応じて、歯科保健行動の改善を促すとともに、家庭やかかりつけ歯科医による歯と口の健康づくりを推進する。	1歳6か月児 文書指導・電話による受診確認・面接 2歳6か月児 文書指導・電話による受診確認 3歳児 電話による受診確認・歯科保健指導 ・各幼児歯科健診の健診後に、問診及び健診結果に基づく個別指導を全員に実施した。 ・有病者及びハイリスク児に対する事後指導・フォローの強化のため、多職種での情報共有および指導内容や方法について検討した。	・2歳6か月児・3歳児歯科健診における、かかりつけ歯科医を持つ児、フッ化物歯面塗布を受けた児が増加した。 ・2歳6か月児・3歳児歯科健診における、むし歯有病者率が減少した。	1歳6か月児 285人 2歳6か月児 439人 3歳児 50人	むし歯ハイリスク児への文書または電話フォローの継続して実施する。	こども若者局 各区 宮城総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課
幼児健康診査懇談会	小児科医・歯科医他、多職種による懇談会において、幼児のむし歯の有病状況や取り組みの方向性等について情報共有。	・幼児健診結果を分析し、むし歯有病者率やむし歯のリスクファクターとなる食生活を含めた生活習慣等を共有した。 ・健診に携わる小児科医・歯科医等と課題の共有を図った。	・かかりつけ歯科医の推進や☆せんだい☆でんたるノートFの配付及び仙台市フッ化物歯面塗布助成事業における医科歯科行政の連携を確認できた。 ・幼児健診におけるう蝕有病者やハイリスク児への対応(指導内容や手法等)、およびむし歯予防と生活習慣・食生活習慣のかかわりについて、相互に理解を深めることができた。 ・多職種に歯科保健情報の共有ができた。	5回 122人(内訳:外部出席者38人・市職員84人)	多職種連携によるむし歯の重症化予防対策の強化を図る。	各区	家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
保育所・幼稚園・認定こども園歯科健康診査結果集約事業	保育所・幼稚園・認定こども園で実施する歯科健診結果を集約・分析、各施設に結果を還元し歯科保健活動を継続支援する。	・区内保育所・幼稚園・認定こども園等が実施している歯科健康診査結果を集約・分析・各施設へ還元した。 ・結果還元時に、施設職員と保護者へ歯科保健に関する知識・情報の提供を併せて行った。 ・本事業と併せてフッ化物洗口に関する情報提供を行った。	・訪問等による還元により、施設における取組の把握や活動支援を行うことで、むし歯のない5歳児の増加に寄与した。 ・フッ化物洗口導入支援事業の事業説明や勧誘を行い、洗口実施施設の増加に寄与した。 ・多数のむし歯をもつ児について受診勧奨等の支援状況について共有した。	対象：320施設 報告：319施設	・健診結果提出の働きかけ、結果をもとに施設における歯科保健活動を支援する。 ・フッ化物歯面塗布助成事業、フッ化物洗口導入支援事業啓発を実施する。	健康福祉局 各区 宮城総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
フッ化物洗口導入支援事業	フッ化物洗口を希望する保育所・幼稚園等に対し、技術的支援及び必要物品の補助を行うとともに継続実施支援を行う。	・民間保育園長会や認定こども園施設長会、私立幼稚園連合会総会において参加を促すとともに、「フッ化物でむし歯予防」等のリーフレットを通じて、保護者の理解を深めた。 ・フッ化物洗口を希望する保育所・幼稚園等に対し、技術的支援及び必要物品の補助を行った(研修会・説明会の開催等)。	・新規参加施設数が増加した。 ・むし歯のない5歳児の増加へ寄与した。	フッ化物洗口実施施設186件 (R6年度：181件)	・事業未実施施設への事業勧誘を継続する。 ・洗口実施施設が継続して安全に実施できるよう支援する。	健康福祉局 各区	健康政策課 家庭健康課
市立保育所フッ化物洗口事業	乳幼児の発育及び発達段階に合わせた基本的な保健行動の定着と、生涯にわたる歯と口の健康の保持増進を図る。	市立保育所の4歳児、5歳児を対象に、フッ化物洗口事業を実施し歯と口の健康を保ち、心や身体の健康づくりを図った。	市立保育所におけるフッ化洗口事業の実施により、歯と口の健康の保持増進を図ることができた。	市立保育所31施設において、4歳児、5歳児において実施した。実施人数は4歳児502人、5歳児501人	R7年度同様に実施する。	こども若者局	運営支援課
フッ化物洗口事業継続実施補助金交付事業	フッ化物洗口を継続実施する私立幼稚園、私立保育所・認定こども園を対象として、フッ化物洗口継続実施にかかる費用を一部助成する。	フッ化物洗口導入支援事業に参加した私立施設を対象として、洗口開始2年目以降の継続実施にかかる費用の一部を助成した。	保育・教育施設で継続的にフッ化物洗口を実施する環境を整備することによって、幼児期のむし歯予防を一層推進し、児童の健やかな成長に寄与した。	【交付園数】 私立幼稚園・認定こども園：90施設 私立保育所：48施設 【参加児童数】 私立幼稚園・認定こども園：4歳児1,896人、5歳児2,088人 私立保育所：4歳児729人、5歳児823人	継続して実施する。	こども若者局	認定給付課
保育士研修会、保育所長会、民間保育園長会、認定こども園長会における啓発事業	保育士や施設長等を対象に、歯科保健活動推進に係る研修会等を開催する。	仙台市の保育所・幼稚園・認定こども園等の歯科健康診査の結果等を共有した。	乳幼児期における歯と口の健康づくりの重要性について理解を深めることができた。	4回	継続して実施する。	各区	家庭健康課
地域保健活動における幼児期の歯科健康教育・歯科保健相談	子育て関係機関と連携し、望ましい歯科保健行動がとれる家庭の取り組みを支援する。	・子育て支援施設等との連携により地域課題を共有し、解決のための健康教室(健康教育)を実施した。 ・施設を利用する親子に対し、健康的な生活習慣の確立と歯と口の健康づくりの実践を支援する講話や相談を実施した。 ・健康相談では、歯と口のセルフケア知識・技術を支援し自己管理能力の向上を推進した。	・年(月)齢に合ったフッ化物の応用について正しい知識を得ることができ、効果的に使用することになった。 ・甘味飲食のコントロール等、むし歯予防のための望ましい食生活習慣の知識を得て実践する契機となった。 ・かかりつけ歯科医を持つ者の増加、フッ化物歯面塗布を受ける者の増加、家庭でフッ化物を使用する者が増加した。 ・むし歯有病者率の低下、一人平均むし歯数が減少した。	健康教育：44回456人 健康相談：66人	ライフコースの視点でむし歯・歯周病予防だけでなく口腔機能の発達発育に係る健康教育を実施する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
障害児(者)施設歯科保健事業	障害児施設等に通う幼児の歯科疾患を予防することで、自立的な健康管理を促し、幼児の生活の質の向上に寄与する。	障害児施設において歯科健診、保護者や施設職員への知識提供・技術的支援を目的とした講話を実施した。	・保健指導による個別技術スキルが向上した。 ・健康教育により、保護者と施設職員の歯科保健意識の向上と知識が定着した。	11施設 延べ24回 295人	・保護者による適切なホームケアが出来るよう保健指導の充実と施設状況に応じた柔軟な対応を継続する。 ・かかりつけ歯科医の推進を図る。 ・各施設が歯科保健に関し抱える課題の把握に努める。	健康福祉局 各区	障害者支援課 家庭健康課
地域と共に育む子どもの健康づくり事業	学童保育に通う児童自身が歯と口の健康づくりに興味を持ち、予防行動に取り組むことができるよう支援する。	区で作成した啓発用DVDを貸し出しし、視聴してもらった。施設の希望があれば、担当者が出向き、健康教育を行った。	低年齢でもわかりやすい内容となっており、理解が難しそうなところは口頭で説明を加えることで、楽しく学ぶことができた様子がうかがえた。	3施設54人	ぬいぐるみを用いた対面での健康教育を検討する。	太白区	家庭健康課
フロスチャレンジ	妊娠期から幼児期までのむし歯予防・歯周病予防対策としてフロスの使用を啓発、習慣化に向けた実践を支援する。	デンタルフロスによる歯周病予防のセルフケアを拡げる「フロスチャレンジ」とし、母子手帳交付時の妊婦から歯科健診対象の保護者等を対象とした歯や口の健康に関する意識の向上を啓発し、妊娠期から幼児期までのフロスの使用を定着化し、啓発を図った。	デンタルフロスを使用する児やその保護者等が増加した。	母子手帳交付時 335 名 産後交流会3回 42名 2歳6か月児歯科健診17回 433名 3歳児健診19回 470名	妊婦、2.6/3歳は継続、あらたに地区まつり等での普及・啓発を計画している。	青葉区	宮城総合支所 保健福祉課
学校における定期歯科健康診断	学校保健安全法に基づき、小中高等学校で歯科健診を実施、その結果に基づき事後措置を実施する。	歯科健康診断後、歯科校医や養護教諭より事後指導を実施した。	歯科健診時や学校保健委員会等における、学校歯科医からの助言・保健指導や、「歯と口の健康週間」等を利用した全校的な歯みがき指導、口腔衛生に関する講話等の歯科保健活動を通じて児童生徒、保護者及び教職員への予防の啓発を実施することができた。	年1回	歯科健康診断後、歯科校医や養護教諭より事後指導を実施する。	教育局	保健体育課
学齢期の歯と口の健康づくり推進	児童館や学校関係者との連携により、乳幼児期から学齢期までの連続したむし歯予防対策を推進する。	・小中学校・児童館健康教育 ・学校保健・地域保健懇談会 ・学校保健委員会への参加 ・児童館における健康教育を実施した。	・甘味飲料の糖質量やフッ化物の利用等のむし歯予防法についての児童生徒の理解を深めた。 ・学校関係者と健康課題を共有し、連携を深めることができた。	11回 488人	・内容について理解できたと回答した児童・生徒の増加を図る。 ・他事業・連携事業(防煙教育等)の機会に併せて、歯と口の健康づくりに関する講話を積極的に実施する。	宮城野区 泉区	家庭健康課
ハローフロスプロジェクト	青年期からの歯周病対策を強化するため、大学生等を中心にデンタルフロスの使用などセルフケアの実践を支援する。	・デンタルフロスによる歯周病予防のセルフケアを拡げる「ハローフロスプロジェクト」の推進で、作成したリーフレットを用いて大学生、専門学生等へ啓発を実施した。 ・共済組合の「健康チャレンジ月間」で仙台市職員を対象にデンタルフロス使用のモニターを募集した。	・歯周病予防に対する意識の向上がみられた。 ・デンタルフロス使用者が増加した。 ・新たに若い世代(学生)が健康教育を受ける機会が増加した。	東北大学歯学研究科、歯学部学生、歯科医師会、仙台市で組織する検討部会開催:2回 リーフレット配布:15,654部	大学・専門学校と協働での啓発機会を拡大する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
20歳のデンタルケア	20歳の市民を対象に歯科健診と歯周病予防のセルフケア能力向上のための保健指導を実施する。	歯科健診結果と問診結果等の状況に応じた保健指導を実施した。	・歯周病予防に対する意識が向上した。 ・デンタルフロス使用者が増加した。 ・かかりつけ歯科医をもつ人が増加した。	対象者数:10,638人 受診者数:1,152人 受診率 :10.8%	・受診勧奨を継続する。 ・新マニュアル・リーフレットを活用する。	健康福祉局	健康政策課
大学・専門学校生など若い世代への啓発	青年期における健康的な歯や口の健康に関する知識の啓発を実施する。	管内専門学校を対象とした若い世代の健康づくり事業を実施した。 ①訪問により先生方から生活課題についての聞き取りと学生へのアンケートの許可取り ②専門学生へ生活習慣についてアンケート実施 ③アンケート結果について連携校へ全体の傾向をフィードバック	・アンケートにより、健康課題について定性的・定量的評価を行うことができた。 ・アンケートの自由回答欄では自身の生活習慣について原因と結果を自己分析してる回答も見られ学生自身の気づきにつながった。	連携学校数8校 899名	アンケート結果を生かした普及啓発を行う。	宮城野区	家庭健康課
母子健康手帳交付時歯科健康教育	妊娠期の歯と口の健康づくりを啓発、妊婦歯科健康診査の受診勧奨を実施する。	母子手帳交付時に、妊婦のオーラルケア健診の受診勧奨を実施した。	妊婦歯科健診受診者数が増加した。	母子健康手帳交付者 6,366件	受診勧奨を継続する。	こども若者局 各区 各総合支所	こども家庭保健課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
妊婦のオーラルケア健康診査	むし歯や歯周病が多発する傾向にある妊婦を対象に個別歯科健診・歯科保健支援を実施する。	口腔内の状況や問診結果を踏まえた個別保健指導を実施した。	・かかりつけ歯科医をもつ者が増加した。 ・適切なセルフケアを実施する者の増加に寄与した。	受診者数:2,880人 受診率:45.2%	次年度以降も引き続き実施する。	こども若者局	こども家庭保健課
産後交流会	産後交流会で「健全な咀嚼機能の育成」「乳歯のむし歯予防」に関する保健指導を実施する。	産後交流会で健康教育・保健指導を実施した。	むし歯有病率・一人平均むし歯数が減少した。	3回 42人	口腔機能獲得の支援も踏まえ、産後交流会を3回実施する。	青葉区	宮城総合支所 保健福祉課
健康教育・健康相談	壮年期以降の歯周病予防や口腔機能の維持向上のためのセルフケア知識、技術の獲得支援と専門的ケアの利用を促進する。	・壮年期以降の市民に対する歯科健康教育・歯科保健指導、個別健康相談等を実施した。 ・健康情報紙による啓発を実施した。	・歯周病やオーラルフレイル予防に関する意識が向上した。 ・かかりつけ歯科医をもつ人が増加した。 ・オーラルフレイルに関する理解する者が増加した。	健康教育:580人 健康相談:13人 情報誌配付:2,060人	健康教育等を通してオーラルフレイルに関する正しい知識、予防法の普及啓発と、認知度の向上を図る。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
歯周病検診	30～70歳までの10歳刻みの節目者を対象に口腔診査と保健指導を実施する。	歯科健診結果と問診結果等の状況に応じた保健指導を実施した。	・歯周病予防に対する意識が向上した。 ・デンタルフロス使用者が増加した。 ・かかりつけ歯科医をもつ人が増加した。	対象者数:67,988人 受診者数:6,147人 受診率 :9.0%	新マニュアル・リーフレットの活用と研修会を開催する。	健康福祉局	健康政策課
口腔機能維持・向上の支援事業	歯周病予防・口腔機能の維持向上に向けたセルフケア知識、技術の獲得支援と専門的ケアの利用を促進する。	一体的実施ポピュレーションアプローチにて、口腔機能維持向上の啓発を実施した。	口腔機能維持のための取り組みや知識を得ることができた。	一体的ポピュレーションアプローチ:253人	パタカ測定を活用した健康教育を実施する。	健康福祉局 宮城野区	健康政策課 家庭健康課
特定健診・基礎健診事後指導における啓発	特定健診・基礎健診受診者への事後指導として「糖尿病と歯周病」や「速食いと肥満」の関係等を保健指導し、歯科医療機関への受診勧奨を実施する。	・甘味飲料の糖質量や身体への影響を示したパネル及び実物展示を行い、保健指導を実施した。 ・健診受診の際、運動等生活習慣改善の資料を配布した。 ・結果説明の際、体組成の測定と併せて運動習慣の必要性の動機づけと甘味飲料に関する啓発を実施した。	・甘味飲料の糖質量や身体への影響等への気づきにつながった。 ・運動習慣の状況の確認と必要性の動機づけができた。	啓発展示 2回 77人 測定と啓発 1回 31人	令和5年度は歯と口の健康、令和6年度は栄養とテーマを変えて実施し、令和7年度は運動をテーマにした内容で実施しており、参加者が興味を示すような測定項目と併せて実施する。	健康福祉局 宮城総合支所	健康政策課 保健福祉課
豊齢力チェックリストを用いた口腔機能向上の啓発	70歳・75歳の方に、フレイルチェック等を送付し、口腔機能向上の啓発を含めた介護・フレイル予防に係る情報について周知。80歳市民を対象に、生活機能を確認するためのチェックリストに咀嚼嚥下の項目を設定し送付。機能低下が心配される場合、介護予防の取り組みを勧奨する。	・70歳、75歳、80歳の方に豊齢力チェックリスト等を送付し、介護予防の取り組み等を案内した。 ・上記対象者のうち、当課へ豊齢力チェックリストの返送があり、当該事業の基準を満たした該当者に、介護予防サービス等の案内を送付した。 ・当課へ豊齢力チェックリストの返送がなく、かつ80歳で独居又は高齢世帯の方に対して、地域包括支援センター職員による訪問等を行うことが記載された案内を送付した。 ・地域包括支援センター職員による訪問等のアプローチを実施した。	当該事業の対象者には、口腔機能の向上に関するものを含めた介護予防の取り組みについて啓発し、継続して必要な支援につなぐことができた。	・豊齢力チェックリスト等の送付:21,571人 ・豊齢力チェックリスト該当者への送付:1,866人 ・地域包括支援センターによる訪問の案内の送付:1,425人	・70歳・75歳の方には、フレイルチェック等を送付し、口腔機能向上の啓発を含めた介護・フレイル予防に係る情報について継続して周知する。 ・80歳の方には、豊齢力チェックリストを送付し、必要な方には口腔機能向上の啓発を含めた介護・フレイル予防や健康づくりについての取り組みを継続して紹介する。	健康福祉局	地域包括ケア推進課
歯科医師認知症対応力向上研修	歯科医師に対し、認知症の人本人とその家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携の重要性等を習得するための研修を実施することにより、認知症の疑いのある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、その後も認知症の人の状況に応じた歯科治療・口腔管理を適切に行い、認知症の人への支援体制構築の担い手となることを目的とする。	・仙台市内で開業(勤務も含む)する歯科医師を対象とし、歯科医師認知症対応力向上研修を実施した。 ・上記研修を受講した者を対象に、フォローアップ研修を実施した。 ・研修修了者から同意が得られた場合は、仙台市ホームページに氏名・勤務先等を掲載した。	認知症対応力向上研修を受講した歯科医師が増加したことにより、認知症の人への支援体制の強化	・歯科医師認知症対応力向上研修開催回数 2回 修了者数 歯科医師 18名 ・歯科医師認知症対応力向上フォローアップ研修開催回数 1回 修了者数 歯科医師 11名	歯科医師認知症対応力向上研修受講者数増加のため、更なる周知を図る。	健康福祉局	地域包括ケア推進課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
認知症ケアパスによる口腔内の健康管理に関する啓発	かかりつけ歯科医院での定期受診や、仙台市の60歳、70歳の歯周病検診等を勧奨し、口腔内の健康管理の重要性を啓発する。	・認知症ケアパスに口腔内の健康管理に関するコラムを掲載した。 ・認知症ケアパスを歯科医院等へ配架した。	認知症ケアパスにて口腔内の健康管理について市民へ情報提供を行い、かかりつけ歯科医院への受診、歯周病検診受診等の意識を高めることができた。	—	配架先の拡大など、認知症ケアパスの普及啓発に取り組む。	健康福祉局	地域包括ケア推進課
歯と口の健康週間行事	6月の週間行事にちなみ、歯や口の健康に関する正しい知識と実践を支援する。	・歯と口の健康づくりに関するパネル展を実施した。 ・市政だより、庁内放送で行事の周知を実施した。 ・5歳児むし歯予防絵画作品展を開催した。 ・市民のつどいおよび市民のつどいweb版を開催した。	・歯や口の健康に関する正しい知識と、生活習慣が全身の健康と歯科疾患に与える影響等を知る機会となった ・歯や口の健康に関するセルフケアを実践する人の増加につながった。	11,460人	週間行事にあわせた啓発を継続して実施する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
歯と口腔の健康づくり月間行事	健康増進月間や地区まつりに合わせて、歯や口の健康に関する正しい知識と実践を支援する。	・図書館や商業施設と連携してパネル展を実施した。 ・懸垂幕、市政だより、デジタルサイネージなど様々な手法で月間を周知した。	・市民図書館や商業施設、区役所展示、学校保健委員会等と連携した多様な啓発により、歯と口の健康や生活習慣が全身の健康に与える影響への理解が広がった。 ・歯科保健行動の実践・継続が促進され、管内児のかかりつけ歯科医を持つ割合の増加や、むし歯有病率・一人平均むし歯数の減少に寄与した。	5,519人	月間行事にあわせて歯と口の健康づくりに関する啓発を継続する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
健康増進普及月間等	健康増進月間や地区まつりに合わせて、歯や口の健康に関する正しい知識と実践を支援する。	・パネル展を職域・図書館・保育施設等にて実施した。 ・その他の啓発(健康増進普及月間、禁煙週間、市民センターまつり 他)を実施した。	他分野の事業とあわせて実施することで、市民が歯科保健情報に触れる機会を増やすことができた。	2,194人	継続して、多職種連携で啓発強化を図る。	健康福祉局	健康政策課
チアフルキッズプロジェクト2025	管内児童館2か所と連携し、児童クラブ1年生を対象にした生活習慣病予防教室を実施する。	・歯と口の健康において児童クラブの1年生と保護者に対し、生活習慣病予防(歯周病・むし歯予防)について、健康O×クイズで児童と一緒に学び、保護者に対し、啓発チラシをメールで送信し啓発した。 ・児童に歯みがきカレンダー・歯ブラシ・デンタルフロスを配布した。	・保護者にも啓発したことにより、歯科保健行動(デンタルフロスの使用等)に取り組む家庭が増えた。 ・1年生の夏休み前や冬休み前に実施したことにより、崩れやすい寝る前の歯みがき等を忘れずに定着することが生活習慣チェックシートで確認することができた。	・実施児童館 2施設 ・チラシ配布数 390 ・参加児童数 81人	健康教育の実施と啓発チラシを配布する。	宮城総合支所	保健福祉課

がん、循環器病、糖尿病(メタボ)

方策の柱

①年齢や状況に合わせた切れ目のない健康管理の支援

②発症予防・重症化予防のための環境整備

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
学校保健委員会への参加	学校との連携を図り、生活習慣病を予防するための望ましい生活に関する啓発を行う。	各学校の学校保健委員会に参加し、地域の健康課題について情報共有を実施した。	地域の健康課題を共有することにより、乳幼児期から切れ目ない健康づくり支援の重要性を参加者が認識することができた。また、学校関係者が、年齢期からの基本的な生活習慣の獲得が成人期以降の生活習慣病予防につながるという認識を持てたことで、その後の事業連携につながった。	小学校28校、中学校12校	地域の健康課題について情報共有を実施、健康教育のPRを実施する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
学校保健関係者との懇談会	学校との連携を図り、生活習慣病を予防するための望ましい生活に関する啓発を行う。	・管内の養護教諭や栄養士と地域の健康課題や健康づくりに関する取り組みの情報共有を行った。(秋保) ・区内学校の養護教諭へ周知し学校保健地域保健懇談会を開催。宮城野区の健康課題及び事業説明、貸出保健教材の紹介や、情報交換・情報共有を実施した。(宮城野)	R6から継続して児童館へ周知を行い、情報共有を通じて地域・学校・児童館が連携し、児童への予防的介入に取り組む重要性を再確認した。また、養護教諭や児童館職員にとって、知識や視点を高めるエンパワメントの機会となった。あわせて保護者への健康情報発信を継続し、生活習慣定着の取組状況や朝食内容、メディアコントロールなど世代別の課題を把握することができた。	【秋保】 ・秋保中学校区生活改善部会への参加 1回、 管内栄養連絡会 1回 【宮城野】 区懇談会1回 養護教諭:12校15人 栄養教諭:1校1人 児童館:5館5名 社会教育主事:1名 区職員:22名	児童館を周知対象として拡大したことで、テーマ設定の難しさが生じている。また、学校保健の視点で検討した場合、中学校への周知拡大の可能性もあり、周知対象について検討したうえで実施する。	宮城野区 秋保総合支所	家庭健康課 保健福祉課
市民まつりにおける健康づくり啓発	六郷・七郷市民まつりにおいて健康づくり啓発のブースを出展する。	六郷保健センターまつり、七郷保健センターまつりを開催し、来場者へナトリウム測定や健康チェック、フレイルチェック、血管年齢測定、目の健康チェック、パネル展示など、様々な機関と連携し体験型イベントの啓発を実施した。	・各種測定により、普段の生活習慣を振り返るきっかけができた。 ・健康づくり等に関する知識の普及啓発ができた。 ・各種測定の実施では、様々な機関や地域組織の協力を得て運営に至り、地域をあげて健康づくりをすすめる機会となった。	六郷市民まつりブース来場者:254名 七郷市民まつりブース来場者:1031名 協働実施した団体や機関:9機関	六郷保健センターまつり、七郷保健センターまつりにおいて健康啓発のブース出展を行う。	若林区	家庭健康課
市民センターや児童館と連携した健康づくり(R6は「市民センターや児童館と健康課題に関する共有」)	健康課題の共有や健康情報を提供し、児童館と連携した健康づくりを実施する。	児童館への訪問・啓発物の配布に併せて健康課題に関するヒアリング・情報共有等を実施した。	・各区において、運動や食育を中心とした健康教育を実施し、参加者の満足度は高く、運動習慣獲得や健康意識向上のきっかけづくりにつながった。 ・健康増進係と地区担当保健師が連携して取り組むことで、児童館等との健康課題の共有が進み、健康教育の依頼件数は維持・一部増加するなど、取組の浸透がみられた。	講座等:20回 延550名参加 ヒアリング・情報共有等:20か所にて実施	・市民センターや児童館と連携し、講座や啓発媒体、健康教育を通じて、乳幼児を持つ保護者や親子に生活習慣に関する知識の普及を図る。 ・区内の児童館・児童センターを計画的に巡回する最終年として、地域の健康課題を共有しながら継続的な啓発を実施する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
健康に関する情報提供(若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業)	健康づくりに取り組む地域団体や活動について紹介する媒体や、こどもの健康づくりに関する媒体を作成・配架する。	六郷地区健康づくり事業は令和5年度で終結したため、情報提供通信の発行は終結。若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業としては、長期休み等の機会に児童が活用できるちよいチャレマスター(生活習慣チャレンジカード:早寝、朝ごはん、運動、メディアの4分野)を作成し配架した。	・ちよいチャレマスターを作成し地域団体のイベント時に配架できた。 ・長期休みを活用して取り組む児童が複数名おり、早寝、朝ごはん、運動、メディアの全分野で20日以上取り組む様子が見られた。	20部以上配布 生活習慣改善に取り組んだ児童6名	あらゆる機会を捉えてちよいチャレマスターを配架し、子どもが生活習慣改善に取り組むきっかけをつくる。	若林区	家庭健康課
こども食堂と連携した健康づくり(若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業)	沖野地区の子ども食堂と協働しこどもが健康づくりを考えるワークショップやリーフレットを配布する。	子ども食堂と共催で健康に関するワークショップとして健康すごくイベントを実施。子どもの健康実態について周知、リーフレット配架。健康レシビの配布の他、子ども食堂で健康レシビを配布した。	・すごくイベントを通して、子どもが楽しく生活習慣病予防について学ぶ機会となった。子どもや保護者へ広く健康実態を把握いただけた。 ・健康レシビの配架協力が得られた他、食堂内でのレシビ配布に繋がり、地域で健康づくりを推進する協働体制が構築された。	子ども食堂イベント:児童5人 チラシ配架、健康レシビ提供	沖野地区の子ども食堂と協働し子どもが健康づくりを考えるワークショップやリーフレットを配布する。	若林区	家庭健康課
若林区健康づくり区民会議(健康づくり寸劇)	区民の主体的な健康づくりを積極的にすすめるために区民と協働で寸劇を上演し、わかりやすく、どの年齢層でも健康づくりに興味をもってもらう。	① 上演活動 ② げんきくん体操の普及 ③ 上演のPR活動 ④ 劇団員のモチベーション維持	・団員の地域でのつながりが、新しい場での上演につながった。児童館や保育所、高齢者サロン等で上演し、幅広い年代へアプローチできた。 ・参加する劇団員のモチベーションは高く、上演後のアンケートにも前向きな意見が多かった。	交流会1回・練習会7回 上演9回 観客数465名	・寸劇の後の健康教育を実施する。 ・寸劇周知方法の拡充を図る。 ・劇団員の募集を実施する。	若林区	家庭健康課
多様な手段を活用した、市民健診、特定健診の受診勧奨	健診受診率向上を図る取り組みを行う。	市民健診・特定健診について民生委員児童委員協議会や地域サロン等あらゆる場所にて周知した。	電子申請の申込割合が増加した。	申込者 22,722名 (うち電子申請5,083名)	健康教育や地域住民との会議等あらゆる機会において、健診の啓発を行う。	宮城野区	家庭健康課
ピンクリボン啓発活動	ピンクリボン仙台推進委員会の活動として、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを啓発する。	乳がん啓発イベントや講演会等を開催した。	市民に対する乳がんの知識及び受診啓発が図れた。	「みんなで子育てフェスタ&健康フォーラム」(令和7年10月13日実施)への出展及びトークイベントの開催。	集客が見込まれる事業(健康フォーラム等)への乳がん啓発ブースの出展等を実施する。	健康福祉局	健康政策課
健康相談	自分の健康状態にあった生活習慣改善により生活習慣病を予防し、健康の自己管理に役立てる。	・健康相談会を定期開催した。 ・電話や来所による随時相談に対応した。 ・自身の健康状態に合わせた生活習慣を改善できるよう支援した。	・相談や情報提供を通じて、市民が自身の生活習慣や健診結果を振り返り、健康の自己管理や行動改善への意識を高める機会となった。 ・体組成計やペジメーター測定を活用し、保健師・栄養士・歯科衛生士が連携することで、全身の健康を視野に入れた効果的な支援を行った。 ・相談件数は増加傾向にある中、多様な相談方法や出張開催により幅広い層に対応し、継続的な健康づくりの実践につなげることができた。	相談会、随時相談:延963件	・積極的な周知を実施する。 ・相談しやすい場面設定を推進する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康増進センター 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
健康教育 (妊娠期)	妊娠期(胎児期)世代および妊産婦とその家族に対し、保健師・栄養士・歯科衛生士等が連携し、両親教室や母親教室などの場で、生活習慣病予防を目的に、健康的な食生活・運動習慣・歯の健康づくりについて健康教育や保健指導を行い、必要な知識の習得と不安軽減を図る。	・区役所で実施している母親教室・両親教室において、妊娠期の食生活や必要な栄養素、妊娠高血圧症候群等の予防を含む健康教育を実施した。 ・既存の教室に生活習慣病予防(高血圧・糖尿病・適正体重)の視点を組み入れ、家族も含めた健康的な食習慣の普及を図った。 ・集団指導や個別相談、尿ナトリウム比測定を通じ、妊産婦が自身の生活習慣を振り返り、実践につなげる支援を行った。	・母親教室や母親教室同窓会において、妊娠期および産後の食生活の目安やポイントについて講話を行い、正しい知識の提供と不安解消を図った。 ・集団指導や個別相談を通じ、家族を含めた食生活の振り返りや改善につなげ、妊娠期の望ましい生活習慣への理解を深める機会となった。 ・尿ナトリウム比測定や甘味飲料の糖類量啓発を実施し、減塩や血圧管理、生活習慣の見直しに対する動機づけを行った。	母親教室:28回、延494人 個別指導 延9人 両親教室:10回 延439人	・母親教室において、妊娠中の高血圧・高血糖予防を目的に、食事・口腔ケア・生活習慣に関する健康教育を継続して実施する。 ・尿ナトリウム比測定を通じて、野菜や塩分摂取のバランスを客観的に振り返り、妊娠期からの血圧管理や食生活改善を促す。あわせて掲示・配布資料の改善や実施先の拡大を図り、より効果的な啓発につなげる。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
健康教育 (乳幼児期)	乳幼児期の子どもとその保護者に対し、保健師・栄養士・歯科衛生士等が連携し、児童館や保育所等と連携した場や育児相談・講座を通じて、生活習慣病予防を目的に、健康的な食生活・運動習慣・歯の健康づくりについて健康教育を実施し、適切な育児知識の習得と実践を支援する。	・地域に出向き、乳幼児親子を対象に離乳食教室を開催した。 ・おやつの説明と合わせ、甘味飲料の糖質量や体への影響なども説明し、家族も含めた生活習慣病予防について伝えた。	・乳幼児期の適切な生活習慣形成を目的に、砂糖量や血糖の知識、離乳食・幼児食、口腔ケアに関する講話や相談を多職種で実施した。 ・児童館や保育所、地域イベント等に出向いて、少人数での座談や媒体を活用した説明、個別相談を行い、保護者が悩みを共有し行動変容のきっかけを得る機会となった。 ・アンケート結果から、安心感や理解の深まりが得られ、家庭での生活習慣の見直しや地域の子育て支援機関につながる効果が確認された。	・子育てサロン 11回 延86人 ・子育て支援センター等 8階 延63人 ・児童館 63回 延、1183人 ・保育所・こども園等 13回 延195名 ・小学校 49回 延2,827人 ・中学校 3回 延181人 ・市民センター・公共施設 8回 延88人 ・イベント等 13回 延524人	・おやつや甘味飲料の摂り方を中心とした健康教育を継続し、乳幼児期からの適切な生活習慣形成により将来の生活習慣病予防を図る。 ・掲示・配布資料の改善や実施先の開拓、手法の工夫を行い、依頼件数の増加に対応しながら関係機関との連携を維持する。 ・区の健康課題やアクションプランを意識した内容を取り入れ、引き続き保護者向けの効果的な啓発を推進していく。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
健康教育 (学齢期)	学齢期の子どもとその保護者を対象に、学校や児童館などと連携し、生活習慣病予防を目的として、健康的な食生活・運動習慣・歯の健康づくりに関する健康教育を実施する。また、ここからだについて正しい知識を得て、生きることや命の誕生について考える思春期保健を学校を通して実施する。	・地域イベントや児童館、学校等に出向いて健康教育を実施し、食生活・運動・歯と口の健康、早寝早起き朝ごはん等について幅広く啓発した。 ・小学校・中学校への訪問による健康課題の共有や授業連携により、アクションプランを踏まえた生活習慣病予防の取組を推進した。 ・地域団体やこども食堂とも連携し、継続的な取組や家庭での実践につながる子どもの健康づくりを支援した。	・学齢期児童を対象に、甘味飲料やおやつに含まれる砂糖量を通して血糖の知識や適切な生活習慣について健康教育を実施し、高い理解度が得られた。 ・事業開始以降、依頼件数や対象者は増加しており、学校・児童館・区役所の連携や地域イベントでの展開により、生活習慣の定着や家庭への波及効果が見られた。 ・媒体や模型を活用した年齢に応じた内容が関心を高め、児童自身が生活を振り返り、家族と共有したいという意識につながった。	・児童館 20回 延919人 ・小学校 34回 延2,472人 ・中学校 5回 延558名 ・市民センター 1回 延22人	・おやつや甘味飲料の摂り方を中心とした健康教育を通じ、学齢期からの適切な生活習慣形成と将来の生活習慣病予防を図る。 ・中学校との連携強化や実施先の開拓、見やすい資料や対面教材の工夫により理解力向上を目指す。 ・区の健康課題やアクションプランを踏まえ、関係機関と連携しながら地域イベント等を活用した啓発を継続していく。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
健康教育 (青壮年期)	青壮年期(働き盛り世代)を対象に、生活習慣病予防と健康維持を目的として、保健師・栄養士・歯科衛生士等が、健康的な食生活・運動習慣・歯の健康づくりに関する健康教育を実施する。また、保護者自身の健康意識を高め、適切な保健行動をとる親子の増加を目指す。	・地域のサロン・施設・職域・イベント等に出向き、甘味飲料の適正摂取や食生活、運動習慣などをテーマにした健康教育を幅広く実施した。 ・子育て支援事業や学校・消防団・地域団体と連携し、ミニ講話や体験型測定、宅配講座を通じて、各世代に応じた生活習慣病予防の啓発を行った。 ・多様な場や対象に展開することで健康づくりの周知が広がり、地域全体で健康意識を高める取組につながった。	・子育て中の保護者や若い働き世代を対象に、食事・口腔ケア・生活習慣をテーマとした健康教育を実施し、将来の生活習慣病予防への意識づけを行った。 ・アンケートでは満足度・理解度ともに高く、自身の生活を振り返り、甘味飲料の摂取や運動など具体的な改善意欲につながった。 ・地域の場に出向き、媒体やクイズ、DVD貸出等を活用することで、年齢に応じた知識の定着と健康づくりの周知拡大が図られた。	・子育てサロン 13回 延169人 ・保育施設等 10回 延101人 ・児童館 3回 延8人 ・事業所 4回 延93人 ・職域 2回 延49人 ・小学校 1回 延5人 ・大学 1回 延135人 ・社会福祉協議会 1回 延1人	・子育て世代や若い働き世代を対象に、食事・口腔ケア・生活習慣をテーマとした健康教育を継続し、ベジメーターやナトカリ測定等を活用した効果的な啓発を行う。 ・幼児期からの健康づくりを重視し、運動教室の実施や親子向け媒体作成など新たな取組も加えつつ、資料改善や実施先・連携先の開拓を進める。 ・区の健康課題やアクションプランを踏まえ、大学・企業・関係機関と連携しながら、学齢期から青壮年期まで幅広い世代への啓発を継続する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
健康教育 (高齢期)	高齢期世代を対象に、生活習慣病予防(フレイル予防を含む)を目的として、サロンや老人福祉センター等と連携し、保健師・栄養士・歯科衛生士等が健康的な食生活・運動習慣・歯の健康づくりに関する健康教育を実施する。	・市民センターや町内会、福祉施設、事業所、被災者サロン等に出向き、講話・座談・軽運動・体験型測定を組み合わせた健康教育を実施した。 ・既存の高齢者事業や被災者支援、地域イベントと連動し、生活習慣病予防やフレイル予防、食生活・運動・口腔ケアについて対象に応じた内容を提供した。 ・地域団体や民児協と連携することで、住民の健康課題に即した継続的な健康づくりの推進につながった。	・生活習慣病予防・フレイル予防の視点を踏まえ、食事・口腔ケア・運動等に関する健康教育を地域で実施し、測定機器を活用して自身の健康状態を客観的に振り返る機会とした。 ・参加者からは理解の深まりや具体的な実践意欲が多く聞かれ、高齢期に応じた内容や体験型支援が行動変容への動機づけにつながった。 ・地域に出向く取組により健康づくりの周知が広がり、住民の生活課題に即した支援を通じた継続的な健康意識の向上が図られた。	・市民センター 2回 延38人 ・社会福祉協議会 1回 延22人 ・高齢者施設 4回 延78人 ・地域サロン等 13回 146人 ・自主グループ等 8回 延209人 ・町内会等 6回 延120人 ・社会学級 3回 延61人 ・健康講座等10回 延194人 ・イベント等 10回 延4,042人	・生活習慣病予防とフレイル予防の視点を踏まえ、食事・口腔ケア・運動に関する健康教育を継続し、測定機器を活用した効果的な啓発を行う。 ・各種依頼や地域イベントなどあらゆる機会を活用し、資料改善や実施先の開拓を進めながら、生活習慣病予防の周知を強化する。 ・区の健康課題やアクションプランを意識し、関係機関と連携しながら学齢期を含む幅広い世代への健康教育を継続していく。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
健康教育 (全世代)	全世代を対象に、生活習慣病予防を目的として、地域イベント等の場を活用し、保健師・栄養士・歯科衛生士等の専門職が連携しながら、健康的な食生活・運動習慣・歯の健康づくりに関する健康教育を実施する。	・専門職が地域のイベント等に出向き、全世代を対象に生活習慣病予防を中心とした健康教育や啓発を実施した。 ・子育てフェスタや地区まつり等では、野菜摂取量の体験展示や各種測定機器を用いた健康チェックを行い、参加者の気づきと関心を高めた。 ・展示・資料配布、個別指導を組み合わせることで、世代を問わず健康づくりへの理解促進と行動変容につなげた。	・西公園150周年フェスにてベジメーター測定ブースを運営し、野菜摂取量や塩分に関する知識の啓発を行った。 ・健康チェックや個別説明を通じて、幅広い世代が自身の食生活や生活習慣を具体的に振り返る機会となった。 ・参加者からは実践を意識した声が多く聞かれ、生活習慣病予防への意識向上につながった。	・イベント等 6回 延3,805人	・全世代を対象に、食事・口腔ケア・運動など健康づくりに関する知識を普及し、日常生活での実践につなげる啓発を行う。 ・ベジメーターやナトカリ測定器等を活用し、各種月間・週間事業と連動した効果的な周知を図る。 ・掲示・配布資料の改善や実施先の開拓を進め、区の健康課題やアクションプランを意識した取組を推進する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
日本語学校と連携した健康づくり事業	日本語学校等と連携し、外国人留学生の結核などの疾患の発症予防及び健康づくりを推進する。	・結核患者発生時の支援や接触者調査・健診にて、区内6校と連携した。 ・区内8校へ訪問し、留学生への健診の推奨、健康教育の提案を実施した。 ・健康教育を4校へ計8回実施した。 ・学校職員に講師を依頼して研修会を実施した。	・学校訪問や患者支援等連携時に学生の生活実態や健康教育のニーズを聞き取ったことで、健康教育の実施内容を学校ごとに調整できた。 ・外国籍の学校職員を講師に留学生の生活やコミュニケーションを学ぶ研修会を実施し、留学生の健康観の理解や日本語学校との連携強化につながった。	健康教育4校、参加者653名 関係職員向け研修会1回実施、参加者20名 学校訪問8校	・引き続き患者支援や接触者調査等において日本語学校と連携する。 ・留学生の文化背景に合わせた健康教育や、職員向け研修会を実施する。	青葉区	管理課
ヘルスアップセミナー	疾患・健康課題に合わせた講座の開催や健康相談の場を設けることで、市民の生活習慣改善・セルフケア能力の向上を促す。	・市民および働き盛り世代を対象に、生活習慣病予防と健康づくりを目的とした講話・運動実技・調理実習等のセミナーを開催した。 ・令和7年度は、新たに「糖尿病」「高血圧予防とナトリウム比の活用」をテーマに講演会を実施し、理解促進と実践につなげた。	・セミナー参加者の83.2%が生活習慣改善に取り組むきっかけになったと回答し、今後の行動への動機づけとなった。 ・健康づくり支援プランの作成を通じて身体状況を振り返り、運動や食生活改善に向けた具体的な目標設定と実践意欲の向上につながった。	実施回数:15回 参加者数:延べ329人	働き盛り世代を対象としたセミナーの開催する。	健康福祉局	健康増進センター
地域のサロン等健康支援	高齢期の健康づくりに関する情報を発信する。	・フレイル予防出前講座の周知・チラシを配布した。 ・フレイル予防啓発リーフレットを配布した。 ・フレイル予防等に関する健康教育を実施した。(一体的実施事業も含む)	・依頼団体と相談しながら、フレイルの総論だけではなく、口腔や栄養のフレイル予防をメインテーマとして取り上げた団体も多々あった。団体の特徴や知識量に合わせて実施した。また講話だけではなく握力やナトリウム比測定などと組み合わせる講話内容を工夫した。 ・参加者が現在の生活や身体状況を振り返り、高齢期における健康づくりの必要性を理解し実践に結びつける機会となった。	健康教育の実施回数:12回 延255人	地域に出向くあらゆる機会を活かしフレイル予防の啓発を行っていく。また一体的実施や被災者健康支援とも連動させながらフレイル予防に関して啓発していく。	宮城野区	家庭健康課
ナトリウム比測定による健康教育(六郷地区健康づくり事業・地区健康教育)	六郷・沖野地区内の各種団体や地域の集いの場、保健センターにおいてナトリウム比測定イベントを開催する。減塩と野菜摂取を促す体験型の健康教育イベントを実施する。	・塩分と野菜の摂取バランスが分かる尿ナトリウム比と血圧を測定し、結果をもとに高血圧予防の観点から講話と食習慣などを振り返った。 ・参加団体ごとに集計し、傾向分析を行った。町内会サロンや自主グループにも実施した。	減塩や野菜摂取を継続して実施している声が聞かれた。経年で数値変化をみるため、住民の健康生活へのモチベーションアップに繋がった。アンケート結果からは、ナトリウム比測定をきっかけに減塩や野菜摂取に気を付けたい反応が多数あった。 ナトリウム値平均:3.1(R3年から改善値) 収縮期血圧・拡張期血圧の平均値は過去の値と比較し最も低かった。	【尿ナトリウム比測定】 回数:17回 測定人数:延241人 【専門職による指導】 栄養士・保健師による結果を踏まえた助言・健康教育:延241人	各種団体やサロンにおいて実施。過去参加団体へは継続展開し、ナトリウム比の経年変化をみて健康行動への意識づけを行う。	若林区	家庭健康課
健康づくり講座	疾患・健康課題に合わせた講座の開催や健康相談の場を設けることで、区民の生活習慣改善・セルフケア能力の向上を促す。	・市民や壮年期世代を中心に、糖尿病予防や高血糖対策、骨粗しょう症予防などの健康課題に対応した運動・栄養・口腔を含む多様な健康講座を開催した。 ・連続講座や対象者を限定した講座、屋外実践型講座などを組み合わせ、医師・専門職による講話と運動実技を通じて実践力の向上を図った。 ・区民のニーズやリスクに応じたテーマ設定と通知・測定を行い、生活習慣改善や重症化予防につながる取組を推進した。	・健診データやアンケート結果を踏まえて内容・対象者を検討して実施したことで、必要な対象が生活習慣改善に必要な知識や技術を得る機会となった。 ・アンケートでは9割以上が生活に取り入れたいと回答し、具体的な目標設定や行動変容への意識向上につながった。 ・3か月後調査や健診結果からも、生活習慣改善の実践やHbA1c改善が確認され、講座の効果が数値として表れた。	糖尿病予防・骨粗しょう症関連講座:5回 延140名 受診勧奨対象者向け講座:9回 延196名	・運動に加え、高血糖予防をテーマとした連続講座を開催し、仙台市の健康実態を踏まえた内容で実施する。 ・尿ナトリウム比測定を毎回行い、記録表を用いて変化を可視化し、生活習慣改善への動機づけを強化する。 ・健診結果に基づく対象者設定や公開講座・フォローアップを組み合わせ、血糖改善や骨粗しょう症予防につながる支援を行う。	各区	家庭健康課
生活習慣に関するアンケートの実施	健康づくりへの意識や健康行動への実践を把握するための実態調査を実施する。	・沖野地区の若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業で、普段の生活習慣についてや、介入後の健康づくりへの意識変化を把握するためのアンケートを子どもと保護者へ実施した。 ・こどもを支える立場の地域支援者へもこどもの健康づくりに対する意識変化のアンケートを実施した。	子どものアンケートでは、今後気を付けたいことがある者は91%で、早寝早起き、朝ごはんを食べる、体を動かす、メディアを見すぎない、お菓子やジュースを控えるの全項目で多数該当があった。大人のアンケートでも、子どもの生活習慣を見直したい反応が多数あった。支援者アンケートでは、自組織で地域健康課題を踏まえ働きかけをしていきたいという声が多数聞かれた。	子ども:23名へ実施 大人:33名へ実施 支援者:10カ所へ実施	沖野地区でのアンケート調査を継続して実施する。	若林区	家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
子育て関係機関連携（六郷地区健康づくり事業・若林区地域健康づくりちよいチャレンジ事業）	六郷・沖野地区内の幼稚園・保育園等を訪問し、幼児健診結果から分かる健康課題を共有する。啓発媒体を配布する。現場で感じている生活習慣の課題などの情報共有、実践的取り組みや協働の検討を実施する。	・六郷・沖野地区の保育所・幼稚園・児童館・小中学校・地域サロン・地域団体へ訪問する際や各種イベントにおいて、健康実態と望ましい生活習慣に関するチラシや、クリアファイルを保護者や住民へ配架した。 ・保育園・幼稚園にて園児及び保護者を対象とした健康教育イベントを実施。就学児健診の機会も活用し周知した。	・地域のあらゆる子育て機関と子どもの健康実態を共有する機会となり、生活習慣改善に取り組みたい声が聞かれた。 ・啓発媒体を用いて共有したことで、保護者説明会での講話や健康づくり寸劇の上演など地区健康教育のきっかけに繋がった。 ・新たに、就学児健診の機会も活用し周知した。	訪問：12施設 啓発媒体配布数：800部 連携先の保育園で健康教育：198名	・六郷・沖野の子育て機関へ地域健康課題のチラシを配布し、保護者や住民への配布を依頼する。 ・保育園・幼稚園にて園児及び保護者を対象とした健康教育イベントを実施する。	若林区	家庭健康課
健康づくり支援プラン事業	一人ひとりの健康づくりや介護予防の目的に合わせた健康づくり処方をもとに、健康づくり支援プランを作成し、継続実施を支援する。また、生活習慣病の重症化や合併症が予測される方に対し、生活改善プログラムを提供し、治療と並行して進めていくことで生活習慣病の重症化と合併症を予防する。	・生活習慣病・生活習慣病重症化・合併症予防のための保健指導、運動支援、栄養指導、受診勧奨の実施。目標には減量や体力向上、健診結果の数値改善などを設定した。 ・食生活コースに尿ナトリウム測定を導入。尿ナトリウム比が2.0未満の方は1人、2.0以上4.1未満の方は7人、4.1以上の方は0人であった。	6か月後の振り返りをした結果、体重減少や活動量の増加、食生活の改善が見られた。半数以上の56.8%の方が目標を達成できた。歩数では、高齢者で967.2歩、障害者で1042.8歩増加していた。	・総合コース 35人(障害者14人、高齢者13人、一般 8人) ・簡易コース 66人(障害者34人、高齢者15人、一般 17人) ・身体活動コース 103人(障害者55人、高齢者41人、一般 7人) ・食生活コース8人(障害者 1人、高齢者 5人、一般 2人) ・支援プラントレーニング98日、延べ3,333人	土曜日と日曜日の開催を増やし働き盛り世代が参加しやすい環境を整える。	健康福祉局	健康増進センター
血糖値&ナトリウム比適正化事業	糖尿病および高血圧に起因するCKDの予防のため、市民の生活習慣改善の意識と実践力の向上をねらった、血糖値や尿ナトリウム比等の測定体験を取り入れた健康教育やイベントを実施する。	【健康政策課】 ・生活習慣病予防イベント「生活習慣リフレクション」を開催。尿ナトリウム比測定・野菜摂取量測定結果を踏まえた食習慣の振り返り、保健師・栄養士等専門職による生活習慣のアドバイスを実施。また、尿ナトリウム比と血圧の関係や、糖尿病・高血圧の予防のための食生活についての栄養士講話を実施。CKDとの関連についても触れ、認知度の向上を図った。 ・藤崎を会場とした「健康チェックin藤崎」にて、尿ナトリウム比測定を実施。栄養士による解説、食生活アドバイスを行った。高血圧とCKDの関係についても解説し、予防意識の向上を図った。 【各区・総合支所】 ・地域活動団体や町内会等を対象に、事前配布キットを用いた尿ナトリウム比・血圧測定を実施し、結果に基づく高血圧・糖尿病予防の健康教育を行った。 ・測定体験を通じて、塩分と野菜摂取のバランスを可視化し、食習慣の振り返りと減塩・栄養バランス改善の動機付けを行った。 ・保健事業や介護予防事業と連携し、参加団体別の集計・傾向分析や、簡易指標(尿糖・尿蛋白)を活用した指導を実施した。	【健康政策課】 ・街中でのイベント開催により、多くの市民が気軽に参加し、生活習慣病予防について学ぶ機会となった。 ・尿ナトリウム比測定は減塩と野菜の摂取状況の重要性を知り、食習慣を振りかえるきっかけとなっている。継続参加者のほとんどが食習慣の改善を実践しており、尿ナトリウム比の数値の改善がみられた。 【区・総合支所】 ・尿ナトリウム比測定により参加者の関心が高まり、自身の食生活や食塩摂取・野菜摂取の状況を数値で振り返る機会となった。 ・継続して尿ナトリウム比測定を実施した参加者は、減塩や野菜摂取を意識した食事を継続しており、平均尿ナトリウム比の値や血圧の改善が見られた。測定により、生活習慣改善への意識向上とモチベーション維持につながった。 ・尿ナトリウム比測定は参加者の満足度が高く、家庭や地域での自主的な啓発活動にも活かされた。	【尿ナトリウム比測定】 測定実施回数：47回実施 測定人数：延べ858人	・全市イベントや各区・各種団体、母親教室等の関連事業で、血糖値・尿ナトリウム比測定と専門職による健康教育を継続的に実施する。 ・認知度向上と活用促進を図り、CKD予防を含む生活習慣改善の動機付けや、経年変化を活かした健康行動への意識づけを行う。 ・関係機関への周知を進め、実施機会を拡大しつつ、時期を揃えた測定など効果的な運用を検討する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
市民健診・特定健診の受診勧奨	市民健診申込者、国保加入者への受診勧奨を行い、受診率向上を目指す。	・大腸がん・胃がん・子宮頸がん検診において、申込者のうち未受診者を対象に受診勧奨を実施した。 ・特定健診ではAI分析による優先順位付けを行い、ハガキや電話等で効果的な勧奨を行うとともに、地域啓発や媒体を活用した周知を行った。 ・受診率の低い40～50代への重点啓発や、健診時期に合わせた広報により、受診行動の促進を図った。	(市民健診) 未検者が受診可能な期間を設け、その期間前に再通知(勧奨)をすることで、受診を促すことにつながった。 (特定健診) 対象者に複数回の受診勧奨を行うことで受診を促すことにつながった。	(市民健診) — (特定健診受診勧奨) 電話勧奨 7,458件 ハガキ勧奨 83,705件 40歳対象者に対するリーフレット送付 1,501件	・特定健診では、不定期受診者への勧奨強化により受診の定着化を図り、がん検診は受診を勧める年齢層への重点的な勧奨を行う。 ・集団健診や市民健診の機会を活用し、未受診者への再通知やアンケート結果を踏まえた効果的な受診勧奨を継続する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 保険年金課 家庭健康課 保健福祉課
基礎健診保健指導	健診結果にて生活習慣改善の必要性が高いと判定された方に保健指導を実施する。	・対象者に保健指導の案内及び情報提供を送付。希望者に保健指導を実施した。 ・申込がない35～39歳に電話による利用勧奨と保健指導を実施した。(宮城野区) ・65～74歳の対象者については情報提供による指導を実施した。(青葉区、宮城野区)	・個々の状況に合わせた保健指導により、対象者の行動変容へ支援した。 ・健診結果の見方を伝え生活習慣を振り返りできたことで自身の生活における食事や運動等の改善点への気づきにつながった。	・送付数:287件 ・保健指導実施数:20名	・保健指導受診率向上に向け、相談日程を明示した個別通知や、若年層(35～39歳)への重点的な働きかけなど、利用しやすい仕組みづくりを進める。 ・配布資料や手順チラシを見直し、健診継続や保健指導への理解促進を図る。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
生活習慣病予防重症化予防対策(基礎健診)	健診の結果、検査項目が受診勧奨の範囲に該当しているが未受診の方に対し、生活習慣病の発症や重症化を予防する。	・健診結果から受診勧奨基準に該当する未受診者や、糖尿病・高血圧・CKD等の重症化リスクが高い方に対し、個別に受診勧奨と保健指導を実施した。 ・基礎健診結果を活用し、対面支援や手紙・電話による勧奨を行い、生活保護受給者については関係部署と連携して対応した。	・電話や訪問による受診勧奨・保健指導を行い、対象者の重症度に応じて対面支援も実施し、医療機関受診や生活習慣改善の行動変容につなげた。 ・事前・事後のケース検討やカンファレンスにより対応を整理し、継続受診や経過観察を促す効果的な支援を行うことができた。	対象者:183名	対象者へのリーフレットや配布資料を見直し、重症度に応じた訪問・打合せや効果的な受診勧奨・保健指導を行い、生活習慣病の重症化予防を図る。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
生活習慣病予防重症化予防対策(特定健診)	健診の結果、検査項目が受診勧奨の範囲に該当しているが未受診の方に対し、生活習慣病の発症や重症化を予防する。	健診の結果、慢性腎臓病等が発症するリスクの高い医療機関未受診者に対する受診勧奨及び保健指導を実施した。対象者は、「CKD診療ガイドライン2024」の基準を参考に抽出した。	・Ⅱ度高血圧以上かつ腎機能低下等の疑いがある未受診者:医療機関※受診率 7.1% (1人/14人特定健診R7.6月受診者) ・それ以外の腎機能低下等の疑いがある未受診者:医療機関※受診率 9.5% (22人/231人同上) ※仙台市CKD病診連携事業による腎臓専門医のいる医療機関	保健指導実施数(訪問、電話、面接等)を実施し、本人が不在の場合を含む、実人数)60人 文書による受診勧奨数 1,104人	事業評価方法の妥当性を検討する。	健康福祉局	保険年金課 各区家庭健康課 保健福祉課
国民健康保険特定保健指導	特定健診の結果階層化により積極的支援及び動機付け支援と判定された方へ保健指導を実施する。	メタボリックシンドロームに着目し、特定保健指導の利用により、対象者が自らの生活習慣における課題を認識して行動変容と自己管理を行うとともに、健康的な生活を維持することができるようになることを通して、生活習慣病の予防につなげた。 (第3期データヘルス計画より)	積極的支援実施率:13.7% 動機付け支援実施率:13.7% ※R6法廷報告値。R7法定報告については、R9報告時に回答。 特定保健指導実施率は令和5年度10.7%に比べ、令和6年度は13.7%と上昇した(法定報告)。 また令和6年度の特定保健指導実施者について、翌年度(令和7年度)の保健指導レベルは下記のとおり。 ＜R6積極的支援利用者＞47.1%が動機付け支援、17.6%が情報提供(服薬無し)へ改善(合計64.7%が改善)。 ＜R6動機付け支援利用者＞15.4%が情報提供(服薬無し)へ改善。	積極的支援修了者数:182名(R6法定報告) 動機付け支援終了者数:579名(R6法定報告) ※R7法定報告については、R9報告時に回答。	・(積極的)【拡充】ICTの活用やweb予約システムの導入等利用しやすい方法への見直しや、夜間・休日の実施による環境の整備等に取り組む。 ・(動機付け)【拡充】登録医療機関の実施状況等の把握を行い、実施率向上に向けた体制や支援、指導方法の見直しに取り組む。 ・【拡充】血糖値コントロールに着目した特定保健指導プログラムを未利用者対策として継続する。	健康福祉局	保険年金課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
糖尿病性腎症重症化予防事業	健診の結果等において、糖尿病等が重症化するリスクの高い方に対し、糖尿病性腎症の発症や重症化を予防する。	健診の結果等において、糖尿病等が重症化するリスクの高い医療機関未受診者や治療中断者に対する受診勧奨及び保健指導を実施した。対象者は、「糖尿病性腎症重症化予防事業実施の手引き（令和6年度版）、厚生労働省保険局国民健康保険課、令和6年3月）」に基づき、抽出した。	訪問・面接・電話・手紙にて受診勧奨と保健指導を行い、生活習慣の改善や受診などの行動変容につなげることができた。	保健指導実施数：360人（訪問、電話、面接等を実施し、本人が不在の場合を含む、実人数）	事前・事後のケース検討やレビュー、研修を通じて対象者に応じた受診勧奨・保健指導を行い、継続支援や行動変容につなげる。	健康福祉局 各区 各総合支所	保険年金課 健康増進センター 家庭健康課 保健福祉課
被保護者健康管理支援事業	対象となる生活保護受給者の方へ、健診受診勧奨、医療機関受診勧奨等を行い、生活習慣病の発症予防や重症化予防に取り組む。	事業対象となる35歳以上の生活保護受給者（施設入所者を除く）に対して令和7年4月に市民健診の案内通知を発送した上、10～11月には保護自立支援課にて作成した基礎健診受診勧奨チラシを送付した。その他同対象者に対して訪問調査等を実施する際には、必要に応じて口頭にて基礎健診受診申込を促した。基礎健診の結果が一定の値を超えた被保護者について、各区家庭健康課と連携のうえ医療機関への受診勧奨を行った。	事業対象となる35歳以上の生活保護受給者（施設入所者を除く）に対して勧奨を行ったが、R6年度の健診受診率は青葉区7.5%（前年度比3.2ポイント減）、宮城野区4.8%（4.1ポイント減）、若林区6.2%（3.9ポイント減）、太白区4.7%（3.7ポイント減）、泉区6.6%（4.9ポイント減）と全体的に受診率の減少が見られた。	基礎健診受診者数（R7年度末時点） 青葉区332人、宮城野区150人、若林区118人、太白区165人、泉区100人	R7に引き続き ・当該事業に係る中長期目標値・評価指標の確定 ・実施要領の策定 ・評価体の決定を実施する。	健康福祉局	保護自立支援課
生活習慣病予防検査と事後措置	仙台市独自の検査として、小学校（特支小学部）1・3・5年、中学校・高等学校（特支中・高等部）1年、中等教育学校1・4年で肥満度50%以上の児童生徒を対象に生活習慣病予防検査を実施。その結果に基づき事後措置をしている。	対象の児童生徒とその保護者に対し検査の重要性を説明し実施した。	学校医による検査結果を踏まえた事後指導を受けることができた。	年1回 対象者数264名 受診者数199名 至急対応者数30名 学校医医療機関受診者数21名	対象の児童生徒とその保護者に対し検査の重要性を説明し実施する。	教育局	保健体育課
高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施【新規】	高齢者の心身の多様な課題に対応し、きめ細かな支援を実施するため、高齢者の保健事業について、介護保険の地域支援事業や国民健康保険の保健事業と一体的に実施する。	・医療レセプトや健診結果に基づき、各圏域で重症化予防を目的としたハイリスクアプローチと、通いの場を活用したフレイル・生活習慣病予防のポピュレーションアプローチを実施した。 ・健康教育や講話、測定会とあわせ、対象者を抽出した電話・訪問等の個別支援を行い、地域特性に応じた包括的な健康支援を展開した。	・健診・医療未受診者やコントロール不良者への個別支援と、地域での健康教室等によるポピュレーションアプローチを組み合わせ、受診行動や生活習慣改善、フレイル・生活習慣病予防につなげることができた。 ・測定や実技、講話を通じて参加者の関心・満足度が高まり、地域課題に即した実践的な健康づくりと個別性のある支援が進んだ。	ポピュレーションアプローチ： 実施回数：44回 延651人 啓発資料等送付数：43件 ハイリスクアプローチ：個別対応・連絡等件数：487件（実人数）	・医療レセプトや健診結果に基づき、各圏域でハイリスクアプローチと通いの場を活用したポピュレーションアプローチを実施し、生活習慣病・フレイル予防を進める。 ・対象圏域の拡大や身体的フレイルの追加、関係機関との連携を強化し、地域特性に応じた支援の継続・定着を図る。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 地域包括ケア推進課 保険年金課 家庭健康課 保健福祉課
がん検診精検未受診者への受診勧奨	精検受診率向上のため、がん検診の精検を未受診の方に対し、受診勧奨を行う。	がん検診（5大がん）において要精検と通知された方のうち、精検の受診が確認できない方に対してハガキや電話等による受診勧奨を実施した。	精検の必要性を伝え、受診勧奨を行うことにより、精検受診を促すことができた。	－	・文書や電話により精検未受診者に対する受診勧奨を継続的に実施する。 ・がん検診の事業評価のためのチェックリストを活用し、精密検査における未受診及び未把握を正確に把握する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
無料クーポン（乳がん、子宮頸がん）の送付	対象年齢の方に対し、検診の無料クーポンを送付し、がん検診の受診を促進する。	対象年齢の方へ子宮頸がん検診、乳がん検診の無料クーポンと検診手帳を送付した。	一定の節目年齢の市民に対する子宮頸がん・乳がん検診受診啓発が図れた。	送付件数（乳がん検診）6,610人（子宮頸がん検診）5,681人 利用者数（乳がん検診）集計中（子宮頸がん検診）集計中 ※R8.3.10時点	－	健康福祉局	健康政策課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
協定企業との連携によるがん検診受診率向上に向けた取り組み	民間企業等と協定を締結し、がん検診受診率向上のため啓発を行う。	・協定企業への市民健診啓発マスクを作成・配布した。 ・協定企業への市民健診ポスター・申し込み案内を掲示及び配布した。 ・アフラック生命保険㈱・宮城県・宮城県対がん協会と共催でイオンモール仙台上杉において啓発イベント「がんを知る教室」を11/22-24の3日間開催した。	・協定企業を通じた市民への健診受診啓発を図ることができた。 ・イオンモール仙台上杉において啓発イベントを実施することで、健診に関心がない市民に対しても啓発活動を行うことができた。	「企業連携」 ・マスク配布 5,230枚 ・市民健診ポスター配布 298枚 ・申し込み案内配布 5,630部 「がんを知る教室」 ・来場総数 2,515名 ・スタンプラリー参加数 455名 ・大人クイズ参加数 259名 ・子供クイズ参加数 232名 ・市民健診啓発物配布 延べ315部	—	健康福祉局	健康政策課
CKD病診連携事業	腎臓専門医と病診連携医と協働で病診連携に取り組み、CKD予防や重症化予防を推進する。	R5年度はモデル事業として、若林区と太白区において腎臓専門医のいる3病院と54カ所の病診連携医で連携事業を実施。R6年度から市内全域で実施した。	・腎臓専門医在籍医療機関 9カ所 ・病診連携登録医療機関 207カ所で連携事業を実施	病診連携医から腎臓専門医への紹介数 R5 84件 R6 293件 R7 318件(R8.6.17時点)	・早期連携を実行する病診連携医を増やすための啓発を実施する。 ・定期健診の大切さを理解し受診する市民を増やす啓発を実施する。	健康福祉局	健康政策課
健診・検診体制の整備	健診・検診の同時受診が可能となるよう、市民健診申し込み案内に検診時期を掲載する。 健診用ウェブサイトの開設や周知の充実を図り、健診を受診しやすい環境づくりを行う。	(基礎健診) 市民健診申し込み案内の掲載内容の見直しを実施した。 (特定健診) 健診用ウェブサイトを開設し登録医療機関を検索できる環境を整備した。仙台市ホームページの充実や市政だよりやラジオ方法、国保加入時のチラシ配布等により周知を行った。	(基礎健診) 市民健診申し込み案内掲載情報の精査を行った。 (特定健診) 仙台市ホームページの閲覧数も上昇し、担当課への問合せが減少。特定健診について見聞きする機会が増え、対象者が求めている情報にアクセスしやすい環境を作ることができた。	(基礎健診) — (特定健診) 健診用ウェブサイト 総閲覧数 (R7.4～R8.3時点) 8,477回 仙台市ホームページ特定健診ページ (R7.4～R8.3) 総閲覧数 11,955回	(基礎健診) 市民健診申し込み案内の定期的な見直しを実施する。 (特定健診) 健診用ウェブサイトにおける検索機能の追加、医療機関予約の必要有無や予約方法等の情報を追加掲載する。	健康福祉局	保険年金課 健康政策課
電子申請の活用による市民健診の申込	電子申請の活用により、健診の申し込みをしやすい環境整備を行う。	電子申請による申込の受付を実施した。	はがきでの申し込みに加えて電子申請を活用することで、申し込みをしやすい体制とした。	電子申請数32,057件 (前年度比3,190件増加)	電子申請についての各種広報の充実を図る。	健康福祉局	健康政策課

方策の柱

①啓発と一人ひとりに合わせた支援

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
呼吸器の病気や障害のある方の健康づくり	呼吸器疾患特有の障害特性により、生活のしづらさにつながらないよう、健康維持や生活障害軽減のため、早期から呼吸リハビリテーションに取り組めるよう、環境整備や仕組みづくりを進める。	・呼吸器疾患をお持ちの方を対象に、健康づくりの啓発と運動(フライングディスク、ポッチャ活用)実践の場を提供した。 ・手ぬぐいを活用した体操を導入した。	・活動量増加に寄与した。 ・体調管理などセルフコントロール方法の取得に寄与した。 ・当事者同士の相互支援につながった。	・実施回数:40回 ・参加者:延べ281人	参加者に合わせたポッチャルールを考案する。	健康福祉局	健康増進センター
COPDと喫煙の関連について啓発	たばこの健康影響、COPDと喫煙の関連について正しい情報が得られるよう、ホームページ等を活用し啓発を行う。	市ホームページへたばこの健康影響、喫煙とCOPDの関連について掲載し情報発信を実施した。	ホームページへの掲載により広く市民に対し周知啓発を実施した。	・通年掲載 ・講演会 1回開催 参加者延55名	市民向け講演会等での啓発を実施する。	健康福祉局	健康政策課

4. 仙台市の取り組み事業等一覧

推進の視点1 健康状態の改善 生活習慣病の発症予防・重症化予防

方策の柱

①望ましい食習慣の形成へ向けた啓発・支援

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
フッ化物歯面塗布助成事業における保健指導	乳歯が生え始める生後8か月から1歳6か月を迎える前までの乳幼児を対象に、フッ化物歯面塗布1回分の助成と歯科保健指導を実施する。	・口腔内の状況や問診結果を踏まえた個別保健指導を実施した。 ・乳歯が生え始める時期の乳幼児にフッ化物の歯面塗布により予防措置を実施した。	「むし歯のない幼児の増加」「かかりつけ歯科医をもつ幼児の増加」に寄与した。	受診者数 3,096人 青葉区 588人 宮総 191人 宮城野区 539人 若林区 439人 太白区 874人 秋総 1人 泉区 464人	次年度以降も引き続き実施する。	こども若者局	こども家庭保健課
フッ化物洗口導入支援事業	フッ化物洗口を希望する保育所・幼稚園等に対し、技術的支援及び必要物品の補助を行うとともに継続実施支援を行う。	・フッ化物洗口を希望する保育所・幼稚園等に対し、技術的支援及び必要物品の補助を行った(研修会・説明会の開催等)。 ・フッ化物洗口未実施施設へ導入の働きかけを実施した。	フッ化物洗口実施施設が186施設となり、前年度より5施設増加した。	フッ化物洗口実施施設:186施設 打合わせ等:190回	歯科健康診査結果集約事業の結果から見える、フッ化物洗口の効果について啓発を実施する。	健康福祉局 各区 宮城総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
市立保育所フッ化物洗口事業	乳幼児の発育及び発達段階に合わせた基本的な保健行動の定着と、生涯にわたる歯と口の健康の保持増進を図る。	市立保育所の4歳児、5歳児を対象に、フッ化物洗口事業を実施し歯と口の健康を保ち、心や身体健康づくりを図った。	市立保育所におけるフッ化物洗口事業の実施により、歯と口の健康の保持増進を図ることができた。	市立保育所31施設において、4歳児、5歳児において実施した。実施人数は4歳児502人、5歳児501人	R7年度同様に実施する。	こども若者局	運営支援課
フッ化物洗口事業継続実施補助金交付事業	フッ化物洗口を継続実施する私立幼稚園、私立保育所・認定こども園を対象として、フッ化物洗口継続実施にかかる費用を一部助成する。	フッ化物洗口導入支援事業に参加した施設を対象として、洗口開始2年目以降の継続実施にかかる費用の一部を助成した。	保育・教育施設で継続的にフッ化物洗口を実施する環境を整備することによって、幼児期のむし歯予防を一層推進し、児童の健やかな成長に寄与した。	【交付園数】 私立幼稚園・認定こども園:90施設 私立保育所:48施設 【参加児童数】 私立幼稚園・認定こども園: 4歳児1,896人、5歳児2,088人 私立保育所: 4歳児729人、5歳児823人	継続して実施する。	こども若者局	認定給付課
保育所・幼稚園・認定こども園歯科健康診査結果集約事業	保育所・幼稚園・認定こども園で実施する歯科健診結果を集約・分析、各施設に結果を還元し歯科保健活動を継続して支援する。	・市内の保育所・幼稚園・認定こども園等における歯科健診結果を集約・分析し、各施設へ還元するとともにホームページで公表した。 ・施設訪問等を通じ、フッ化物洗口の啓発や未実施施設への導入促進を行った。	・むし歯のない5歳児の増加やフッ化物洗口導入施設の拡大に寄与し、各施設での歯科保健活動の充実につながった。 ・健診結果の還元や啓発物の活用により、保護者・職員の意識向上や行動変容のきっかけを創出できた。	対象:320施設 報告:319施設	・健診結果提出の働きかけ、結果をもとに施設における歯科保健活動を支援する。 ・フッ化物歯面塗布助成事業、フッ化物洗口導入支援事業啓発を実施する。	健康福祉局 各区 宮城総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
フッ化物洗口パイロット事業	むし歯予防に対する保護者の意識や理解度に左右されずに継続性が保たれる有効な手段として、学校におけるフッ化物洗口を市立小学校2校を対象に実施している。	新規実施校1校を含む3校で、学校の実情に合わせて実施した。歯科医師会による検証を行った。	学校の実情に合わせた実施方法を検討することができた。	週1回	・新規実施校2校を含む5校で、学校の実情に合わせて実施する。 ・歯科医師会による検証を行う。	教育局	保健体育課 (仙台歯科医師会)

4. 仙台市の取り組み事業等一覧

推進の視点2 社会環境の改善・整備 社会環境の改善・整備

連携・協働

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
せんだい健康づくり推進会議	生活習慣病予防等の健康づくりの方策について、関係団体等と連携・協働で検討し、各団体が積極的に健康づくりに取り組むよう推進する。(地域・職域連携推進協議会)	・会議を通して、参画団体が職域等に対しての健康づくりの実践を後押しする働きかけを行った。 ・ワーキングを通して、参画企業と、連携・協働で健康づくりの取り組みを企画・実施した。	・会議参画者が主体的に健康づくりの取り組む機運が醸成された。 ・ワーキングメンバーの連携・協働によるイベントを実施した。 ・みんなで子育てフェスタ&健康フォーラムへ参画した。	推進会議:2回 ワーキング:2回	引き続き、イベント等を活用したメンバー間の協働・連携を進める。	健康福祉局	健康政策課
食育推進会議	市民運動として食育を推進するため、食に関わる主体(保育・教育関係者、保健・医療関係者、農林水産業者、食品関連事業者、市民活動団体、市民、行政)による連携・協働のための会議を開催する。	・会議を通して各主体の活動状況の共有や協働のための意見交換等を実施した。 ・令和7年度から3年間程度、野菜の消費量増加をテーマとすることを決定した。どのような取組みができるかについての話し合いを実施した。	・各主体の活動内容を共有することで、それぞれの立場から市民の生活に即した取組について検討を深める契機となった。 ・野菜摂取の推進に関して、各主体が担う役割や連携した取組の可能性について認識を共有し、今後の連携強化に向けた基盤づくりにつながった。	年1回開催(R7.8.22)	年1回の開催とし、仙台市食育推進計画(第3期)に基づく食育の進捗管理および食育活動状況の共有を実施する。	健康福祉局	健康政策課
仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議	歯と口の健康づくりを効果的に推進するため、会議に参画する保健医療・福祉・教育・職域等の関係団体の役割や連携を具体的にまとめた「歯と口の健康づくり計画アクションプラン」を策定し、PDCAサイクルにより進行管理を実施する。	多様な担い手との連携により、歯と口の健康づくり計画(第3期)及びアクションプラン推進に向けた具体的な行動計画の企画、調査、評価に関する検討及び進捗管理を実施した。	・市民の健康課題や各事業の状況の共有ができた。 ・仙台市成人歯科健診等マニュアル改訂に向けた検討会の実施ができた。	歯と口の健康づくりネットワーク会議、こどもの食べる力のサポートブック検討部会、ハローフロスプロジェクト部会6回 33団体(延べ)	関係機関・団体がアクションプランを踏まえた取り組みを実施し、PDCAサイクルにより効果的な事業展開を図る。	健康福祉局	健康政策課
健康づくりロゴマークを活用した事業連携	多様な分野で「自然に健康になれるまちづくり」を推進していくため、多くの関係者が連携して健康づくりの取り組みを推進できるよう健康づくりロゴマーク「SENDAI 健康プラス」を作成する。	庁内・庁外の健康づくりの取り組みについてロゴマークを掲載し、連携を推進した。	庁内、庁外の各事業についてロゴマークを掲載し、連携した健康づくり事業を推進することができた。(ノベルティ作成、パネル展示)	・ロゴマーク使用(届出29件) ・本庁舎仮囲いへの周知媒体の掲出	ロゴマークが多くの団体・部署で活用されるよう、グッズ作成やイベント等を通じて周知する。	健康福祉局	健康政策課
ウェルビーイング製品開発支援事業	ヘルスケア領域や介護福祉領域等、ウェルビーイングやQOL(生活の質)の向上に資する分野において、仙台・宮城のさらなる産業発展に資する製品やサービスの開発・事業化を支援し、地域産業の振興と市民の健康福祉の向上に寄与する。	ウェルビーイング分野における諸課題の解決や新たな価値創出に資する製品・サービスの市場化に向けた開発等支援を実施した。	・国内展開枠 ウェルビーイング分野における諸課題の解決等に資する製品・サービスについて、日本国内市場に投入(見込)するものの開発等支援を実施した。 ・海外展開枠 ウェルビーイング分野における諸課題の解決等に資する製品・サービスについて、海外市場に投入(見込)するものの開発等支援を実施した。 ・ニーズリサーチ枠 ウェルビーイング分野における諸課題の解決等に資する製品・サービスについて、開発を検討中のもののマーケティング調査や開発コンセプト・仕様検討等の支援を実施した。	・国内展開枠 採択件数1件 ・海外展開枠 採択件数2件 ・ニーズリサーチ枠 採択件数2件	より効果的な支援となるよう支援の枠や件数の見直しを実施する。	経済局	中小企業支援課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
マイタウンスポーツ活動の推進	地域スポーツ活動の充実を図り、市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。	スポーツイベントとして、市内スポーツ施設の無料開放や区毎にスポーツレクリエーションまつりを開催した。	市内スポーツ施設でプロスポーツチームのスポーツ教室をはじめとした多種多様なスポーツイベントを展開し、スポーツを身近に感じてもらい、体を動かすきっかけづくりに寄与することができた。	10/13(月)マイタウンスポーツデー開催(各区スポレク祭同時開催) 参加者10,434人	・市内スポーツ施設の無料開放及び区ごとのスポーツレクリエーション祭りを実施する。 ・一部大学生との連携イベントも実施する。	文化観光局	スポーツ振興課
ウォーキングイベントの開催	気軽にウォーキングに取り組める機会を設けることで、運動習慣の獲得、身体活動量の増加につなげる。	住民、関係機関等と協働してのイベント実施。地域の健康課題や年代毎の1日の目標歩数、望ましい生活習慣についての健康教育もあわせて実施した。	関係機関と連携した事業実施により、幅広い世代の参加と運動習慣獲得のきっかけづくりにつながった一方、行動の継続定着に向けた工夫をが今後の課題である。	イベント回数19回 延31,307名参加	・参加者増加の取り組みとして実施時期等を検討する。 ・他機関との連携、住民と連携した活動継続支援を実施する。	健康福祉局 各区	健康政策課 健康増進センター 家庭健康課
まちなかウォーカブル推進事業	都心を多様な人々の出会いや交流が生まれる人中心の都市空間へと転換していくため、居心地が良く巡り歩きたくなるウォーカブルなまちなかの形成を推進する。	地域住民等が主体となって取り組む公共空間を活用した社会実験やイベント等の取り組みへ支援した。 【支援した取り組み】 ・青葉通の歩道における、ほこみち指定を視野に入れた利活用の社会実験の実施 ・宮城野通のほこみち区域における、椅子や休憩施設の設置 ・榴岡公園における新たな賑わいの創出とサービス向上を図る利活用事業の実施 ・肴町公園における本棚の通年設置 ・定禅寺通のほこみち区域におけるテーブルや椅子の設置、クリーンアップ×アルークワーク 仙台、エリアマネジメント広告等の実施等	地域住民等が主体になって取り組む公共空間を活用した社会実験やイベント等の取り組みにより、人々の出会いや交流が生まれる場が生まれた。 【成果】 ・青葉通において、ほこみち指定を視野に入れた利活用の検討が行われた。 ・仙台駅東における榴岡公園の取組みが利活用事業として本格実施に移行した。 ・定禅寺通において、地元団体による道路の利活用事業が継続的に実施された。	7団体、1,537日間(公共空間利活用の取り組み)	R7の支援を継続する。	都市整備局	都心まちづくり課
せんだいスマート	鉄道・バス・自転車・徒歩などの移動手段を上手に使い分け、公共交通などを賢く利用して、健康面や環境面で生活そのものをスマートにしよう。	公共交通の利用促進を働きかける取り組み(モビリティ・マネジメント)として、転入者を対象に市内の公共交通の利用を促すチラシを配布するほか、バス路線沿線の地域住民を対象に、公共交通に関する情報提供等を実施し、公共交通利用促進の機運を高める取り組みを実施した。	市民に公共交通の利用方法や利便性、利点等を知って頂くことで自発的に車やバイクから公共交通などへの転換の一助となった。	27,600部(チラシの配布)	27,000部(チラシの配布)	都市整備局	公共交通推進課
自転車を活用した健康づくり機会創出や啓発	コミュニティサイクル事業「DATE BIKE」のポート増設等を進め都心部の快適な交通環境の形成を目指すとともに、自転車の利用機会増加による健康増進を図る。	・運営事業者である㈱ドコモ・バイクシェアにより、ポート数の拡大を図った。 ・情報発信サイトアルークワーク仙台へ事業を掲載し、周知を図った。	・R7.4.1時点ポート数:135箇所 ・R8.4.1時点ポート数:171箇所(+36ポート)	R7年度利用回数:約120万回	・㈱ドコモ・バイクシェアの事業支援を継続する。 ・情報発信サイトアルークワーク仙台へ事業を掲載し、周知を図る。	市民局	自転車交通安全課
緑の活動団体認定制度	市認定「緑の活動団体」が行う、緑の保全・創出・普及活動を推移する。	市認定「緑の活動団体」が行う、緑の保全・創出・普及活動(自然観察会・森林散策等のイベント)への市民参加を推進した。	下草刈り、花苗植栽、遊歩道整備等の活動が歩く、動く機会となった。参加者が増加した。	企画3回、開催1回、4名参加 ※3回の開催を予定していたが、会場周辺でクマの目撃情報があったため、安全を考慮して2回を中止とした。	R7の内容を継続する。	建設局	百年の杜推進課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
Fun,Fan,F ind青葉事業	大町・西公園エリアなどにおいて、人々が憩い、楽しめる環境づくりを進め、愛着を育むとともに、青葉山エリアや中心部商店街など周辺との回遊性を高め、新たな魅力の発見を促す「令和の登城路」づくりに取り組む。	・9月27日に「みんなでつくる！西公園開園150周年記念フェス」において、「伊達武将隊とめぐろう！西公園魅力発見 大スタンプラリー」を伊達武将隊とともに実施した。 ・11月3日の青葉区民まつりでブース出展を行い、9月27日やR7年度の定例会の様子についてPRを行った。	・西公園で活動する諸団体の周知につながった。 ・企画員の学びや理解、主体的な参画につながった。	開催回数:12回 参加:延135人	令和7年度に関しても市民企画員とともに地域の魅力を発信できる企画をする。企画に参加した市民に地域の魅力を知ってもらうことで歩ききっかけづくりにつなげる。	青葉区	まちづくり推進課
歩いて発見 伊達なまち ～あなたの とっておき を見つけよう～	市内施設にまち歩きステーションを設置し、まち歩きのコンシェルジュとしておすすめのコースなどを紹介や、ガイド付まち歩きツアーを実施する。	令和6年10月3日(木)から12月25日(水)までの期間で仙台三越定禅寺通り館において仙台市中心部まち歩き案内所『歩いて発見 伊達なまちステーション』を開設。ステーションを訪れる観光客や仙台市民に“まち歩きコンシェルジュ”がヒアリングを行い、オーダーメイドのまち歩きコースや、歴史・グルメ等に特化したまち歩きコースをご提案する場所として運営。また、開設期間の毎週土・日・祝は当日飛び入り参加可能な『歩いて発見 伊達なまちステーション』から出発するガイド付きまち歩きツアー『歩いて発見 伊達なまち歩きツアー』を催行した。	市政だより等の広報効果により、観光客のみならず多くの仙台市民にも広く活用された。これにより、市内在住者や来訪者の意識を「単なる移動」から「歴史や文化を感じながら歩く体験」へと変化させ、特にガイドや窓口での対面案内が、地域の隠れた魅力を掘り起こし、満足度の高い地域体験を生み出す重要な役割を果たした。	・まち歩きコース・スポット案内:計343件 ・歩いて発見伊達なまち歩きツアー:「仙台北城跡・登城路ツアー」 催行計44回 参加者数合計88名 「地元女子がおすすめる夜の国分町界隈」 催行計7回 参加者数合計25名 「地元に愛される仙台的横丁をめぐる」 催行計7回 参加者合計11名 「仙台の歴史を語る銅(あかがね)文化を知ろう」 催行計4回 参加者合計13名 「政宗グルメまちあるき～城下町に残る味の物語」 催行計4回 参加者合計8名 「光のパージェントが10倍楽しめる!？」 仙台っ子ガイドのご案内」 催行計2回 参加者合計3名	「歩いて発見伊達なまちステーション」及び「歩いて発見伊達なまちあるきツアー」を継続実施し、市政だより等の地域メディアに加え、まちあるき動画によるSNS発信を行うことで、市民及び観光客への周知を図る。	文化観光局	観光戦略課
ウォーキング ツーリズム の推進	市内の観光資源などを活かしたウォーキングやハイキング、トレッキング等のコース設定について調査を行い、観光客や市民が楽しみながら歩ける環境づくりを検討する。	ウォーキングやハイキング、トレッキング、トレイルによるインバウンドをはじめとした観光客の誘客、宿泊促進の可能性を調査するため、市内のコース設定に向けた検討を行った。	ウォーキングイベントの実施を通じ、アンケートなどから、コース造成に係る必要な要素や適切な距離などがある程度明確になった。	東部海岸コースウォーキングツアー(11月24日開催):参加者31名 仙台北城中コースウォーキングツアー(3月20日開催):参加者9名	令和7年度で事業終了のため、実施予定なし。	文化観光局	観光戦略課
未来の杜 せんだい ネット「ハ ナミドリ エ」事業	全国都市緑化仙台フェア開催を契機として、花やみどりを活用したまちづくりをさらに推進するため、フェアで多様な主体と培った協働事業の成果をレガシーとして、フェア会場の協働で整備した花壇の一部を市民協働で継続するほか、民間事業者や地域団体等との連携による枠組みを運営するとともに、次世代の担い手育成を目的とした研修会等を実施する。	・初心者でも気軽に参加できる体験型プログラム(はじめてプログラム)を実施した。 ・花壇の植え替えイベント(植え替え大作戦)を実施した。 ・コミュニティーガーデンを学ぶ連続講座(ハナミドリエ・スクール)を実施した。 ・大型イベントでの周知 ・学校花壇づくりへのアドバイザー派遣を実施した。 ・花壇づくり団体向け研修会を開催した。	各回とも多くの方が参加され、花やみどりに触れて楽しむ活動を通して心身の健康増進につながる機会を創出した。	・はじめてプログラム、開催11回、計239名参加 ・植え替え大作戦、開催5回、計405名参加 ・ハナミドリエ・スクール、全6回、22名受講 ・大型イベントでの周知、3回、153人参加 ・学校花壇づくりアドバイザー派遣、1回、12名参加 ・花壇づくり団体向け研修会、1回、39人参加	引き続き、初心者でも気軽に参加できる体験型プログラムや花植え等の体験イベント、コミュニティーガーデンを学ぶ講座等を実施する。	建設局	百年の杜推進課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会	社会課題解決や産業振興等につながる仙台・東北発のイノベーションを創出するため、国家戦略特区の枠組みを活用した取り組みや先端的サービス創出に向けた産学官協働のプロジェクトを推進する。	・産学官で連携した先端サービスの創出や規制改革などチャレンジングな取り組みを推進した。 ・健康分野や関連するテーマを扱うウェルネス分科会を持つほか、構成事業者からの提案によりダイバーシティの推進等に資するプロジェクトを実施した。	・ウェルネス分科会では、東北大学の先端研究である「長寿医薬品」をテーマに最新の研究動向を共有し、特に認知機能や運動機能の分野で企業から高い関心を得た。あわせて、健康経営やフェムテックといった新たなテーマも取り上げ、産学官連携による今後のサービス創出や挑戦的な取り組みの方向性を確認した。 ・協議会内でプロジェクトを公募し、自分の心の強さに気付くための新しいセルフケアアプリ「レジリエンス探索日記」の有用性等を検証する実証実験を行った。	ウェルネス分科会：4回開催	協議会にて、フェムケアなどを含め、目指す姿に資する取り組みやサービス創出等を目指し、産学官で議論を続ける。	まちづくり政策局	プロジェクト推進課 ダイバーシティ推進課
東北大学COI-NEXT(共創の場形成支援プログラム)への参画	未来のありたい社会像の実現に向けた研究開発を推進し、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す。	眼疾患の早期発見・予防のため、東北大学、株式会社仙台放送、日本生命保険相互会社、仙台市の4者による「眼からはじめるやさしい街づくり」に向けた協定を締結し、地域にて視野チェックVRゲーム体験を実施した。	・体験者のアンケートでは、ブースの満足度について約8割の方が「満足」と回答し、「ゲームをまたやってみたい」と回答した方も約8割だった。 ・VRゲームという新体験を目標にて体験した方も多く、健康無関心層にも啓発できた。	実施回数：5回 参加者数：延べ257名	全市的に生活習慣病予防事業を推進するため、東北大学と連携のもと事業展開を図る。	健康福祉局	健康政策課
健康長寿産業連合会への参画	健康づくり関連の情報収集を図るとともに、参加する多様な企業等と連携し社会的課題に取り組む。	・健康リテラシー向上ワーキングに参画し、Instagramを使ったヘルスリテラシー向上施策の共同実証事業を実施した。 ・令和7年度は健康お役立ちレシピコンテストのインフルエンサー施策として、仙台市に縁のあるInstagramのインフルエンサー2名による健康お役立ちレシピのPR、入賞作品の調理動画の配信を実施した。	・インフルエンサー投稿から健康政策課Instagram「仙台伊達なキッチン-だてきち」アカウントへの導線が機能した。 ・だてきちInstagramで両インフルエンサーの投稿をフォロー、ストーリーズ投稿、ハイライト設定を行うことで、サイトへのアクセス数を大きく上昇させた。 ・Instagram経由でのコンテスト応募者は多くはなかったものの、入賞レシピへの関心が高まり、閲覧数を増やすことにつながった。	【インフルエンサー】 仙台ママグラム、仙台女子部 【インフルエンサー投稿内容】 ①認知度アンケート(開始前) ②開催お知らせ ③インフルエンサー本人考案レシピ投稿 ④受賞レシピ再現投稿 ⑤認知度アンケート(終了後) 【コンテスト認知度アンケート結果】 仙台ママグラム：6%⇒19% 仙台女子部：11%⇒15% 【だてきちInstagramへの影響】 フォロワー：+69人 閲覧数：425⇒7,460 【レシピコンテスト応募数】 R6 13件 ⇒ R7 45件	・Instagramを活用した。若い世代に向けた健康情報の発信について検討していく。 ・ワーキングの中でヘルスリテラシーの向上につながる施策を参画企業等とともに検討し、実証の場面を模索する。	健康福祉局	健康政策課
女性医療相談	女性の抱える健康不安について、女性医師による相談を受けられる環境づくりを推進する。	思春期や更年期等に伴う身体的・精神的不調や、家庭・職場でのストレス等について、女性医師が対応する相談会を定例実施(月2回)した。	相談者に対して、専門性を生かしたアドバイスや情報提供、他医療機関紹介等を行うことができた。	18回開催 31人	次年度以降も引き続き実施する。	健康福祉局	健康政策課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
関係機関への情報提供および情報交換の実施	関係機関と仙台市および地域の健康課題(糖尿病、高血圧、適正体重の維持)について、情報提供・情報交換を実施する。また、協働による健康づくりを推進する。	・関係部局・関係機関との研修会や懇談会、地域の会議等を通じて、仙台市・各区の健康課題や健診データを共有した。 ・幼児期から学齢期、高齢期までの肥満・メタボ等の課題を見える化し、学校・地域・関係機関との協働の可能性を検討した。 ・啓発資料の作成・配布や情報交換により、地域全体での健康づくり意識の共有と連携強化を図った。	・幅広い分野の関係機関・担い手と地域や仙台市の健康課題を共有でき、協働による健康づくりの機運が高まった。 ・学校・児童館・地域団体等との情報共有を通じて、具体的な健康教育や啓発、次年度事業につながる取組が生まれた。 ・住民や関係者が地域の健康実態を知り、自身や地域の健康行動を見直すきっかけとなり、連携の成果が確認できた。	【健康政策課】 ・栄養教諭・学校栄養職員年次研修会 1回 ・給食事例発表研修会 1回 ・食品関連事業者との情報共有 2事業者 【各区・総合支所】 情報提供した関係機関・施設、団体、会議体等の数:356施設(団体) ○協働する団体・組織・事業者等への情報提供	・血糖・血圧の変動メカニズムを含めた健康的な生活習慣について、関係機関と連携し、市民への周知・啓発を継続して行う。 ・会議や施設訪問、チラシ等を通じて健康課題を共有し、健康教育や各事業への展開、対象機関の拡大を図る。 ・各事業や行動計画と連動させながら、地域に出向く機会を捉え、協働による効果的な啓発を進めていく。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
健康課題の解決に向けた関係機関との連携による事業の実施	関係機関と連携し、仙台市民が、仙台市および地域の健康課題(糖尿病、高血圧、適正体重の維持)を理解し、健康的な生活習慣を実践するための知識を得られる、事業を企画・実施する。	・市民フェスタや区民会議、大学祭、地域イベント等で、測定・運動体験・講話・ブース設置を行い、幅広い世代へ健康づくりを啓発した。 ・関係機関や地域団体と協働し、ウォーキング、栄養・野菜摂取、糖尿病予防など多様なテーマで実践的な健康教育を展開した。 ・地域やライフステージに応じた取組により、市民の健康への関心喚起と行動変容につながる機会を創出した。	・各種イベントや地域に出向く取組において、血糖値・血圧・野菜摂取量測定や運動体験を通じ、生活習慣病予防の情報を幅広い世代へ提供した。 ・体験型の測定やウォーキングにより自身の健康を振り返る機会となり、運動・食習慣改善や糖尿病予防への理解と意欲向上につながった。 ・関係機関と連携した啓発により、健康への関心が低い層にもアプローチでき、地域全体の健康づくり意識を高めることができた。	連携により糖尿病、高血圧、適正体重の維持の視点を組入れた事業を実施した施設数・事業 【各区】 事業数:29事業 連携施設・団体数:延71施設(団体) 【健康政策課】 事業:1事業(子育てフェスタ&健康フォーラム)(参加者延 1,842人) 連携団体数:13団体(健康フォーラムとしての出展、合同による出展あり)	・各種会議や関係団体との情報共有を通じて連携を深め、血糖・血圧・適正体重を柱とした市民啓発を継続的に実施する。 ・健康相談会や大学祭等での測定・展示、チラシ配布やパネル貸出により啓発方法を多様化し、参加者の拡大を図る。 ・新たな企業・団体とも連携し、働き盛り世代や健康無関心層へのアプローチを強化する。	健康福祉局 各区 各総合支所	健康政策課 家庭健康課 保健福祉課
関係機関との連携による事業の実施	関係機関や団体と連携した健康づくりイベントの開催やブース出展・プログラム協力により、幅広い市民向け健康づくりの啓発や健康増進センターの周知を行う。	①冬の健康感謝祭を実施した。 ②各種イベント等に職員を派遣し、体力測定や体組成測定などの各種測定、ウォーキングに関する啓発やステージプログラムを実施した。	子どもから大人、高齢者、障害のある方など幅広い方を対象に、運動や各種測定の体験機会を提供することで、健康づくりに対する興味や関心を高めるきっかけとなった。	①実施回数:2回 参加者:延べ1,250人 ②実施回数:7回 参加者:延べ1,843人	新たな企業や団体などと連携し、働き盛り世代や無関心層の参加拡大を図る。	健康福祉局	健康増進センター
公園緑地を活用したウォーキング等の健康づくり	公園緑地を活用したウォーキング等の健康づくりを推進する。	青空ストレッチ&ウォーキング(七北田公園、榴岡公園)を実施した。	区保健福祉センターと連携し、身近な地域での身体活動量増加やウォーキングの普及啓発、集いの場の創出につながった。	実施回数:6回 参加者:延べ199人	企業と連携した新たな開催場所や開催方法を試行し、より参加しやすい環境を作る。	健康福祉局	健康増進センター
仕事と健康の両立に関する実態調査等	仕事と健康の両立に関する事業所等実態調査事業のほか、女性の健康課題解決に係るシンポジウムを行う。	令和8年度実施予定の「仙台市仕事と健康の両立に関する事業所等実態調査」に向けて、調査委託業者の選定や調査項目の検討を行った。	委託候補業者を決定する等、来年度の調査に向けた準備を進めることができた。	実績なし	6～7月の実施を想定している。	市民局	男女共同参画課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
フレイル予防アウトリーチ支援事業	フレイル及びプレフレイル状態の高齢者を地域のなかで早期に発見し適切な支援へ繋げるために、地域のリハビリテーション専門職や栄養士等の専門職とともに商業施設等でフレイル簡易チェックや啓発等を実施する。	地域包括支援センターがより地域の専門職と連携して事業を展開してできるよう業務委託料の積算において、運動・口腔・栄養の専門職をそろえて実施した場合の加算を設置し連携強化を促した。	地域高齢者の生活の場実際に外出してアプローチを行うことで、普段フレイル予防に無関心な層にも働きかけを行うことができた。	・実施回数133回 ・参加人数4,700人	令和8年度も継続して実施する。	健康福祉局	地域包括ケア推進課
介護予防月間	介護予防の効果や必要性を、市民に広く理解していただくとともに、介護予防活動や健康づくり活動への参加が促進されるよう普及啓発するため、毎年11月を介護予防月間と定めて様々な啓発イベントを実施する。	・市民センターと関係団体(仙台薬剤師会、宮城県理学療法士会等)が共催で介護・フレイル予防に関するイベントを実施した。 ・11月30日にイズミティ21にて「元気力アップフェスティバル」を開催した。 ・「元気力アップフェスティバル」における講演をミヤギテレビ「Oh! バンデス」と連携して実施した。	数多くの市民に対して介護・フレイル予防に関する周知啓発を行うことができた。	・個別催事:48回、延べ参加者3,594名 ・元気力アップフェスティバル:延べ参加者1,853名 ・市民センター共催イベント:14回、延べ参加者627名	シルバーセンター改修工事の終了にともなってR8はシルバーセンターで実施する。	健康福祉局	地域包括ケア推進課
企業連携による健康づくり	企業との連携等により健康づくりの普及の担い手を育成し、無関心層を含む幅広い人のヘルシリテラシーの向上を図る。	令和8年度新規事業	令和8年度新規事業	R8年度新規事業	R8年度は新規の取り組みとして実施。R9年度以降は、R8年度実績を確認のうえ、拡充していく。	健康福祉局	健康政策課
健康チェックin藤崎	商業施設と連携し、市民が買い物ついでに手軽に自身の健康を振り返る機会を提供する。	・血糖値&ナトリウム比適正化事業として市民を対象とした尿ナトリウム測定実施の場として、百貨店である藤崎を会場とした「健康チェックin藤崎」を開催した。 ・「眼から始めるやさしい街づくり」に向けた連携協定により、視野チェックVRゲームを使用した眼の健康チェックを、同日に同会場で実施した。	市民に身近な商業施設を会場とすることで、気軽な健康チェック体験を提供することができた。	実施回数:3回 参加者:延べ132人	CKD予防事業と連動した、尿ナトリウム比測定のほか、視野チェックなど、その場で自身の体の状況や生活習慣を見直せるチェックおよび専門職による解説を実施する。	健康福祉局	健康政策課
沖野地区親子健康トレジャーウォークの開催、沖野史跡マップの活用	親子でウォーキングに楽しく気軽に取り組むことで、地域での日常的なウォーキングや運動習慣の獲得に繋げる。	令和6年度新規事業として、まち歩きとお宝探しを合体させた親子参加のウォーキングイベントを開催した。沖野の様々な史跡を巡るため、地域の協力のもと、市民センター等と協働実施した。	・参加者へ沖野の子どもの健康実態や望ましい生活習慣の講話、健康キッズ認定など実施。楽しくまち歩きできたとの声が多数で、アンケートでは満足度が高く、今後も運動したい声が多数聞かれた。関係機関との協働展開により、地域支援者の健康意識醸成に繋がった。 ・今年度は新たに、ジュニアリーダーや地域の商店の協力を得た。	参加者数:36名 啓発媒体配布数:152部 チラシ配布数:1091部 繋がりを持てた団体数:20箇所	市民センターや住民と連携し沖野地区の史跡巡りと謎解きをする親子ウォーキングイベントを実施する。	若林区	家庭健康課
こどもの食べる力のサポートブック作成	こどもの健康に係る支援者が共通の視座をもって、口腔機能の育成を支援できるよう「こどもの食べる力のサポートブック」の制作と活用に向けた検討を行う。	・検討部会を3回開催し、各種幼児健康診査における「こどもの食べる力に関するアンケート調査」、医療機関における「こどもの食べる力の育成支援に関するアンケート調査」から得られた課題の共有とサポートブック構成について検討した。 ・保育所・認定こども園・幼稚園における「こどもの食べる力の育成支援に関するアンケート調査」を実施した。	・各種幼児健康診査における保護者調査は、有効回答率が7割強(各健診における回答数は800件に上る)と多くの保護者の協力を得た。 ・調査項目の選択等で参考にした日本歯科医師医学会の調査や栄養調査と比較して、10年経過した現在も、保護者の困りごとの共通点があり、依然として食べる力の支援が課題であることが再認識された。	検討部会2回開催、書面会議1回開催 参加人数32人(延べ人数)	令和8年度も「こどもの食べる力の専門部会」を継続して開催し、サポートブック制作に向けた検討を実施する。	こども若者局	こども家庭保健課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
プレコンセプションケアの推進	性別を問わず適切な時期に性や健康に関する正しい知識を持ち、将来を考えて健康管理を行えるよう、プレコンセプションケアの概念を普及啓発するため、多様な担い手による取り組みを推進する。	・関係者を対象としたプレコンセプションケアの概念の普及啓発に向けた研修会を実施した。 ・市民に向けてプレコンセプションケアに関連する情報を発信するとともに、あらゆる機会をとらえた啓発を実施した。	・プレコンセプションケアに関する基本的知識および関係団体の取り組みについて共有することができ、庁内の関係部署間の連携の醸成に寄与した。 ・ホームページを作成し情報発信を行うとともに、関係課と連携して、若者向けの普及啓発を行うことができた。	プレコンセプションケアの推進に向けた研修会 参加者数 22名	庁内関係部署を対象に研修会等を実施し、プレコンセプションケアの概念を普及するとともに、ライフステージごとの特徴に合わせ、部署の専門性を活かした取り組みのための連携を図る。	こども若者局	こども家庭保健課
こどもの頃からの健康づくり事業	親子がメディアに頼らず過ごせる時間を増やすことで、適切な生活習慣を身につけ、身体活動を増やすことを目的とした、幼児向けのふれあい運動プログラムを作成する。	実施なし	実施なし	実施なし	こどもの頃からの健康づくりを継続して実施。新規の取り組みとして、こども及び保護者世代の適切な生活習慣を身に着け、身体活動量を増やすため、親子向けの運動あそびプログラムを関係機関とともに作成する。	宮城野区	家庭健康課
小中学校によるゲストティーチャー事業	若い世代(学齢期)に、健康づくりや生活習慣病の予防についての正しい知識の普及啓発を行う。 若林区中央市民センターとの連携事業であり、授業実践は家庭健康課で行い、学校とのコーディネート役を若林区中央市民センターが担う。	小中学校での健康教育を実施した。	小・中学生が甘味料のとり方や、脂肪や食塩の摂取過多のリスクなどを学び、自身の食事について振り返りる機会になった。	小学校:6回 330人 中学校:1回 94人	R8年度は、3つの小学校と1つの中学校で実施する。	若林区	若林区家庭健康課 若林区中央市民センター
児童館における生活習慣病予防事業	乳幼児を持つ保護者を対象に、より早い時期から規則正しい生活リズムの確立と望ましい食生活や正しい歯科保健行動がとれる家庭を増やすことを目的に実施する。	①講話(保健師・歯科衛生士・管理栄養士) ②砂糖の量啓発パネル ③児童館だよりへの啓発記事掲載を実施した。	①「すぐに取り組んでみようと思った」「聞けて良かった」などの意見が聞かれた。 ②砂糖の量を見て驚いている保護者や児童が多かった。 ③毎月クイズを楽しみにしている児童があり、興味を持って見ている姿が見られた。	①計5回25名 ②通年 ③12回	3年間で館内全児童館をまわる形で実施。R8年度は、5児童館と連携する。	若林区	家庭健康課

4. 仙台市の取り組み事業等一覧

推進の視点2 社会環境の改善・整備 社会環境の改善・整備

環境づくり

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
健康増進普及月間	毎年9月を健康増進普及月間と定め、国民一人一人の健康に対する自覚を高め、健康づくりに向けた実践を促進する普及啓発を行う。	・健康増進普及月間に合わせ、区役所内外、商業施設等と連携をはかり、講演会やパネル展示、測定イベント等を実施し、市民の健康意識向上を図った。 ・大腸がん検診の精密検査対象者への個別通知や、市政だより・庁内放送等を通じた周知により参加促進を行った。 ・区役所や商業施設、健診・教育の場で、食事・運動・がん予防等に関する啓発を幅広く展開した。	・個別通知により参加申し込みの反応が高く、働きかけたい層へ正しい知識を効果的に伝えることができ、行動変容のきっかけとなった。 ・健診会場や図書館、商業施設等でのパネル展示や体験型イベントにより、幅広い世代へ健康づくりの普及啓発を行うことができた。 ・健康増進普及月間に集中的な周知を行い、多様な手法で区民の健康意識の向上を図ることができた。	・講演会、イベント等：7回 延691名 ・パネル展：5か所 計7回 ・資料等啓発媒体配布：2,818枚 ・庁内放送：7回 ・事業者へのポスター掲示依頼：53施設	・健康増進普及月間に合わせて市民向け医師講話を実施し、糖尿病や高血圧予防、適正体重の維持を中心とした啓発を行う。 ・市民センターや児童館、区役所・商業施設・図書館でのパネル展を継続し、アクションプランを意識した地域密着型の啓発を展開する。 ・他事業と連動しつつ関係機関と連携し、幅広い世代へ効率的・継続的に健康づくりの情報発信を進める。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
地域連携による子どもの健康づくり啓発(若林区地域健康づくりちょいチャレンジ事業)	沖野地区の町内会や子ども会と協働し、子どもの健康づくり啓発を行う。	・市民センター懇話会や民生委員児童委員協議会、圏域会議において、子どもの健康実態について周知した。 ・地域のまつりで握力測定会やパネル展を開催し健康を振り返る機会を創出した。	・健康実態の周知により、地域ぐるみでの健康づくりに取り組む土壌形成につながった。 ・既存の地域の活動の場を活用した啓発となった。	地域健康課題を啓発し、健康講話実施 ①地域サロン2か所4回37人 ②圏域会議1回45人 ③沖野団地秋祭り1回55人 ④町内会キッズフェスティバル1回33人 ⑤老人福祉センター2回39人	沖野地区の町内会や子ども会と協働し、子どもの健康実態を共有するとともに、健康づくりの取組について考える機会を創出する。	若林区	家庭健康課
みんなで子育てフェスタ&健康フォーラム	計画を市民に広く周知するとともに、健康づくりに関する様々な体験等を通して、健康づくりに取り組むきっかけや気づきを与え、今後の健康づくりに活かす後押しをする。	・市民が健康づくりに興味を持てるようなブース・ステージ等を企画した。 ・こども若者局との合同開催により世代間の交流につなげ、広い世代に対して健康づくりへの周知啓発を行った。 (R8年度は文化観光局との合同開催)	・地域・職域保健関係団体の協力により、健康づくりに関する幅広いテーマについてのブース出展となった。 ・来場者アンケートでは「健康づくりに活かせる情報が得られた」と回答した方が9割を超えた。 ・高齢者世代等のほか、子育て世代等にも幅広く健康づくりを啓発できた。	R7.10.13(月・祝)仙台国際センターにて実施 来場者数1,842名	・まちなかにおける健康づくりイベントを実施する。 ・R8年度はスポーツ部局と連携して、従来のコンテンツに加えスポーツ体験教室等も実施する。	健康福祉局	健康政策課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
海岸公園(荒浜地区)パークゴルフ場拡張整備	既存の23ホールから13ホール拡張整備し、全36ホール(9ホール×4コース)とすることで大規模大会開催可能となり、更なる賑わい交流の場を提供する。	4ホール拡張整備工事を実施した。	4ホールの拡張整備工事を実施した。		R7の内容を継続する。更に9ホールの拡張整備に向けて測量・設計作業を実施する。	建設局	公園整備課
西公園再整備	市民プール跡地について、あらゆる世代がレクリエーションを楽しめる公園を整備する。アーバンスポーツができる広場、遊具広場、園路等を整備する。	プール跡地について、地下鉄東西線より北側の区域の整備を進めた。	一般市民へは未供用。		引き続きプール跡地について、地下鉄東西線から北側の区域を整備する。	建設局	公園整備課
勾当台公園再整備	市役所本庁舎の建替えに伴う新本庁舎低層部・敷地内広場及び勾当台公園市民広場の一体的活用を実現し、本市中央部の更なる賑わいを創出する。市民広場ステージ改修、ベンチ増設等を実施する。	にぎわいの広場とかたらいの広場の再整備に着手した。	一般市民へは未供用。未供用。		引き続き、にぎわいの広場とかたらいの広場を再整備する。	建設局	公園整備課
高砂中央公園パークゴルフ練習場整備【新規】	初心者でも気軽にプレーできるよう、練習場として9ホール整備する。	R7に整備工事が着手予定。	整備工事に着手した。		引き続き整備工事を行い、令和8年秋に供用予定。	建設局	公園整備課
多様な手法を活用した情報の発信	健康課題や各種月間・週間に合わせて、パネル展・庁内放送・区役所1階ディスプレイ表示等を活用した効果的な発信を図る。	・各種月間・週間に合わせて、パネル展・庁内放送等を活用した啓発を実施した。 ・関係機関との連携による展示、啓発を実施した。 ・情報サイトへの掲載による情報発信を実施した。	・各種月間・週間に合わせ、大型店舗等とも連携し、幅広い年代・対象へ効果的な健康づくり啓発を実施できた。 ・多様な場所や媒体を活用したことで、より多くの市民へタイミングを捉えた情報発信と受診勧奨が行えた。	パネル展示 87回 常設情報発信スペース、情報発信サイト等における、通年、または各種健康週間や月間に合わせたタイムリーな情報発信	・パネル展・庁内放送、ホームページ等を活用した健康情報を発信する。 ・啓発物を刊行、配布する。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
働き盛り世代に届く情報の発信	・企業・団体向けの出前講座やヘルスアップセミナーの情報発信を行い、健康づくりへの参加を促進する。 ・従業員数の少ない事業所が活用できる支援機関や健康情報を周知し、事業所や保険者等と連携して生活習慣病予防の情報提供を強化する。	・毎月1回健康情報を送付した。 ・年度末にアンケートを実施した。 ・他機関SNSでのメールマガジン活用や健康増進センターホームページの情報リニューアルを実施した。	・新規企業・団体からの問い合わせが5件あり、講座ラインナップの掲載により担当者が講座内容を選びやすくなった。また、年度末アンケートから健康情報が役立っているとの評価が得られ、満足度の高い情報発信につながった。	4月～8月送付分まで76店舗、9月送付分が77店舗、10月～3月送付分が76店舗に発送。 出前講座 実施回数:10回 参加者:延べ247人(問い合わせ17件)	・講座ラインナップや資料を見直し、申し込みや講師派遣がしやすい体制づくりを進める。 ・アンケート結果を活用し、事業所や店舗ごとのニーズに応じた柔軟な啓発を行う。	健康福祉局 宮城野区	健康増進センター 家庭健康課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
高断熱住宅の普及促進	高断熱住宅の普及により、脱炭素社会の実現、健康寿命の延伸、地球経済の活性化を目指す。	せんだい健康省エネ住宅補助金(新築向け・全体改修向け・部分改修向け)を実施した。	新築50件・改修598件の申請があり、高断熱住宅の普及に寄与することができた。	申請件数(新築50件・改修598件)	新築向け補助金の補助額の変更及び蓄電池設備の補助・設備要件を追加する。部分改修向け補助金の上限額を変更する。	環境局	脱炭素政策課
イベント等の多様な地域における生活習慣病予防の啓発	イベントなどの多くの人が集う場を活用し、正しい生活習慣に関する知識の普及啓発を行う。	・地域の祭りやフェスタ、商業施設等のイベント会場で、健康づくりや生活習慣病予防、野菜摂取・甘味飲料対策に関する普及啓発を実施した。 ・ナトカリ測定や野菜摂取量測定、血管年齢測定など体験型の健康チェックを通じ、来場者が自身の健康を振り返る機会を提供した。 ・多様な関係機関と連携し、子どもから高齢者まで幅広い世代に正しい生活習慣への理解と関心を高める取組を展開した。	・来場者参加型のクイズや各種測定により関心が高まり、健康づくりや生活習慣病予防に関する知識を効果的に普及啓発できた。 ・野菜摂取量の可視化や健康チェックを通じて、自身の食生活や生活習慣を振り返るきっかけを提供できた。 ・多様なイベントや連携により、幅広い世代へ正しい生活習慣を伝え、地域全体で健康づくりを進める機会となった。	9回 延べ2,254名	・啓発の場を「健康教育(全世代)」へ転換し、子育て世代向けイベントや地域の祭り等で健康づくり啓発を実施する。 ・商業施設や市民センター、保健センターまつりを活用し、集客時期も工夫しながらイベントを継続する。 ・関係機関と連携し、楽しく学び行動変容につながる啓発内容となるよう企画を検討していく。	各区 各総合支所	家庭健康課 保健福祉課
外国人医療受診サポート実証事業	「病院の探し方がわからない」「病院の予約や受診ができない」という回答が多かったことを踏まえ、外国人患者と医療機関の双方が安心して受診・診療できる体制整備に向け、受診前の相談や予約サポート、医療機関と外国人住民のコミュニケーション支援等に係る実証実験を行う。	令和8年度新規事業	令和8年度新規事業	令和8年度新規事業	令和8年度に実施予定。	まちづくり政策局	ダイバーシティ推進課
アクティブシニア・ボランティアポイント制度	高齢者の社会参加や健康寿命の延伸を後押しするため、ボランティアや介護・フレイル予防等の活動に応じて地元商店街での買い物等に使用できるポイントを付与する事業を本格実施する。	・R7年度はモデル事業として対象を限定して9月～3月で実施した。 ・ポイント管理やHP運営、コールセンター運営を行う事務局を設置した。 ・各区の老連や民児協の会合で説明会を実施した。 ・各区(+宮総管内)で住民向け説明会を実施した。 ・利用可能店舗拡大のため、商工会広報紙への広告掲載、商店街組合等での周知を実施した。	本制度でのポイント獲得をきっかけに介護予防自主グループが新たに立ち上がったたり、制度をきっかけに参加者が増えたなどの声が地域団体から寄せられており、地域活動の活性化や高齢者の社会参加へつなげることができた。	・アプリ登録者:約3,800名 はがき利用者:700名(推計) ・ポイント利用可能店舗:約260店舗	令和7年9月からモデル事業として実施。令和8年度から本格実施へ移行する。	健康福祉局	地域包括ケア推進課

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
誰もが受診しやすい市民健診の環境整備	平日市民健診の受診が難しい世代ががん検診を受けられる機会を創出するため、日曜日に健診を行うモデル事業を実施する。	日曜健診を実施した。	日曜日に健診を実施することで、平日に受診が難しい働き世代等の受診機会を確保し、受診しやすい環境整備につながった。	・胃がん検診受診者数 81名 ・肺がん・結核健診受診者数 51名 ・大腸がん検診受診者数 44名	継続して実施する。	健康福祉局	健康政策課

4. 仙台市の取り組み事業等一覧

推進の視点2 社会環境の改善・整備 社会環境の改善・整備

基盤構築

事業等		R7の実績			R8計画	担当主管課	
事業や取り組み	概要	具体的な取り組み内容	取り組みによる成果	参加人数や開催回数	追加や新規で取り組むこと	局区等	担当課
PHR利活用による健康づくり	保健・医療・福祉分野において、個別化されたより効果的な介入等への期待が高まっていることを受け、PHRを活用する基盤を構築し、PHR利活用により、一人ひとりに適した効率的なアプローチやレコメンド、ニーズを踏まえたサービスの提供等で、健康課題の改善・解決を図る。	「PHR利活用のため、健康づくりに関する情報を適切に取得・管理できる基盤構築」、「ヘルスデータやライフログ等が見える化し、健康づくりに効果的に活用できる環境整備・仕組みづくり」について、産学官連携で検討し、社会実装させた。	特徴の異なるPHRサービスを期間限定で市民に提供した。健康無関心層への啓発を目的としたイベントを実施し、普及啓発に努めた。利用者へのアンケート結果等から、PHRサービスの在り方や方向性を検討した。	・PHRサービス利用者(3サービス) 延べ約1,300人 ・イベント参加者 約600名	R7事業を評価の上、今後の方向性を検討する。	健康福祉局	健康政策課
保育所・幼稚園・認定こども園 歯科健康診査結果集約事業	保育所・幼稚園・認定こども園で実施する歯科健診結果を集約・分析、各施設に結果を還元し歯科保健活動を継続支援を実施する。	・市内保育所・幼稚園・認定こども園で実施している定期歯科健康診査の診査基準を統一し、健診結果を一元的に集約・分析し、各施設に結果を提供するとともに歯科保健活動を支援した。 ・健診結果の集約データが見える化し、ホームページに公開した。	保育、幼稚園関係者へ歯科健診の集約結果・課題を提供し、地域における歯と口の健康づくりの支援体制を強化できた。	対象:320施設 報告:319施設	健診結果提出の働きかけ、結果をもとに施設における歯科保健活動を支援する。	健康福祉局	健康政策課